Syllabus

心理学部
心理学科

2022 年度入学生

授業科目名	きびこく学 心理	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SR-1-001

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。
授業概要	順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。
履修条件・注意事項	地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。
オフィスアワー	月曜日4限、個人研究室

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション 地域創成と何かー吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) 各学科担当教員
第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園 専務理事 各学科担当教員
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	外部講師 各学科担当教員
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	外部講師 各学科担当教員
第５回	「未来につなぐ図書館」としての活動	外部講師 各学科担当教員
第６回	宇治地域住民総働のまちづくり	外部講師 各学科担当教員
第７回	日本遺産「備中吹屋」	外部講師 各学科担当教員
第８回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	各学科担当教員
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	毎回授業用資料をユニパで配信する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	留岡幸助と備中高梁	参・出版社名2	吉備人出版
参・著者名2	倉田 和四生	参・ＩＳＢＮ2	9784860690991

授業科目名	SDGs概論 心理	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SR-1-002

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学びます。 到達目標は下記の通りです。 ・地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる ・SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる ・SDGsの各目標を自分事として捉えることができる ・SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる
授業概要	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 　授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	グループでの活動及び発表を評価する（50%）。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する（50%）。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。
履修条件・注意事項	１）初回の授業には、必ず出席すること ２）学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと ３）合同授業日と各学科授業日があるので注意すること
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ユニバーサルパスポートで配付する資料を基に事前学習をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

授業計画		担当者
第１回	SDGsとは何か－なぜ学ぶのか（オリエンテーションを含む）	井勝久喜、津川秀夫
第２回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、津川秀夫

第３回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、津川秀夫
第４回	SDGsの17の目標	井勝久喜、津川秀夫
第５回	グループ分けと検討課題の設定	津川秀夫
第６回	グループ別発表1回目	津川秀夫
第７回	グループ別発表2回目	津川秀夫
第８回	試験	津川秀夫
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	SDGsとは何か？	参・出版社名１	三和書籍
参・著者名１	安藤顯	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-86251-398-4
参・書籍名２	SDGsワークブック	参・出版社名2	日経ＢＰ
参・著者名2	山崎　紅	参・ＩＳＢＮ2	978-4-296-07020-6

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 保健医療福祉学部以外	担当者	吉備国際大学未定教員、畝　伊智朗
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SR-1-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝
第２回	国境とは何か？	畝
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝
第１２回	高齢化社会の課題	畝
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 留学生(１クラス)	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SR-1-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠

第６回	健康法	日笠	
第７回	教育と学び	日笠	
第８回	余暇と娯楽	日笠	
第９回	現代の社会	日笠	
第１０回	報道とマスコミ	日笠	
第１１回	ITと情報社会	日笠	
第１２回	科学と技術	日笠	
第１３回	日本の歴史	日笠	
第１４回	岡山の祭り	日笠	
第１５回	異文化理解	日笠	
第１６回	単位認定試験	日笠	
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 留学生（２クラス）	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SR-1-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画	担当者

第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光惠
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１４回	１４．振り返り	井上光惠
第１５回	１５．総括	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 （秋入学生）（１クラス）	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SR-1-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠

第５回	日本の伝統文化	日笠	
第６回	健康法	日笠	
第７回	教育と学び	日笠	
第８回	余暇と娯楽	日笠	
第９回	現代の社会	日笠	
第１０回	報道とマスコミ	日笠	
第１１回	ITと情報社会	日笠	
第１２回	科学と技術	日笠	
第１３回	日本の歴史	日笠	
第１４回	岡山の祭り	日笠	
第１５回	異文化理解	日笠	
第１６回	単位認定試験	日笠	
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 （秋入学生）（２クラス）	担当者	井上　光恵
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SR-1-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光惠
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１４回	１４．振り返り	井上光惠
第１５回	１５．総括	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	課題解決演習 心理	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SR-1-004

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】 「多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する」ことをテーマとする。 【到達目標】 ①現代社会が抱える多様な課題を心理学の観点から分析出来るようになる。 ②課題解決に必要な手法を習得する。 ③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。 ④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。 ⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力を身につける
授業概要	既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。 具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。 以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題に対する取り組み（40%）とプレゼンテーション（60%）で評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表にはそれぞれフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	留学生（N2合格者以外）については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。
実務経験のある教員	該当する　内容　福祉・教育分野における勤務、実務経験を有する教員が担当をおこなう。
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。
オフィスアワー	木曜日3限（10207研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	村上
第２回	心理学で用いられる研究方法	村上
第３回	文献の検索方法	村上
第４回	グループでのアイスブレイク、テーマ決め	村上

第５回	文献を用いた課題解決①：文献収集	村上
第６回	文献を用いた課題解決②：文献まとめ	村上
第７回	文献を用いた課題解決③：発表材料作成	村上
第８回	文献を用いた課題解決④：成果発表	村上
第９回	調査を用いた課題解決①：テーマ決め	村上
第１０回	調査を用いた課題解決②：質問紙作成	村上
第１１回	調査を用いた課題解決③：データ収集	村上
第１２回	調査を用いた課題解決④：データ処理	村上
第１３回	調査を用いた課題解決⑤：成果まとめ	村上
第１４回	調査を用いた課題解決⑥：発表材料作成	村上
第１５回	調査を用いた課題解決⑦：成果発表	村上
第１６回	まとめ	村上

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	検討中	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリアデザインⅠ 心理	担当者	藤原　直子、若森　孝彰
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-CE-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。

履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各２時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	（藤原）10号館2階の個人研究室にて、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。 また、月曜日2限目は、キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	藤原・若森
第２回	自分を知る・社会を知る：適正検査	外部講師（マイナビ）・藤原・若森
第３回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信・藤原・若森
第４回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原・若森
第５回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部（ラインズ・マイナビ）・藤原・若森
第６回	社会とつながる：対人コミュニケーション	藤原・若森
第７回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原・外部（ボランティアセンター）・若森
第８回	自分を知る・社会を知る：社会人基礎力	若森・藤原
第９回	自分を知る：自分の強みと弱み	若森
第１０回	社会とつながる：対人関係力	若森
第１１回	生き方を考える：これまでの振り返りとライフプラン	若森
第１２回	社会を知る・働き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	若森、外部講師（卒業生）
第１３回	社会を知る・働き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	若森、外部講師（卒業生）
第１４回	自分を知る：基礎学力（２回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	若森
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	若森、藤原

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリアデザインⅠ 留学生（心理）	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-CE-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】社会的自立と職業的自立にむけて、自らの生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し実行できるようになるため、日本での生活や大学生活に必要な知識やスキルを身につける。 【到達目標】キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。留学生が大学生活を充実させ、日本の社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）を学びながら、自分自身を知り具体的な目標をもって実行していくことが必要である。 　到達目標として、以下の3点を設定する。 ①日本の社会や地域で生活するために必要な知識やマナーを身につけるとともに、日本の法制度等を理解できる ②自分自身を知り、社会を知ることで自らの将来をイメージし、自身のキャリアをデザインして、大学生活をどのように過ごすか考え実践できる ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、文章理解力を向上させる
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、日本の法律や生活習慣、地域で円滑に生活するために必要な基礎知識について講義を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 　授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートや課題プリントへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行ってコミュニケーション能力や社会人基礎力を高めることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業時間内の活動（40%）、課題プリントや小テスト、キャリアデザインノート等の提出（40%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容、課題プリントや小テストについては、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	「心理学科授業」や「留学生用合同授業」，「他学科合同授業」が実施される教室は、それぞれ異なる。使用する教室は授業の中で説明するので，休まないように。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	配られたプリントの当該箇所を予習しておくこと。講義後には、復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に、予習2時間、復習2時間行うこと。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	ビザビ・ワサビ

第２回	社会を知る：日本の法律、社会におけるルールとマナー	岡崎行政書士
第３回	社会を知る：地域での生活、日常生活の基礎知識	岡崎行政書士
第４回	社会を知る・生き方を考える：大学生活の基礎・大学での学び方	ディスコ
第５回	社会を知る・社会とつながる：日本語を使う・遊ぶ	土居
第６回	自分を知る・社会とつながる：日本語能力・コミュニケーション	土居
第７回	自分を知る・社会とつながる：自己紹介・短文作り	土居
第８回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	ボランティアセンター
第９回	社会とつながる：会話（聞く、話す）	土居
第１０回	社会とつながる：文章理解・問題読解	土居
第１１回	社会とつながる：対人関係・会話力	土居
第１２回	自分を知る：自分の強みと弱み	土居
第１３回	自分を知る・生き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	土居
第１４回	社会を知る・生き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	土居
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	土居
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布，板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報活用 心理	担当者	村上　勝典、若森　孝彰
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-AI-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	若森：月曜日4時限　　村上：木曜日3時限

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	若森・村上	
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	若森・村上	
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	若森・村上	
第４回	OSとアプリケーション	若森・村上	
第５回	ファイルシステム操作	若森・村上	
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	若森・村上	
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	若森・村上	
第８回	表計算ソフト操作	若森・村上	
第９回	表計算ソフト課題	若森・村上	
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	若森・村上	
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	若森・村上	
第１２回	ネットワークとインターネット	若森・村上	
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	若森・村上	
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	若森・村上	
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	若森・村上	
第１６回	単位認定試験	若森・村上	
教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11／Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎	担当者	佐藤　匡
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-AI-1-010

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50％、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20％として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
		担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投

実務経験のある教員	該当する	内容	影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎	担当者	大谷　卓史
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-AI-1-010

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50％、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20％として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
		担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投

実務経験のある教員	該当する	内容	影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 春学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室） 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎	担当者	今村　俊介
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-AI-1-010

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。

ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語基礎Ｉ 心理	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LE-1-012

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業でその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	平見勇雄
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	平見勇雄
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	平見勇雄
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	平見勇雄
第６回	Japan Quiz　日本クイズに挑戦　WH疑問文	平見勇雄
第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	平見勇雄

第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	平見勇雄
第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了	平見勇雄
第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形	平見勇雄
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現	平見勇雄
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY	平見勇雄
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問	平見勇雄
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞	平見勇雄
第１５回	春学期の試験	平見勇雄
第１６回	春学期の総復習、フィードバック	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語基礎Ⅱ 心理	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LE-1-013

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でもよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０～１５分でよいので毎日自分で声に出して次の週までに９０分程度、英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Ｆです。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	平見勇雄
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	平見勇雄
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	平見勇雄
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	平見勇雄
第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	平見勇雄
第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	平見勇雄

第８回	Business この大企業の創始者は？　基本的な前置詞 at on in		平見勇雄
第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if		平見勇雄
第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　不定詞と動名詞		平見勇雄
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where		平見勇雄
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　仮定法		平見勇雄
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞		平見勇雄
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法		平見勇雄
第１５回	秋学期の試験		平見勇雄
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ 心理A	担当者	イアン・ウォーナー
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LE-1-014

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	この授業を受ければ、簡単な日常会話の（いくつかの）基本的なパターンをマスターすることができます。 By the end of this course, students will be familiar with numerous conversational expressions in English and therefore be more confident about speaking English.
授業概要	Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being

	taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.

実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		
オフィスアワー	Students can e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp		

授業計画	担当者

第１回	01) Asking and answering questions. 02) Who is Ian Warner? Listen, then ask (him) questions.	Warner
第２回	03) Introduce yourself. Talk about yourself.	Warner
第３回	04) Talk about your hobby / hobbies and interest(s).	Warner
第４回	05) Talk about a place (that) you like.	Warner
第５回	06) Talk about your _____. [1 - 5 things = items]	Warner
第６回	07) Talk about a person AND / OR 08) Talk about your part-time job.	Warner
第７回	09) Talk about a photo OR video OR movie.	Warner
第８回	10) Talk about things (that) you have to do.	Warner
第９回	11) Talk about a thing (that) you did (in the past).	Warner
第１０回	12) Talk about the weather.	Warner
第１１回	13) Giving, receiving and understanding (road navigation) directions.	Warner
第１２回	14) Telling the time. 15) Big numbers.	Warner
第１３回	16) Talk about a photo (that is on your phone).	Warner
第１４回	17) Your favorite shop 18) What do you want to buy?	Warner
第１５回	19) Using airports. 20) Arriving at a hotel.	Warner
第１６回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名１	English Listening and Speaking Patterns 1	教・出版社名１	Nan'un-do
教・著者名１	Andrew E. Bennett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN: 9784523178422
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)	参・出版社名１	Harper Collins Publishers
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 0008101744 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名２	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)	参・出版社名2	Oxford University Press
参・著者名2	Susan Stempleski (Author)	参・ＩＳＢＮ2	ISBN-10: 0194392910 ISBN-13: 978-0194392914

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ 心理B	担当者	グレン　サムナー
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LE-1-014

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	インタラクティブ演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	英会話の様々な場面で自信を持って話せるようになることを目的としています。 学生は、フレーズ、文法、語彙を使用して、各ユニットで学習したトピックについて話すことができます。 学生は、英語での日常会話において、学習した語彙やフレーズを使って自分の経験について話すことができる。
授業概要	初級者向けのやさしい英会話のフレーズでペア・ワークやグループ・ワークやロールプレイで会話力を養成します。 各ユニットでは、基本フレーズと語彙を学習し、そのフレーズと語彙を使ってペアワークを中心に会話を練習、英会話の場面に沿った実践的なリーディングとリスニングの問題に挑戦。 学生全員参加の活気溢れる授業を提供します。 見やすく書きやすいレイアウトと楽しく学べる工夫が一杯です。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、小テスト、期末テストで評価を行う。 評価は授業態度 (予習を含む)(20 %) (到達目標1・2)、宿題 (10 %) (到達目標1)、小テスト/研究課題 (20 %) (到達目標2)、定期試験 (50 %) (到達目標1)で判定する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題の後、答えと理由の解説をして、理解の定着を図る。
履修条件・注意事項	授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	レッスン前予習2時間程度　巻末の文法、語彙、Notes レッスン後復習2時間程度　前の授業にしたユニットについての巻末の文法、語彙、Notes
オフィスアワー	金曜日09：30～12：40

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、コースのガイダンス、発音	
第２回	Unit 1: Pleased to meet you	Unit 2: I'm from Nagoya	
第３回	Unit 3: I'm retired now	Unit 4: This is my family	
第４回	Unit 5: How are you?	Unit 6: Could you say that again, please?	
第５回	Unit 7: I live in an apartment	Unit 8: Do you have a garden?	
第６回	Unit 9: Do you have any hobbies?	Unit 10: I have rice and miso soup for breakfast	
第７回	Units 1–-10のまとめ	
第８回	Open topic	Interview test	
第９回	Unit 11: Let's go to an Italian restaurant	Unit 12: Thank you for the chocolates	

第１０回	Unit 13: I like to watch variety shows｜Unit 14: How was your weekend?	
第１１回	Unit 15: These pancakes are delicious!｜Unit 16: How do you celebrate?	
第１２回	Unit 17: How do you keep in shape?｜Unit 18: How much is this sweater?	
第１３回	Unit 19: I'm looking for some souvenirs｜Unit 20: See you soon!	
第１４回	Units 11-–20のまとめ	
第１５回	Units 1-–20 Full review	
第１６回	Final Test	

教科書			
教・書籍名１	Making friends 1	教・出版社名１	Macmillan Languagehouse
教・著者名１	ウィリアムソン デービッド/ウィリアムソン マデレン	教・ＩＳＢＮ１	ISBN: 978–4–7773–6125–0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅱ 心理・看護・経社	担当者	イアン・ウォーナー
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LE-1-015

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	この授業を受ければ、アクティブ英語Iで学んだ基本的なパターンに加え、簡単な日常会話のより多くの基本的なパターンをマスターすることができます。 By the end of this course, students will be more familiar Engish language conversational expressions, as compared to the at end of the Active English I course. Students will therefore have more confidence vis-a-vis speaking in English.
授業概要	Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before

	during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times

	during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	Students can e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp

授業計画		担当者
第１回	Talk about your summer holiday / what did you do?	Warner
第２回	Talk about seasons / expressions which describe seasons and tempreture changes	Warner
第３回	Talk about Internet / media report	Warner
第４回	Talk about daily routine / club activities	Warner
第５回	Talk about your family members	Warner
第６回	Talk about your home town	Warner
第７回	Talk about your friends / pets	Warner
第８回	Talk about your favorite cultural spots (music venues, museums, movie theaters, etc)	Warner
第９回	Various topics (decided by students)	Warner
第１０回	Various topics (decided by students)	Warner
第１１回	Various topics (decided by students)	Warner
第１２回	How can you express your feelings?	Warner
第１３回	Talk about Takahashi City (your favorite spot, city planning, etc.)	Warner
第１４回	Talk about the nature	Warner
第１５回	Talk about the future	Warner
第１６回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名１	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)	教・出版社名１	Nan'un-do
教・著者名１	Andrew E. Bennett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN: 9784523178422
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語と中国文化Ⅰ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LC-1-018

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習	孫基然
第２回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習	孫基然
	1、発音の復習	

第４回	2、そり舌音の発声練習	孫基然
第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語と中国文化Ⅱ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LC-1-019

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現 2、連動文	孫基然
第４回	1、時量補語	孫基然

	2、存在表現	
第５回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現	孫基然
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語とフランス文化Ⅰ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LF-1-020

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次
第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次

第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次
第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語とフランス文化Ⅱ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LF-1-021

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次
第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次

第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次
第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LG-1-022

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二
第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二

第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二
第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-LG-1-023

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8 Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8 Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二
第５回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二

第７回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞		清水光二
第８回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形		清水光二
第９回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, …　過去形		清水光二
第１０回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht?　現在完了形		清水光二
第１１回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht?　非人称表現		清水光二
第１２回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass …　受動態		清水光二
第１３回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass …　比較表現		清水光二
第１４回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞		清水光二
第１５回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(文法) １クラス	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-024

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(文法) ２クラス			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-024		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第３回	３．第25課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第５回	５．第28課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第７回	７．第31課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第９回	９．第34課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第１１回	１１．第37課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光惠
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光惠
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光惠
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(読解) １クラス	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-025

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験N２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて		

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	日本語ＩＡ(読解) ２クラス					担当者	久保田　雅子	
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年					ナンバリング	GE-LJ-1-025	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＡ、応用日本語ＩＡ、日本語研究ＩＡ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1.２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(聴解) １クラス			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-026		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの｢話 す｣･｢読む｣･｢聞く｣･｢書く｣の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(聴解) ２クラス	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-026

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ 、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％)、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（文法）クラス１					担当者	磯　永二	
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年					ナンバリング	GE-LJ-1-027	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習	
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう							
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。							
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。							
アクティブラーニングの内容	PBL							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。							
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。							

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（文法）クラス２			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-027		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第３回	３．第25課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第５回	５．第28課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第７回	７．第31課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第９回	９．第34課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第１１回	１１．第37課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光惠
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光惠
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光惠
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（読解）クラス１			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-028		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験N２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて	
	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版

参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	日本語ＩＢ（読解）クラス２			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-028		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＡ、応用日本語ＩＡ、日本語研究ＩＡ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1.２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ(聴解) クラス１					担当者	井上　光惠	
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年					ナンバリング	GE-LJ-1-029	
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限	

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ(聴解) クラス２			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-029		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ 、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％)、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法	担当者	入江　祥子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SU-1-036

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。

実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士

事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法	担当者	入江　祥子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SU-1-036

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。

実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士

事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学	担当者	張　秉煥
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SU-1-037

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

	授業計画	担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥

第１６回	定期筆記試験		張秉煥
教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学	担当者	張　秉煥
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SU-1-037

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

	授業計画	担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥

第１６回	定期筆記試験		張秉煥
教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学	担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SU-1-038

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

	授業計画	担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮

第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元
第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学	担当者	赤坂　真人
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-SU-1-038

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。次に、明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂
第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂

第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。３.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因	赤坂
第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わりと没落。	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-039

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本

第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-039

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本

第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学 （経営・スポ・心理）	担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-040

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居
第７回	(7) 心理検査について	土居

第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮
第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	多様性の理解	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-041

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二

第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二	
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二	
第１６回	単位認定試験	末吉秀二	
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	多様性の理解	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-041

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	課題レポートの返却時に講評する。 予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二

第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）		末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）		末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題		末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）		末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）		末吉秀二
第１６回	単位認定試験		末吉秀二
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	文章力の基礎	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-042

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子

第５回	配慮を示す言葉		雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類		雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉		雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文		雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章		雲津 英子
第１０回	類義語・対義語		雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点		雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉		雲津 英子
第１３回	コロケーション		雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語		雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章力の基礎	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-042

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子

第５回	配慮を示す言葉		雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類		雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉		雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文		雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章		雲津 英子
第１０回	類義語・対義語		雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点		雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉		雲津 英子
第１３回	コロケーション		雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語		雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	美術の見方	担当者	前嶋　英輝
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-043

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40％）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家
事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	２号館６階の前嶋研究室において、毎週月曜日５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝
第２回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第３回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第４回	古代オリエント	前嶋英輝
第５回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第６回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第７回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第８回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第９回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第１０回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第１１回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第１２回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第１３回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第１４回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第１５回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第１６回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名１	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名１	平凡社
参・著者名１	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ１	978-4582206371
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・アニメ	担当者	羽野　真哉
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-044

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容30％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返遷	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野
第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス	羽野
第５回	スポーツの技術	羽野

第６回	体力について	羽野
第７回	心とスポーツ	羽野
第８回	発育・発達とスポーツ	羽野
第９回	現代社会とスポーツ	羽野
第１０回	スポーツの上達法	羽野
第１１回	健康のためのスポーツ	羽野
第１２回	スポーツと教育	羽野
第１３回	スポーツと経済	羽野
第１４回	スポーツ動作の分析	羽野
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ	羽野
第１６回	試験	筆記試験

教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ実習 （アニメ・心理・経社）	担当者	天岡　寛
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-PD-1-045

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は実習通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわり、たくさんプレーすることによって高めることができる。 ☒
授業概要	球技（バスケットボール、フットサル、卓球、バトミントン）を通してルールを守り、仲間と助けあうことを体感する。 気軽にできる体幹トレーニングにより、基礎筋力、全身コーディネーションを高める。 ストレッチを学び、怪我予防を学ぶことができる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	受講態度（50%）及び理解度（50%） 全力で取り組み、技術習得に努めてたか。 仲間と協力して、目的にむかってプレーしているか。 授業のマナー・ルールを守っているか。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために競技のルール等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	体育館シューズを準備。 運動できる服装の準備（ジーンズ等は認めない） 水分（水、スポーツ飲料、お茶）の準備 競技に関する競技規則等について、復習及び指示された予習を行うこと.
実務経験のある教員	該当する　内容　健康運動指導士
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからスポーツや健康に興味関心を持つこと.
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	天岡
第２回	卓球	天岡
第３回	卓球	天岡

第４回	バスケットボール	天岡
第５回	バスケットボール	天岡
第６回	フットサル	天岡
第７回	フットサル	天岡
第８回	バトミントン	天岡
第９回	バトミントン	天岡
第１０回	器具を使用しての筋力トレーニング	天岡
第１１回	器具を使用しての筋力トレーニング　２	天岡
第１２回	自体重でできる筋力トレーニング	天岡
第１３回	自体重でできる筋力トレーニング　２	天岡
第１４回	フットサル　ゲーム１	天岡
第１５回	フットサル　ゲーム２	天岡
第１６回	単位認定試験	天岡

教科書			
教・書籍名１	実習科目につき教科書は使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する.	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数的理解	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-046

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

	授業計画	担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本

第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数的理解	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-046

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

	授業計画	担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本

第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-047

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画		担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一

第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-047

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画		担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一

第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学					担当者	香田　康年	
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年					ナンバリング	GE-NS-1-048	
必修・選択	選択	単位数	2単位			時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限	

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】 学生が 、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。

履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学	担当者	香田　康年
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-048

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】 学生が 、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。

履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	環境科学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-049

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画		担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一

第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一
第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-NS-1-049

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画		担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一

第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一
第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学概論Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	PS-PS-1-101		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】行動(心の働き)と環境との関わり，つまりヒトが環境に「適応する」とはどういうことなのか，について，感覚，知覚，記憶，学習の観点から理解する。
授業概要	本講では，人間が自分を取り巻く環境からさまざまな情報を取り入れ，蓄積し，また多くの経験を積みながら，置かれた環境に適応していく。我々は，錯覚などを含めて外界をどのように捉えるのか，また，その情報をどのように記憶したり，忘却したりするのか，さらにそれらをもとにどのように適応行動を行っていくのかについて講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) OR/心理学とは	橋本翠
第２回	(2) 心理学の課題と研究法	橋本翠
第３回	(3) 感覚と知覚(外界を捉える)	橋本翠
第４回	(4) 感覚と知覚(知覚と認知)	橋本翠
第５回	(5) さまざまな知覚(視覚の不思議)	橋本翠
第６回	(6) さまざまな知覚(感覚器官の性質)	橋本翠
第７回	(7) 記憶とは	橋本翠
第８回	(8) 記憶のしくみ(感覚記憶)	橋本翠
第９回	(9) 記憶のしくみ(短期記憶)	橋本翠

第１０回	(10) 記憶のしくみ(長期記憶)	橋本翠
第１１回	(11) 記憶術の原理	橋本翠
第１２回	(12) 学習の基本原理(古典的条件づけ)	橋本翠
第１３回	(13) 学習の基本原理(道具的条件づけ)	橋本翠
第１４回	(14) 認知学習	橋本翠
第１５回	(15) 学習原理の応用	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学の基礎　四訂版	参・出版社名１	培風館
参・著者名１	今田寛，宮田洋，賀集寛　共編	参・ＩＳＢＮ１	4-563-05670-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学概論Ⅱ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年	ナンバリング	PS-PS-1-102

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	多様な心理学分野の中で、時間の経過にともなって発達・退行していく心理過程、また、心理社会的枠組みの拡がりともなって拡充・拡散していく心理構造を理解できるようになる。適応・偽擬適応・不適応の過程を個人差の観点から捉えるのがテーマである。発達、personality 構造、適応行動の阻止事態等についての授業内容の6割以上を理解することが到達目標である。
授業概要	心理学分野は多様である。そのうち、ヒトとして生まれて、一人の人間として心理的な発達を遂げる過程を理解する。そして、人間社会の中で社会的に成長していく際の他者や社会的枠組みについても理解を深める。このように、時間軸に沿って、また心理社会的枠組みの拡大に沿って、深化・拡大していく心理過程について理解を深めることによって、教職免許履修の基礎と心理学的基礎が確立できる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点（返却をもってフィードバックとする）。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出後、次回の授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについては返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	遺伝と環境	三宅俊治
第３回	誕生から青年へ	三宅俊治
第４回	生涯発達	三宅俊治
第５回	パーソナリティ・性格・気質	三宅俊治
第６回	パーソナリティ理論	三宅俊治
第７回	モチベーション	三宅俊治
第８回	諸種の動機	三宅俊治
第９回	知能	三宅俊治
第１０回	心理学における検査	三宅俊治
第１１回	脳と心	三宅俊治
第１２回	こころの不調	三宅俊治
第１３回	適応の機制	三宅俊治
第１４回	ストレスの心理	三宅俊治
第１５回	健康心理	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBH978-89514-507-7 C3011
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの心理発達			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	PS-PS-1-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	系統発生的な視点を取り入れながら、とくに子ども期に焦点を当てて、ヒト・人間の発達・発生をとらえることをテーマとし、動物としてのヒト発達の特殊性や共通性を知り、発達心理学の幅広い知識を習得するとともに、心理学的な考え方を理解することを到達目標とする。
授業概要	系統発生的な観点をふまえつつ、ヒトの特殊性を学ぶとともに、個体発生的な観点からは、胎児期から思春期に至る人間の行動や心的機能の発生、発達、成熟過程等の変化について学習する。また、人間のもつ諸機能の発達を相互関連的に理解し、それぞれの発達段階における発達の遅れやつまずきなどの問題についても学習する。 　生涯発達の心理学を念頭に置きつつも、ここでは子どもの時期に焦点を当て、個々の心的機能・問題について多面的に概説していく。 ☒
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	小テスト（30%）、定期試験（70%）の結果に受講態度を勘案し総合的に評価する。つまり，テストで満点であっても受講態度が悪いと，不可ということもある。小テストは採点後、フィードバックとして返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは採点後返却し、必要に応じて授業時間内に解説する。
履修条件・注意事項	人間の発達的な理解を深めるために真剣に学習に取り組むこと。 頻繁に、小テストを行うので、最低限，教科書の当該箇所は精読し，予習・復習を怠ることのないようつとめること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキストの該当箇所の精読。（2時間） 復習：テキストとともに、講義中に配付する資料と返却された小テスト結果を中心に復習すること。（2時間）
オフィスアワー	月曜４限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達における生物学的基盤	森井
第３回	胎児にできること	森井
第４回	新生児の見る世界、聴く世界	森井
第５回	発達初期の不思議	森井
第６回	母子相互作用を促進する仕組み	森井
第７回	愛着形成と親子関係	森井
第８回	愛着関係に影響する要因	森井
第９回	愛着剥奪の事例	森井
第１０回	幼児期の認知発達	森井
第１１回	遊びと認知発達	森井
第１２回	遊びと仲間関係	森井
第１３回	ことばの前のことば	森井
第１４回	ことばの発達	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回	試験	森井

教科書			
教・書籍名１	乳幼児のこころ	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	遠藤・佐久間・徳田・野田	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12429-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	幼児心理学への招待　［改訂版］	参・出版社名１	サイエンス社
参・著者名１	内田伸子	参・ＩＳＢＮ１	978-4781911823
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学実験Ⅰ（オムニバス）			担当者	橋本　翠、村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-201		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得】 実験計画(変数の設定，条件操作の方法等)の立て方，および実験器具の操作法を修得する。 【到達目標：実験レポート作成方法の修得】 得られた量的，質的データを統計的に処理することができるようになるとともに，行った実験の目的，方法，結果，そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになる。
授業概要	【概要】ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために，基礎的な心理学実験を行う。 グループはランダムに選択される。基本的に，実験者と実験参加者の両方を経験する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験レポート(70%)，受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポートを全て提出しなければ（再提出を含む），その期の単位は認定不可とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し、フィードバックを行う。そして、再提出をすること。
履修条件・注意事項	実験実習はグループで行うため，欠席をすると同じグループの仲間に多大な迷惑をかけることになる。よって，原則として，遅刻・欠席は認めない。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は，必ず講義開始までに担当教員に連絡すること。 無断で欠席をした場合は，当該課題は不可となるので十分気を付けること。 学外試合・病気などで欠席をする際は，欠席願・診断書等を必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	提出された実験レポートはコメントをつけて返却するが、再提出を求めることもある。 各課題の内容をしっかり把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各実験の担当者の個人研究室にて実施。 森井：月曜日の３時間目、　　橋本：月曜日の5時間目　　、村上：木曜日の3時間目

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション，ミュラー・リヤー錯視：理論・実習	橋本・村上
第２回	ミュラー・リヤー錯視：解説	橋本・村上
第３回	ミュラー・リヤー錯視：ピアレヴュー	橋本・村上
第４回	ミュラー・リヤー錯視：解説・ピアレヴュー	橋本・村上
第５回	ミュラー・リヤー錯視：フィードバック	橋本・村上
第６回	触2点閾の測定：理論・実験	橋本・村上
第７回	触2点閾の測定：解説	橋本・村上
第８回	触2点閾の測定：ピアレヴュー	橋本・村上
第９回	触2点閾の測定：解説・ピアレヴュー	橋本・村上
第１０回	触2点閾の測定：フィードバック	橋本・村上
第１１回	重量弁別：理論・実験	橋本・村上
第１２回	重量弁別：実験	橋本・村上
第１３回	重量弁別：解説	橋本・村上
第１４回	重量弁別：ピアレヴュー	橋本・村上

第１５回	重量弁別：フィードバック		橋本・村上
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ-	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	利島保・生和秀敏	教・ＩＳＢＮ１	4-7628-0186-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学実験Ⅱ （オムニバス）			担当者	橋本　翠、村上　勝典、森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-202		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得】 実験計画(変数の設定，条件操作の方法等)の立て方，および実験器具の操作法を修得する。 【到達目標：実験レポート作成方法の修得】 得られた量的，質的データを統計的に処理することができるようになるとともに，行った実験の目的，方法，結果，そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになる。
授業概要	ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために，基礎的な心理学実験を行う。 基本的に，実験者と実験参加者の両方を経験する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験レポート(70%)，受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポートを全て提出しなければ（再提出を含む），その期の単位は認定不可とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し、フィードバックを行う。そして、再提出をすること。
履修条件・注意事項	実験実習はグループで行うため，欠席をすると同じグループの仲間に多大な迷惑をかけることになる。よって，原則として，遅刻・欠席は認めない。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は，必ず講義開始までに担当教員に連絡すること。 無断で欠席をした場合は，当該課題は不可となるので十分気を付けること。 学外試合・病気などで欠席をする際は，欠席願・診断書等を必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	提出された実験レポートはコメントをつけて返却するが、再提出を求めることもある。 各課題の内容をしっかり把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各実験の担当者の個人研究室にて実施。 森井：月曜日の３時間目、　　橋本：月曜日の5時間目　　、村上：木曜日の3時間目

	授業計画	担当者
第１回	OR	橋本
第２回	鏡映描写：理論・実験	橋本
第３回	鏡映描写：解説	橋本
第４回	鏡映描写：ピアレヴュー	橋本
第５回	鏡映描写：解説・ピアレヴュー	橋本
第６回	鏡映描写：フィードバック	橋本
第７回	認知的葛藤：理論・実験	村上
第８回	認知的葛藤：解説	村上
第９回	認知的葛藤：ピアレヴュー	村上
第１０回	認知的葛藤：解説・ピアレヴュー	村上
第１１回	認知的葛藤：フィードバック	村上
第１２回	自由再生：理論	森井
第１３回	自由再生：理論・実験	森井
第１４回	自由再生：実験	森井

第１５回	自由再生：解説		森井
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ-	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	利島保・生和秀敏	教・ＩＳＢＮ１	4-7628-0186-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学研究法Ⅰ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-203

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学研究を行う際の理念及び操作がテーマである。参加学生は、先行研究の概観と問題点の発見・その問題に見合ったデータ収集・データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。心理学的な研究を進めるに際して、どのような操作をすべきかが理解できるようになる。そのことが、到達目標である。
授業概要	研究を進めていく際の、目的・方法・結果・考察などの一連の論理性や整合性、意識や行動を分析するためのデータの収集法、具体的には、実験、調査、観察、検査などについて、その特徴や問題点を客観的な視点から講義する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	科学としての心理学	三宅俊治
第３回	心理学研究法の分類	三宅俊治
第４回	観察法とは	三宅俊治
第５回	観察法の特徴	三宅俊治
第６回	観察法を用いた研究事例	三宅俊治
第７回	観察データの信頼性と妥当性	三宅俊治
第８回	調査法	三宅俊治
第９回	相関・共変・因果関係	三宅俊治
第１０回	質問紙調査と心理尺度	三宅俊治
第１１回	調査法を用いた研究例	三宅俊治
第１２回	心理実験とは	三宅俊治
第１３回	無作為割り当て	三宅俊治
第１４回	条件統制	三宅俊治
第１５回	要因デザイン	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	Progress & Application 心理学研究法 第２飯	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	村井 潤一郎（編著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7819-1307-0 C-3311

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学研究法Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年	ナンバリング	PS-PS-2-204

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「心理学の研究法を学ぶ」をテーマとして、特に面接法に関する知識を身に付ける。 到達目標は、支援・介入的実践活動の理論的基盤である臨床心理学的研究の実際と手法を学び、卒論レベルの研究において適用可能な能力を身に付ける。また、心理学の研究についての基礎的な内容を学習し、心理学実験Ⅰ・Ⅱのレポート作成や卒業論文の作成に活かせる知識を身に付ける。
授業概要	心理学の研究法についての基礎的な内容を紹介する。具体的には、面接法について紹介し、体験を通した授業をおこなう。また、論文の書き方や分析方法についても扱う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	テーマ「こころと行動の仕組みや働きに関する実証的な研究法を理解する」の到達度について、知識をはかるために、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、教科書を読み、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	面接法とは	村上
第３回	調査的面接法の分類	村上
第４回	調査的面接法の留意点	村上
第５回	調査的面接法のプロセス	村上
第６回	量的データの分析	村上
第７回	質的データの分析	村上
第８回	KJ法（1）：概要	村上
第９回	KJ法（2）：実施	村上
第１０回	論文の構成	村上
第１１回	問題・目的の立て方	村上
第１２回	研究方法とデータの集計	村上
第１３回	統計（1）：変数間の比較	村上
第１４回	統計（2）：変数間の関連	村上
第１５回	統計（3）：多変量解析	村上
第１６回	期末試験	村上

教科書			
教・書籍名１	『心理学研究法』	教・出版社名１	サイエンス社

教・著者名１	村井潤一郎（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7819-1307-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学統計法Ⅰ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-205		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。 【到達目標】心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できる。
授業概要	心理学(行動科学)における，測定値を適切に取り扱う知識が必要不可欠である。本講義では，まず測定値の取り扱いの基礎としての度数分布の考え方，代表値としての平均値等の概念を理解することから始め，相関に至る統計学の基礎を学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（90%）で評価する。講義中の小テストや課題の取り組み状況、積極的な態度により加点を行う（10%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の後半に復習小テストを行う。フィードバックは、小テストの解答を元に行う。
履修条件・注意事項	本講義は各回の知識の積み重ねになるので，絶対に欠席をしないこと。また，実際に計算等を行うので，簡単な電卓(加減乗除，ルート計算が出来るもの)を持参のこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の指定ページを学習してくること。講義後には、小テストの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 数学の基礎	土居
第３回	3. データとは	土居
第４回	4. ヒストグラム	土居
第５回	5. 平均値、中央値、最頻値	土居
第６回	6. 散布度	土居
第７回	7. 標準化	土居
第８回	8. 散布図	土居
第９回	9. 共分散について	土居
第１０回	10. 共分散の計算	土居
第１１回	11. 相関について	土居
第１２回	12. 相関係数の計算	土居
第１３回	13. クロス集計表と連関係数	土居
第１４回	14. 推測統計	土居
第１５回	15. 確率密度	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	よくわかる心理統計	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	山田剛史，村井潤一郎	教・ＩＳＢＮ１	4-623-03999-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学統計法Ⅱ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-206		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。 【到達目標】心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できる。
授業概要	心理統計Ｉで学んだ，記述統計でまとめたデータをもとに母集団の推定，統計的分析について学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（90%）で評価する。講義中の小テストや課題の取り組み状況、積極的な態度により加点を行う（10%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の後半に復習小テストを行う。フィードバックは、小テストの解答を元に行う。
履修条件・注意事項	本講義は各回の知識の積み重ねになるので，絶対に欠席をしないこと。また，実際に計算等を行うので，簡単な電卓(加減乗除，ルート計算が出来るもの)を持参のこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の指定ページを学習してくること。講義後には、小テストの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 統計的仮説検定と確率分布	土居
第２回	2. 正規分布とその性質	土居
第３回	3. 標準正規分布表について	土居
第４回	4. 統計的仮説検定の手順	土居
第５回	5. 両側片側検定と２種類の誤り	土居
第６回	6. 標準正規分布を用いた検定	土居
第７回	7. t分布を用いた検定	土居
第８回	8. 相関係数の検定	土居
第９回	9. カイ2乗検定：適合度の検定	土居
第１０回	10. カイ2乗検定：独立性の検定	土居
第１１回	11. 対応のないt検定	土居
第１２回	12. 対応のあるt検定	土居
第１３回	13. 分散分析	土居
第１４回	14. 多重比較	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	よくわかる心理統計	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	山田剛史，村井潤一郎	教・ＩＳＢＮ１	4-623-03999-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	医学概論Ｉ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-207		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義とグループ発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	６．安全な水とトイレを世界中に／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	「医療」がどのように実践されているかを学ぶ。自分と家族と環境の健康管理を学ぶことを目標とする。
授業概要	医学を感染症、疫学、疾病予防、環境保健、地域保健、母子保健などを多面的に学ぶことにより、現在行われている医療の現状を知る。さらに飲酒、喫煙、性感染症、睡眠について講義する。また逐次、関連する疾患、自分・家族の健康管理法についても触れる。学生自身がSDGsのテーマに沿い環境問題を学び発表する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	SDGsの安全な水、気候変動、海、陸の保全について、その問題点を国際的な視野に立って、調査研究を行い、その現状を発表する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に対する貢献や、試験の結果をもとに、判定する。前者を４０％、後者を６０％とする。 発表内容については、発表時に学生・教官がコメントを加え改善に努める。
履修条件・注意事項	講義内容は医学的な内容を含むが、プリントとパワーポイントの両方で講義をする。二つの資料をTeamsで配布ｓるので、予習復習を行うこと。内容が後半になるので、可能な限り、医学概論Ｉ，ＩＩともに受講してほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　東北大学で医学教育を行い、さらにHuman security courseのdirectorを務めた。
事前学習・事後学習とその時間	指定した教科書に則り講義をするので、授業前に予習すること。またSDGsのテーマに沿い、グループで資料を収集し、発表する。
オフィスアワー	木曜日午前10時から１１時

	授業計画	担当者
第１回	１．医学の歴史・概要　SDGsテーマの紹介	服部俊夫
第２回	健康を維持する様々な機構。　テーマに沿った学生のグループ分け	服部俊夫
第３回	疫学とその研究方法　グループによる役割分担	服部俊夫
第４回	疾病予防と健康管理　１　総論的事項　一般の感染症　グループ討議	服部俊夫
第５回	疾病予防と健康管理　２癌　生活習慣病　グループ討議	服部俊夫
第６回	疾患予防と健康管理　３．アレルギー疾患　グループ討議	服部俊夫
第７回	疾病予防と健康管理　４　自己の健康管理　グループ討議	服部俊夫
第８回	疾患予防と健康管理　５．喫煙　飲酒　グループ討議	服部俊夫
第９回	疾病予防と健康管理　６　感染症　グループ討議	服部俊夫
第１０回	世界の環境問題	JICA
第１１回	環境保健　１．環境と生態系　グループ討議	服部俊夫
第１２回	環境保健　２　地球的環境問題　グループ討議	服部俊夫
第１３回	地域保健と衛生行政　グループ討議	服部俊夫
第１４回	学生発表　（前半）	服部俊夫
第１５回	学生発表　（後半）	服部俊夫
第１６回	試験	服部俊夫

教科書			
教・書籍名１	服部俊夫	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	シンプル公衆衛生学　2022　鈴木庄亮　監修　辻一郎　小山洋　編集	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	医学概論Ⅱ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-208		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義とグループ発表
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「医療」がどのように実践されているかを学ぶ。自分と家族と環境の健康管理を学ぶことを目標とする。
授業概要	医学を感染症、疫学、疾病予防、環境保健、地域保健、母子保健などを多面的に学ぶことにより、現在行われている医療の現状を知る。さらに飲酒、喫煙、性感染症、睡眠について講義する。また逐次、関連する疾患、自分・家族の健康管理法についても触れる。学生自身がSDGsのテーマに沿い世界の感染症を学び発表する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	SDGsの世界の感染症について、その問題点を国際的な視野に立って、調査研究を行い、その現状を発表する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に対する貢献や、試験の結果をもとに、判定する。前者を４０％、後者を６０％とする。 発表内容については、発表時に学生・教官がコメントを加え改善に努める。
履修条件・注意事項	講義内容は医学的な内容を含むが、プリントとパワーポイントの両方で講義をする。二つの資料をTeamsで配布ｓるので、予習復習を行うこと。内容が後半になるので、可能な限り、医学概論Ｉ，ＩＩともに受講してほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　東北大学で医学教育を行い、さらにHuman security courseのdirectorを務めた。
事前学習・事後学習とその時間	指定した教科書に則り講義をするので、授業前に予習すること。またSDGsのテーマに沿い、グループで資料を収集し、発表する。
オフィスアワー	木曜日午前10時から１１時

	授業計画	担当者
第１回	１．災害医療　　SDGsテーマの紹介	服部俊夫
第２回	地域保健と行政　１－２　　テーマに沿った学生のグループ分け	服部俊夫
第３回	地域保健と行政　３－４　　グループによる役割分担	服部俊夫
第４回	母子保健　　グループ討議	服部俊夫
第５回	学校保健　　グループ討議	服部俊夫
第６回	産業保健　１－３　　グループ討議	服部俊夫
第７回	産業保健　４－６　グループ討議	服部俊夫
第８回	高齢者保健　グループ討議	服部俊夫
第９回	精神保健　　グループ討議	服部俊夫
第１０回	世界の健康問題	JICA
第１１回	国際保健　　グループ討議	服部俊夫
第１２回	世界の呼吸器感染症　コロナ・結核　グループ討議	服部俊夫
第１３回	エイズ　マラリアの現状　　グループ討議	服部俊夫
第１４回	学生発表　（前半）	服部俊夫
第１５回	学生発表　（後半）	服部俊夫
第１６回	試験	服部俊夫

教科書			
教・書籍名１	服部俊夫	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	シンプル公衆衛生学　2022　鈴木庄亮　監修　辻一郎　小山洋　編集	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人体の構造と機能及び疾病	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	PS-PS-1-209

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは人体の構造と機能及び疾病。到達目標は、公認心理師が各種医療職スタッフと連携を保ち、共同の作業を営むうえで必要な医学の基礎（人体の構造と機能、主な疾病の概要など）、国際生活機能分類や各種身体障害の概要ならびにリハビリテーションの概念などに関する必要最小限の知識を身につけること。
授業概要	人の成長、発達、老化にはじまり、正常の人体の構造と機能について学んだうえで、主要な疾病について概説する。その他、国際生活機能分類や健康の概念、人口動態、国民の健康づくり対策、産業保健などの概略にも触れる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度、定期試験の成績を併せて評価する。成績評価基準として知識習得状況を把握するための最終試験80%、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度20%の割合で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書に沿って、スライドを用いて講義する。教科書は必ず用意すること。スライド内容は紙媒体と電子媒体双方で配布する。 特段の事情のない睡眠や遅刻は厳禁。
実務経験のある教員	該当する　内容　整形外科を中心とした臨床経験を持つ医師である教員が、医療の現実に即した授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の次回の授業範囲を読んでおくこと。復習として、教科書やスライド内容を読み返すこと。予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

	授業計画	担当者
第１回	小児の成長発達と疾患	森
第２回	加齢と疾患	森
第３回	内科疾患の理解①	森
第４回	内科疾患の理解②	森
第５回	整形外科疾患の理解①	森
第６回	整形外科疾患の理解②	森
第７回	整形外科疾患の理解③	森
第８回	在宅医療	森
第９回	神経疾患の理解	森
第１０回	難病の理解	森
第１１回	がんの理解	森
第１２回	周産期医療・婦人科疾患の理解	森
第１３回	感染症の理解と対策	森
第１４回	ICFの理解・健康と健康増進の理解	森
第１５回	形成外科	森
第１６回	期末試験	森

教科書			
教・書籍名１	人体の構造と機能及び疾病	教・出版社名１	医歯薬出版株式会社

教・著者名１	武田克彦　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26597-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理的アセスメント	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年	ナンバリング	PS-PS-2-210

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、クライエントの見立てや適切な援助方法の選択・援助過程の評価等に用いる「心理的アセスメント」の基礎知識と方法を学ぶことである。 アセスメントのための面接、行動観察、種々の心理検査について、知識だけでなく、実際の体験を通して理解することを到達目標とする。
授業概要	アセスメントとして用いる面接・心理検査について、それぞれの基盤となる理論や技法、その応用方法を学ぶ。 講義だけでなく、グループ演習や、実際の心理検査を自身が体験する演習も行いながら、各検査の概要や実施方法を理解していく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師として各種心理検査の実務経験（小中高等学校・心理相談室・公的機関での知能検査・心理検査・発達検査等の実務）がある教員が担当する。 実際の心理臨床実践における心理アセスメント必要な知識や検査方法を、演習を通して教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、心理検査とは	藤原直子
第２回	臨床心理アセスメントの基本	藤原直子
第３回	アセスメントとしての心理面接	藤原直子
第４回	アセスメント面接の種類と方法	藤原直子
第５回	心理検査の歴史と概要	藤原直子
第６回	知能検査	藤原直子
第７回	乳幼児の発達に関する検査	藤原直子
第８回	高齢者の認知機能に関する検査	藤原直子
第９回	アセスメントとしての行動観察	藤原直子
第１０回	人格検査（質問紙法）	藤原直子

第１１回	症状や状態のアセスメント	藤原直子
第１２回	投影法とは、描画法	藤原直子
第１３回	代表的な投影法検査	藤原直子
第１４回	心理的アセスメントの実際	藤原直子
第１５回	事例から理解する心理検査	藤原直子
第１６回	試験	藤原直子

教科書			
教・書籍名１	臨床心理アセスメントの基礎[第2版]	教・出版社名１	ナカニシヤ出版
教・著者名１	沼　初枝	教・ＩＳＢＮ１	978-4779514920
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	精神疾患とその治療			担当者	森信　繁		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・グループワーク・発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：精神医学を理解する。 到達目標： 公認心理師として必要な精神障害についての下記の知識を、学生が身につけられる。 １．精神医学の基礎的事項・総説的事項を理解できる。 ２．代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。 ３．精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学べる。 ４．精神医学の歴史的な背景を理解できる。 ５．精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。
授業概要	精神医療に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、精神療法や社会福祉的支援の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要です。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断・検査法や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにすると同時に、成績の評価にも反映します。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「精神医学を理解する」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、ケースカンファレンスの課題発表（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたグループ学習発表のレジメに、コメントや修正を記載して、学生に返却する。
履修条件・注意事項	毎回プリントを配布するので、ファイリングを工夫すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

	授業計画	担当者
第１回	精神医学総論：精神症状と検査	森信　繁
第２回	統合失調症及び関連障害	森信　繁
第３回	うつ病及び関連障害	森信　繁
第４回	双極性障害 自殺の実態とその予防	森信　繁
第５回	不安障害と強迫性障害	森信　繁
第６回	外傷後ストレス障害(PTSD)と関連障害	森信　繁
第７回	身体表現性障害と解離性転換性障害	森信　繁
第８回	パーソナリティ障害	森信　繁

第９回	摂食障害 精神分析学	森信　繁
第１０回	睡眠障害	森信　繁
第１１回	認知症	森信　繁
第１２回	てんかん 器質性精神障害 症状性精神障害	森信　繁
第１３回	物質関連障害	森信　繁
第１４回	自閉性スペクトラム障害 注意欠損多動性障害 チック症	森信　繁
第１５回	緩和ケア 精神保健福祉法	森信　繁
第１６回	試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	精神医学テキスト	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	上島　国利、立山　萬里、三村　将　　編	教・ＩＳＢＮ１	IBSN976-4-524-25942-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】心の働き(行動)のもととなる感覚機能と神経系の機能について理解する。 【到達目標】神経系の機能を知るとともに，心理学を学ぶ上で重要である感覚機能の神経生理学的基礎についての理解を深める。
授業概要	本講では，人の心を理解する上で重要となる人体についての知識と理解を幅広く深められるよう講義する。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，定期試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは，次回の講義及びユニパ上で行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。遅刻および欠席はしないでください。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる(2時間)こと。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) OR/人体の構造と機能を学ぶための基礎知識1(人体の構成)	橋本翠
第２回	(2) 人体の構造と機能を学ぶための基礎知識2(生命現象を支える物理現象と化学的知識)	橋本翠
第３回	(3) 消化と吸収	橋本翠
第４回	(4) 血液	橋本翠
第５回	(5) 呼吸	橋本翠
第６回	(6) 心臓と血液の循環1(解剖)	橋本翠
第７回	(7) 心臓と血液の循環2(心周期，血圧)	橋本翠
第８回	(8) 尿の生成と体液の調節	橋本翠
第９回	(9) 内臓機能の調節1(自立神経，内分泌，ホルモン)	橋本翠
第１０回	(10) 内臓機能の調節2(内分泌腺)	橋本翠

第１１回	(11) 骨格	橋本翠
第１２回	(12) 神経系1(感覚器官)	橋本翠
第１３回	(13) 神経系2(中枢神経系)	橋本翠
第１４回	(14) 生体の防御機構	橋本翠
第１５回	(15) まとめ	橋本翠
第１６回	(16)定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	イラストで学ぶ生理学	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	田中越郎	教・ＩＳＢＮ１	4-260-34087-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イラストで学ぶ解剖学	参・出版社名１	医学書院
参・著者名１	松村譲兇	参・ＩＳＢＮ１	4-260-330007-1
参・書籍名２	人体の構造と機能	参・出版社名2	放送大学教育振興会
参・著者名2	坂井建雄・岡田隆夫	参・ＩＳＢＮ2	978-4-595-31869-6

授業科目名	心理学史			担当者	三宅　俊治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	19Ｃに哲学から独立した心理学の発展の経過をたどり、多様な心理学の根幹を理解するのがテーマである。 心理学の成立に貢献してきた人物、方法論、科学観などの知識を俯瞰的にとらえることができる。現代心理学に至る歴史的経過に関する授業内容の６割以上を理解することが、この科目の到達目標である。
授業概要	今日の心理学の基礎を築いてきた意識主義、行動主義、ゲシュタルト心理学、新行動主義、精神分析などを中心に、心理学史に残る著名な心理学者の心理学に対する取り組みやその理念の相互関係を、歴史的、時間的推移の中に位置づけていく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出後、次回の授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	心理学が生まれる土壌	三宅俊治
第３回	ヴント（Wundt,W.）の意識主義心理学	三宅俊治
第４回	19世紀のアメリカ心理学	三宅俊治
第５回	行動主義	三宅俊治
第６回	ゲシュタルト（Gestalt）心理学	三宅俊治
第７回	新行動主義の台頭、ゲシュタルト心理学のアメリカ心理学への融合	三宅俊治
第８回	精神分析	三宅俊治
第９回	精神分析からネオフロイディアンへ	三宅俊治
第１０回	脳と心の連関	三宅俊治
第１１回	心理学の対象の拡大	三宅俊治
第１２回	個人差への注目、心理検査の開発	三宅俊治
第１３回	認知心理学の展開	三宅俊治
第１４回	ヒューマニスティック心理学	三宅俊治
第１５回	社会心理学の流れ	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	流れを読む心理学史 補訂版（有斐閣アルマ Basic）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	サトウタツヤ・高砂美樹（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-641-22182-6

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理尺度構成法Ⅰ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年	ナンバリング	PS-PS-3-214

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「尺度構成の手法について理解する」をテーマとして、態度等の主観的データを客観性、再現性のある手法で得るための測定法、得られた測定データに対する処理方法を体得する。 質問紙法の作成方法や統計的手法について説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	質問紙法および統計的手法についての基礎的な内容を紹介する。質問紙の作成や統計ソフトを用いた実習を取り入れながらおこなう。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	課題に対する取り組み、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、課題に対する取り組み（50%）、小テスト（20%）とレポート試験（30%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	質問紙法とは	村上
第３回	質問紙作成の留意点	村上
第４回	質問紙の構成	村上
第５回	質問項目の収集方法	村上
第６回	質問紙の作成	村上
第７回	調査の実施とデータ入力	村上
第８回	データの整理	村上
第９回	因子分析（1）：概要	村上
第１０回	因子分析（2）：分析の流れ	村上
第１１回	因子分析（3）：結果の見方	村上
第１２回	因子分析（4）：実施	村上
第１３回	結果のまとめ方（1）：説明	村上
第１４回	結果のまとめ方（2）：作成	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	レポート試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7795-0200-2
参・書籍名２	誰も教えてくれなかった因子分析―数式が絶対に出てこない因子分析入門―	参・出版社名2	北大路書房
参・著者名2	松尾太加志・中村知靖（著）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7628-2251-3

授業科目名	心理尺度構成法Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年	ナンバリング	PS-PS-3-215

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「尺度構成の原理と手続きについて理解する」をテーマとして、態度等の心理尺度の作成を通して、その原理と手続きを習得する。 尺度構成の手続きについて説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	尺度構成の手続きについて紹介する。尺度構成の一連の流れについてグループ活動を取り入れながらおこなう。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	課題に対する取り組み、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、課題に対する取り組み（50%）、小テスト（20%）とレポート試験（30%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	尺度構成の流れ	村上
第３回	信頼性と妥当性	村上
第４回	構成概念の検討	村上
第５回	先行研究の検索	村上
第６回	先行研究の検討	村上
第７回	質問項目の収集	村上
第８回	質問紙の作成	村上
第９回	質問紙の実施	村上
第１０回	データの処理	村上
第１１回	因子分析（1）：実施	村上
第１２回	因子分析（2）：結果の整理	村上
第１３回	信頼性の検討	村上
第１４回	妥当性の検討	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	レポート試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理尺度のつくり方	参・出版社名１	北大路書房
参・著者名１	村上宣寛（著）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-2523-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感情・人格心理学Ⅰ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年	ナンバリング	PS-PS-1-301

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】日常的に使われている，「性格（人格）」という心理学概念の利点と欠点について理解すること。 【到達目標】性格（人格）の心理学的概念を理解し、自らの必要性に応じて知識を活用できる。
授業概要	「性格（人格）」という語は日常的に使われている。私たちはその根拠も考えず，経験や直観，時には思いつきで他者の性格を推測し，やみくもに落ち込んだり，他者について勝手にこうだと決めつけて不利な立場に追い込むことすらある。本講義では，教科書や性格（人格）検査の実施を通して，様々な観点（臨床心理学的側面，文化的側面，発達的側面など）から「性格（人格）」を捉え，現在どのようなことがわかっているのか，いないのかを解説していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	単位認定試験（50%）で評価する。講義中の課題の取り組み状況により加点を行う（50%）。各回において小レポートの課題を出す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	各授業において、レポート課題を出す。それに対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業内において課題を出す予定である。全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 性格（人格）とは	土居
第３回	3. 類型論：クレッチマーの理論	土居
第４回	4. 類型論：ユングの理論	土居
第５回	5. 類型論：シェルドンの理論	土居
第６回	6. 類型論：シュプランガーの理論	土居
第７回	7. 特性論：オールポートの特性論	土居
第８回	.8 特性論：BigFive	土居
第９回	9. 性格の内的要因：遺伝要因	土居
第１０回	10. 性格の外的要因：環境要因	土居
第１１回	11. 自己愛性パーソナリティー障害	土居
第１２回	12. 解離性障害	土居
第１３回	13. 境界性パーソナリティー障害	土居
第１４回	14. 感情とは	土居
第１５回	15. 感情調節障害	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書

教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感情・人格心理学Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-302

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「感情心理学の基礎を習得する」をテーマとし、感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動に及ぼす影響、発達や病理との関係性を学ぶ。 感情の生起、感情の機能、感情と健康との関係について説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	感情がどのように理解されてきたかについて、情動末梢起源説、二要因説などの古典的理論を解説し、現代の説についても紹介する。さらに感情が行動に及ぼす影響について感情と認知・行動選択の諸説を概観し、表情とコミュニケーションのしくみや、不安からの立ち直り等を解説し、心身の健康と感情のつながりについて示す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「感情心理学の基礎を習得する」の到達度について、知識をはかるために、小テストや課題、定期試験の結果を総合して評価する。具体的には、小テスト・レポート（40%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	感情の基礎・生物学的基盤	村上
第３回	感情の理論（1）古典的理論	村上
第４回	感情の理論（2）基本的感情説と次元説	村上
第５回	感情の機能	村上
第６回	感情と進化	村上
第７回	感情と認知	村上
第８回	感情と発達（1）表情および表情認知	村上
第９回	感情と発達（2）感情のコミュニケーション	村上
第１０回	感情と言語	村上
第１１回	感情と病理（1）感情病理に関する心理学的理論	村上
第１２回	感情と病理（2）感情の病態の治療	村上
第１３回	感情と健康（1）感情と健康のとらえ方	村上
第１４回	感情と健康（2）感情と健康状態との関係	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	定期試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	感情心理学・入門	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	大平英樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12388-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経・生理心理学Ⅰ	担当者	森信　繁
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	PS-PS-1-303

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：中枢・抹消神経の構造と機能を理解する。 到達目尿：この講義のテーマは心理学と関係の深い脳･脊髄･末梢神経系、神経系を保護する骨や神経系と関係が深い内分泌系の構造と機能である。このため学生は、特に脳神経系の構造及び機能や、記憶、感情の生理学的反応の機序、高次脳機能障害及び必要な支援について説明でき、公認心理師試験にも対応できるレベルの知識の獲得することができる。
授業概要	「心」が存在すると考えられている神経系、その入れ物である頭蓋と脊椎、神経系と密接な関係のある内分泌系について学習する。講義はスライド(パワーポイント)で行う。スライド内容は前もって資料・テキストとして配布する。解剖学用語は医学系の学問を学ぶことができ、また医療系の臨床業務に従事する者の共通言語となる。将来医学系と関連した職種を希望する学生には特に有用な科目である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「中枢・末梢神経の構造と機能を理解する。」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（８０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（２０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表にはコメントを小テストには回答を示し、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、精神・神経障害の治療経験があり、神経解剖に精通した医師である教員が、その経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

	授業計画	担当者
第１回	神経系の全体像　その構造と機能	森信　繁
第２回	神経系を保護するもの　頭蓋骨、脊椎、髄膜(硬膜・くも膜・軟膜)	森信　繁
第３回	大脳の構造と大脳皮質の機能局在機能	森信　繁
第４回	間脳　視床と視床下部、下垂体とそのホルモン	森信　繁
第５回	脳幹の構造と機能	森信　繁
第６回	小脳の構造と機能	森信　繁
第７回	脊髄の構造と機能及び伝導路	森信　繁

第８回	運動系　錐体路	森信　繁
第９回	運動系　錐体外路と運動の制御	森信　繁
第１０回	体性感覚とその伝導路	森信　繁
第１１回	視覚・聴覚・嗅覚・味覚とその伝導路	森信　繁
第１２回	脳室系と脳脊髄液	森信　繁
第１３回	脳の血管　動脈系と静脈系	森信　繁
第１４回	自律神経系　交感神経系と副交感神経系	森信　繁
第１５回	末梢神経系　脳神経と脊髄神経	森信　繁
第１６回	定期試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	講義のスライドを資料として配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経・生理心理学Ⅱ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】　心(認知活動)と身体(生理的活動)との関連性について理解するとともに，それらの測定方法についても理解する。 【到達目標】神経系の働きや生理的反応の測定・記録法を学ぶとともに，さまざまな認知活動とそれに伴う生理反応との関連性についての理解を深める。
授業概要	本講では，生理心理学の基礎となる神経系の機能および脳電位，心臓の活動，皮膚電気活動などの測定法を概観する。その後，特にヒトの認知機能と脳波との関連や情動と自律神経活動との関連について実験，実習を交えながら講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，実験(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること(2時間)。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。また授業内容について，配布資料を再度見直し復習もやること(2時間)。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，教科書をよく読み各回の内容について学習すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，教科書と併せて内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。
オフィスアワー	月曜５限：橋本研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/生理心理学のあゆみ	橋本翠
第２回	(2) 脳と神経-中枢神経-	橋本翠
第３回	(3) 脳と神経-末梢神経-	橋本翠
第４回	(4) 脳電位の測定-原理-	橋本翠
第５回	(5) 脳電位の測定-技法-	橋本翠
第６回	(6) 認知活動と脳波-脳波の種類-	橋本翠
第７回	(7) 認知活動と脳波-特徴的な脳波パターンと行動-	橋本翠
第８回	(8) 認知活動と事象関連脳電位-事象関連電位とは-	橋本翠
第９回	(9) 認知活動と事象関連脳電位 -事象関連脳電位の測定法-	橋本翠
	(10) 認知活動と事象関連脳電位	

第１０回	--事象関連脳電位の解析法-	橋本翠
第１１回	(11) 認知活動と事象関連脳電位 -信号検出の制御的処理と自動的処理-	橋本翠
第１２回	(12) 眠りと夢のポリグラム測定	橋本翠
第１３回	(13) 脳波測定実習-技法-	橋本翠
第１４回	(14) 脳波測定実習-測定-	橋本翠
第１５回	(15) 脳波測定実習-分析-	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	生理心理学 -人間の行動を生理指標で測る-	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	堀 忠雄(著)	教・ＩＳＢＮ１	978-4-563-05878-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ｉ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	PS-PS-1-305

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	人と人の関係に基づく意識・行動について、社会的・文化的枠組みから理解することをテーマとする。社会心理学の理論や術語について理解できる。「中学校・社会・教員免許」、「高等学校・公民・教員免許」の取得の基礎となる社会心理学的所見を理解することができる。授業で扱う社会・集団に関する知識の理解度が、授業内容の６割以上に達することが、到達目標である。
授業概要	人間の生活は、一人では成り立たない。家庭、学校、職場、地域社会などの場面で、他者に影響を与える一方、他者からの影響も受けている。他者との現実の関わりのほか、記憶や想像なども含めて、心理的実在を通して、我々の意識や行動が変化することはよく知られている。社会的動機、社会的認知、社会的態度、集団、コミュニケーション等を通して人と人の相互関係を理解する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。提出物については、翌週もしくは翌々週までに返却・フィード・バックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	社会心理学とは何か	三宅俊治
第３回	現代社会心理学の対象と流れ	三宅俊治
第４回	社会的動機	三宅俊治
第５回	社会的環境の認知	三宅俊治
第６回	自己と対人行動	三宅俊治
第７回	対人関係の認知	三宅俊治
第８回	対人魅力	三宅俊治
第９回	社会的態度	三宅俊治
第１０回	集団	三宅俊治
第１１回	同調	三宅俊治
第１２回	リーダーシップ	三宅俊治
第１３回	コミュニケーション	三宅俊治
第１４回	非言語的コミュニケーション	三宅俊治
第１５回	組織論	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-89514-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ⅱ	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-306

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	家族システムや対人間の相互作用をテーマとする。 家族や集団に起こりう得るさまざまな問題をシステムや相互作用という視座から理解できることを到達目標とする。
授業概要	問題・症状を人の「中」に帰属するのではなく，人と人との「間」から諸々の現象を捉える視点を養う。人と人との「間」において問題・症状が起こり，また，人と人との「間」において変化や解決も生じる。この講義では，関係性や相互作用の視座から，問題の生成と変化について学ぶ。 ☒
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、単元ごとの小テスト（70%）、レポート（10%）、受講態度（20%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業のなかで、小テストやレポート課題についてのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	システム論独特の視座や概念に慣れるためにも、特に前半の授業にはしっかりついてくることを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、教育センターにおける教育相談、小・中・高におけるスクールカウンセリングなどの実務経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストの該当章を読んだ上で授業に参加すること。予習復習にそれぞれ２時間以上を確保してほしい。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	システム論：ものの見方	津川秀夫
第３回	システム論：アイソモーフィズム、円環的因果律	津川秀夫
第４回	システム論：まとめと小テスト	津川秀夫
第５回	構造派：ジェノグラム	津川秀夫
第６回	構造派：サブシステムの境界	津川秀夫
第７回	構造派：家族構造の見立て	津川秀夫
第８回	構造派：ジョイニングと介入	津川秀夫
第９回	構造派：まとめと小テスト	津川秀夫
第１０回	家族の発達段階、霊長類から見る家族	津川秀夫
第１１回	ダブルバインドとは	津川秀夫
第１２回	ダブルバインドの影響	津川秀夫
第１３回	MRI：５つの暫定的公理	津川秀夫
第１４回	MRI：第一次変化と第二次変化	津川秀夫
第１５回	MRI：介入の実際、まとめと小テスト	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書

教・書籍名１	家族療法入門：システムズアプローチの理論と実際	教・出版社名１	星和書店
教・著者名１	遊佐安一郎	教・ＩＳＢＮ１	4791100956

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践　11巻　社会・集団・家族心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１	竹村和久	参・ＩＳＢＮ１	4833160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	発達心理学	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年	ナンバリング	PS-PS-1-307

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容　臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	ライフサイクルについて	宇都宮
第３回	胎児期	宇都宮
第４回	新生児期	宇都宮
第５回	乳児期：愛着の形成	宇都宮
第６回	乳児期：言葉の発達	宇都宮
第７回	幼児期：表象の獲得	宇都宮
第８回	幼児期：社会性の発達	宇都宮
第９回	児童期：有能感と劣等感	宇都宮
第１０回	児童期：学校への適応・いじめ	宇都宮
第１１回	青年期前期	宇都宮
第１２回	青年期後期	宇都宮
第１３回	青年期の病理	宇都宮
第１４回	成人期	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	よくわかる発達心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05379-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会福祉原論			担当者	石田　敦		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	PS-PS-1-308		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに
到達目標	テーマ 　心理学を学ぶ学生が、社会福祉の基本的な内容を理解できる。 到達目標 　心理学を学んだ学生が、社会福祉専門職と協働して活躍するために必要な知識の獲得ができる。
授業概要	心理学を学んだ学生が、将来、福祉分野で活躍する際に必要な社会福祉の知識の獲得を目指して講義を行う。具体的には、①心理学生が社会福祉を学ぶ意味、②心理学生から見た社会福祉学とは何か、③心理専門職と福祉専門職の連携協働のあり方について学修する。そのため、社会福祉学に関する深い知識を獲得するというよりは、連携・協働に必要な知識の獲得に重点を置く。
アクティブラーニングの内容	反転授業
評価方法と割合	受講態度20%（①居眠りやスマートホンの操作等がなく、積極的受講態度であるか、②講義に必要な資料を持参しているか）、リアクションペーパー30%（記述内容を0～2点で点数化する）、レポート試験50%を総合して評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートにコメントを付記し返却する
履修条件・注意事項	テキストとして毎時間配布する資料とともにリアクションペーパーをファイルに保管し、毎回の講義に持参すること。なお、リアクションペーパーは、講義終了5分前に記述時間を確保し、その日に学修した内容を振り返らせる。記述内容を0～2点で点数化し、コメントを付して翌週に返却をするので、見直しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、リアクションペーパーを踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習、復習については、それぞれ2時間ずつ行うこと。
オフィスアワー	授業終了後もしくは質問カードに記載して提出（後日回答）

	授業計画	担当者
第１回	社会福祉機関の種類	石田
第２回	社会福祉機関で働く職員	石田
第３回	ソーシャルワーカーの専門性	石田
第４回	児童福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第５回	高齢者福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第６回	医療場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第７回	障碍者福祉におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第８回	貧困者に対する福祉場面のソーシャルワーカーの活動	石田
第９回	外国人に対する福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第１０回	国際貢献と社会福祉	石田
第１１回	青少年の健全育成と社会福祉	石田
第１２回	更生保護と社会福祉	石田
第１３回	社会福祉の援助の持つ独自の視点	石田
第１４回	今後の社会福祉の動向	石田
第１５回	全体のまとめと振り返り	石田

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	テキストとして資料を毎時間配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	健康・医療心理学	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年	ナンバリング	PS-PS-1-309

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。
授業概要	健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れておこなう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討する」の到達度について、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	健康心理学とは	村上
第２回	健康行動に関する基礎理論	村上
第３回	動機づけ理論	村上
第４回	健康行動とその理論モデル	村上
第５回	健康問題に関する予防	村上
第６回	ストレスとは	村上
第７回	ストレスに関するモデル	村上
第８回	ストレス対処	村上
第９回	疾病とパーソナリティ	村上
第１０回	ソーシャルサポート	村上
第１１回	アセスメント	村上
第１２回	健康心理カウンセリング	村上
第１３回	チーム医療と役割	村上

第１４回	医療領域の対象疾患と支援	村上	
第１５回	災害心理学	村上	
第１６回	定期試験	村上	
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	健康・医療心理学	参・出版社名１	医歯薬出版株式会社
参・著者名１	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26577-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	知覚・認知心理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】大脳における情報処理過程(知覚，注意，表象，記憶，言語，問題解決，推論など)の認知モデルとその検証実験について理解する。 【到達目標】大脳における情報処理過程の認知モデルを理解するとともに，認知処理を行うためのモデル構築のための実験パラダイムについて理解を深める。
授業概要	本講では，これまでブラックボックスという表現で処理されていた人間内部の問題，特に，記憶，情報の検索，イメージと空間の認知について，実験に基づく認知モデルを概観するとともに，日常生活におけるさまざまな認知活動について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，実験(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，教科書をよく読み各回の内容について学習する(2時間)こと。復習については，授業時に配布する資料を読み，教科書と併せて内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる(2時間)こと。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/認知心理学とは-歴史・方法・領域・これからの認知心理学-	橋本翠
第２回	(2) 知覚の基礎	橋本翠
第３回	(3) 記憶のしくみ	橋本翠
第４回	(4) 情報の検索と忘却	橋本翠
第５回	(5) 概念と言語	橋本翠
第６回	(6) 知識と表象	橋本翠
第７回	(7) 高次の知覚と注意	橋本翠
第８回	(8) イメージと空間の情報処理	橋本翠
第９回	(9) 認知の制御過程	橋本翠
第１０回	(10) 文章の理解	橋本翠

第１１回	(11) 文章の記憶	橋本翠
第１２回	(12) 推理	橋本翠
第１３回	(13) 問題解決	橋本翠
第１４回	(14) 意思決定	橋本翠
第１５回	(15) 日常世界と認知心理学	橋本翠
第１６回	(16)定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	グラフィック認知心理学	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	森敏昭，井上毅，松井孝雄(共著)	教・ＩＳＢＮ１	4-7819-0776-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	認知心理学 知のアーキテクチャを探る	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	道又爾，北崎充晃，大久保街亜，今井久登，山川恵子，黒沢学	参・ＩＳＢＮ１	4-641-12167-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	学習・言語心理学			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-311		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】学習による人の行動の科学的理論を理解することである。 【到達目標】心理学の基礎として，学習・行動理論の代表的な理論と応用方法を理解し，自らの必要性に応じて活用できる。
授業概要	代表的な学習理論である，古典的条件付け・オペラント条件付け，社会的学習の基礎理論と応用について概説する。学習とは，「活動や訓練あるいは観察の結果として生じた永続的な行動の変容」と定義される。「行動」が条件付けによって獲得されることを理解し，様々な環境要因によって行動が生じることを学ぶ。特に，古典的条件づけとオペラント条件付けについては，具体的な例をあげて理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、講義中の課題の取り組み、小レポートの提出状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業内で小レポートの課題を出す。また、授業の後半にグループワークを行う予定である。フィードバックは、小レポートに対して行う。
履修条件・注意事項	学習心理学は専門用語が多く、休むと分からなくなるため、全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 学習とは	土居
第３回	3. 学習心理学の歴史	土居
第４回	4. 古典的条件付け	土居
第５回	5. 古典的条件付けの手続き	土居
第６回	6. ソーンダイクの試行錯誤学習	土居
第７回	7. ケーラーの洞察学習	土居
第８回	8. ワトソンの行動主義	土居
第９回	9. オペラント条件付け	土居
第１０回	10. 強化スケジュール	土居
第１１回	11. 社会的学習理論：模倣学習	土居
第１２回	12. 社会的学習理論：観察学習	土居
第１３回	13. 応用行動分析：ABC分析	土居
第１４回	14. 応用行動分析：行動記録	土居
第１５回	15. 応用行動分析：強化の原理	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床心理学概論			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：臨床心理学とは何かについて包括的な理解をしてもらうことが、この授業のテーマである。到達目標：①臨床心理学の発展の歴史を理解する、②臨床心理学の定義・理念・体系について理解する、③代表的な心理療法について理解する、④心理アセスメントについて理解する、ことである。
授業概要	臨床心理学の発展の歴史、臨床心理学の定義・理念・体系、代表的な心理療法、心理アセスメントなどについて紹介する。 臨床心理学とは何かについての基礎的な内容を理解し、応用に向けた知識と態度を身につけてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、それらを合計して評価する。具体的には、受講態度（授業への積極的な態度）、小テスト・レポート（知識の習得状況を授業の内容が1つ終わるごとにチェックする。レポートはビデオ教材などの理解度チェック）、期末試験（総合的な知識習得状況を把握する）の内容で総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストとレポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で習い、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	宇都宮研究室（10号館10204 研究室）にて、火曜日2時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	臨床心理学の歴史	宇都宮
第３回	臨床心理学の定義・理念・体系	宇都宮
第４回	精神分析的アプローチ	宇都宮
第５回	精神分析的アプローチ（事例）	宇都宮
第６回	分析心理学的アプローチ	宇都宮
第７回	分析心理学的アプローチ（事例）	宇都宮
第８回	事例（DVD）	宇都宮
第９回	行動論的アプローチ	宇都宮
第１０回	認知論的アプローチ	宇都宮
第１１回	ヒューマニスティック・アプローチ	宇都宮
第１２回	ロジャーズのカウンセリング（DVD）	宇都宮
第１３回	その他のアプローチ	宇都宮
第１４回	心理アセスメント	宇都宮

第１５回	まとめ		宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	公認心理師の基礎と実践３　臨床心理学概論	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	野島一彦・岡村達也（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-053-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学的支援法			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、心理臨床においてベースとなる基本的な心理療法・心理学的支援法を理解することである。 さまざまな理論から展開されている心理療法について、その基本概念や手法の初歩的知識を習得する。 秋学期に開講される「心理的アセスメント」の導入として位置づけられ、基礎となる理論や背景、心理療法の具体的な方法を知識として覚えることを到達目標とする。
授業概要	多種多様な心理療法・心理学的支援法の理論と実際について、基礎的な知識を学んでいく。 特に、心理療法の代表的な立場である、精神分析、クライエント中心療法、行動療法を主に取り上げて概観し、その他の心理療法についても学ぶ。また、講義だけでなく、グループ演習や心理療法体験も行い、実際の心理療法を体感しながら理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校でのスクールカウンセラー、心理相談室でのカウンセリング等）がある教員が担当する。臨床心理実践において必要な理論や技法を、現場の事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、心理学的支援とは	藤原直子
第２回	心理療法の進め方	藤原直子
第３回	精神分析の理論	藤原直子
第４回	心理療法としての精神分析	藤原直子
第５回	フロイトからの分派と発展	藤原直子
第６回	交流分析	藤原直子
第７回	クライエント中心療法の理論と技法	藤原直子
第８回	クライエント中心療法の発展	藤原直子
第９回	面接の基本技法、動機づけ面接	藤原直子
第１０回	行動療法の理論と技法	藤原直子
第１１回	行動療法の技法と応用	藤原直子
第１２回	認知行動療法の歴史と理論	藤原直子

第１３回	認知行動療法の技法	藤原直子	
第１４回	芸術・表現療法	藤原直子	
第１５回	日本で生まれた心理療法	藤原直子	
第１６回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	やさしく学べる心理療法の基礎	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	窪内節子・吉武光世	教・ＩＳＢＮ１	978-4-563-05669-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	司法・犯罪心理学 （集中講義A）			担当者	田井　靖治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	講義のテーマ 犯罪や非行の実態、犯罪者及び被害者の心理過程を学ぶ。 到達目標 司法・犯罪心理学の基本的な知識を修得し、犯罪の未然防止や犯罪被害者への支援の取組について知見を身につける。
授業概要	司法・犯罪心理学の歴史的展開や各理論について理解し、また我が国における犯罪や非行の実態を近年の犯罪統計に基づき概観する。そして犯罪の原因の探求、犯罪者の心理や被害者の心理、被害者に対する支援の取組について考察をする。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講状況、課題提出および最終試験により評価。 成績評価基準：最終試験（60%）、発表・ディスカッションへの参加（20%）、課題提出（20%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、適宜授業の中で解説、講評する。
履修条件・注意事項	課題・復習によく取り組み、発表や質問を積極的にすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業に臨むにあたっての事前準備（参考書籍の精読等）をしっかりと行う。授業の予習、復習はそれぞれ2時間以上が望ましい。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	犯罪心理学とは	田井
第２回	犯罪・非行行動の現状と理解（１）	田井
第３回	犯罪に対して抱く特有の心理（１）	田井
第４回	犯罪に対して抱く特有の心理（１）	田井
第５回	犯罪研究の歴史的展開	田井
第６回	犯罪理論の多面性	田井
第７回	社会・文化的観点からの犯罪観	田井

第８回	社会・文化的要因からの犯罪理論	田井
第９回	個体要因からの犯罪理論	田井
第１０回	犯罪と冤罪	田井
第１１回	犯罪防止の心理学	田井
第１２回	犯罪者の矯正	田井
第１３回	被害者の心理	田井
第１４回	被害者への支援	田井
第１５回	犯罪心理学のこれから	田井
第１６回	筆記試験	田井

教科書			
教・書籍名１	教科書なし。適宜プリントを配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	犯罪心理学	参・出版社名１	朝倉書店
参・著者名１	越智　啓太（編集）	参・ＩＳＢＮ１	4-2544-52678-4
参・書籍名２	知っておきたい最新犯罪心理学	参・出版社名2	ナツメ社
参・著者名2	細江　達郎	参・ＩＳＢＮ2	978-4-8163-5350-5

授業科目名	産業・組織心理学 （集中講義E）	担当者	田井　靖治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-315

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	産業組織心理学は産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。 本講義では、産業組織心理学のこれまでの研究において得られた理論や成果を理解し考察を深めることを目標とする。 また個人と組織間の相互作用の中で生まれる「こころの働き」に重点をおき、人々が幸福に働くことに重要な産業心理学の知識、知見を養うことを目指す。
授業概要	近年の技術革新の進展、産業構造の変化、労働者意識の多様化等に伴う労働移動の増加、職業能力のミスマッチの拡大等、産業界は大きく変貌してきた。そしてそれは職場環境や働く人々の価値観に大きく影響をおよぼしている。こうした状況を踏まえ個人と組織、個人にとっての職業・産業心理について理解し考察をする。 なかでもワーク・モチベーション、キャリア発達、コミュニケーションと人間関係、産業カウンセリング等の領域をとりあげ産業場面における人間の心理や行動を明らかにしていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義出席状況、受講状況及び最終試験により評価する。 成績評価基準：最終試験（60%）、発表・ディスカッションへの参加（20%）、授業態度（40%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、適宜授業の中で解説、講評する。
履修条件・注意事項	課題・復習によく取り組み、発表・質問を積極的にすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業に臨むにあたっての事前準備（参考書籍の精読、自身のキャリアデザイについて考える等）をしっかりと行う。授業の予習、復習はそれぞれ2時間以上が望ましい。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	田井
第２回	産業組織心理学とは	田井
第３回	ワークモチベーション（１） ～動機付け～	田井
第４回	ワークモチベーション（２） ～期待理論～	田井
第５回	ワークモチベーション（３） ～コミットメント～	田井
第６回	キャリア発達（１） ～キャリアとは～	田井
第７回	キャリア発達（２） ～キャリア発達理論～	田井
第８回	コミュニケーションと人間関係（１） ～職場集団の特性～	田井
第９回	コミュニケーションと人間関係（２）	田井

	～職場集団と発達論～	
第１０回	リーダーシップ（１） ～リーダーシップの概念と研究の歴史～	田井
第１１回	リーダーシップ（２） ～特性アプローチ・行動アプローチ～	田井
第１２回	消費行動とマーケティング	田井
第１３回	職場のストレスとメンタルヘルス	田井
第１４回	産業カウンセリング	田井
第１５回	まとめ	田井
第１６回	最終試験	田井

教科書			
教・書籍名１	なし。適宜プリントを配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	産業心理学への招待	参・出版社名１	有斐閣ブックス
参・著者名１	佐々木土師二（編）	参・ＩＳＢＮ１	4-641-08562-5
参・書籍名２	よくわかる産業・組織心理学	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2	山口裕幸／金井篤子（編）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-623-04871-7

授業科目名	生涯発達心理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講は，人間の様々な認知機能を理解する上での基礎となる心理学を土台にし，特に，ヒトの発達の原理とともにその過程の法則性，機能および多様性について学び理解することができる。
授業概要	胎児期から老年期までの各期における様々な機能の発達について講義する。それぞれの時期で重要となる機能に即した心理学的側面を理解することにより，科学的客観的根拠に基づいた発達心理学視点で生涯を概観するものである。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(5%)，感想(minutes paper)(5%)，試験の得点(90%)の合計点により総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは，次回の講義内及びユニパのコメントにて行います。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR・生涯発達心理学とは	橋本翠
第２回	2.発達の可塑性	橋本翠
第３回	3.認知発達の基盤① -胎児～0歳児-	橋本翠
第４回	4.認知発達の基盤② -表象の獲得-	橋本翠
第５回	5.他者との関係性のはじまり	橋本翠
第６回	6.子どもの自己発達	橋本翠
第７回	７.児童期までの概観-映画を通して	橋本翠
第８回	8.レポートのピアレヴュー	橋本翠

第９回	9.認知能力の生涯発達	橋本翠
第１０回	10.発達と障がい	橋本翠
第１１回	11.関係性の発達①-乳幼児期～児童期-	橋本翠
第１２回	12.関係性の発達②-青年期～高齢期-	橋本翠
第１３回	13.大人の自己発達	橋本翠
第１４回	14.成熟と英知	橋本翠
第１５回	15.まとめ	橋本翠
第１６回	16.筆記試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	生涯発達心理学	教・出版社名１	有斐閣アルマ
教・著者名１	鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-22074-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害者・障害児心理学			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-321		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	授業テーマは、発達障害をはじめとするさまざまな障害の種類や特性を理解し、心理師として現場において支援する具体的な方法を学ぶことである。 具体的には、さまざまな障害による制約や特性、個々に対応するためのアセスメント、支援方法等について、障害ごとに理解していく。 「障害」とは何か、その種類、症状・特性、診断基準、支援方法等の知識を習得し、実際の心理臨床に生かすことを目標とする。
授業概要	主に発達障害についてDVD視聴、テキストの輪読、講義、グループ演習を通して学んでいく。 各テーマについて、適宜レポートや課題を課したり、グループ演習や討議によって理解を深めたりする。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループで行う演習やディスカッションを行うため、積極的に発言すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、心理師として障害児者に対する心理的支援の実務経験（小中高等学校におけるスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回指導・研修会講師、心理相談室における発達障害児のカウンセリング、保護者支援等）がある教員が担当する。障害児者の支援において必要な知識や技法を、実際のの事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、障害とは	藤原直子
第２回	発達障害とは何か、発達障害の種類と概要	藤原直子
第３回	発達障害に関する法律、合理的配慮	藤原直子
第４回	自閉スペクトラム症の特性と支援	藤原直子
第５回	注意欠如・多動症の特性と支援	藤原直子
第６回	限局性学習症の特性と支援	藤原直子
第７回	発達障害のアセスメント	藤原直子
第８回	発達障害に特化した検査	藤原直子
第９回	様々な障害に対する理解と支援：視覚・聴覚障害	藤原直子
第１０回	様々な障害に対する理解と支援：肢体不自由	藤原直子
第１１回	様々な障害に対する理解と支援：病弱・身体虚弱、重度・重複障害	藤原直子
第１２回	公認心理師として実施できる支援方法	藤原直子
第１３回	事例で考えるアセスメントと支援：地域	藤原直子

第１４回	事例で考えるアセスメントと支援：学校		藤原直子
第１５回	まとめ		藤原直子
第１６回	試験		藤原直子
教科書			
教・書籍名１	公認心理師のための発達障害入門	教・出版社名１	金子書房
教・著者名１	黒田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7698-2420-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	福祉心理学			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-322		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	福祉心理学では、福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な制度や支援について学習し、心理支援の必要性とあり方について理解を深めることをテーマとしている。到達目標は、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について理解することである。
授業概要	福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な支援や制度について紹介する。また、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について学習し、理解を深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストも行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で習い、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習にはそれぞれ２時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	社会福祉の歴史	宇都宮
第３回	福祉対象者への心理支援	宇都宮
第４回	児童虐待への心理支援	宇都宮
第５回	子どもと親への心理支援	宇都宮
第６回	福祉対象者への心理支援（事例DVD）	宇都宮
第７回	日本と世界の高齢者の現状	宇都宮
第８回	老年期の発達理論	宇都宮
第９回	認知症とは	宇都宮
第１０回	認知症の対応と援助	宇都宮
第１１回	認知症のアセスメント	宇都宮
第１２回	生活困窮・貧困者への心理支援	宇都宮
第１３回	精神障害者への心理支援	宇都宮
第１４回	精神障害者への心理支援（事例）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	第17巻 福祉心理学（公認心理師の基礎と実践）	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	中島健一（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-067-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育・学校心理学	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-323

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学校教育場面における問題行動とその対応法をテーマとする。 テーマに関する調査資料や論文を読み取る力を身につけるとともに、エビデンスに基づいた対応法を知ることを到達目標とする。
授業概要	学校教育場面において生じるさまざまな問題のなかでも，特に不登校に焦点をあて，未然防止や再登校援助の具体的な指針について理解する。授業では，不登校に関する調査資料や論文に実際にあたって読み進める。その作業を通して，不登校に関する最新情報を得るとともに，論文や統計データの読み取り方を習得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、授業での発言や取り組み姿勢（20%）、レポート（20%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について授業のなかでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	使用する資料は適宜配布する。参加型学習であるため授業の出席は必須である。もしも何らかの事情で欠席した場合には，他の受講者より内容を聞き，しっかり理解しておくことを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　小・中・高におけるスクールカウンセリング、教育センターにおける教育相談、精神科クリニックでの心理臨床活動などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料を読み込み授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日４時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	学校における問題行動	津川秀夫
第３回	不登校の現状：出現率の推移	津川秀夫
第４回	不登校の現状：不登校のきっかけ	津川秀夫
第５回	不登校の現状：長期欠席と不登校	津川秀夫
第６回	不登校の現状：地域別データから見えるもの	津川秀夫
第７回	不登校の現状：改善率	津川秀夫
第８回	学校ストレス	津川秀夫
第９回	不登校に影響する学校ストレスとは	津川秀夫
第１０回	欠席パターン	津川秀夫
第１１回	欠席パターンと不登校の未然防止	津川秀夫
第１２回	スクール・コネクテッドネス	津川秀夫
第１３回	スクール・コネクテッドネスの活用	津川秀夫
第１４回	PBISの活用	津川秀夫
第１５回	まとめと展望：教育行政の方針転換およびコロナ禍の影響	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書			
教・書籍名１	使用しない。 文部科学省のWEBを適宜参照する	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践18巻　教育・学校心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	4866160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	比較心理学			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	テーマ：動物の認知行動との比較を通して「こころ」の多様性を知り、ヒトの「こころ」について理解を深める。 到達目標：様々な動物の（認知）行動についての研究法を知り、ヒトに特異的と考えられている能力を他の動物との比較の中で捕らえ直すことができる。
授業概要	比較心理学は、ヒトと様々な動物の行動や認知能力を比較するこ とにより、ヒトの独自性と進化の過程を明らかにし、生物としてのヒトの「こころ」を理解しようとする学問である。本講義では、様々な動物種の認知能力についての研究事例を紹介し、それ ぞれの種がもつ「こころ」とその生物学的基盤および行動の機能・発達・進化について講義する。授業の後半は、講義で取り上げたテーマの中から１つを選び、ヒトを含む動物種ごとに担当を決めて資料を集め，内容を発表し、全員で議論することにより「こころ」について、あるいはその研究方法についての理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	４回ほど行う小テストの結果（20%）、研究発表・参加態度（40%）、定期試験（40%）で行う予定である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	フィードバックは小テストの返却、発表に対するコメント等において行う。
履修条件・注意事項	心理学実験実習、心理学研究法の知識は基本である。 後半は、各自の研究発表とそれについての討論が中心となるので、種々の文献の読みこなしが必須となる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの指定された箇所を読んでおくことと、配付資料を基に、予習と復習に3～4時間を要す。
オフィスアワー	月曜4限　教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	動物行動と心理学	森井
第３回	様々な学習と生物学的意義	森井
第４回	動物の記憶・研究方法	森井
第５回	動物の概念と思考	森井
第６回	問題解決と道具使用	森井
第７回	様々なコミュニケーション行動	森井
第８回	言語的コミュニケーション	森井
第９回	社会的認知と社会行動	森井
第１０回	演習テーマの決定と分担	森井
第１１回	資料の整理・進捗報告	森井
第１２回	発表と議論１	森井
第１３回	発表と議論２	森井
第１４回	発表と議論３	森井
第１５回	まとめ：ヒトと動物のこころ	森井
第１６回	学期末試験	森井

教科書			
教・書籍名１	動物たちは何を考えている？ -動物心理学の挑戦ー	教・出版社名１	技術評論社

教・著者名１	藤田和生（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7741-7258-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	コミュニティ心理学 （集中講義B）	担当者	松本　奈浦
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-325

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	コミュニティ心理学に関する基本的理念を学び、コミュニティ心理学が発展してきた背景、実際の臨床現場での取り組み等を理解、習得し説明することができるようになる。加えて心理社会的課題から今後どのような施策が必要かについて等自ら考える力を身につけられるようになる。またコミュニティ心理学の知識を身につけた上で架空の事例について検討を行うが、実践に近いケースを体験的に学習することによりコミュニティ感覚を養い、実際の現場で生かせるよう専門職としての質の向上を目指す。
授業概要	コミュニティ心理学は1960年代のアメリカにおいて地域精神保健活動を母体に誕生し、時代と社会のニーズの変遷とともに定義や手法も形を変えながら発展し続けている比較的新しい心理学分野である。コミュニティ心理学は地域臨床の文脈で実践・研究されてきた経緯がある。実際の臨床現場では、“児童虐待”、“いじめ問題”、“ハラスメント”等多様な心理社会的問題への支援が専門職として求められることになる。本授業ではコミュニティ心理学の理論やアプローチ方法を学び知識を深めていくとともに、実際にケース検討を行うなど自ら体験的に学ぶことも取り入れながらコミュニティ心理学の知識と技法を検討・理解し、心理専門職としての資質を高めていけるように構成している。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	コミュニティ心理学の基礎的な知識、そして心理専門職としての資質を高めるために、試験結果や授業での態度、参加の仕方、グループワークでの対応の仕方等を通じて総合的に評価する。具体的な評価はコミュニティ心理学の基礎知識や理論、実践的アプローチについて問う定期試験(50%)、グループワークにおける周囲への関わりや活発な意見交換(30%)、授業中の学びの程度を判定するための授業への積極的な参加態度(20%)を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	資料中心に授業を進めていく。講師の説明を聞き、重要なポイントと思われる場合には適宜記述し理解を深めていくこと。定着を図るために配布資料や参考図書をもとに予習・復習することが望ましい。受講態度の良くないもの、特に他学生の受講を妨げる行為を行うものには退出を求める。積極的な発言や議論を期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は実際にコミュニティ心理学的アプローチを実践している教員が、その経験を活かし、心理専門的・社会的に役立つ授業を実践する。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に調べ、理解したうえで授業を受けるとわかりやすい。単位認定試験は授業で学習した内容について満遍なく出題されるため、学んだことはその日のうちに事後学習することを進める。
オフィスアワー	10号館1階非常勤講師室にて実施。授業終了後でも対応可能。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション コミュニティ心理学とは	松本
第２回	コミュニティ心理学の歴史的背景	松本
第３回	人と環境の適合	松本
第４回	予防の重視とエンパワメント	松本

第５回	危機介入とは 危機への心理的アプローチ	松本
第６回	相談援助活動の実際「アセスメントツールの活用」	松本
第７回	事例検討①「心理的アセスメント実習」	松本
第８回	家庭・地域における実践	松本
第９回	児童相談所における心理的支援	松本
第１０回	事例検討②「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」	松本
第１１回	事例検討③「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」	松本
第１２回	まとめ「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」 今後の展望と課題	松本
第１３回	精神科領域における心理的支援と多職種との協働	松本
第１４回	事例検討④「精神科デイケアにおけるコミュニティアプローチ」	松本
第１５回	まとめ	松本
第１６回	単位認定試験	松本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかるコミュニティ心理学	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-04611-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営心理学			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-326		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	人々が雇用者として、あるいは被雇用者として職に就き、その組織において利潤を追求する目的で仕事に取り組む際に直面する多様な問題を心理学的立場から実証的に捉え、検討し、解決に役立てるための基本的知識を習得するのがテーマである。到達目標は上記内容を理解できるようにすることである。
授業概要	職業集団や組織における個人の心理過程を、経営・組織の意思決定、人事マネジメント、組織内人間関係とコミュニケーション、人材育成と職業的アイデンティティ、ストレスと健康などの観点から、今日的な経済・経営趨勢の中で捉え直すことによって、組織の生産性の向上と個人の職業的充実感に折り合いをつけて、いわゆる「役立つ」人材とは何であるのか、抉っていきたい。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから、ポイントを適宜指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	リーダーシップ	崔　瑞玹
第３回	フォロワーシップ	崔　瑞玹
第４回	組織コミットメント	崔　瑞玹
第５回	ストレスとメンタルヘルス	崔　瑞玹
第６回	心の健康	崔　瑞玹
第７回	経営・組織の意思決定	崔　瑞玹
第８回	人間関係とコミュニケーション	崔　瑞玹
第９回	人材教育とキャリア	崔　瑞玹
第１０回	人事マネジメント	崔　瑞玹
第１１回	消費者行動の心理学	崔　瑞玹
第１２回	広告の心理学	崔　瑞玹
第１３回	ファッションの心理学	崔　瑞玹
第１４回	分化・環境・経営	崔　瑞玹
第１５回	組織神経科学	崔　瑞玹
第１６回	定期試験	崔　瑞玹

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	経営・ビジネス心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	松田幸弘（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7795-1263-6 C3011
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	家庭支援論			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-327		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。到達目標としては次の通りである。 １．学生が、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援 の現状、課題について理解する。
授業概要	家族機能の衰退や家族の病理が深刻な問題とされている一方で、家族はなお基本的な社会集団としての役割を期待されている。家族の意義やその有用性を再認識し、家族のもつ力を活用した家庭支援のあり方を講義する。とりわけ家族・家庭への援助技術について詳しく講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業態度（20%）、課題発表（20%）、試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に出された課題は次の週の授業時にフィードバックする。試験に関する解説をフィードバックする。
履修条件・注意事項	単位の取得には3分の2以上の出席が条件。教科書による予習や講義後の復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習は90分以上を費やし、毎回の授業内容について、教科書や関連する文献で調べておき、わからないところはまとめておくこと。復習も90分以上を費やし、授業で学んだことを整理しておくこと。適宜、宿題を出す。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

	授業計画	担当者
第１回	１．子ども家庭支援の意義と必要性	中野明子
第２回	２．子ども家庭支援の目的と機能	中野明子
第３回	３．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	中野明子
第４回	４．子育て家庭の福祉を図るための社会資源	中野明子
第５回	５．保育の専門性を活かした子ども家庭支援	中野明子
第６回	６．子どもの育ちの喜びの共有	中野明子
第７回	７．保護者および地域の実践に対する支援	中野明子
第８回	８．保育士に求められる基本的態度	中野明子
第９回	９．家庭の状況に応じた支援	中野明子
第１０回	10．地域資源の活用と関連機関との連携・協力	中野明子
第１１回	11.子ども家庭支援の内容と対象	中野明子

第１２回	12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援	中野明子
第１３回	13.地域の子育て家庭への支援	中野明子
第１４回	14.要保護児童およびその家庭に対する支援	中野明子
第１５回	15.子育て支援に関する課題と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	新基本保育シリーズ　⑤　子ども家庭支援論	教・出版社名１	中央法規出版
教・著者名１	編集：松原　康雄他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5785-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床神経学			担当者	中角　祐治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-328		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	この授業のテーマは、神経疾患の臨床像についての理解である。 公認心理士等として、医療福祉施設に勤務する場合に必要な知識の習得を到達目標とする。
授業概要	神経系に関係する血管障害、変性疾患、外傷、腫瘍、感染症、先天性疾患、機能性疾患について講義する。 最初の授業の時に、各学生に２回目以降の授業時に発表してもらうテーマを提示します。 ２回目以降は、学生のプレゼンテーションに続いて、ディスカッションを行います。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	プレゼンテーションが６０％、ディスカッション２０％、毎回の授業の最後に行う小テスト２０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の最後に行う小テストについて、次回の授業の最初に解説をします。
履修条件・注意事項	神経疾患を理解するためには、正常な解剖・生理と病態生理・症候学の知識を有していることが必要です。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員は、東京都立神経病院神経内科、Iowa大学Neurology等での勤務経験があります。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習に各２時間を要します。配布資料を中心に取り組んで下さい。
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階、６４１１研究室

	授業計画	担当者
第１回	脳血管障害；総論	中角
第２回	脳血管障害；出血性	中角
第３回	脳血管障害；虚血性	中角
第４回	変性疾患１	中角
第５回	変性疾患２	中角
第６回	変性疾患３	中角
第７回	脱髄疾患	中角
第８回	神経筋接合部疾患	中角
第９回	筋疾患	中角
第１０回	外傷	中角
第１１回	慢性的な圧迫	中角
第１２回	腫瘍	中角
第１３回	感染症	中角
第１４回	先天性疾患	中角
第１５回	機能性疾患	中角
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	なし（配布資料を教科書代わりに使ってください）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	神経内科学テキスト	参・出版社名１	南江堂

参・著者名１	江藤文夫	参・ＩＳＢＮ１	978-524-26215-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経診断学			担当者	中角　祐治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-329		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	この授業のテーマは、神経系が障害された時に見られる症候を理解し、それらの症候から神経系の障害部位を考えるための検査法（神経診断学）を学生が理解することである。
授業概要	神経系の病態生理、神経解剖学に基づいた系統的な神経所見の診察法、補助検査について、各学生に課題を指定する。 学生のプレゼンテーションに続き、質疑応答を行う。授業の最後に小テストを行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業内での発表内容について60%、質疑応答の内容20%、小テスト20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の最初に、前回授業時に行った小テストの解説をする。
履修条件・注意事項	積極的にディスカッションに参加して下さい。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員は、東京都立神経病院神経内科、アイオワ大Neurology　などで勤務した経験があります。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習に各２時間を要す
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階、６４１１研究室

	授業計画	担当者
第１回	神経系の発生学と解剖学総論	中角
第２回	大脳	中角
第３回	基底核・小脳	中角
第４回	脳幹・脊髄	中角
第５回	末梢神経・血管	中角
第６回	神経生理学	中角
第７回	生化学、薬理	中角
第８回	診断学１；総論	中角
第９回	診断学２；脳神経	中角
第１０回	診断学３；運動系	中角
第１１回	診断学４；感覚系	中角
第１２回	診断学５；自律神経系	中角
第１３回	診断学６；高次脳機能	中角
第１４回	補助検査１；画像診断	中角
第１５回	補助検査２；生理検査、生化学検査	中角
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	なし（配布資料を教科書代わりに使って下さい）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	神経内科学テキスト	参・出版社名１	南江堂

参・著者名１	江藤文夫	参・ＩＳＢＮ１	978-524-26215-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床の倫理				担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年				ナンバリング	PS-PS-3-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	【テーマ】教育・医療・産業等における心理臨床現場における例題を通して、倫理を調べ学習と討論、考察により、自分なりの視点を持てるようになること。 【到達目標】臨床現場（教育・医療・産業等）は治療者とクライアント、両者を取り巻く人間関係の上に成り立つ場であるため、守秘、インフォームドコンセント等において治療者の倫理が問われる。学生は、適切なアセスメントや支援が行われるためのクライアント理解のあり方、障害に対する一般的心理反応等について学習し、それらに対する対応を理解・修得できること。
授業概要	法律や倫理的観点を学習し、インフォームドコンセント、守秘義務、いじめや不登校、研究倫理、研究結果の公表などテーマを絞って、それらにおける倫理的問題を検討する。 グループごとに話し合いをすることになる。一つのテーマについて、4コマかけてディスカッション及び図書館で調べたりすることを通して、会話に深みをつけていく。しっかり時間をとって話し合うため、学生同士は多方面の意見が出て新たな気づきが生まれると思われる。大学時代でしかできないこの体験は、貴重なものとなるであろう。主観と客観を分ける聞いて話す技術、人の話を聞きだし聞く力、まとめる力、発表する力などこれから就職する学生にとっては、大きな経験となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度、レポート提出と討論への参加状況を総合して評価する。４回の個人レポート（25%）、受講態度を含む討論への参加状況、授業内で出す課題や小レポートへの取り組み（75%）を目安とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は、1つのテーマにつき、前半の話し合いを行った後の集団レポート、後半の話し合いを行った後の個人レポートの2種類があり、それぞれを提出する必要がある。レポートを元にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	様々なテーマについて、グループごとに話し合いを行う。グループの人と会話をしようとする気持ちを持って、授業を受けること。 話し合いでは、自分なりの意見を持って発言すること。また、レポート作成の際に講義内容を振り返るような学習を期待する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、配布されたプリントを学習してくること。講義後には、グループで話し合ったテーマについて復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション・インフォームド・コンセントのテーマ	土居
第２回	2. インフォームド・コンセントの調べ学習	土居
第３回	3. インフォームド・コンセントの討論・レポート	土居
第４回	4. 教育現場の倫理のテーマと話し合い	土居
第５回	5. 教育現場の倫理の調べ学習	土居
第６回	6. 教育現場の倫理の調べ学習と討論	土居
第７回	7. 教育現場の倫理の討論・レポート	土居
第８回	8. 研究倫理のテーマと話し合い	土居
第９回	9. 研究倫理の調べ学習	土居
第１０回	10. 研究倫理の調べ学習と話し合い	土居
第１１回	11. 研究倫理の討論・レポート	土居

第１２回	12. 剽窃・改ざん・ディブリーフィングのテーマ	土居	
第１３回	13. 剽窃、改ざん、ディブリーフィングの調べ学習	土居	
第１４回	14. 剽窃、改ざん、ディブリーフィングの討論・レポート	土居	
第１５回	15. まとめ	土居	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本史 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-901		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	【テーマ】日本の歴史について、古代から現代までグローバルな講義で講義をし、演習も取り入れる。 【到達目標】 1　日本の歴史の大きな流れと時代の変化について理解することができる。 2　日本の歴史が、世界の歴史の影響を受けながらあることを理解することができる。 3　地域の歴史を学ぶことで、日本の歴史に関連付けた理解ができる。 4　中学校社会での教授を想定し、基礎的な事項の理解と教材化に向けた視点をもつことができる。
授業概要	日本の通史を扱い、混迷する２１世紀において生きる指針を歴史から学ぶ。既習事項を整理しながら、それぞれの時代の全体像について把握し、差異に着目して将来の教授につながる時間となるよう多様な資料を活用して進めていく。地域の歴史教材（備中松山城と城下町・高梁）を組み入れた授業も行う。ビデオ教材やWeb教材も積極的に活用し、ビジュアルに進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	定期試験７０％、課題・小テスト２０％、授業への積極的態度１０％課題
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、小レポートは授業でフィードバックし、理解の深化・統合に活用する。
履修条件・注意事項	講義の３分の２以上の出席が定期試験を受けるための条件である。真剣な授業への取り組みの姿勢を求める。毎時間配付する資料をファイルし整理できるように。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習としての予習復習（各３０時間程度）が大切です。資料整理も必要です。
オフィスアワー	毎時間講義の後で教室にて実施

授業計画		担当者
第１回	授業の進め方　日本の文化のあけぼの	小林
第２回	律令制度と平城京の時代	小林
第３回	摂関政治と国風文化	小林
第４回	鎌倉幕府の成立と元寇	小林
第５回	室町時代と戦国大名の登場、戦国期の高梁	小林
第６回	幕藩体制の成立と城下町高梁	小林
第７回	開国と幕末の動乱	小林
第８回	明治維新と富国強兵	小林
第９回	立憲国家の成立と日清・日露戦争	小林
第１０回	第一次世界大戦と日本	小林
第１１回	第二次世界大戦と日本	小林
第１２回	太平洋戦争（地域、広島・長崎・沖縄から学ぶ）	小林
第１３回	占領下の日本	小林
第１４回	高度成長の時代	小林
第１５回	激動する世界と日本	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	詳説日本史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	笹山晴生　佐藤信　五味文彦　高埜利彦（ほか１０名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70012-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	東洋史 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-902		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】古代から現代の中国を中心とした東洋の歴史の概要を講義する。 【到達目標】 1　東洋史の大きな流れや他地域との関連など、グローバルに把握することができる。 2　日本の歴史と東洋の歴史の密接な関係について、具体的な事象を通して理解することができる。 3　中学校社会の教授をイメージし、日本史の背景として東洋の歴史について教材化の視点をもつことができる。
授業概要	本講義では、主として中国の古代から現代に至る歴史について講義する．中国史に関する様々な問題をテーマとして取上げながら、全体として通史的な構成する。あわせて、朝鮮半島やインド、イスラム諸国の歴史についても言及。日本との関係や影響についてふれる。ビデオ教材やWeb教材を積極的に活用し、ビジュアルに授業を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験、課題、積極的授業態度を総合的に判断して評価する。定期試験（７０%）、課題（２０%）、積極的授業態度(10%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題にはレポートを含み、授業中にフィードバックし、理解の深化・統合を図るものとする。
履修条件・注意事項	資料を用意するのでファイルを毎時間持参すること。講義の３分の２以上出席することが、定期試験を受ける条件である。課題は必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は。中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	テキストをよく読むとともに、資料の予習復習をしっかり行ってほしい。予習・復習（各30時間）は欠かせない。
オフィスアワー	毎時間授業後、教室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	授業の進め方　インドの古典文明	小林
第２回	中国の古典文明	小林
第３回	北方民族の活動と三国志の世界	小林
第４回	イスラム世界の形成と発展	小林
第５回	モンゴル帝国の成立と元寇	小林
第６回	明代の中国と日本	小林
第７回	清と東アジア諸国	小林
第８回	西アジア地域の変容	小林
第９回	アジア諸地域の動揺	小林
第１０回	アジア諸国の改革と民族運動	小林
第１１回	東アジアの民族運動	小林
第１２回	満州事変と日中戦争	小林
第１３回	中華人民共和国の成立と歩み	小林
第１４回	アジア地域の民族運動と独立	小林

第１５回	第三世界の台頭と現在の世界		小林
第１６回	単位認定試験		小林
教科書			
教・書籍名１	詳説世界史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	木村靖二、岸本美緒、小松久男（ほか５名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70034-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	西洋史 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-903		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】古代ギリシア世界～現代に至る西洋の歴史にグローバルな視点で学ぶ。 【到達目標】 1　西洋の歴史を他の地域や日本との歴史と関係付けて、理解することができる。 2　中学校社会での教授を想定し、日本史の背景として西洋の歴史がどのような影響を与えたのか理解することができる。
授業概要	我が国の歴史の理解や今後の他国との信頼関係構築には、諸外国が歩んできた歴史を踏まえた深い異文化理解が不可欠である。現代の西洋世界を理解するためには、遠い過去から積み重ねられてきた伝統を理解することが必要である。ビデオ教材やWeb教材を積極的に活用し、ビジュアルに授業を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション
評価方法と割合	単位認定試験(７０％)、課題・小テスト（２０％）、積極的授業態度（１０％）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題・小テストについては授業中にフィードバックさせて理解の深化に努める。
履修条件・注意事項	毎時間資料を用意するのでファイルし、教科書とともに持参すること。３分の２以上の出席が単位認定試験参加の条件である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予・復習（各３０時間）と課題への真剣な取り組みの姿勢を期待する。
オフィスアワー	授業終了後教室にて実施。

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　ギリシア世界	小林
第２回	ローマ世界	小林
第３回	西ヨーロッパ中世の変容と文化	小林
第４回	ヨーロッパ世界の拡大	小林
第５回	ルネサンス	小林
第６回	宗教改革	小林
第７回	重商主義と専制政治	小林
第８回	ヨーロッパ諸国の海外進出と日本への影響	小林
第９回	産業革命	小林
第１０回	アメリカ合衆国の成立	小林
第１１回	フランス革命とナポレオン	小林
第１２回	アメリカ合衆国の発展	小林
第１３回	第一次世界大戦と日本	小林
第１４回	世界恐慌と第２次世界大戦	小林
第１５回	冷戦の終結と第三世界の独立	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	詳説世界史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	木村靖二、岸本美緒、小松久男（ほか５名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70034-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地理学概論 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-904		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】地理学の基礎的知識についてグローバルな視点で講義し、理解を深める。 【到達目標】 1　世界の気候について、様々な地域の理解と人々に暮らしについて理解することができる。 2　日本の産業とその変化について、知識と理解を深めることができる。 2　中学校社会地理分野での教授をイメージし、授業づくりに生かす視点をもつことができる。
授業概要	・中学校社会科地理的分野の内容を教授できる系統地理・人文地理の基礎的内容を現代社会の課題に触れながら学習する。 ・中学校・高等学校の既習知識を呼び起こし、現代社会の地理的諸課題について考察する。 ・Web教材やタブレット端末を活用し、探究的な授業を進める。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（７０％）、レポート（１５％）、積極的態度（１５％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートについては授業でフィードバックさせ深化・統合を図る。
履修条件・注意事項	テキストは毎時間持参すること。参考資料・課題を配布するのでノートとともに毎時間記録整理しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習復習に心がけ課題意識をもって授業に参加してほしい。積極的、建設的な意見がもてるよう日々の課題意識が求められる。予習復習には２時間程度は必要です。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　地球をながめて	小林
第２回	世界の様々な生活と環境	小林
第３回	暑い地域の暮らし	小林
第４回	乾燥した地域の暮らし	小林
第５回	温暖な地域の暮らし	小林
第６回	寒い地域の暮らし	小林
第７回	高地の暮らし	小林
第８回	宗教と生活のかかわり	小林
第９回	日本の領域と領土問題	小林
第１０回	環境問題と環境保全	小林
第１１回	世界や日本の資源・エネルギー・電力	小林
第１２回	日本の農業、林業、漁業とその変化	小林
第１３回	日本の工業とその変化	小林
第１４回	日本の商業・サービス業	小林
第１５回	世界の日本の交通・通信網	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	中学校社会科地図	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	金坂清則、荒井良雄、岩本廣美（ほか９名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8071-6588-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地誌学 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】地誌学の概要と日本及び世界の主要地域の地誌を学ぶ。 【到達目標】 1　グローバルな視点により、地理的事象を分析・探求することができる。 2　様々な地域の特徴と諸問題、地域間のつながりについて理解することができる。 3　中学校社会科教員として授業ができる知識・技能を身に付けることができる。
授業概要	・日本や世界の各地方を題材に、自然や人々の暮らしの様子、特徴を地理的に考察する。 ・世界や日本の地理を多面的・多角的に考察し、世界の中の日本の姿をイメージできるように進める。 ・Web教材やタブレット端末を活用し、探究的な学習を取り入れる。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（７０％）、課題提出（１５％）、積極的な授業態度（１５％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題提出については、授業でフィードバックし深化・統合に資する。
履修条件・注意事項	教科書を毎時間持参すること。資料を毎時間配付するのでファイルとノートを準備すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校社会科教員として実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業中に課題を提示するので、Webページで調べたり、自分の考えをまとめるなど、積極的に学習に取り組んでいただきたい。予習復習には２時間程度は必要。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　学習指導要領と社会科地理的分野	小林
第２回	九州地方の自然と人々の生活	小林
第３回	中国四国地方の自然と暮らし	小林
第４回	瀬戸内の産業と観光	小林
第５回	近畿地方の自然と暮らし	小林
第６回	中部地方の自然と暮らし	小林
第７回	関東地方の暮らしと産業	小林
第８回	東北地方の自然と産業	小林
第９回	北海道の自然と産業	小林
第１０回	東アジアの地誌	小林
第１１回	東南アジア・南アジアの地誌	小林
第１２回	ヨーロッパの地誌	小林
第１３回	北アメリカの地誌	小林
第１４回	南アメリカの地誌	小林
第１５回	オセアニアの地誌	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	社会科中学生の地理（令和３年度）世界の姿と日本の国土	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	梅田克樹、漆間浩一、大山修一（ほか15名）	教・ＩＳＢＮ１	4807164783
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	法学 （心理）	担当者	生駒　正文
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	TC-PS-1-906

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義（法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識）を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。
授業概要	本講義では、個人の生活、企業のビジネスで体験する身近な法的問題を取り上げることによって法の生きた現実の機能を学ぶとともに、法的なものの考え方（リーガルマインド）を学習できるようになっています。講義中に配布する簡単なレジュメ・教科書をもとに授業します。 　各講義とも、それに関係する基礎的な知識習得として、「テーマ」を出しますので、各自意見を文章にしてもらいます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート及び平常点３０％、定期試験７０％として総合評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題・小テスト等は後日添削して返却
履修条件・注意事項	新聞記事を毎日読むこと、受講に際して、ノートを取ること、考えることを原則に講義に臨むこと
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員として各案件処理等経験を持つ教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施します
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	12:00～13：２０　14号館6階（生駒研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. 法律の基礎知識	生駒正文
第２回	2. 日本国憲法の構成と基本原理	生駒正文
第３回	3・平和主義・国民主権（三権分立）	生駒正文
第４回	4. 基本的人権	生駒正文
第５回	5. 基本的人権	生駒正文
第６回	６．基本的人権	生駒正文
第７回	7. 家族法の基礎知識（婚姻、内縁）	生駒正文
第８回	８．家族法の基礎知識（親族）	生駒正文
第９回	9. 家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１０回	10. 家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１１回	11. 契約一般の基礎知識（契約上の注意点、無効、取消）	生駒正文
第１２回	12. 契約一般の基礎知識（代理、契約解除に必要な条件）	生駒正文
第１３回	13. 訪問販売・割賦販売の基礎知識（消費者契約法、クレジット）	生駒正文
第１４回	14. 訪問販売・割賦販売の基礎知（特定商取引法）	生駒正文
第１５回	15. 電子取引上の契約とホームページ	生駒正文
第１６回	16. 定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８３４－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	政治学 （心理）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	大学で政治の問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。 この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的な出来事の理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。
授業概要	この講義では、様々な政治現象を分析し説明する。なお、複雑な政治現象の仕組みを理解するためには、政治学の基礎的な概念と考え方、そして理論についての説明は不可避である。講義の主な内容は、政治学の基礎知識を習得しながら、「先進民主主義国・日本の政治と社会」について、様々なトピックを取り上げて説明する。そのため、受講生は、日常の政治社会学的な出来事とその経済的関連について関心を持つことが大切である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	政治とは何か	李　分一
第３回	現代社会と政治	李　分一
第４回	政治の地位と役割	李　分一
第５回	国家論	李　分一
第６回	政治学の行動科学主義的方法	李　分一
第７回	政治学の歴史的接近方法	李　分一
第８回	政治と権力	李　分一
第９回	支配の正当性	李　分一
第１０回	権力の分立	李　分一
第１１回	政治的リーダーシップの意義	李　分一
第１２回	政治的リーダーと大衆	李　分一
第１３回	現代社会と政治的指導力	李　分一
第１４回	政治文化	李　分一

第１５回	政治参加	李　分一	
第１６回	定期試験	李　分一	
教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	宗教学 （心理）			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-926		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ	山本
第２回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教	山本
第３回	文明誕生：メソポタミア	山本
第４回	エジプト文明	山本
第５回	古代ギリシャ文明	山本
第６回	ユダヤ教の成立	山本
第７回	ヘレニズム期の宗教	山本
第８回	キリスト教の成立と展開	山本
第９回	ローマカトリック	山本
第１０回	初期のイスラーム	山本
第１１回	宗教改革とその後	山本
第１２回	日本宗教史：古代・中世・近世	山本
第１３回	現代日本の宗教事情	山本
第１４回	現代世界の宗教事情	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ　（心理）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-914		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、中学校社会科３分野のうち「歴史」分野を学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教師がコメントするだけでなく、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単なる単位取得目的ではなく、自身の将来への強い目的意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高等学校教員として実務経験を持つ教員が、その経験をいかし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。 事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	教材確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について①　その変遷と時代背景	磯
第３回	学習指導要領について②　現行学習指導要領の研究	磯
第４回	授業計画について①　作り方説明のあと作成	磯
第５回	授業計画について②　作成、提出、ディスカッション	磯
第６回	教材研究、教科書単元別指導法研究①　１章、２章	磯
第７回	教材研究、教科書単元別指導法研究②　３章	磯
第８回	教材研究、教科書単元別指導法研究③　４章	磯
第９回	教材研究、教科書単元別指導法研究④　５章	磯
第１０回	教材研究、教科書単元別指導法研究⑤　６章、７章	磯
第１１回	テスト問題作成演習	磯
第１２回	テスト問題についてディスカッション、学習指導案作成演習①	磯
第１３回	学習指導案作成演習②、情報機器活用を考える。	磯

第１４回	学習指導案をめぐるディスカッション。模擬授業準備	磯	
第１５回	模擬授業、授業後ディスカッション	磯	
第１６回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名１	新しい社会　歴史	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	坂上康俊　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-12332-2
教・書籍名２	中学校学指導要領解説　社会編	教・出版社名2	東洋館出版社
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03471-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ　（心理）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、中学校社会科のうち「地理」「公民」について学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について	磯
第３回	地理、公民授業計画書作成①	磯
第４回	地理、公民授業計画書作成②	磯
第５回	教材研究、地理教科書単元指導法研究　第１部	磯
第６回	教材研究、地理教科書単元指導法研究　第２部	磯
第７回	地理　テスト問題作成演習	磯
第８回	学習指導案作成演習：情報機器の利用を考える	磯
第９回	地理　模擬授業　実施後ディスカッション	磯
第１０回	教材研究、公民教科書単元指導法研究　１～３章	磯
第１１回	教材研究、公民教科書単元指導法研究　４～終章	磯
第１２回	公民　テスト問題作成演習	磯
第１３回	学習指導案作成演習：情報機器の利用を考える	磯
第１４回	公民　模擬授業　実施後ディスカッション	磯

第１５回	１年間の総括（様々な取り組みに対する反省、意見交換） 自分自身の将来に向けての展望を提出	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	社会科　中学生の地理	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	谷内　達　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8071-6478-3
教・書籍名２	新しい社会　公民	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	坂上康俊　他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-12333-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学指導要領解説　社会編	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03471-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ（心理）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-916		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる高校生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「公共」について学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について①　変遷と時代背景	磯
第３回	学習指導要領について②　公民科の変遷、「公共」という科目について	磯
第４回	「公共」教科書分析（「現代社会」との比較）	磯
第５回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究①	磯
第６回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究②	磯
第７回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究③	磯
第８回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究④	磯
第９回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究⑤	磯
第１０回	「公共」テスト問題作成演習	磯
第１１回	「公共」テスト問題ディスカッション（提出されたテスト問題について意見交換）	磯
第１２回	学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第１３回	学習指導案ディスカッション（提出されたテスト問題について意見交換）	磯
第１４回	模擬授業準備	磯

第１５回	模擬授業、実施後意見交換	磯	
第１６回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名１	公共	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	間宮陽介　他	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	高等学校学習指導要領解説　公民編	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-28633-1
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ　（心理）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	TC-PS-3-917

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる高校生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「倫理」、「政治経済」を学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について	磯
第３回	「倫理」授業計画書作成	磯
第４回	教材研究、「倫理」教科書単元指導法研究①　１～３章	磯
第５回	教材研究、「倫理」教科書単元指導法研究②　４～５章	磯
第６回	「倫理」テスト問題作成演習	磯
第７回	テスト問題ディスカッション、学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第８回	学習指導案作成、提出、ディスカッション	磯
第９回	「政治経済」授業計画書作成	磯
第１０回	教材研究、「政治経済」教科書単元指導法研究①　１編、３編の一部	磯
第１１回	教材研究、「政治経済」教科書単元指導法研究②　２編、３編の一部公民	磯
第１２回	「政治経済」テスト問題作成演習	磯
第１３回	「政治経済」テスト問題ディスカッション、学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第１４回	学習指導案ディスカッション、模擬授業準備	磯

第１５回	「倫理」あるいは「政治経済」模擬授業、実施後意見交換		磯
第１６回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名１	倫理	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	竹内整一　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-16523-0
教・書籍名２	最新政治経済　新訂版	教・出版社名2	実教出版
教・著者名2	伊東光晴　他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-407-20402-5
参考書			
参・書籍名１	高等学校学習指導要領解説　公民編	参・出版社名１	東京書籍
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-487-28633-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	介護等体験の研究 （心理）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-926		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義してをいただく。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）と毎回課されるレポート（６０％）により評価する。レポートは内容確認後返却する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。 教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。 講義予定回数は８回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。
事前学習・事後学習とその時間	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間） 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間） 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	介護等体験の意義・目的（第１部１～３章）	
第２回	介護等体験の実際（第２部２章，３章）	
第３回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）	
第４回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）	
第５回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）	
第６回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）	
第７回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）	
第８回	まとめ・試験（第１部４章）	
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック　五訂版	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	現代教師養成研究会（編）	教・ＩＳＢＮ１	9.78447E+12
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職論 （心理）			担当者	池上　真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。
授業概要	教師，教職，人を教え育てるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	10号館１階非常勤講師室にて、毎週月曜日２限及び昼休みに行う。

	授業計画	担当者
第１回	教師の歴史と教師論	池上
第２回	求められる教員の資質の変遷	池上
第３回	教育的諸問題と教職の課題	池上
第４回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）	池上
第５回	教員の仕事と役割②（教科指導）	池上
第６回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上

第７回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上
第８回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上
第９回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上
第１０回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上
第１１回	教員の研修	池上
第１２回	服務規程	池上
第１３回	小中学校の教員	池上
第１４回	高等学校・特別支援学校の教員	池上
第１５回	教員養成と教職課程	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	教職論　教師を志すすべての人へ　第2版	教・出版社名１	
教・著者名１	教職問題研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05305-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職論 （心理）			担当者	池上　真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。
授業概要	教師，教職，人を教え育てるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	10号館１階非常勤講師室にて、毎週月曜日２限及び昼休みに行う。

	授業計画	担当者
第１回	教師の歴史と教師論	池上
第２回	求められる教員の資質の変遷	池上
第３回	教育的諸問題と教職の課題	池上
第４回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）	池上
第５回	教員の仕事と役割②（教科指導）	池上
第６回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上

第７回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上
第８回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上
第９回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上
第１０回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上
第１１回	教員の研修	池上
第１２回	服務規程	池上
第１３回	小中学校の教員	池上
第１４回	高等学校・特別支援学校の教員	池上
第１５回	教員養成と教職課程	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	教職論　教師を志すすべての人へ　第2版	教・出版社名１	
教・著者名１	教職問題研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05305-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育原論 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-909		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 １．教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる ２．代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する ３．近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する ４．家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する ５．上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく６つの段階に分けて展開する。１・２回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）

授業計画	担当者

第１回	教育の基礎概念	倉知典弘
第２回	教育の源形態－家庭・共同 体による教育	倉知典弘
第３回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘
第４回	第４回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘
第５回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘
第６回	第６回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘
第７回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘
第８回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘
第９回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘
第１０回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘
第１１回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘
第１２回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘
第１３回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘
第１４回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘
第１５回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	今井康雄編	教・ＩＳＢＮ１	978-4641123847
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育の歴史と思想	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	石村華代・軽部勝一郎編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065844
参・書籍名２	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ＩＳＢＮ2	978-4861633171

授業科目名	教育原論 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-909		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 １．学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる ２．学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる ３．学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる ４．学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる ５．学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく６つの段階に分けて展開する。１・２回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）

授業計画	担当者

第１回	教育の基礎概念		倉知典弘
第２回	教育の源形態－家庭・共同体による教育		倉知典弘
第３回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想		倉知典弘
第４回	第４回：古代の教育思想（2）日本の教育思想		倉知典弘
第５回	中世の教育思想（1）宗教と教育		倉知典弘
第６回	第６回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育		倉知典弘
第７回	近代の教育思想（1）産業革命と教育		倉知典弘
第８回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立		倉知典弘
第９回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開		倉知典弘
第１０回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相		倉知典弘
第１１回	現代の教育思想（2）戦争と教育		倉知典弘
第１２回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育		倉知典弘
第１３回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育		倉知典弘
第１４回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育		倉知典弘
第１５回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて		倉知典弘
第１６回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名１	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	今井康雄編	教・ＩＳＢＮ１	978-4641123847
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教育の歴史と思想	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	石村華代・軽部勝一郎編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065844
参・書籍名２	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ＩＳＢＮ2	978-4861633171

授業科目名	教育心理学 （心理）			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-910		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	１．教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ ２．児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける ３．児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける
授業概要	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。 まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的に実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教育心理学とは	藤原直子
第２回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達	藤原直子
第３回	心身の発達②：児童期	藤原直子
第４回	心身の発達③：青年期以降	藤原直子
第５回	学習と知識獲得	藤原直子
第６回	認知的情報処理と記憶	藤原直子
第７回	動機づけと学習	藤原直子
第８回	認知発達と学習支援	藤原直子
第９回	学級集団と学習支援	藤原直子
第１０回	個性や個人差と学習支援	藤原直子
第１１回	教育評価	藤原直子
第１２回	障害の基本的理解と学校教育における配慮	藤原直子
第１３回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子

第１４回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援		藤原直子
第１５回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学		藤原直子
第１６回	試験		藤原直子
教科書			
教・書籍名１	よくわかる教職エクササイズ②　教育心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	森田健宏・田爪宏二	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08177-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別支援教育 （心理）後半8回			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-911		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。 さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。
授業概要	特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための具体的な方法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育現場における障害児者に対する心理的支援の実務経験（幼稚園・小学校での教員、小中高等学校でのスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回相談）がある教員が担当し、教育現場における現状や課題、教員として必要とされる特別支援に関する知識や支援方法について教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 ②授業内で実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 ③授業内で配布するプリントの空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

	授業計画	担当者
第１回	特別支援教育の制度と理念、学校における支援体制及び連携	藤原直子
第２回	特別支援教育の実際、指導計画の作成	藤原直子
第３回	発達障害児の心身の発達・心理的特性	藤原直子
第４回	自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒への理解と支援	藤原直子
第５回	注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒への理解と支援	藤原直子
第６回	限局性学習症（LD）の児童生徒への理解と支援	藤原直子
第７回	様々な障害のある児童生徒の特性と支援、まとめ	藤原直子
第８回	試験	藤原直子
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		

第１５回			
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト	教・出版社名１	学研教育みらい
教・著者名１	小林倫代（編・著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-05-801762-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育行政学 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 １．学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる ２．学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる ３．学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる ４．学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる ５．学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる ６．学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第１回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第２回～第７回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第８回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に着けてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として1）講義に取り上げる予定の法令調べ　2）講義にかかわる事項の調べ　3）テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1）講義のキーワードのまとめ　2）論述課題　3）講義の振り返りを課す（2時間程度）
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）にて

授業計画		担当者
第１回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について	倉知典弘
第２回	教育の法制の概要：教育の法律主義について	倉知典弘
第３回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス	倉知典弘
第４回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立	倉知典弘
第５回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から	倉知典弘
第６回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習	倉知典弘
第７回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に	倉知典弘
第８回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に	倉知典弘
第９回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル	倉知典弘
第１０回	学校における教育活動：教育課程	倉知典弘
第１１回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応	倉知典弘
第１２回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携	倉知典弘
第１３回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健	倉知典弘
第１４回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応	倉知典弘
第１５回	現代教育改革と教育行政・学校経営	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	教育行政学　第３版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名１	八千代出版
教・著者名１	横井敏郎編	教・ＩＳＢＮ１	9784842917849
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育小六法	参・出版社名１	学陽書房
参・著者名１	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ＩＳＢＮ１	978-4313011953
参・書籍名２	中学校学習指導要領（最新版）　高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育行政学 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 １．学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる ２．学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる ３．学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる ４．学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる ５．学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる ６．学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第１回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第２回～第７回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第８回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に着けてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として1）講義に取り上げる予定の法令調べ　2）講義にかかわる事項の調べ　3）テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1）講義のキーワードのまとめ　2）論述課題　3）講義の振り返りを課す（2時間程度）
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）にて

授業計画		担当者
第１回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について	倉知典弘
第２回	教育の法制の概要：教育の法律主義について	倉知典弘
第３回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス	倉知典弘
第４回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立	倉知典弘
第５回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から	倉知典弘
第６回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習	倉知典弘
第７回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に	倉知典弘
第８回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に	倉知典弘
第９回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル	倉知典弘
第１０回	学校における教育活動：教育課程	倉知典弘
第１１回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応	倉知典弘
第１２回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携	倉知典弘
第１３回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健	倉知典弘
第１４回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応	倉知典弘
第１５回	現代教育改革と教育行政・学校経営	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	教育行政学　第３版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名１	八千代出版
教・著者名１	横井敏郎編	教・ＩＳＢＮ１	9784842917849
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育小六法	参・出版社名１	学陽書房
参・著者名１	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ＩＳＢＮ１	978-4313011953
参・書籍名２	中学校学習指導要領（最新版）　高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育課程論 （心理）前半8回	担当者	池上　真由美
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-913

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義・AL

年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し，学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する，また，編成した教育課程を実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルについて理解することを目標とする。
授業概要	教育課程とは何か，教育課程の変遷，教育課程の法体系と学習指導要領，新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また，編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを，実践例を通して学び，演習やグループワーク等を行うことで，カリキュラム・マネジメント力を養う。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日２時限目

	授業計画	担当者
第１回	教育課程とは何か	池上
第２回	教育の目的と教育課程の編成	池上
	現代日本の教育課程の変遷	

第３回		池上
第４回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第５回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第６回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第７回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第８回	筆記試験	池上
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	広岡義之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-07559-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	TC-PS-3-918

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

	授業計画	担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学修指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上
第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例	川上

第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ	川上	
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上	
教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一　藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 （心理）			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-918		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

	授業計画	担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学修指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上
第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例	川上

第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ	川上	
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上	
教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一　藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-919

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義　演習　AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	【テーマ】特別活動，総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し，実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 １．特別活動・総合的な学習の時間の意義，目標，教育課程上の位置づけ，内容を理解する。 ２．特別活動の内容の種類と関連性を理解し，学級活動の年間計画，学習指導案を作成することができる。 ３．総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し，その強みと探求の過程について説明することができる。 ４．特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら，下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標，教育課程上の位置づけ，学級活動，クラブ活動，生徒会活動等の内容については，事前にプリントで予習しておく。そして，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については，実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標，教育課程上の位置づけ，特徴については，予習プリントで事前に学修しておき，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ⑤全体計画，年間計画，単元計画，思考ツール等は作成，活用することを通して，学修する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート，小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画，年間計画，学習指導案はコメントを付けて説明する。
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。
実務経験のある教員	該当する　内容　小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをする。 復習　2時間　学習したことの要点をまとめる。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館 個人研究室 10309）

授業計画		担当者
第１回	授業予定　特別活動の目標　特質	川上
第２回	特別活動の内容（学級活動　学校行事　生徒会活動）と全体計画	川上
第３回	学級活動の目標，内容，年間計画	川上
第４回	学級活動の年間計画作成（演習）	川上
第５回	学校行事、生徒会活動の目標，内容，具体的活動	川上
第６回	学級活動の指導案の書き方　指導案作成	川上
第７回	模擬授業　　代表グループ①②	川上
第８回	学級活動とSEL	川上/GT（中学校教諭）
第９回	総合的な学習の時間の意義，目標	川上

第１０回	総合的な学習の時間の歴史　教育課程上の位置づけ	川上
第１１回	総合的な学習の時間　全体計画　単元計画	川上
第１２回	単元計画の考え方　作成の仕方	川上
第１３回	作成した単元計画の発表　（グループ内で情報交換）	川上
第１４回	思考ツールと活用例（演習）	川上
第１５回	総合的な学習の時間の評価	川上
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上

教科書			
教・書籍名１	新しい教職教育講座９　特別活動	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	中村　豊/ 原　清治	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08192-9
教・書籍名２	新しい教職教育講座８　総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹　/　篠原正典	教・ＩＳＢＮ2	978-4-623-08191-2
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領　解説　総合的な学習の時間	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8278-1561- 0
参・書籍名２	中学校学習指導要領　解説　特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	東山書房

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-919

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義　演習　AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	【テーマ】特別活動，総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し，実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 １．特別活動・総合的な学習の時間の意義，目標，教育課程上の位置づけ，内容を理解する。 ２．特別活動の内容の種類と関連性を理解し，学級活動の年間計画，学習指導案を作成することができる。 ３．総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し，その強みと探求の過程について説明することができる。 ４．特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら，下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標，教育課程上の位置づけ，学級活動，クラブ活動，生徒会活動等の内容については，事前にプリントで予習しておく。そして，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については，実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標，教育課程上の位置づけ，特徴については，予習プリントで事前に学修しておき，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ④全体計画，年間計画，単元計画，思考ツール等は作成，活用することを通して，学修する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート，小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画，年間計画，学習指導案はコメントを付けて説明する。
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをする。 復習　2時間　学習したことの要点をまとめる。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館 個人研究室 10309）

授業計画		担当者
第１回	授業予定　特別活動の目標　特質	川上
第２回	特別活動の内容（学級活動　学校行事　生徒会活動）と全体計画	川上
第３回	学級活動の目標，内容，年間計画	川上
第４回	学級活動の年間計画作成（演習）	川上
第５回	学校行事、生徒会活動の目標，内容，具体的活動	川上
第６回	学級活動の指導案の書き方　指導案作成	川上
第７回	模擬授業　　代表グループ①②	川上
第８回	学級活動とSEL	川上/GT（中学校教諭）
第９回	総合的な学習の時間の意義，目標	川上

第１０回	総合的な学習の時間の歴史　教育課程上の位置づけ	川上
第１１回	総合的な学習の時間　全体計画　単元計画	川上
第１２回	単元計画の考え方　作成の仕方	川上
第１３回	作成した単元計画の発表　（グループ内で情報交換）	川上
第１４回	思考ツールと活用例（演習）	川上
第１５回	総合的な学習の時間の評価	川上
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上

教科書			
教・書籍名１	新しい教職教育講座９　特別活動	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	中村　豊/ 原　清治	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08192-9
教・書籍名２	新しい教職教育講座８　総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹　/　篠原正典	教・ＩＳＢＮ2	978-4-623-08191-2
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領　解説　総合的な学習の時間	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8278-1561- 0
参・書籍名２	中学校学習指導要領　解説　特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	東山書房

授業科目名	生徒・進路指導論			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-921		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井
第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井

第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）		藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）		藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）		藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）		藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）		藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）		藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）		藤井
第１２回	キャリア教育とは何か		藤井
第１３回	中学校におけるキャリア教育推進のために		藤井
第１４回	中学校におけるキャリア教育の実践		藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性		藤井
第１６回	試験		藤井
教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30026-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生徒・進路指導論			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-921		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井
第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井

第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）		藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）		藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）		藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）		藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）		藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）		藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）		藤井
第１２回	キャリア教育とは何か		藤井
第１３回	中学校におけるキャリア教育推進のために		藤井
第１４回	中学校におけるキャリア教育の実践		藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性		藤井
第１６回	試験		藤井
教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30026-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎 （心理）	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-922

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。自己学修2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	児童生徒の発達の多様性	津川秀夫
第３回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害	津川秀夫
第４回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症	津川秀夫
第５回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症	津川秀夫
第６回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症	津川秀夫
第７回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性	津川秀夫
第８回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去	津川秀夫
第９回	問題行動の見立てと介入：行動の機能	津川秀夫
第１０回	問題行動の見立てと介入：不登校	津川秀夫
第１１回	知能検査：種類と活用法	津川秀夫
第１２回	知能検査：検査の実際	津川秀夫
第１３回	ポジティブ行動の促進：事例	津川秀夫
第１４回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張―形成理論	津川秀夫

第１５回	ポジティブ行動の促進：PBIS		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	メリットの法則	教・出版社名１	集英社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	よくわかる教育相談	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎（心理）			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-922		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。自己学修2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	児童生徒の発達の多様性	津川秀夫
第３回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害	津川秀夫
第４回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症	津川秀夫
第５回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症	津川秀夫
第６回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症	津川秀夫
第７回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性	津川秀夫
第８回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去	津川秀夫
第９回	問題行動の見立てと介入：行動の機能	津川秀夫
第１０回	問題行動の見立てと介入：不登校	津川秀夫
第１１回	知能検査：種類と活用法	津川秀夫
第１２回	知能検査：検査の実際	津川秀夫
第１３回	ポジティブ行動の促進：事例	津川秀夫
第１４回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張―形成理論	津川秀夫

第１５回	ポジティブ行動の促進：PBIS		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	メリットの法則	教・出版社名１	集英社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	よくわかる教育相談	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習指導 （心理）			担当者	倉知　典弘、森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-923		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、４年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）、およびレポート（６０％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの１５回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教育実習に向けて－教師の適性	森井・倉知
第３回	教師への道（高等学校）（外部）	森井・外部講師
第４回	教師への道（中学校）（外部）	森井・外部講師
第５回	授業改革（外部）	森井・外部講師
第６回	実習生の授業を見る１	森井・倉知
第７回	指導案の作成と授業の展開（1）　基本的考え方（外部）	森井・外部講師
第８回	指導案の作成と授業の展開（2）　教材研究と授業の展開（外部）	森井・外部講師

第９回	授業実践（外部）	森井・外部講師
第１０回	実習生の授業を見る２	森井・倉知
第１１回	模擬授業（１）	森井・倉知
第１２回	模擬授業（２）	森井・倉知
第１３回	模擬授業（３）	森井・倉知
第１４回	模擬授業（４）	森井・倉知
第１５回	模擬授業（５）・まとめ	森井・倉知
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習 （心理）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	TC-PS-4-924		
必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、４年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）、およびレポート（６０％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの１５回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教育実習に向けて－教師の適性	森井・倉知
第３回	教師への道（高等学校）（外部）	森井・外部講師
第４回	教師への道（中学校）（外部）	森井・外部講師
第５回	授業改革（外部）	森井・外部講師
第６回	実習生の授業を見る１	森井・倉知
第７回	指導案の作成と授業の展開（1）　基本的考え方（外部）	森井・外部講師
第８回	指導案の作成と授業の展開（2）　教材研究と授業の展開（外部）	森井・外部講師

第９回	授業実践（外部）	森井・外部講師
第１０回	実習生の授業を見る２	森井・倉知
第１１回	模擬授業（１）	森井・倉知
第１２回	模擬授業（２）	森井・倉知
第１３回	模擬授業（３）	森井・倉知
第１４回	模擬授業（４）	森井・倉知
第１５回	模擬授業（５）・まとめ	森井・倉知
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職実践演習(中・高)　(心理)			担当者	倉知　典弘、森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	TC-PS-4-925		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ，教師として必要な知識，技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。
授業概要	以下の3点を中心に，学校や教育委員会の先生方の協力のもと，講義，討議，ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。 １．教育実習を振り返り，総括するとともに，教師として必要な資質能力，自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 ２．クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 ３．教科の指導に必要な知識・技能などを見直し，力量向上のための取り組みを検討する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	評価は受講態度（討議などへの参加状況など；30%）と課題レポート・模擬授業（70%）の評価による。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、内容確認後、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり，将来，教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。 教職カルテを持参すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この授業では半数の回で、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。 4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。 課題レポート等の作成（４時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。
オフィスアワー	月曜４限、10号館4階、森井研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教材研究１	森井・外部講師
第３回	教師の服務と学校現場の課題	森井・外部講師
第４回	学校の安全管理	森井・外部講師
第５回	教材研究２（実践）	森井・外部講師
第６回	国際バカロレア教育	森井・外部講師
第７回	いじめ・不登校への取り組み	森井・学内講師
第８回	特別支援教育の現状と実際	森井・外部講師
第９回	道徳教科化の問題	森井・学内講師
第１０回	模擬授業と授業研究１	森井・倉知
第１１回	模擬授業と授業研究２	森井・倉知

第１２回	模擬授業と授業研究3		森井・倉知
第１３回	模擬授業と授業研究4		森井・倉知
第１４回	模擬授業と授業研究5		森井・倉知
第１５回	自己分析・まとめ		森井・倉知
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ	担当者	津川　秀夫、土居　正人、橋本　翠、若森　孝彰
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-401

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】地域についての学びを通して、大学における授業や試験に関する学び方を習得するとともに、学科内の良好な人間関係を形成することを目的とする。 【到達目標】基礎演習Ⅰでは、まず大学生活に溶け込み、今後の学習を円滑に進めていくための支援として、様々な体験活動を通して、仲間・人間関係の構築を目指す。到達目標は、学内の人間関係を築き、安定した学生生活を過ごせるようになることである。
授業概要	「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、1年次向けの導入教育として開講し、大学における学修で必要となる環境作りと基礎的な学習スキルを身につけることを目指す。 最初に、教員の紹介や簡単な大学生活に関するオリエンテーション等を行い、大学での学び方についての基本的な態度・スキルについて紹介する。その後、履修生は、クラス別に、あるいは全クラス合同で、体験的学習をもとに、人間関係づくりを進めていく。教室外での活動も多く、体を動かすことが重要な演習といえる。 チューター別の時間では、大学生活や授業履修（単位習得）について情報交換したり、教員が相談に応じたりする。少人数での会話や関わりを通して、自己表現や自己開示のスキルも身につけていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	学科行事および親睦イベントへの積極的な参加意欲・態度を重視する。各行事や演習の中で（あるいは事後に）提出するミニレポートや振り返りシートも評価の対象とする。学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	各授業で出される課題に対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	心理学科1年生の必修科目である。基礎演習Ⅰの各クラス合同（1年生全員）で実施する回と、各クラス個別に行う回があるので注意すること。また、合同実施の場合を中心に、授業時間外に、時間を変更しても行うこともあるので、担当者からの指示・連絡にはくれぐれも注意すること。チューター別実施の場合は、演習後、ミニレポート等の提出が求められる。レポートを基にフィードバックを行う。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	体験・参加型演習のために、事前指導に基づいて情報収集等の課題を行う必要がある。日々の活動の中で、より豊かな人間関係のネットワークを形成するように、意識的に取り組むことが重要である。事前事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて「何でも相談時間」に対応する。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	全教員
第２回	2. コロナ禍における大学生活	全教員
第３回	3. マナー講座（メールのマナー）	全教員
第４回	4. 図書館活動と電子書籍の使い方	全教員
第５回	5. 学内案内	全教員
第６回	6. 防災講座	全教員
第７回	7. マナー講座（レポートの書き方）	全教員
第８回	8. 公認心理師について	全教員
第９回	9. 大学部署の案内	全教員

第１０回	10. マナー講座（挨拶の仕方等）	全教員
第１１回	11. マナー講座（メール実践編）	全教員
第１２回	12. 前期試験対策（在学生から聞こう）	全教員
第１３回	13. 心理学を学んだその先は？（進路選択について）	全教員
第１４回	14. 総括	全教員
第１５回	15. レポート試験	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行います。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ	担当者	津川　秀夫、土居　正人、橋本　翠、若森　孝彰
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年	ナンバリング	PS-PS-1-402

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】大学における学び方の習得と学科内の良好な人間関係を形成すること。 【到達目標】基礎演習Ⅱでは、大学・学科への所属意識を高め、人間関係を豊かにするとともに、学修基礎力を涵養することを目指す。到達目標は、吉備国際大学生としてのアイデンティティの形成と仲間づくり、大学における居場所づくりの進展、そして、情報を収集・整理し、それをわかりやすく発表できることである。
授業概要	「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、1年次向けの導入教育として開講し、大学における学修に必要な環境づくりと基礎的な学習スキルを身につけることを目指す。オリエンテーションの後、大学での学び方についての基本的な態度・スキルについて紹介する。その後、クラス別に、あるいは全クラス合同で、スポーツなどのイベントの企画・運営・実施などについて体験的に学習することで、一層の人間関係づくりを進めていく。教室外での活動も多く、体を動かすことが重要である。 チューター別の時間では、大学生活や授業履修（単位習得）について情報交換したり、教員が相談に応じたりする。少人数での会話や関わりを通して、自己表現や自己開示のスキルも身につけていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	学科行事および体験活動への積極的な参加意欲・態度を重視する。各行事や演習の中で（あるいは事後に）提出するミニレポートや振り返りシートも評価の対象とする。学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の中で課題を出し、その課題に対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	心理学科1年生の必修科目である。各クラス合同（1年生全員）で実施する回と、各クラス個別に行う回があるので注意すること。また、合同実施の場合を中心に、授業時間外に、時間を変更しても行うこともあるので、担当者からの指示・連絡にはくれぐれも注意すること。個別実施の場合は、演習後、ミニレポート等の提出が求められる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	体験・参加型演習のために、事前指導に基づいて情報収集等の課題を行う必要がある。演習の準備のため、約2時間（あるいは毎日約15分）の予習、復習等のワークが必要である。日々の活動の中で、より豊かな人間関係のネットワークを形成するように、意識的に取り組むことが重要である。
オフィスアワー	担当教員が各研究室にて「なんでも相談時間」に対応する。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーションと履修指導、調べ学習について	全教員
第２回	2. 調べ学習課題提示	全教員
第３回	3. 調べ学習：図書館での調べ学習	全教員
第４回	4. 調べ学習：小グループで発表	全教員
第５回	5. 郊外学習：事前学習	全教員
第６回	6. 郊外学習：実施	全教員
第７回	7. 調べ学習：スライド作成	全教員
第８回	8. 調べ学習：経過報告	全教員

第９回	9. 調べ学習：発表練習		全教員
第１０回	10. 心理学検定について		全教員
第１１回	11. 調べ学習：発表資料提出		全教員
第１２回	12. 調べ学習：発表前半組		全教員
第１３回	13. 調べ学習：発表後半組		全教員
第１４回	14. 総括		全教員
第１５回	15. レポート試験		全教員
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行います。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅲ			担当者	藤原　直子、村上　勝典、森井　康幸、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学の学び方、研究のしかたに触れながら、3年次からの心理学演習Ⅰ・Ⅱに向けた基礎的力を身につける。そのために、まずは心理学検定の勉強を行いながら基礎知識を積み上げていく。また、心理学の研究を進めていくにあたり、大学の教育資源の理解と活用の仕方について理解する。さらに，大学での学びが充実感をもって円滑に進んでいくために、学科内の人間関係を良好なものへ築いていく。
授業概要	心理学基礎演習Ⅲは、次年度の心理学演習Ⅰにつながる準備教育を行う。 準備教育は３つに大別される。ひとつは、心理学演習のための基礎知識を培うため、心理学検定に向けての取り組みを開始する。心理学検定2級の取得を目指した対策講座を開講し、知識の定着を図る。２つめは、心理学演習における心理学研究のデモを行う。パソコンを用いた検索エンジンの使い方、図書館における文献収集の実際などを取り入れる。３つめは、大学での学びが円滑に進んでいくための交流イベントを取り入れる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	ミニレポートのフィードバックは、授業時間内に行う。
履修条件・注意事項	同一内容が継続するわけでなない。必ず次回についての指示を確認すること。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前指導に基づき、主体的に情報収集等の課題を行う必要がある。課題には、最低でも4時間以上をあてること。体験・参加型演習の場合は、さらなる仲間・人間関係の構築に向け、コミュニケーションを積極的に取り、役割意識を持って行動することが重要である。
オフィスアワー	森井：月曜4限　藤原：月曜4限　宇都宮：火曜4限　村上：木曜3限　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	担当教員全員
第２回	松山城登山	担当教員全員
第３回	パンフレット作成	担当教員全員
第４回	パンフレット発表	担当教員全員
第５回	調べ学習A：課題提示	担当教員全員
第６回	調べ学習A：本のまとめ方	担当教員全員
第７回	調べ学習A：中間指導	担当教員全員
第８回	調べ学習A：発表（前半）	担当教員全員
第９回	調べ学習A：発表（後半）	担当教員全員
第１０回	調べ学習B：課題提示	担当教員全員
第１１回	調べ学習B：個別作業	担当教員全員

第１２回	調べ学習B：中間指導	担当教員全員	
第１３回	調べ学習B：発表（前半）	担当教員全員	
第１４回	調べ学習B：発表（後半）	担当教員全員	
第１５回	まとめ	担当教員全員	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学検定 一問一答問題集[A領域編]	参・出版社名１	実務教育出版
参・著者名１	日本心理学諸学会連合 心理学検定局（編集）	参・ＩＳＢＮ１	978-4788961012
参・書籍名２	心理学検定 一問一答問題集[B領域編]	参・出版社名2	実務教育出版
参・著者名2	日本心理学諸学会連合 心理学検定局	参・ＩＳＢＮ2	978-4788961029

授業科目名	基礎演習Ⅳ			担当者	藤原　直子、村上　勝典、森井　康幸、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学の学び方、研究のしかたに触れながら、3年次からの演習Ⅰ・Ⅱに向けた基礎的力を身につける。そのために、まずは心理学検定の勉強を行いながら基礎知識を積み上げていく。また、心理学の研究を進めていくにあたり、大学の教育資源の理解と活用の仕方について理解する。さらに，大学での学びが充実感をもって円滑に進んでいくために、学科内の人間関係を良好なものへ築いていく。
授業概要	基礎演習Ⅳは、次年度の演習Ⅰにつながる準備教育を行う。 準備教育は３つに大別される。ひとつは、演習のための基礎知識を培うため、心理学検定に向けての取り組みを開始する。心理学検定2級の取得を目指した対策講座を開講し、知識の定着を図る。２つめは、心理学演習における心理学研究のデモを行う。パソコンを用いた検索エンジンの使い方、図書館における文献収集の実際などを取り入れる。３つめは、大学での学びが円滑に進んでいくための交流イベントを取り入れる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。ミニレポートのフィードバックは、授業時間内に行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	ミニレポートのフィードバックは、授業時間内に行う。
履修条件・注意事項	同一内容が継続するわけでなない。必ず次回についての指示を確認すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前指導に基づき、主体的に情報収集等の課題を行う必要がある。課題には、最低でも4時間以上をあてること。体験・参加型演習の場合は、さらなる仲間・人間関係の構築に向け、コミュニケーションを積極的に取り、役割意識を持って行動することが重要である。
オフィスアワー	森井：月曜4限　藤原：月曜4限　宇都宮：火曜4限　村上：木曜3限　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	担当教員全員
第２回	頼久寺見学	担当教員全員
第３回	頼久寺見学：事後学習	担当教員全員
第４回	頼久寺見学：発表	担当教員全員
第５回	調べ学習：尺度選択	担当教員全員
第６回	調べ学習：質問紙作成	担当教員全員
第７回	調べ学習：質問紙完成	担当教員全員
第８回	調べ学習：データ入力	担当教員全員
第９回	調べ学習：中間指導	担当教員全員
第１０回	調べ学習：レポート作成	担当教員全員
第１１回	調べ学習：スライド作成	担当教員全員
第１２回	調べ学習：発表練習	担当教員全員
第１３回	調べ学習：発表（前半）	担当教員全員
第１４回	調べ学習：発表（後半）	担当教員全員
第１５回	まとめ	担当教員全員

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学検定一問一答問題集【A領域編】	参・出版社名１	実務教育出版
参・著者名１	日本心理学諸学会連合　心理学検定局	参・ＩＳＢＮ１	978-4788961012
参・書籍名２	心理学検定一問一答問題集【B領域編】	参・出版社名2	実務教育出版
参・著者名2	日本心理学諸学会連合　心理学検定局	参・ＩＳＢＮ2	978-4788961029

授業科目名	演習Ｉ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成にむけて，研究テーマを設定する 到達目標： １．先行研究について情報収集し，何がどこまで明らかにされているか把握できる ２．研究テーマが設定できる
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているかを把握する。春学期の終わりまでに研究テーマを設定することを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	7回以上の発表を行ったものに対して単位を与える。発表内容（８０％）と討議への参加態度（２０％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	卒業論文の作成に向けて主体的、計画的に動くことを期待する
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	研究テーマに直接・間接的に関連する文献を大量に読み進めておくこと。１日１時間以上は自己学修の時間を確保してほしい。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーションおよび研究倫理	津川秀夫
第２回	文献収集の仕方	津川秀夫
第３回	データベース	津川秀夫
第４回	発表論文集	津川秀夫
第５回	学術雑誌・紀要	津川秀夫
第６回	先行研究の概観	津川秀夫
第７回	表の書き方	津川秀夫
第８回	先行研究の検討	津川秀夫
第９回	図の書き方	津川秀夫
第１０回	先行研究の批判的検討	津川秀夫
第１１回	相関分析	津川秀夫
第１２回	テーマの検討	津川秀夫
第１３回	ｔ検定	津川秀夫
第１４回	テーマの再検討	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	ポジティブなこころの科学	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	堀毛一也	教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第２版	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	平井明代	教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	認知行動療法とブリーフセラピーの接点	参・出版社名１	日本評論社
参・著者名１	津川秀夫・大野裕史	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する―認知心理学的手法を用いて―」をテーマとして心理学研究の基礎を学び、様々な実験手続きを理解し、自らの問題事象について実験的に解明するための計画を立案できるようになることを到達目標とする。
授業概要	認知心理学の実験的研究についての文献購読・発表を中心に研究方法について理解することを目的とする。特に，実験方法についての理解を重視する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み　発表：５０％、ディスカッションへの参加など：３０％ 最終レポート：２０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	欠席の場合も無断で休むと評価対象から外れるので注意すること。 合宿等の学外活動にも積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキストしっかり読んでおくこと。 　　不明箇所は、調べておくこと。（2時間以上） 復習：復習をかねた課題を行うこと。（2時間以上）
オフィスアワー	月曜日4限、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　＆　研究倫理について	森井
第２回	記憶の基礎	森井
第３回	記憶のモデル	森井
第４回	忘却と抑制	森井
第５回	日常記憶	森井
第６回	知識の成り立ち	
第７回	メタ認知	
第８回	問題解決と推論	森井
第９回	認知バイアス	森井
第１０回	判断と意思決定	森井
第１１回	潜在認知	森井
第１２回	文脈効果	森井
第１３回	学生テーマ発表（１）	森井
第１４回	学生テーマ発表（２）	森井
第１５回	今後に向けて	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	認知心理学	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	箱田・都築・川畑・萩原	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-05374-8
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 心理学論文を読み解く。 【到達目標】 心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒業論文作成に必要な研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて論文に対するディスカッションを行うことで批判的思考、議論する力を強化する。
授業概要	本演習では日本や海外の代表的な心理学研究雑誌からいくつかの論文を抜粋し、輪読形式で読み進めることで論文の内容を読み解く。心理学研究論文は、問題と目的、研究方法、研究結果、考察、引用論文から構成されている。これら各章をディスカッションを重ねながら輪読することで記述スタイル、記述された意味を理解すると同時に論文に対する批判的思考、発展的思考を身につけ、学生自身の論文構成能力を高めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	論文の構成について	若森
第３回	研究テーマの立て方	若森
第４回	論文の調べ方	若森
第５回	輪読論文　問題と目的	若森
第６回	輪読論文　方法、分析、結果	若森
第７回	輪読論文　考察、引用論文	若森
第８回	輪読論文　質問紙調査研究	若森
第９回	輪読論文　実験的研究（実験社会心理系）	若森
第１０回	輪読論文　観察的研究	若森
第１１回	輪読論文　病院臨床に関する研究	若森
第１２回	輪読論文　慢性期疾患に関する研究	若森

第１３回	輪読論文　高次脳機能障害に関する研究		若森
第１４回	研究テーマの構想発表		若森
第１５回	まとめ		若森
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の作成への第一段階として、文献検索・論文の読み方、統計処理・分析方法、研究方法等を習得することが目標である。 各自が関心をもっている心理学領域の中でテーマをしぼり、研究の目的・意義、研究方法を見出していく。
授業概要	各自が関心をもっている領域・分野の文献を検索し、読み進めていく。その中で、研究方法や統計処理方法についても学び、データ収集から、処理に関する技法も獲得する。 また、4年生が行う実践研究に準備段階から参加し、実践研究の手続きや実施技術を習得するとともに、自身の研究テーマ決定につなげていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日4限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方	藤原直子
第２回	卒業論文抄録の講読	藤原直子
第３回	研究テーマの決め方	藤原直子
第４回	研究テーマの探索・仮設定	藤原直子
第５回	論文紹介・発表の仕方	藤原直子
第６回	論文紹介・発表	藤原直子
第７回	実践研究の準備（4年生の実践に参加）	藤原直子
第８回	実践研究のリハーサル参加	藤原直子
第９回	実践研究への参加	藤原直子
第１０回	実践研究の振り返り	藤原直子
第１１回	実践研究の結果報告	藤原直子
第１２回	研究テーマの決定	藤原直子

第１３回	先行研究発表	藤原直子	
第１４回	論文発表	藤原直子	
第１５回	まとめ，今後の予定	藤原直子	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】心理学論文を読み解くことができるようになること。 【到達目標】心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒論作成に必要な、研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて、論文に対するディスカッションをおこなうことで、批判的思考力、議論をする力を強化する。
授業概要	本演習では、代表的な心理学研究雑誌からいくつかの論文を抜粋し、輪読形式で読み進めることで論文の内容を読み解いてゆく。心理学研究論文は概ね、問題と目的・研究方法・研究結果・考察・引用文献から構成されている。これら各章を、ディスカッションを重ねながら輪読することで記述スタイル、記述された意味を深く理解すると同時に、論文に対する批判的思考、発展的思考の適用をおこない、学生自身の論文作成能力を高めてゆく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション、研究倫理教育	土居
第２回	2. 研究論文とは	土居
第３回	3. 、研究倫理に基づく責任ある研究活動	土居
第４回	4. 論文輪読　論文の集め方	土居
第５回	5. 論文輪読　レジュメ作成	土居
第６回	6. 論文輪読　行動療法について	土居
第７回	7. 論文輪読　認知療法について	土居
第８回	8. 論文輪読　CBTについて	土居
第９回	9. 論文輪読　ABAについて	土居
第１０回	10. 論文輪読　学校臨床について	土居
第１１回	11. 論文輪読　不登校について	土居
第１２回	12. 論文輪読　病院臨床について	土居
第１３回	13. 論文輪読　発達障害について	土居
第１４回	14. 論文輪読　パーソナリティについて	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版
参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。また基礎的な心理査定についての学習と技術の修得、論文の読み方や書き方などを身に着けられるようになることも到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献を輪読し、発表してもらう。 ２．基礎的な面接技法・心理査定について学習する。 ３．卒論作成に向け、論文の読み方や書き方などを学習する。 ４．心理学検定の受検を薦めており、その内容についての学習。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。 2年次春期までの、必修科目22単位中16単位を修得していること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	卒業論文とは	宇都宮
第３回	文献検索の方法	宇都宮
第４回	文献輪読「調査系論文の読み方」(1)　論文と研究	宇都宮
第５回	文献輪読「調査系論文の読み方」(2)　心理測定とその方法	宇都宮
第６回	文献輪読「調査系論文の読み方」(3)　相関係数	宇都宮
第７回	文献輪読「調査系論文の読み方」(4)　一要因分散分析	宇都宮
第８回	文献輪読「調査系論文の読み方」(5)　二要因分散分析	宇都宮
第９回	文献輪読「調査系論文の読み方」(6)　因子分析	宇都宮
第１０回	文献輪読「調査系論文の読み方」(7)　重回帰分析	宇都宮
第１１回	論文輪読・担当者発表（1グループ目）	宇都宮
第１２回	論文輪読・担当者発表（2グループ目）	宇都宮
第１３回	論文輪読・担当者発表（3グループ目）	宇都宮
第１４回	論文輪読・担当者発表（4グループ目）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京図書
教・著者名１	浦上昌則・脇田貴文	教・ＩＳＢＮ１	978-4-489-02038-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解する。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案するための実践的技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，研究計画を立案する段階に焦点をあて，認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を検討する。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。研究を発表するために，文献の検索や収集を行う。研究の発表を通して，プレゼンテーションの技術なども身につけ，総合的な実践能力を養う。心理学演習Ⅰでは，関連領域におけるテキストの輪読を中心とする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習(2時間)・復習(2時間)時間として行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR　ゼミ運営について	橋本翠
第２回	2.感覚と知覚	橋本翠
第３回	3.知覚の現象	橋本翠
第４回	4.視覚の基本特性	橋本翠
第５回	5.聴覚の基本特性	橋本翠
第６回	6.精神物理学と心理測定法	橋本翠
第７回	7.感覚・知覚に関わる神経系	橋本翠
第８回	8.知覚の構造	橋本翠

第９回	9.知覚の発達	橋本翠
第１０回	10.注意	橋本翠
第１１回	11.知覚の情報処理的研究	橋本翠
第１２回	12.感覚・知覚の心理生理学	橋本翠
第１３回	13.認知と事象関連電位	橋本翠
第１４回	14.知覚研究の光学的応用	橋本翠
第１５回	15.総括	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	知覚と認知	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	八木昭宏(著)	教・ＩＳＢＮ１	4-563-05746-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ｉ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の作成への第一ステップであり、各ゼミ生の関心に沿った心理学的問題をゼミ参加者相互の議論を通して明確化していくことがテーマである。 心理学的問題の所在、研究の目的・意義、方法の工夫、先行研究との関連まで進めることを到達目標とする。
授業概要	関心のあるテーマについての先行研究の発表を通して、研究論文の読み方や書き方、研究方法や統計的手法の学習をおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、先行研究を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること。 復習（2時間程度）として、授業内容の振り返りをおこなうこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	論文の構成	村上
第３回	研究テーマの立て方	村上
第４回	先行研究の調べ方	村上
第５回	研究方法	村上
第６回	統計（1）：t検定	村上
第７回	統計（2）：1要因の分散分析	村上
第８回	統計（3）：2要因の分散分析	村上
第９回	統計（4）：相関と重回帰分析	村上
第１０回	統計（5）：因子分析	村上
第１１回	研究テーマの構想発表（日本人学生）	村上
第１２回	研究テーマの構想発表（留学生）	村上
第１３回	関連研究の発表（日本人学生）	村上
第１４回	関連研究の発表（留学生）	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版

参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成に向けて、研究デザインをつくる 到達目標： １．先行研究について情報収集し、何がどこまで明らかにされているか把握できる ２．研究テーマを設定できる ３．研究デザインをたてる
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、どのような手法を用いているかを把握する。秋学期の終わりまでに、研究デザインをたてることを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表内容（80%）と討議への参加態度（20%）により評価する
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	主体的な参加を希望する
実務経験のある教員	該当する　内容：スクールカウンセリング、精神科クリニックでの心理臨床などの経験を踏まえて指導する。
事前学習・事後学習とその時間	各自の興味にしたがって文献を多く読むこと。日に1時間以上の自己学修を期待する。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	先行研究紹介	津川秀夫
第３回	先行研究の概観	津川秀夫
第４回	先行研究の批判的検討	津川秀夫
第５回	テーマの検討	津川秀夫
第６回	テーマの設定	津川秀夫
第７回	研究デザインの検討	津川秀夫
第８回	研究デザインの批判的検討	津川秀夫
第９回	研究デザインの設定	津川秀夫
第１０回	結果の処理についての検討	津川秀夫
第１１回	結果の処理の批判的検討	津川秀夫
第１２回	研究手続の検討	津川秀夫

第１３回	研究手続の決定		津川秀夫
第１４回	研究の実施		津川秀夫
第１５回	まとめ		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて－」をテーマとして心理学研究の基礎を学び、自ら実験計画を立案し、実験を行い、結果の分析を経て報告書にまとめることを到達目標とする。
授業概要	認知心理学の実験的研究についての理解をふまえ，自ら実験テーマを考え、科学的な手法に基づいて実験を行い、データを統計的に整理・分析してレポートにまとめる。そして、４ 年次の卒業論文のテーマの決定に結びつける。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み　発表：５０％、ディスカッションへの参加など：３０％ 最終レポート：２０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	欠席の場合、無断で休むと評価対象から外れるので注意すること。 合宿等の学外活動にも積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 自分の研究発表のための準備は、常に行っておくこと。 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	実験研究と調査研究	森井
第３回	独立変数・従属変数・剰余変数	森井
第４回	記憶実験（展望記憶）	森井
第５回	記憶実験（潜在記憶）	森井
第６回	記憶実験（虚偽記憶）	森井
第７回	記憶実験（文脈依存効果）	森井
第８回	記憶実験（自己関連記憶）	森井
第９回	思考と問題解決（確率判断）	森井
第１０回	思考と問題解決（Wason課題）	森井
第１１回	実験計画の作成と検討	森井
第１２回	実験実施上の問題	森井
第１３回	結果の集計と整理	森井
第１４回	レポートの作成	森井
第１５回	もとめ	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 心理学論文を読み解く。 【到達目標】 心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒業論文作成に必要な研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて論文に対するディスカッションを行うことで批判的思考、議論する力を強化する。
授業概要	演習Ⅰを踏まえ、各自の研究テーマに関連する論文を雑誌から見つけ出し、毎回交代でその論文内容を発表する。演習内でのディスカッションにより、プレゼンテーション力、ディスカッション力を高めると共に各自の研究テーマをより精緻化し、具体的な研究活動に繋げる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題やプレゼンテーションについては適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究に関連する論文の発表（学生1）	若森
第３回	研究に関連する論文の発表（学生2）	若森
第４回	研究に関連する論文の発表（学生3）	若森
第５回	研究に関連する論文の発表（学生4）	若森
第６回	研究テーマの検討（学生1）	若森
第７回	研究テーマの検討（学生2）	若森
第８回	研究テーマの検討（学生3）	若森
第９回	研究テーマの検討（学生4）	若森
第１０回	研究計画について	若森
第１１回	研究計画の構想について（学生1）	若森
第１２回	研究計画の構想について（学生2）	若森
第１３回	研究計画の構想について（学生3）	若森
第１４回	研究計画の構想について（学生4）	若森

第１５回	次年度について	若森	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	3年次終了までに、卒業論文・研究テーマ・研究方法を決定し、次年度の研究実施に向けて準備を進めることが目標である。 先行研究の検索・熟読、統計処理・分析方法の習得も進めつつ、各自が関心をもっている心理学領域の中でテーマをしぼり、研究の目的・意義、研究方法を見出していく。
授業概要	卒業論文・研究のテーマにしたい領域・分野の文献を検索し、読み進めていく。その中で、研究方法や統計処理方法についても学び、データ収集から、処理に関する技法も獲得する。 アンケートによる調査研究を行う場合は、3年次中に具体的な内容・対象・実施方法を検討してアンケートを作成し、4年次初めに実施できるよう準備を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方	藤原直子
第２回	卒業論文・研究テーマの検討	藤原直子
第３回	先行研究の検索	藤原直子
第４回	研究テーマの探索・仮設定	藤原直子
第５回	先行研究紹介・発表	藤原直子
第６回	実践研究の内容検討	藤原直子
第７回	実践研究の実施計画作成	藤原直子
第８回	研究実施における倫理的配慮・個人情報保護の確認	藤原直子
第９回	効果測定方法・質問紙の検討	藤原直子
第１０回	分析方法の検討	藤原直子
第１１回	実践研究の準備	藤原直子
第１２回	実践研究のリハーサル	藤原直子

第１３回	論文紹介・発表	藤原直子	
第１４回	研究テーマ・研究方法の検討	藤原直子	
第１５回	卒業論文・研究計画の作成	藤原直子	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-406

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】心理学論文を読み解くことができるようになること。 【到達目標】心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒論作成に必要な、研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて、論文に対するディスカッションをおこなうことで、批判的思考力、議論をする力を強化する。
授業概要	本演習では、代表的な心理学研究雑誌からいくつかの論文を抜粋し、輪読形式で読み進めることで論文の内容を読み解いてゆく。心理学研究論文は概ね、問題と目的・研究方法・研究結果・考察・引用文献から構成されている。これら各章を、ディスカッションを重ねながら輪読することで記述スタイル、記述された意味を深く理解すると同時に、論文に対する批判的思考、発展的思考の適用をおこない、学生自身の論文作成能力を高めてゆく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 論文輪読：1人目	土居
第２回	2. 論文輪読：2人目	土居
第３回	3. 論文輪読：3人目	土居
第４回	4. 論文輪読：4人目	土居
第５回	5. 調査研究の歴史	土居
第６回	6. 調査研究の目的	土居
第７回	7. 調査研究の方法	土居
第８回	8. テーマ探索：1人目	土居
第９回	9. テーマ探索：2人目	土居
第１０回	10. テーマ探索：3人目	土居
第１１回	11. テーマ探索：4人目	土居
第１２回	12. テーマ決め：1人目	土居
第１３回	13. テーマ決め：2人目	土居
第１４回	14. テーマ決め：3人目	土居
第１５回	15. テーマ決め：4人目	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版
参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。また基礎的な心理査定についての学習と技術の修得、論文の読み方や書き方などを身に着けられるようになることも到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献を輪読し、発表してもらう。 ２．基礎的な面接技法・心理査定について学習する。 ３．卒論作成に向け、論文の読み方や書き方などを学習する。 ４．心理学検定の受検を薦めており、その内容についての学習。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。 2年次春期までの、必修科目22単位中16単位を修得していること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には、それぞれ1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	卒論計画書の書き方	宇都宮
第３回	アンケート調査の方法：質問紙の作成方法	宇都宮
第４回	アンケート調査のWeb版の作成方法	宇都宮
第５回	論文輪読・担当者発表（1グループ目）	宇都宮
第６回	論文輪読・担当者発表（2グループ目）	宇都宮
第７回	論文輪読・担当者発表（3グループ目）	宇都宮
第８回	論文輪読・担当者発表（4グループ目）	宇都宮
第９回	卒論計画書の発表（1グループ目）	宇都宮
第１０回	卒論計画書の発表（2グループ目）	宇都宮
第１１回	卒論計画書の発表（3グループ目）	宇都宮
第１２回	卒論計画書の発表（4グループ目）	宇都宮
第１３回	アンケートの作成	宇都宮
第１４回	アンケートの実施方法	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京図書
教・著者名１	浦上昌則・脇田貴文	教・ＩＳＢＮ１	978-4-489-02038-4
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 1)	橋本翠
第２回	(2) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 2)	橋本翠
第３回	(3) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 3)	橋本翠
第４回	(4) 研究課題と研究構想の発表(発表者1)	橋本翠
第５回	(5) 研究課題と研究構想の発表(発表者2)	橋本翠
第６回	(6) 研究課題と研究構想の発表(発表者3)	橋本翠
第７回	(7) 研究計画の発表(発表者1)	橋本翠

第８回	(8) 研究計画の発表(発表者2)	橋本翠
第９回	(9) 研究計画の発表(発表者3)	橋本翠
第１０回	(10) 研究計画書の作成(発表者 1)	橋本翠
第１１回	(11) 研究計画書の作成(発表者 2)	橋本翠
第１２回	(12) 研究計画書の作成(発表者 3)	橋本翠
第１３回	(13) 研究計画のまとめ(発表者1)	橋本翠
第１４回	(14) 研究計画のまとめ(発表者2)	橋本翠
第１５回	(15) 研究計画のまとめ(発表者3)	橋本翠
第１６回	(16)単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて，適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の作成への第二ステップであり、各ゼミ生の関心に沿った心理学的問題をゼミ参加者相互の議論を通じて深化させることがテーマである。 心理学的問題の所在、研究の目的・意義等を明確化し、各自の研究テーマを絞り込んでいくことを到達目標とする。
授業概要	関心のあるテーマについての先行研究の発表をもとにディスカッションをおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、先行研究を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること。 復習（2時間程度）として、授業内容の振り返りをおこなうこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	関連研究の発表（学生1）	村上
第３回	関連研究の検討（学生1）	村上
第４回	関連研究の発表（学生2）	村上
第５回	関連研究の検討（学生2）	村上
第６回	関連研究の発表（学生3）	村上
第７回	関連研究の検討（学生3）	村上
第８回	研究テーマの検討（学生1）	村上
第９回	研究テーマの検討（学生2）	村上
第１０回	研究テーマの検討（学生3）	村上
第１１回	研究計画の立て方	村上
第１２回	研究計画の構想発表（学生1）	村上
第１３回	研究計画の構想発表（学生2）	村上
第１４回	研究計画の構想発表（学生3）	村上
第１５回	次年度に向けて	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版

参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成に向けて、研究計画に基づき実験や調査を実施する 到達目標： １．研究計画を立てる ２．計画に基づき、実験や調査を実施する
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、どのような手法を用いているかを把握する。秋学期の終わりまでに、研究デザインをたてることを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表内容（80%）と討議への参加態度（20%）により評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主体的な参加を希望する
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリングなど
事前学習・事後学習とその時間	調査や実験手続きや統計処理に関する文献を読み込むこと。１日１時間以上の自己学修を期待する。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーションおよび研究倫理	津川秀夫
第２回	研究計画：作成	津川秀夫
第３回	研究計画：報告	津川秀夫
第４回	研究計画：検討	津川秀夫
第５回	研究計画：修正	津川秀夫
第６回	予備検討：実施	津川秀夫
第７回	予備検討：結果のまとめ	津川秀夫
第８回	予備検討：結果の検討	津川秀夫
第９回	予備検討：研究計画の再検討	津川秀夫
第１０回	調査・実験：実施	津川秀夫
第１１回	調査・実験：実施状況の報告	津川秀夫
第１２回	調査・実験：結果	津川秀夫
第１３回	調査・実験：記述統計	津川秀夫
第１４回	調査・実験：図表の作成	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門　第２版	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて」というテーマのもと、卒業論文作成のための実験を実施し、結果の整理・分析ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	基本的には、卒業論文の作成に向けての経過報告の形で行うが、折に触れ、論文の紹介（発表）、統計的手法の概説などを行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表：６０％、受講態度：４０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表の都度、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	所定の時間外でも演習を行うことがあるので注意するように。 他のゼミ生の卒業論文についても、深く関与し、全員で協力してすすめるように。 無断欠席には厳しく対処するので気をつけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	卒論研究に関係する論文等、自ら探し、要約して発表できるように準備すること。 これまで学んできた心理学の知識をフルに活用できるように、過去の教科書・ノートなどを有効利用すること。指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限目、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　＆　研究倫理について	森井
第２回	個々の卒論テーマ発表（１）	森井
第３回	個々の卒論テーマ発表（２）	森井
第４回	論文紹介（１）	森井
第５回	論文紹介（２）	森井
第６回	データの種類と集計方法	森井
第７回	研究倫理の問題	森井
第８回	実験実施上の注意点	森井
第９回	心理統計の復習	森井
第１０回	個々の研究計画発表（１）	森井
第１１回	個々の研究計画発表（２）	森井
第１２回	データ分析について	森井
第１３回	エクセルの利用	森井
第１４回	統計ソフトの利用	森井
第１５回	卒論作成に向けて	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 卒業論文作成に向けて先行研究を調べ、先行研究で用いられている実施方法や結果の処理方法などを学習する。 【到達目標】 各自の研究テーマに沿った調査や実験を実施できるようになること。
授業概要	各自のテーマに沿った先行研究を調べ、研究方法や結果の処理方法について学習する。 卒業論文の研究計画、結果について議論する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	卒業論文について	若森
第３回	先行研究の発表（一人目）	若森
第４回	先行研究の発表（二人目）	若森
第５回	先行研究の発表（三人目）	若森
第６回	研究計画の発表（一人目）	若森
第７回	研究計画の発表（二人目）	若森
第８回	研究計画の発表（三人目）	若森
第９回	卒業論文の調査や実験の進め方	若森
第１０回	結果の処理方法について	若森
第１１回	臨床における研究について	若森
第１２回	経過報告（一人目）	若森
第１３回	経過報告（二人目）	若森
第１４回	経過報告（三人目）	若森
第１５回	まとめ	若森
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを適宜配布する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の執筆に向け、先行研究・文献の検索、統計処理・分析方法の検討をすることが目標である。 同時に、各自が研究を進め、春学期終了までに実践あるいは調査が完了していることを目指す。
授業概要	各自の研究テーマに関する領域・分野の文献を検索し、先行研究を読み進めていく。 統計処理方法についても再度学び、論文執筆にあたってどのような手法で結果をまとめるのかを決定する。 同時に、春学期中に実践研究を実施し，論文執筆に必要なデータ収集や分析を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。 発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方、研究林倫理について	藤原直子
第２回	卒業論文抄録の講読	藤原直子
第３回	研究テーマ・目的の検討	藤原直子
第４回	研究実施における倫理的配慮・個人情報保護の確認	藤原直子
第５回	実践内容の検討・決定	藤原直子
第６回	効果測定方法の検討・決定	藤原直子
第７回	実践研究の準備・練習	藤原直子
第８回	実践研究の実施	藤原直子
第９回	実践研究の経過報告	藤原直子
第１０回	結果の処理・分析方法の検討	藤原直子
第１１回	結果のまとめ方	藤原直子
第１２回	データ入力	藤原直子
第１３回	データ分析	藤原直子
第１４回	研究経過報告	藤原直子
第１５回	まとめ、今後の計画検討	藤原直子

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業論文作成のための先行研究を調べる，統計処理・分析方法を学習する。 【到達目標】春学期が終了するまでに調査や実験が終了することを目指す。
授業概要	本演習では、自身が進める卒業研究に関連する文献を検索し，統計的分析方法などを学ぶ。論文執筆に必要なスキルを習得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション、研究倫理教育	土居
第２回	2. 卒論作成について	土居
第３回	3. 卒業論文とは	土居
第４回	4. 卒論の目的	土居
第５回	5. 卒論のテーマについて	土居
第６回	6. 卒論テーマの決め方	土居
第７回	7. 卒論の方向性について	土居
第８回	8. 岡山心理学会について	土居
第９回	9. 卒論の調査実施：1人目	土居
第１０回	10. 卒論の調査実施：2人目	土居
第１１回	11. 卒論の調査実施：3人目	土居
第１２回	12. 卒論の経過報告：1人目	土居
第１３回	13. 卒論の経過報告：2人目	土居
第１４回	14. 卒論の経過報告：3人目	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。 さらに、4年次においては各自卒業論文に掲げたテーマについての知識を深め、卒業論文作成に向けた実践できることが到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献や卒業論文のテーマに関する文献を輪読し、発表してもらう。 ２．卒業論文作成に向け、論文の書き方や調査法などを学習する。 ３．卒業論文作成に向け調査を行い、その結果をまとめて発表する。 ４．調査結果を分析、考察し、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には、それぞれ1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、木曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	研究計画の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第３回	研究計画の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第４回	研究計画の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第５回	研究計画の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第６回	調査方法の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第７回	調査方法の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第８回	調査方法の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第９回	調査方法の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１０回	調査データの入力と経過発表（1グループ目）	宇都宮
第１１回	調査データの入力と経過発表（2グループ目）	宇都宮
第１２回	調査データの入力と経過発表（3グループ目）	宇都宮
第１３回	調査データの入力と経過発表（4グループ目）	宇都宮
第１４回	分析結果のまとめ方	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		宇都宮

教科書			
教・書籍名１	特になし。資料は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰ・Ⅱに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。演習の方法は，テキスト「脳と心」を輪読する。発表者は，レジュメを作成し，発表する。また，教員の研究への参加等も積極的に行うことで，自身の研究へとつなげてほしい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR　ゼミ運営について	橋本翠
第２回	2.脳と神経	橋本翠
第３回	3.生理心理学	橋本翠
第４回	4.注意	橋本翠
第５回	5.対象の認知と右脳・左脳	橋本翠
第６回	6.生物リズム	橋本翠
第７回	7.睡眠	橋本翠
第８回	8.感情，表情そして身体表現	橋本翠

第９回	9.目と印象形成	橋本翠
第１０回	10.タイプA	橋本翠
第１１回	11.行動を支える脳内ホルモン	橋本翠
第１２回	12.ストレス評価とマネジメント	橋本翠
第１３回	13.バイオフィードバック	橋本翠
第１４回	14.音楽と脳	橋本翠
第１５回	15.生理心理学とコンピュータ	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	脳と心	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	宮田洋(著)	教・ＩＳＢＮ１	4-563-05742-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	関連研究で用いられている調査の実施方法や統計的処理の方法を学習することがテーマである。 到達目標は、テーマに沿った調査を実施し、統計的処理をおこなえるようになることである。
授業概要	研究計画および調査結果についてのデスカッションをおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の調査方法や統計的処理の方法を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	関連研究の発表（学生1）	村上
第３回	関連研究の発表（学生2）	村上
第４回	関連研究の発表（学生3）	村上
第５回	研究計画の発表（学生1）	村上
第６回	研究計画の発表（学生2）	村上
第７回	研究計画の発表（学生3）	村上
第８回	調査の進め方	村上
第９回	質問紙の作成方法	村上
第１０回	質問紙の作成	村上
第１１回	結果の処理の方法	村上
第１２回	記述統計	村上
第１３回	推測統計	村上
第１４回	多変量解析	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を完成する 到達目標： １．所定の形式にしたがい、卒業論文を作成できる ２．自分の研究について分かりやすく他者に伝えられる ３．自分の研究のよい点と課題について、客観的に理解できる
授業概要	得られたデータを統計的な手続きを経てまとめ、そこから何が言えるか明らかにする。それを踏まえて、自分の研究を問題、方法、結果、考察の章立てにしたがって
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	論文の進捗状況および発表内容（80%）、そして討議への参加状況（20%）により評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	論文完成に向けて、できる限りの時間とエネルギーを使うこと。1日2時間以上の学修を期待する。
オフィスアワー	月4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	調査・実験：実施	津川秀夫
第３回	調査・実験：結果	津川秀夫
第４回	調査・実験：記述統計	津川秀夫
第５回	調査・実験：図表	津川秀夫
第６回	調査・実験：統計	津川秀夫
第７回	調査・実験：結果の解釈	津川秀夫
第８回	論文：問題	津川秀夫
第９回	論文：目的	津川秀夫
第１０回	論文：方法	津川秀夫
第１１回	論文：結果	津川秀夫
第１２回	論文：考察	津川秀夫
第１３回	論文：考察の検討	津川秀夫
第１４回	論文：考察の修正	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門	教・出版社名2	東京書籍

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて」というテーマのもと、卒業論文作成のための実験の実施し、結果を整理・分析できるようになることを到達目標とする。
授業概要	基本的には、卒業論文の作成に向けての経過報告の形で行うが、折に触れ、論文の紹介（発表）、統計的手法の概説などを行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表:：５０％、受講態度：５０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	所定の時間外でも演習を行うことがあるので注意するように。 他のゼミ生の卒業論文についても、深く関与し、全員で協力してすすめるように。 無断欠席には厳しく対処するので気をつけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各自の研究テーマに沿った論文の熟読をすること。 特に、方法と結果の整理については十分に理解するように取り組むこと。 心理統計の講義などを含め、図書館での文献検索などを活用して、自主的に進めること。 指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・経過報告	森井
第２回	記述統計(1)　度数分布と散布図	森井
第３回	記述統計(2)　標準偏差と標準誤差	森井
第４回	推測統計(1)　カイ二乗検定	森井
第５回	推測統計(2)　ｔ 検定	森井
第６回	推測統計(3)　分散分析	森井
第７回	統計ソフトの実際(1)　SPSS	森井
第８回	統計ソフトの実際(2)　ANOVA4	森井
第９回	データの分析結果報告	森井
第１０回	結果の整理(1)　図表の作成	森井
第１１回	結果の整理(2)　統計結果の記述森井	森井
第１２回	科学論文の表現(1)　主語と述語	森井
第１３回	科学論文の表現(2)　主観と客観	森井
第１４回	科学論文の表現(3)　冗長表現	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 各自の研究結果をまとめ、考察を行う。 考察に関連する論文を調べ、考察を深める。 【到達目標】 卒業論文を締め切りまでに提出すること。
授業概要	卒業論文の提出に向けてディスカッションを行い、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。 卒業論文の執筆を各自で進めていくこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究の進捗状況と研究結果の報告（一人目）	若森
第３回	研究の進捗状況と研究結果の報告（二人目）	若森
第４回	研究の進捗状況と研究結果の報告（三人目）	若森
第５回	研究結果の分析と解釈（一人目）	若森
第６回	研究結果の分析と解釈（二人目）	若森
第７回	研究結果の分析と解釈（三人目）	若森
第８回	論文の執筆における注意点について	若森
第９回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（一人目）	若森
第１０回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（二人目）	若森
第１１回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（三人目）	若森
第１２回	抄録の書き方、まとめ方	若森
第１３回	抄録の作成	若森
第１４回	発表会の準備	若森
第１５回	まとめ	若森
第１６回		

教科書

教・書籍名１	プリントを適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究結果をまとめ、考察を加え、卒業論文および抄録を完成させることが目標である。 各自が執筆を進め、ゼミの中で経過報告をしたり、不明な点を検討したりして、論文を完成させていく。
授業概要	各自が行った研究について、先行研究をもとに考察したり、全員で議論したりする。 また、論文執筆に必要な統計処理・分析、図表の書き方、本文の書き方などを検討し、共有して学習していく。必要に応じて協同作業で分析をしたり、文献検索をしたりして、執筆を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方、研究倫理について	藤原直子
第２回	研究実施報告	藤原直子
第３回	卒業研究の経過報告	藤原直子
第４回	アンケート処理・分析	藤原直子
第５回	研究結果発表	藤原直子
第６回	研究結果について討論	藤原直子
第７回	序論のまとめ方	藤原直子
第８回	データ入力、統計処理	藤原直子
第９回	分析方法・結果のまとめ方の検討	藤原直子
第１０回	考察の検討	藤原直子
第１１回	論文最終確認、検討	藤原直子
第１２回	抄録作成	藤原直子
第１３回	発表会資料作成	藤原直子
第１４回	発表会プレゼン、検討	藤原直子
第１５回	卒業論文発表会	藤原直子

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業論文作成のための先行研究を調べる，統計処理・分析方法を学習する。 【到達目標】１２月締め切りまでに卒論提出及び発表会における発表実施、１月の抄録提出完了をすること。
授業概要	本演習では、自身が進める卒業研究に関連する文献を検索し，統計的分析方法などを学ぶ。論文執筆に必要なスキルを習得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディベート
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 卒論結果分析：1人目	土居
第２回	2. 卒論結果分析：2人目	土居
第３回	3. 卒論結果分析：3人目	土居
第４回	4. 卒論結果分析：4人目	土居
第５回	5. 卒論結果検討：1人目	土居
第６回	6. 卒論結果検討：2人目	土居
第７回	7. 卒論結果検討：3人目	土居
第８回	8. 卒論結果検討：4人目	土居
第９回	9. 卒論執筆：1人目	土居
第１０回	10. 卒論執筆：2人目	土居
第１１回	11. 卒論執筆：3人目	土居
第１２回	12. 卒論執筆：4人目	土居
第１３回	13. 卒論発表会のポスター印刷	土居
第１４回	14. 卒論発表会の練習	土居
第１５回	15. 卒論抄録の提出	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版
参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。 さらに、4年次においては各自卒業論文に掲げたテーマについての知識を深め、卒業論文作成に向けた実践できることが到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献や卒業論文のテーマに関する文献を輪読し、発表してもらう。 ２．卒業論文作成に向け、論文の書き方や調査法などを学習する。 ３．卒業論文作成に向け調査を行い、その結果をまとめて発表する。 ４．調査結果を分析、考察し、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、木曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	研究の進行状況の発表（1グループ目）	宇都宮
第３回	研究の進行状況の発表（２グループ目）	宇都宮
第４回	研究の進行状況の発表（3グループ目）	宇都宮
第５回	研究の進行状況の発表（４グループ目）	宇都宮
第６回	研究結果の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第７回	研究結果の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第８回	研究結果の発表と検討（３グループ目）	宇都宮
第９回	研究結果の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１０回	考察の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第１１回	考察の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第１２回	考察の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第１３回	考察の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１４回	ポスター発表（発表と検討1）	宇都宮
第１５回	ポスター発表（発表と検討2）	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	特になし。適宜、資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰ・Ⅰに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは毎回の授業前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅲ・Ⅳは，卒業研究のまとめとなる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 1)	橋本翠
第２回	(2) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 2)	橋本翠
第３回	(3) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 3)	橋本翠
第４回	(4) 研究課題と研究構想の発表(発表者1)	橋本翠
第５回	(5) 研究課題と研究構想の発表(発表者2)	橋本翠
第６回	(6) 研究課題と研究構想の発表(発表者3)	橋本翠
第７回	(7) 研究計画の発表(発表者1)	橋本翠
第８回	(8) 研究計画の発表(発表者2)	橋本翠

第９回	(9) 研究計画の発表(発表者3)	橋本翠
第１０回	(10) 研究計画書の作成(発表者 1)	橋本翠
第１１回	(11) 研究計画書の作成(発表者 2)	橋本翠
第１２回	(12) 研究計画書の作成(発表者 3)	橋本翠
第１３回	(13) 研究計画のまとめ(発表者1)	橋本翠
第１４回	(14) 研究計画のまとめ(発表者2)	橋本翠
第１５回	(15) 研究計画のまとめ(発表者3)	橋本翠
第１６回	(16)単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて，適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	計画を立て、結果をまとめ、考察を深めることがテーマである。 到達目標は、期限内に卒業論文を完成・提出することである。
授業概要	卒業論文の内容・体裁についてのデスカッションをおこない、期限内に卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究を参考に卒業論文の執筆をおこなうこと（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	卒業論文の経過報告	村上
第３回	先行研究の輪読（問題と目的）	村上
第４回	序論の検討	村上
第５回	先行研究の輪読（方法）	村上
第６回	方法の検討	村上
第７回	先行研究の輪読（結果）	村上
第８回	結果の検討	村上
第９回	先行研究の輪読（考察）	村上
第１０回	考察の検討	村上
第１１回	卒業論文の執筆	村上
第１２回	卒業論文の検討	村上
第１３回	抄録の書き方	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	

参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理実習Ⅰ　（オムニバス）			担当者	津川　秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原　直子、土居　正人、村上　勝典、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-409		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	45	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。 到達目標：実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の（ア）（イ）（ウ）の基礎を理解することができる。
授業概要	保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学実習や事前事後学習、学内外の講師による授業等を通して、公認心理師に求められる知識や技能等をはじめとして、基本的な実習態度、実習記録のつけ方、当該施設やその利用者についての知識、指導者への連絡や報告の仕方等について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	規定の出席や外部実習参加を前提として、参加態度（50%）とレポート（50%）により評価を行う。 レポート課題として、（1）学内外の講師による講義のまとめ、（2）実習記録、（3）事前・事後学習、（4）実習全体の振返り、の4種を課す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	記録やレポートに関して適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	〈履修条件〉 ・原則として、2年次秋学期までのGPAが2.0以上であること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 〈注意事項〉 ・原則として、すべての実習施設に行くことが求められる。ただし，正当な理由がある場合（医療費の領収書などの提出が必要）には、1か所の欠席（2時間分）までは許容する。 ・学外実習は正規の時間外に行うこともあるので、連絡事項に注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野において実務経験のある実習指導者が指導する。 また、実習前後の指導については心理的支援に関する実務経験のある学内の教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、次回行う内容・実習施設について資料収集し、下調べをしてくること。（2時間） 授業中・実習中にノートにまとめた内容について報告書を作成すること。（2時間）
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて「何でも相談時間」に対応します。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	全員
第２回	実習心得	全員
第３回	新型肺炎対策	
第４回	事前指導（教育）	津川
第５回	不登校への支援（外部講師）	村上
第６回	総社市ふれあい教室	津川
第７回	家庭裁判所（外部講師）	藤原
第８回	事前指導（司法犯罪）	藤原

第９回	岡山少年鑑別所（外部講師）	藤原
第１０回	療育施設（外部講師）	藤原
第１１回	老人福祉施設（外部講師）	宇都宮
第１２回	岡山県総合教育センター	土居
第１３回	四ツ葉会（外部講師）	村上
第１４回	事後指導	全員
第１５回	事前指導（福祉・教育）	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理実習Ⅱ （オムニバス）	担当者	津川　秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原　直子、土居　正人、村上　勝典、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-410

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	45	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。 到達目標：実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の（ア）（イ）（ウ）の基礎を理解することができる。
授業概要	福保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学実習や事前事後学習、学内外の講師による授業等を通して、公認心理師に求められる知識や技能等をはじめとして、基本的な実習態度、実習記録のつけ方、当該施設やその利用者についての知識、指導者への連絡や報告の仕方等について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	規定の出席や外部実習参加を前提として、参加態度（50%）とレポート（50%）により評価を行う。 レポート課題として、（1）学内外の講師による講義のまとめ、（2）実習記録、（3）事前・事後学習、（4）実習全体の振返り、の4種を課す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	〈履修条件〉 ・原則として、2年次秋学期までのGPAが2.0以上であること。 ・原則として、「心理実習Ⅰ」の単位を取得していること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 〈注意事項〉 ・原則として、すべての実習施設に行くことが求められる。ただし，正当な理由がある場合（医療費の領収書などの提出が必要）には、1か所の欠席（2時間分）までは許容する。 ・学外実習は正規の時間外に行うこともあるので、連絡事項には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野において実務経験のある実習指導者が指導する。 また、実習前後の指導については、心理的支援に関する実務経験のある学内の教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、次回行う内容・実習施設について資料収集し、下調べをしてくること。（2時間） 授業中・実習中にノートにまとめた内容について報告書を作成すること。（2時間）
オフィスアワー	担当教員の研究室にて、「何でも相談時間」に対応する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	全員
第２回	心理相談室	津川
第３回	四ツ葉会実習	村上
第４回	グリーンヒル順正（外部講師）	宇都宮
第５回	事前指導（司法犯罪）	藤原
第６回	実習事前指導（福祉）	宇都宮
第７回	岡山少年院（外部講師）	藤原

第８回	津島児童学院（外部講師）	宇都宮
第９回	実習事前指導（医療）	土居
第１０回	たいようの丘ホスピタル（外部講師）	土居
第１１回	鶴山塾（外部講師）	土居
第１２回	母子生活支援施設（外部講師）	津川
第１３回	四ツ葉会実習	村上
第１４回	万成病院（外部講師）	津川
第１５回	事後指導（全体）	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	テキストは使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外書講読Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-411		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	【テーマ】英語の文献講読を通して，心理学領域における方法論および論点について理解する。 【到達目標】近々の心理学における英語の文献を読み，新しいトピックスに触れることで，自分なりの問題意識や興味を深める。
授業概要	本講では，2022年/2021年発行の学術専門誌「心理学研究，生理心理学と精神生理学，認知心理学研究，基礎心理学研究，健康心理学研究，発達心理学研究，教育心理学研究，他」の英文アブストラクトを講読し，内容について発表・ディスカッションを行う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する課題(25%)，ディスカッションへの参加度(25%)，試験の得点(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義ごとの課題のフィードバックは，次回の講義の前に実施する。 2回の単語小テストのフィードバックについても同様である。
履修条件・注意事項	英語の文献を読む為，ある程度の英語力が必要である。英語が苦手な学生については，十分考えた上で履修すること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。辞書を準備すること(電子辞書不可)。辞書を購入する場合は，参考図書に挙げている辞書を推奨する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の課題の指示をするので，予め和訳をし，内容について理解すること(2時間)。復習については，授業時の内容を理解し，さらに興味を持った場合は，文献の本文を読み見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/文献の検索の仕方	橋本翠
第２回	(2) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域A	橋本翠
第３回	(3) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域B	橋本翠
第４回	(4) 英文アブストラクトの読解(基本) 領域C	橋本翠
第５回	(5) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域D	橋本翠
第６回	(6) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域A	橋本翠
第７回	(7) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域B	橋本翠
第８回	(8) 単語小テスト	橋本翠
第９回	(9) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域D	橋本翠
第１０回	(10) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域A	橋本翠

第１１回	(11) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域B	橋本翠
第１２回	(12) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域C	橋本翠
第１３回	(13) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域D	橋本翠
第１４回	(14) 英文アブストラクトの読解　(上級) 領域A	橋本翠
第１５回	(15) 単語小テスト	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	教科書等は使用しません。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	英和中辞典 プログレッシブ　第5版	参・出版社名１	小学館
参・著者名１	瀬戸賢一・投野由紀夫	参・ＩＳＢＮ１	978-4-09-510205-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外書講読Ⅱ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-412		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：臨床心理学に関する英語文献を読み、内容を理解できるようになること。 到達目標：基本的な文法を把握し、それを応用した文章が読めること。また、臨床心理学に関する専門用語を覚え、内容の読解が出来るようになること。
授業概要	臨床心理学に関する英語文献を輪読する。大学院入試対策の問題なども適宜使用。輪読するので、予習・復習が必須である。構文や専門用語などについても、解説を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、定期試験50%、小テストとレポート30%、授業に取り組む姿勢20%とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	予習・復習を必ず行い、授業に備えること。 英和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。オリエンテーション時より使用します。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	復習として、授業で実施した部分について重要単語を覚えてくること。また、授業で出た英文課題について次回の授業時に必ずレポートを提出すること。時々、小テスト等で授業内容の理解度を確認する。予習・復習に1-2時間程度を要す。
オフィスアワー	研究室にて、火曜4時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	心理療法と面接：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第３回	心理療法と面接：文献講読	宇都宮
第４回	精神分析学（局所論、構造論）：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第５回	精神分析学（転移・逆転移、防衛機制）：文献講読	宇都宮
第６回	認知行動療法：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第７回	認知行動療法：文献講読	宇都宮
第８回	人間性心理学：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第９回	人間性心理学（ロジャーズ）：文献講読	宇都宮
第１０回	人間性心理学（フォーカシング、ゲシュタルト療法）：文献講読	宇都宮
第１１回	ストレス：文献講読	宇都宮
第１２回	知能検査：文献講読	宇都宮
第１３回	PTSD：文献講読	宇都宮
第１４回	PTSD：事例（DVD）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末テスト（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	特になし。英単語および文献については適宜プリントを配布。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	関係行政論					担当者	松原　浩一郎、田中　富子、藤原　直子、藤井　和郎、中瀬　克己、中野　明	
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年					ナンバリング	PS-PS-4-413	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限	

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	公認心理師として職務を遂行するにあたり、必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解する。
授業概要	人々の活動の基盤となる仕組みやルール、取り組みなどの歴史的経緯などを、法律や制度の紹介を通して明らかにしていく。 また公認心理師の主な活動領域である5分野について、それぞれの領域を専門とする講師によって法律や制度を概説し、具体的な心理的支援を認識できるよう講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	担当教員ごとに小テストやレポート課題を課す。 最終回に総合的な試験も実施し、評価は小テストおよびレポート20%、最終試験80%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックはそれぞれの担当教員からの指示にしたがって受けること。
履修条件・注意事項	オムニバスであるため、講義の日にちや時限が担当者ごとに変わる可能性がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、公認心理師として心理的支援に関する実務経験のある教員の他、医療、福祉、教育、司法、産業それぞれの療育において支援者としての経験を有する講師が担当する。 基本的な知識や近年の動向に加え、現場での実際の支援に関する情報を教授する。
事前学習・事後学習とその時間	予習のためテキストを繰り返し読み、疑問を明確にした上で受講すること。 授業内で配布するプリントや追加資料を元に復習も行うこと。 予習と復習にはそれぞれ2時間以上を必要とする。
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日4限目（研究室） 他の教員については、授業終了時等に対応可能時間を尋ねること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	藤原直子
第２回	法制度の基本	藤原直子、入江祥子（外部講師）
第３回	公認心理師の法的立場・各分野への展開	藤原直子
第４回	保健医療分野に関する法律・制度・医療全般	田中富子（看護学科）
第５回	保健医療分野に関係する法律・制度：精神科医療	田中富子（看護学科）
第６回	保健医療分野に関係する法律・制度：地域保健・医療	田中富子（看護学科）
第７回	福祉分野に関係する法律・制度：児童福祉	中野明子（経営社会学科）
第８回	福祉分野に関係する法律・制度：障害者・障害児福祉	松原浩一郎（社社会福祉学科）
第９回	福祉分野に関係する法律・制度：高齢者福祉	松原浩一郎（社会福祉学科）
第１０回	教育分野に関係する法律・制度	藤井和郎（子ども発達教育学科）

第１１回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：刑事	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１２回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：家事	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１３回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：少年非行	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１４回	産業・労働分野に関係する法律・制度	中瀬克己（看護学科）
第１５回	心の健康・障害・多様性への支援	藤原直子
第１６回	試験	藤原直子

教科書			
教・書籍名１	関係行政論	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	元永　拓郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-073-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	公認心理師の職責			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-414		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	公認心理師が人々の心の健康の保持、増進に寄与するため、職務上果たすべき責務について理解する。
授業概要	・心理専門職の国家資格である公認心理師について、その役割及び法的義務・倫理について解説する。 ・心理支援における安全の確保、情報の取り扱い、守秘義務などについて解説する。 ・心理支援の分野別の業務を具体的に示す。また、受講者に事例を提示し、ALを実施する場合もある。 ・心理専門職の自己研鑽に触れる。 ・多職種との連携及び地域連携についても臨床経験を踏まえながら具体的に説明する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	試験60%、ミニテストとレポート40%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ミニテストとレポートはコメントをつけてフィードバックする。
履修条件・注意事項	・積極的に授業に参加すること。 ・予習と復習を欠かさずに行うこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：公認心理師、臨床心理士として実務経験（心療内科におけるカウンセリング、慢性期疾患に対するカウンセリングや検査、小中学校でのスクールカウンセラーなど）のある教員が担当する。実際の現場における公認心理師の責務と関連付けて講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・予習として教科書をよく読み、ポイントと思われるところ、理解できないところを把握して、授業を受けること。 ・復習のために授業のノート、配布プリントに書くこと。その内容と教科書を照合し、学びを深めること。 ・予習、復習にはそれぞれ最低でも2時間は必要である。
オフィスアワー	火曜日　4限

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、公認心理師の資格について	若森
第２回	心理支援に必要な技能（コンピテンシー）	若森
第３回	心理支援の専門職になるために	若森
第４回	心理支援の専門職として求められる学び	若森
第５回	公認心理師の法的義務と倫理	若森
第６回	クライエントの安全の確保	若森
第７回	情報の適切な取り扱い	若森
第８回	多職種連携について	若森
第９回	保健医療分野における具体的業務	若森
第１０回	福祉分野における具体的業務	若森
第１１回	教育分野における具体的業務	若森
第１２回	司法・犯罪分野における具体的業務	若森
第１３回	産業・労働分野における具体的業務	若森
第１４回	公認心理師の今後の展開	若森
第１５回	まとめ、振り返りと疑問点の解決	若森
第１６回	定期試験	若森

教科書			
教・書籍名１	公認心理師の職責	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	下山晴彦、他監	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08611-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を作成する 到達目標： １．研究デザインを組むことができる ２．問題・方法・結果・考察という章立てにしたがって研究をまとめられる
授業概要	卒業論文作成のために少人数のゼミ形式で進める。先行研究をまとめ、研究デザインをかため、得られた結果を所定の手続きにもとづいて分析し、それを先行研究のなかに位置付けて考察する、という一連の論文作成の手続きが進められる指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	卒業論文の作成状況、完成度によって評価する(100%)。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	主体的な取り組みを期待する
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	論文完成に向けて、できる限りの時間とエネルギーを注ぐこと。1日2時間以上の学修を期待する。
オフィスアワー	水３時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	論文の構成	津川秀夫
第３回	問題	津川秀夫
第４回	方法	津川秀夫
第５回	記述統計	津川秀夫
第６回	表	津川秀夫
第７回	図	津川秀夫
第８回	相関分析	津川秀夫
第９回	ｔ検定	津川秀夫
第１０回	分散分析	津川秀夫
第１１回	統計結果の記述	津川秀夫
第１２回	因子分析の考え方	津川秀夫
第１３回	因子分析の結果の見方	津川秀夫
第１４回	回帰分析	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは「心理学研究の実施と論文の作成」であり、到達目標は、科学的な研究法に基づいた実験的研究の実施と、卒業論文の作成である。
授業概要	心理学科４ 年間の集大成を目指して、文献研究、実験・調査、データの分析などを通して論文の作成を行えるように、個別に指導・アドバイスする。受講者は、他の学生への指導に参加することで、自分自身の研究を進める上で、あるいは論文をまとめる上でのヒントをつかむようにすることが大切となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論文作成への取り組み５０％、出来上がり（発表会も含む）５０％により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	論文作成状況に応じて，適宜フィードバックしながら論文完成を目指す。
履修条件・注意事項	提出等の期限を守ること。 正規の時間帯以外の個別指導も多いので注意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自分で、計画的に学習を進めること。 実験計画案を考案した時点などの，節目では教員に相談しながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、研究室が基本ですが、在室時、随時実施。

	授業計画	担当者
第１回	進行状況の確認	森井
第２回	中間データの概要報告	森井
第３回	手続き等の改善点の検討	森井
第４回	テーマ・タイトルの再確認	森井
第５回	問題・目的の書き方	森井
第６回	方法の重要性	森井
第７回	データの整理・集計	森井
第８回	統計的検定	森井
第９回	図表による整理	森井
第１０回	結果の要約	森井
第１１回	考察の観点について	森井
第１２回	引用文献・参考文献について	森井
第１３回	卒論の全体的点検	森井
第１４回	卒論抄録原稿について	森井
第１５回	発表会用資料の作成について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文				担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年				ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を作成すること。 到達目標：卒業研究の実施、研究方法、統計方法、論文の作成に必要な知識や技能を習得すること。
授業概要	・先行研究の輪読と発表を行う。 ・研究方法を学習し、各自の研究テーマに沿って研究計画を立てる。 ・研究計画に従って調査や実験を実施する。 ・結果の統計処理や分析を行う。 ・卒業論文を作成する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	受講態度と論文作成までの過程（40%）、卒業論文の内容（60%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表、ディスカッションなどに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として先行研究の調査、購読を行い、レジュメにまとめる。わからない箇所を明確にして、ゼミで共有する。 復習として授業内容の振り返り、卒業論文の執筆を行う。 予習と復習は各2時間行うこと。
オフィスアワー	火曜日の4限をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究倫理について	若森
第３回	論文の構成について	若森
第４回	進捗状況の報告	若森
第５回	卒論の目的や先行研究の書き方	若森
第６回	方法の書き方	若森
第７回	方法のまとめ	若森
第８回	結果の報告と検討　1	若森
第９回	結果の報告と検討　2	若森
第１０回	結果（図や表）の分析	若森
第１１回	考察の書き方	若森
第１２回	考察の検討	若森
第１３回	論文のブラッシュアップ	若森
第１４回	卒論抄録の作成	若森
第１５回	卒論発表会の準備・練習	若森
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリント配布を適宜行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文				担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年				ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の執筆に向け、研究方法や論文の書き方を学習する。同時に、実践研究や調査研究を遂行し、結果の分析やまとめも行う。 最終的に、卒業論文を完成させ、発表することが到達目標である。
授業概要	1. 卒業論文完成までの計画をたて、準備を進める 2. 実践研究や調査研究を行う 3. 研究の結果を分析し、考察を考える 4. 論文を仕上げ、提出する 5. 抄録・発表資料の作成、発表練習を行い、卒業論文発表会において発表する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	実践や調査、論文執筆を計画的に進めていくこと。 発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、研究テーマに関連する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 報告・卒論指導に必要な資料作成や、研究実施にあたっての準備は必ず各自で行うこと。 研究実施、結果の分析、論文執筆は、いずれも各自の作業となるため、自己学修にかなりの時間を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他の時間に、相談や研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

授業計画		担当者
第１回	研究実施、卒論執筆における倫理的配慮・個人情報保護の確認	藤原直子
第２回	研究結果の分析方法検討	藤原直子
第３回	結果の分析	藤原直子
第４回	結果の記述方法検討	藤原直子
第５回	結果の解釈	藤原直子
第６回	経過報告	藤原直子
第７回	経過報告の発表	藤原直子
第８回	まとめ方の検討	藤原直子
第９回	考察の書き方	藤原直子
第１０回	論文の構成確認	藤原直子
第１１回	論文執筆	藤原直子
第１２回	論文執筆・個別指導	藤原直子
第１３回	論文の仕上げ・最終確認	藤原直子

第１４回	抄録・発表資料の作成	藤原直子	
第１５回	発表会準備・プレゼン	藤原直子	
第１６回	まとめ、卒論発表	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業研究の実施，執筆をするために必要な知識や技能を修得すること。 【到達目標】卒業論文を完成すること。
授業概要	この授業では，卒業論文を作成するための授業である。卒論のテーマを決め計画を立てる。それに必要な文献購読，発表を行う。卒論の書き方や調査の実施方法を学習する。質問紙を作成し実施したり面接調査などを行ったりする。結果の統計処理や分析を行い，それらをまとめ論文を作成していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	卒業論文について，問題と目的，方法，結果，考察，オリジナリティがあるか，有用性があるかなどを総合的に評価し，論文作成までの過程の積極性（60%），卒論内容（40%）で評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は「演習」の授業と同様で、論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	発表やディスカッションへの積極な参加を望む。慎重になりすぎると研究が滞ってしまうので，積極的にチャレンジしてみるという気持ちが必要である。全時間の出席を必須とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 卒論作成について	土居
第３回	3. 卒業論文とは	土居
第４回	4. 卒論の目的	土居
第５回	5. 卒論のテーマについて	土居
第６回	6. 卒論テーマの決め方	土居
第７回	7. 卒論の方向性について	土居
第８回	8. 卒論の調査準備	土居
第９回	9. 卒論の経過報告	土居
第１０回	10. 卒論結果分析	土居
第１１回	11. 卒論考察検討	土居
第１２回	12. 卒論執筆	土居
第１３回	13. 卒論発表会のポスター印刷	土居
第１４回	14. 卒論発表会の練習	土居
第１５回	15. 卒論抄録提出	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	図書館やインターネットで調べてきたり，プリント配布を行ったりする。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学演習で学んだ内容や自身で選択したテーマを、卒業論文として完成し、提出できることがこの授業のテーマであり、到達目標である。
授業概要	１．卒論計画を立て、関連文献の輪読と発表を行ってもらう。 ２．卒論の書き方や調査法について学習する。 ３．質問紙を作成し、実行する。または面接調査などを行い、まとめる。 ４．調査結果の分析と卒論の仕上げ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（20%）、卒論作成（80%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。卒論作成に向け、真摯に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 自己学習には最低でも1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	秋期：木曜日5時限（研究室）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	心理学論文の書き方	宇都宮
第３回	データの分析方法について	宇都宮
第４回	卒論調査結果の発表(1グループ目)	宇都宮
第５回	卒論調査結果の発表(2グループ目)	宇都宮
第６回	卒論調査結果の発表(3グループ目)	宇都宮
第７回	卒論調査結果についての検討と修正(1グループ目)	宇都宮
第８回	卒論調査結果についての検討と修正(2グループ目)	宇都宮
第９回	卒論調査結果についての検討と修正(3グループ目)	宇都宮
第１０回	卒論考察についての発表と検討(1グループ目)	宇都宮
第１１回	卒論考察についての発表と検討(2グループ目)	宇都宮
第１２回	卒論考察についての発表と検討(3グループ目)	宇都宮
第１３回	ポスター発表の方法について	宇都宮
第１４回	ポスター発表リハーサル（1）	宇都宮
第１５回	ポスター発表リハーサル（2）	宇都宮
第１６回		宇都宮

教科書			
教・書籍名１	改定新版　心理学論文の書き方	教・出版社名１	河出書房新社
教・著者名１	松井豊	教・ＩＳＢＮ１	978-4-3-0-24522-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ:ヒトの認知活動を心理生理学(Psychophysiology)の立場から理解する。 到達目標:ヒトの心的活動,特に認知情報処理活動について実験心理学的手法を用いて客観的に捉え,論文としてま とめることができる。
授業概要	ヒトの心的活動,特に認知情報処理活動についての実験心理学的手法を身に付け,それらを用いて卒業論文へと収 束させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	実験態度,作成過程とともに,論文について,研究の背景,実験方法,結果のまとめ方,考察のしかた,オリジナリティー があるかどうかなど,総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては講義内で実施する。
履修条件・注意事項	時間に余裕をもって,計画的に研究を進めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	先行研究を精査し，自身の研究計画と比較しながら，丁寧に研究を行う。また，自身の行った実験結果を確認し,間違いがないかチェックする。自己学習には最低2時間はあてること。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.各自の研究(実験)(1)	橋本翠
第２回	2.各自の研究(実験)(2)	橋本翠
第３回	3.各自の研究(実験)(3)	橋本翠
第４回	4.各自の研究(実験)(4)	橋本翠
第５回	5.各自の研究(実験)(5)	橋本翠
第６回	6.各自の研究(分析)(1)	橋本翠
第７回	7.各自の研究(分析)(2)	橋本翠
第８回	8.各自の研究(分析)(3)	橋本翠
第９回	9.各自の研究(分析)(4)	橋本翠
第１０回	10.各自の研究(分析)(5)	橋本翠
第１１回	11.各自の研究(ディスカッション)(1)	橋本翠
第１２回	12.各自の研究(ディスカッション)(2)	橋本翠

第１３回	13.各自の研究(ディスカッション)(3)	橋本翠
第１４回	14.各自の研究(ディスカッション)(4)	橋本翠
第１５回	15.各自の研究(ディスカッション)(5)	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文を作成することがテーマである。 到達目標は、研究方法、統計的処理の方法、論文のまとめ方を身に付けることである。
授業概要	1.　先行研究の輪読と発表をおこなう。 2.　研究方法や統計的処理の方法を学習する。 3.　研究計画に沿って調査を実施する。 4.　卒業論文のまとめ方を学習し、作成をおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および卒業論文（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の購読をおこない、論文の執筆を進めること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	村上
第２回	進捗状況の発表	村上
第３回	データのまとめ方	村上
第４回	統計的処理の方法	村上
第５回	統計的処理の実施	村上
第６回	調査結果の報告・検討（学生1）	村上
第７回	調査結果の報告・検討（学生2）	村上
第８回	結果のまとめ方	村上
第９回	図表の書き方	村上
第１０回	先行研究との比較	村上
第１１回	考察のまとめ方	村上
第１２回	考察の検討	村上
第１３回	論文の仕上げ	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

Syllabus

心理学部
心理学科

2019～2021 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外	担当者	吉備国際大学未定教員、畝　伊智朗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、

			授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝 山本倫子
第２回	国境とは何か？	畝 山本倫子
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝 山本倫子
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝 山本倫子
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝 山本倫子
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝 山本倫子
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝 山本倫子
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝 山本倫子
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝 山本倫子
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝 山本倫子
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝 山本倫子
第１２回	高齢化社会の課題	畝 山本倫子
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝 山本倫子
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝 山本倫子
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝 山本倫子
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履１・２クラス)	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠

第９回	現代の社会	日笠	
第１０回	報道とマスコミ	日笠	
第１１回	ITと情報社会	日笠	
第１２回	科学と技術	日笠	
第１３回	日本の歴史	日笠	
第１４回	岡山の祭り	日笠	
第１５回	異文化理解	日笠	
第１６回	単位認定試験	日笠	
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履3・4クラス）	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光惠
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠

第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１４回	１４．振り返り	井上光惠
第１５回	１５．総括	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履１・2クラス)	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠

第８回	余暇と娯楽	日笠	
第９回	現代の社会	日笠	
第１０回	報道とマスコミ	日笠	
第１１回	ITと情報社会	日笠	
第１２回	科学と技術	日笠	
第１３回	日本の歴史	日笠	
第１４回	岡山の祭り	日笠	
第１５回	異文化理解	日笠	
第１６回	単位認定試験	日笠	
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）（再履３・４クラス）	担当者	井上　光恵
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵

第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１４回	１４．振り返り	井上光惠
第１５回	１５．総括	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域学概論 心理				担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。
授業概要	順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。
履修条件・注意事項	地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。
オフィスアワー	月曜日4限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 地域創成と何かー吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) 各学科担当教員

第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園 専務理事 各学科担当教員
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	外部講師 各学科担当教員
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	外部講師 各学科担当教員
第５回	「未来につなぐ図書館」としての活動	外部講師 各学科担当教員
第６回	宇治地域住民総働のまちづくり	外部講師 各学科担当教員
第７回	日本遺産「備中吹屋」	外部講師 各学科担当教員
第８回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	各学科担当教員
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	毎回授業用資料をユニパで配信する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	留岡幸助と備中高梁	参・出版社名2	吉備人出版
参・著者名2	倉田 和四生	参・ＩＳＢＮ2	9784860690991

授業科目名	地域貢献ボランティア 心理	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-KE-2-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】 「多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する」ことをテーマとする。 【到達目標】 ①現代社会が抱える多様な課題を心理学の観点から分析出来るようになる。 ②課題解決に必要な手法を習得する。 ③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。 ④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。 ⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力を身につける
授業概要	既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。 具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。 以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題に対する取り組み（40%）とプレゼンテーション（60%）で評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表にはそれぞれフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	留学生（N2合格者以外）については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。
実務経験のある教員	該当する　内容　福祉・教育分野における勤務、実務経験を有する教員が担当をおこなう。
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。
オフィスアワー	木曜日3限（10207研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	村上
第２回	心理学で用いられる研究方法	村上
第３回	文献の検索方法	村上
第４回	グループでのアイスブレイク、テーマ決め	村上
第５回	文献を用いた課題解決①：文献収集	村上
第６回	文献を用いた課題解決②：文献まとめ	村上

第７回	文献を用いた課題解決③：発表材料作成	村上
第８回	文献を用いた課題解決④：成果発表	村上
第９回	調査を用いた課題解決①：テーマ決め	村上
第１０回	調査を用いた課題解決②：質問紙作成	村上
第１１回	調査を用いた課題解決③：データ収集	村上
第１２回	調査を用いた課題解決④：データ処理	村上
第１３回	調査を用いた課題解決⑤：成果まとめ	村上
第１４回	調査を用いた課題解決⑥：発表材料作成	村上
第１５回	調査を用いた課題解決⑦：成果発表	村上
第１６回	まとめ	村上

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	検討中	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 心理			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。
実務経験のある教員	該当する　　内容　第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリ

			アデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各２時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	（藤原）10号館2階の個人研究室にて、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。 また、月曜日2限目は、キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	藤原・若森
第２回	自分を知る・社会を知る：適正検査	外部講師（マイナビ）・藤原・若森
第３回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信・藤原・若森
第４回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原・若森
第５回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部（ラインズ・マイナビ）・藤原・若森
第６回	社会とつながる：対人コミュニケーション	藤原・若森
第７回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原・外部（ボランティアセンター）・若森
第８回	自分を知る・社会を知る：社会人基礎力	若森・藤原
第９回	自分を知る：自分の強みと弱み	若森
第１０回	社会とつながる：対人関係力	若森
第１１回	生き方を考える：これまでの振り返りとライフプラン	若森
第１２回	社会を知る・働き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	若森、外部講師（卒業生）
第１３回	社会を知る・働き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	若森、外部講師（卒業生）
第１４回	自分を知る：基礎学力（２回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	若森
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	若森、藤原

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 留学生（心理）	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CG-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】社会的自立と職業的自立にむけて、自らの生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し実行できるようになるため、日本での生活や大学生活に必要な知識やスキルを身につける。 【到達目標】キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。留学生が大学生活を充実させ、日本の社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）を学びながら、自分自身を知り具体的な目標をもって実行していくことが必要である。 　到達目標として、以下の3点を設定する。 ①日本の社会や地域で生活するために必要な知識やマナーを身につけるとともに、日本の法制度等を理解できる ②自分自身を知り、社会を知ることで自らの将来をイメージし、自身のキャリアをデザインして、大学生活をどのように過ごすか考え実践できる ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、文章理解力を向上させる
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、日本の法律や生活習慣、地域で円滑に生活するために必要な基礎知識について講義を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 　授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートや課題プリントへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行ってコミュニケーション能力や社会人基礎力を高めることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業時間内の活動（40%）、課題プリントや小テスト、キャリアデザインノート等の提出（40%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容、課題プリントや小テストについては、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	「心理学科授業」や「留学生用合同授業」，「他学科合同授業」が実施される教室は、それぞれ異なる。使用する教室は授業の中で説明するので，休まないように。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	配られたプリントの当該箇所を予習しておくこと。講義後には、復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に、予習2時間、復習2時間行うこと。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	ビザビ・ワサビ
第２回	社会を知る：日本の法律、社会におけるルールとマナー	岡崎行政書士
第３回	社会を知る：地域での生活、日常生活の基礎知識	岡崎行政書士

第４回	社会を知る・生き方を考える：大学生活の基礎・大学での学び方	ディスコ
第５回	社会を知る・社会とつながる：日本語を使う・遊ぶ	土居
第６回	自分を知る・社会とつながる：日本語能力・コミュニケーション	土居
第７回	自分を知る・社会とつながる：自己紹介・短文作り	土居
第８回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	ボランティアセンター
第９回	社会とつながる：会話（聞く、話す）	土居
第１０回	社会とつながる：文章理解・問題読解	土居
第１１回	社会とつながる：対人関係・会話力	土居
第１２回	自分を知る：自分の強みと弱み	土居
第１３回	自分を知る・生き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	土居
第１４回	社会を知る・生き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	土居
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	土居
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布，板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ 心理	担当者	橋本　翠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	GE-CG-3-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	自己適性発見力・目標設定力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択し、就活のため、具体的能力を発揮できるようにする。また、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。
授業概要	それぞれに適した進路選択を具体的に行い、就活力を身につけるため、合同授業と、各学科単位での授業の２形態とする。合同授業は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。各学科の学科単位の授業は、それぞれの進路に対しての具体的指導等である。また、キャリアポートフォリオを就活に活かせるように仕上げる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学科・合同授業中ごとに求める課題（80%）と単位認定レポート試験（20%）にて評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは，課題にコメントを入れて対応します。
履修条件・注意事項	毎回、授業内容の復習をし、職業選択と就活の実践および自立に向けて深く考えること。予習・復習の課題がある。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、事前学習を行い授業に参加すること。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(まとめ)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。学習時間は、1日2時間程度とする。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	就職活動準備情報収集　登録	情報サイト
第２回	インターンシップの必要性・申し込み方	シーズ
第３回	自分の傾向を学ぶ	リクナビ
第４回	自己分析・自己PR	ビザビ
第５回	エントリーとは・エントリーシート攻略	マイナビ・ベネッセ
第６回	乗り遅れるなWEB就活	シーズ
第７回	業界・職種を理解する	ディスコ
第８回	業界研究・職業教育	中小企業同友会

第９回	SPI(筆記試験)対策	リクナビ
第１０回	労働関係法規	岡山労働局
第１１回	社会人に必要なマナー	リクナビ
第１２回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	ベネッセ
第１３回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	学情
第１４回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	ビザビ
第１５回	まとめ　内定お礼・内定辞退　お詫び	マイナビ
第１６回	試験	学科

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。適宜，必要に応じて指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ｉ スポ社	担当者	天岡　寛、羽野　真哉
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-IT-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	天岡・羽野
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	天岡・羽野

第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	天岡・羽野
第４回	OSとアプリケーション	天岡・羽野
第５回	ファイルシステム操作	天岡・羽野
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	天岡・羽野
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	天岡・羽野
第８回	表計算ソフト操作	天岡・羽野
第９回	表計算ソフト課題	天岡・羽野
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	天岡・羽野
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	天岡・羽野
第１２回	ネットワークとインターネット	天岡・羽野
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	天岡・羽野
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	天岡・羽野
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	天岡・羽野
第１６回	単位認定試験	天岡・羽野

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ｉ 心理	担当者	村上　勝典、若森　孝彰
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-IT-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	若森：月曜日4時限　　村上：木曜日3時限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	若森・村上
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	若森・村上

第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	若森・村上
第４回	OSとアプリケーション	若森・村上
第５回	ファイルシステム操作	若森・村上
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	若森・村上
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	若森・村上
第８回	表計算ソフト操作	若森・村上
第９回	表計算ソフト課題	若森・村上
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	若森・村上
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	若森・村上
第１２回	ネットワークとインターネット	若森・村上
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	若森・村上
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	若森・村上
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	若森・村上
第１６回	単位認定試験	若森・村上

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11／Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅱ			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50％、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20％として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅱ			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 ２．万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 ３．情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。
授業概要	現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Ⅰの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室）

	秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理・法・慣習	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（１）基本的な用語と枠組み	大谷
第５回	コンピューティングの歴史　コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第６回	コンピューティングの歴史　インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第７回	身近な情報セキュリティ	大谷
第８回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第９回	著作権の基礎	大谷
第１０回	レポート作成の倫理問題	大谷
第１１回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第１２回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第１３回	ポイントカードと個人情報	大谷
第１４回	情報時代のプライバシー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅱ				担当者	今村　俊介		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。
ルーブリック評価	

課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅰ 心理	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使うことができるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１５分前後でよいので毎日自分で声に出して一週あたり９０分程度になるよう英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Ｆの研究室です。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	平見勇雄
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	平見勇雄
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	平見勇雄
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	平見勇雄
第６回	Japan Quiz　　日本クイズに挑戦　WH疑問文	平見勇雄
第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	平見勇雄
第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	平見勇雄
第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了	平見勇雄

第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形		平見勇雄
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現		平見勇雄
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY		平見勇雄
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問		平見勇雄
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞		平見勇雄
第１５回	春学期の試験		平見勇雄
第１６回	春学期の総復習、フィードバック		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅱ 心理	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LE-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でもよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０～１５分でよいので毎日自分で声に出して次の週までに９０分程度、英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Ｆです。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	平見勇雄
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	平見勇雄
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	平見勇雄
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	平見勇雄
第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	平見勇雄
第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	平見勇雄
第８回	Business この大企業の創始者は？　　基本的な前置詞 at on in	平見勇雄
第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if	平見勇雄

第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　　不定詞と動名詞		平見勇雄
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where		平見勇雄
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　　仮定法		平見勇雄
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞		平見勇雄
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法		平見勇雄
第１５回	秋学期の試験		平見勇雄
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅲ	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LE-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 　時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１６回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら２時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも２時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。
オフィスアワー	水曜日の３限　研究室にて（２号館６F）

	授業計画	担当者
第１回	リバプール	平見勇雄
第２回	メンバーの生い立ち　ジョンレノン	平見勇雄
第３回	ポールマッカートニーの生い立ち	平見勇雄
第４回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入	平見勇雄

第５回	メンバー交代　リンゴスター		平見勇雄
第６回	1960年デッカオーディション		平見勇雄
第７回	1962年ビートルズデビュー		平見勇雄
第８回	1964年ビートルマニア		平見勇雄
第９回	エドサリバンショー　アメリカ進出		平見勇雄
第１０回	オーストラリアや各国の状況		平見勇雄
第１１回	映画ア・ハード・ディズ・ナイト		平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　ヘルプ		平見勇雄
第１３回	世界制覇		平見勇雄
第１４回	アルバム　ラバーソール		平見勇雄
第１５回	アルバム　リボルバー　日本公演		平見勇雄
第１６回	筆記試験		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布いたします。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅳ	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LE-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な要点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は１６回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回２～３ページ進む予定ですから訳を書いてくることが最低限の予習です（２時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日１０～２０分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして２時間程度）
オフィスアワー	水曜日の３限、２号館６Ｆの研究室

授業計画		担当者
第１回	春学期の復習	平見勇雄
第２回	日本公演続き	平見勇雄
第３回	レコーディング革命	平見勇雄
第４回	アルバム　サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド	平見勇雄

第５回	世界同時衛星放送　「All you need is love」		平見勇雄
第６回	マネージャー　ブライアンエプスタインの死		平見勇雄
第７回	マジカルミステリーツアー		平見勇雄
第８回	インドでの生活　修行		平見勇雄
第９回	初の２枚組アルバム　通称ホワイトアルバム		平見勇雄
第１０回	ゲットバックプロジェクト		平見勇雄
第１１回	最後のレコーディング　アビーロード		平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　レットイットビー		平見勇雄
第１３回	解散後の４人　ジョンレノン		平見勇雄
第１４回	解散後の４人　ポールマッカートニー		平見勇雄
第１５回	解散後の４人　ジョージハリソンとリンゴスター		平見勇雄
第１６回	筆記試験		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅰ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LF-1-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次
第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次
第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次

第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LF-1-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次
第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次
第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次

第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅲ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LF-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	あいさつ	加藤健次
第２回	発音	加藤健次
第３回	性と数	加藤健次
第４回	前置詞	加藤健次
第５回	規則動詞	加藤健次
第６回	形容詞	加藤健次
第７回	否定形	加藤健次
第８回	命令形	加藤健次
第９回	疑問形	加藤健次
第１０回	副詞	加藤健次

第１１回	疑問副詞		加藤健次
第１２回	疑問代名詞		加藤健次
第１３回	不規則動詞		加藤健次
第１４回	所有形容詞		加藤健次
第１５回	疑問形容詞		加藤健次
第１６回	筆記試験		加藤健次
教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅳ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LF-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてくることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	動詞allerとvenirの活用	加藤健次
第２回	近接未来と近接過去	加藤健次
第３回	命令形、否定表現	加藤健次
第４回	疑問代名詞	加藤健次
第５回	疑問副詞	加藤健次
第６回	指示代名詞	加藤健次
第７回	関係代名詞	加藤健次
第８回	過去分詞	加藤健次
第９回	直説法複合過去	加藤健次
第１０回	補語人称代名詞の語順	加藤健次

第１１回	比較級と最上級		加藤健次
第１２回	非人称構文		加藤健次
第１３回	直説法半過去		加藤健次
第１４回	条件法現在		加藤健次
第１５回	関係副詞と文の構造		加藤健次
第１６回	筆記試験		加藤健次
教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ｉ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LG-1-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ｉ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二
第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二

第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LG-1-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二
第５回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二
第７回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞	清水光二
第８回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形	清水光二

第９回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　過去形		清水光二
第１０回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　現在完了形		清水光二
第１１回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　非人称表現		清水光二
第１２回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　受動態		清水光二
第１３回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　比較表現		清水光二
第１４回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞		清水光二
第１５回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅲ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LG-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	Lektion 0 自己紹介	清水光二
第２回	Lektion 0 挨拶　動詞の現在人称変化	清水光二
第３回	Lektion 1 地理と天候	清水光二
第４回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化	清水光二
第５回	Lektion 2　食生活	清水光二
第６回	Lektion 2　前置詞の格変化	清水光二

第７回	Lektion 3 ドイツ語という言語		清水光二
第８回	Lektion 3 名詞の複数形		清水光二
第９回	Lektion 4　ドイツの大学		清水光二
第１０回	Lektion 4　話法の助動詞		清水光二
第１１回	Lektion 5　祝日と休暇		清水光二
第１２回	Lektion 5　形容詞の格変化		清水光二
第１３回	Lektion 6　ドイツの治安事情		清水光二
第１４回	Lektion 6　比較表現		清水光二
第１５回	Lektion 0 ～ Lektion 6 までの復習		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅳ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LG-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	Lektion 7　教育制度	清水光二
第２回	Lektion 7　分離動詞と非分離動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　政治制度	清水光二
第４回	Lektion 8　受動態	清水光二
第５回	Lektion 9　ドイツの歴史概観	清水光二
第６回	Lektion 9　過去の表現	清水光二

第７回	Lektion 10　音楽の国ドイツ		清水光二
第８回	Lektion 10　副文の語順		清水光二
第９回	Lektion 11　ドイツの宗教事情		清水光二
第１０回	Lektion 11　関係代名詞		清水光二
第１１回	Lektion 12　二つのドイツ		清水光二
第１２回	Lektion 12　分詞の用法		清水光二
第１３回	Lektion 13　EUとドイツ		清水光二
第１４回	Lektion 13　接続法第2式		清水光二
第１５回	Lektion 14　EUとドイツ		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-560-06420-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅰ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LC-1-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	１、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 ２、単母音の発声練習	孫基然
第２回	１、声調発声リズムの復習 ２、単母音の発声復習 ３、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	１、声調発声リズムの復習 ２、単母音の発声復習 ３、複合母音の発声復習 ４、鼻音の発声練習	孫基然
第４回	１、発音の復習 ２、そり舌音の発声練習	孫基然

第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅱ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LC-1-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現 2、連動文	孫基然
第４回	1、時量補語 2、存在表現	孫基然
	1、助動詞「会」と「能」	孫基然

第５回	2、選択疑問文 3、比較表現	
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅲ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LC-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	１、前置詞「对」 ２、名詞前の「的」	孫基然
第２回	１、「有的……有的」の文型 ２、「既……又」の文型	孫基然
第３回	１、「每……都」の文型 ２、動詞、形容詞の前の「地」	孫基然
第４回	「除了……」の文型	孫基然
第５回	「即使……也」の文型	孫基然

第６回	持続を表す「着」	孫基然
第７回	結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第１０回	１、「因為……所以」の文型 ２、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第１１回	「是……的」の文型	孫基然
第１２回	現存文	孫基然
第１３回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第１４回	「一点也不」の文型	孫基然
第１５回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅳ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LC-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	１、「是……的」の文型 ２、様態補語	孫基然
第２回	１、「不知道……才好」の文型 ２、「好像……一様」の文型	孫基然
第３回	疑問詞の不定用法	孫基然
第４回	可能補語「動詞+得了」	孫基然
第５回	１、「無論……都」の文型 ２、「要是……就」の文型	孫基然

第６回	１、動詞後の「給」 ２、受身表現	孫基然
第７回	中間テスト	孫基然
第８回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第９回	１、「不是……就是」の文型 ２、「再也没……過」の文型	孫基然
第１０回	１、「雖然……但是」の文型 ２、「不但……而且」の文型	孫基然
第１１回	１、動量補語 ２、離合詞	孫基然
第１２回	１、「有」の謙語文 ２、使役表現	孫基然
第１３回	１、副詞「就」 ２、副詞「都」	孫基然
第１４回	１、「有」の連動文 ２、「把」の文	孫基然
第１５回	１、「対……来説」の文献 ２、「只有……才」の文型	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履１クラス			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
授業計画			担当者
第１回	オリエンテーション		日笠
第２回	ユニット１		日笠
第３回	ユニット１		日笠
第４回	ユニット２		日笠
第５回	ユニット２		日笠
第６回	ユニット３		日笠
第７回	ユニット３		日笠
第８回	中間テスト		日笠
第９回	ユニット４		日笠
第１０回	ユニット４		日笠
第１１回	ユニット５		日笠
第１２回	ユニット５		日笠
第１３回	ユニット６		日笠
第１４回	ユニット６		日笠
第１５回	総復習		日笠
第１６回	単位認定試験		日笠
教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ １クラス	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ２クラス	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第３回	３．第25課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第５回	５．第28課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第７回	７．第31課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第９回	９．第34課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第１１回	１１．第37課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光惠
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光惠
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光惠
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履２クラス	担当者	福本　苗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現	福本苗

第４回	助詞の働きをする言葉① （場面・時点・手段・原因を示す表現）	福本苗
第５回	助詞の働きをする言葉② （添加・判断・評価を示す表現）	福本苗
第６回	主に文末に使われる言葉	福本苗
第７回	文章の文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	基本文法の復習	福本苗
第１３回	接続の言葉	福本苗
第１４回	敬語・丁寧な言い方	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履３クラス			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	文末に使われる表現	福本苗

第３回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第４回	例を挙げて示す表現	福本苗
第５回	原因・理由を表す表現	福本苗
第６回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第７回	「もの」を使った表現	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第１３回	付加を表す表現	福本苗
第１４回	基本文法の復習	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履クラス4	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)	
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)	
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)	
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)	
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)	
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)	
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)	
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)	
第１３回	動詞①	大下(朋)	
第１４回	動詞②	大下(朋)	
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)	
教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ＩＢ（1クラス）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（２クラス）			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習	

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第３回	３．第25課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第５回	５．第28課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第７回	７．第31課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第９回	９．第34課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第１１回	１１．第37課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光惠
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光惠
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光惠
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス１	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠

第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス２	担当者	福本　苗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	いろいろな働きをする助詞	福本苗
第３回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉	福本苗
第４回	複合語として使われる言葉	福本苗

第５回	文章の文法	福本苗
第６回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	基本文法の復習	福本苗
第１１回	決まった使い方の副詞	福本苗
第１２回	仮定・逆説の表現	福本苗
第１３回	原因・理由を表す表現	福本苗
第１４回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策Ｎ2文法総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス３	担当者	福本　苗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	くり返しを表す表現	福本苗
第４回	進行状態を示す表現	福本苗

第５回	相関関係を示す表現	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	比較を表す表現	福本苗
第１１回	対象を表す表現	福本苗
第１２回	仮定を表す表現	福本苗
第１３回	「から」が付く表現	福本苗
第１４回	評価・判断を示す表現	福本苗
第１５回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス４	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)	
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)	
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)	
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)	
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)	
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)	
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)	
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)	
第１３回	動詞①	大下(朋)	
第１４回	動詞②	大下(朋)	
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)	
教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ⅡＡ １・２クラス	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-003

必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	１課 時間関係	大下 朋子
第３回	２課 範囲の始まり・限度	大下 朋子
第４回	３課 限定・非限定・付加	大下 朋子
第５回	４課 例示	大下 朋子
第６回	５課 関連・無関係	大下 朋子
第７回	６課 様子	大下 朋子
第８回	【中間テスト】１～６課／中間テストの解説	大下 朋子
第９回	７課 付随行動	大下 朋子
第１０回	８課 逆接	大下 朋子
第１１回	９課 条件	大下 朋子
第１２回	10課 逆接条件	大下 朋子
第１３回	11課 目的・手段	大下 朋子
第１４回	12課 原因・理由	大下 朋子

第１５回	13課　可能・不可能・禁止		大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		大下 朋子
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡB	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-004

必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	14課　話題・評価の基準	大下 朋子
第３回	15課　比較対照	大下 朋子
第４回	16課　結末・最終の状態	大下 朋子
第５回	17課　強調	大下 朋子
第６回	18課　主張・断定	大下 朋子
第７回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説	大下 朋子
第８回	19課　評価・感想	大下 朋子
第９回	20課　心情・強制的思い	大下 朋子
第１０回	A　動詞の意味に着目-1	大下 朋子
第１１回	B　動詞の意味に着目-2	大下 朋子
第１２回	C　古い言葉を使った言い方	大下 朋子
第１３回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方	大下 朋子
第１４回	E　二つの言葉を組にする言い方	大下 朋子

第１５回	F　助詞・複合助詞		大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		大下 朋子
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履１クラス	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ １クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験N２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、

の時間	授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4

参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＡ２クラス	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＡ、応用日本語ＩＡ、日本語研究ＩＡ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1.２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履２クラス	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～3ラスに編成される。履修登録は教務課で一括で登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問	小西真弓

	文字・語彙：漢字読み、表記	
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス３	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第２課　語彙・本文１、プリント	久保田
第３回	第２課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第４課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第４課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第６課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第６課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第８課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第８課　本文2・文法	久保田
第１３回	第１０課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第１０課　本文2・文法	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス４			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ（1クラス）	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験N２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて	
	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版

参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＢ（２クラス）	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＡ、応用日本語ＩＡ、日本語研究ＩＡ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1.２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス１			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス２	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス3	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第1課　語彙・本文１-2、プリント	久保田
第３回	第3課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第3課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第5課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第5課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第7課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	第7課、Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第9課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第9課　本文2・文法	久保田
第１３回	第11課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第11課　本文2・文法	久保田
第１５回	第13課、総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス４			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ⅡA	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-007

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
	統合理解問題	

第６回	情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	応用日本語ⅡB	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-008

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする.。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
	日本語能力試験対策	

第６回	模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ＩＡ再履クラス１	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必

	要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第１４回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習⑥	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第１回、第２回模擬試験問題	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ２聴解　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-057-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ２クラス	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ 、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ １クラス				担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	2．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	3．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	4．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	5．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	6．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	7．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	8．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	9．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス２	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50％)、小テスト(30％)、学習意欲・態度(20％)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	2．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	3．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	4．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	5．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	6．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	7．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	8．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	9．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ再履クラス３	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）		雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説		雲津 英子
第７回	課題理解５～９		雲津 英子
第８回	課題理解10～13		雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16		雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20		雲津 英子
第１１回	概要理解21～24		雲津 英子
第１２回	概要理解25～28		雲津 英子
第１３回	即時応答29～46		雲津 英子
第１４回	統合理解47～49		雲津 英子
第１５回	統合理解50～52		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ再履クラス４							担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年							ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限					
ディプロマポリシー対応項目											
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎				
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目					
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう										
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。										
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。										
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）										
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。										
ルーブリック評価											
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。										
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。										
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生への日本語教育								
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。										

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ＩＢ（1クラス）				担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ（2クラス）	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ 、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス１	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（文法）、応用日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（読解）、日本語研究ＩＢ/日本語ＩＢ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	文法確認演習、聴解テキスト学習　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習　第１章４，５	磯
第５回	聴解テキスト学習　第２章１，２	磯
第６回	聴解テキスト学習　第２章３，４	磯
第７回	聴解テキスト学習　第２章５，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　第３章１，２	磯
第１１回	聴解テキスト学習　第３章３，４	磯
第１２回	聴解テキスト学習　第３章５　第４章１	磯
第１３回	聴解テキスト学習　第４章２，３	磯
第１４回	聴解テキスト学習　第４章４，５	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第５章	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験　日本語総まとめＮ２　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス２	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	2．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	3．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	4．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	5．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	6．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	7．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	8．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	9．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス３	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）		雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説		雲津 英子
第７回	課題理解５～９		雲津 英子
第８回	課題理解10～13		雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16		雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20		雲津 英子
第１１回	概要理解21～24		雲津 英子
第１２回	概要理解25～28		雲津 英子
第１３回	即時応答29～46		雲津 英子
第１４回	統合理解47～49		雲津 英子
第１５回	統合理解50～52		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス４				担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　内容　留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅡＡ１・２クラス	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-011

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①　練習問題１～５	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　練習問題６～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①　練習問題１～６	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　練習問題７～14　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①　練習問題１～６	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　練習問題７～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯

第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習		磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　敬語表現、文末否定、慣用表現		磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②　練習問題１～８　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④		磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　練習問題９～20　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤		磯
第１３回	聴解テキスト学習　即時応答④　練習問題21～30　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑥		磯
第１４回	聴解テキスト学習　統合理解①　統合理解とは　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦		磯
第１５回	聴解テキスト学習　統合理解②　練習問題１～６		磯
第１６回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名１	絶対合格！日本語能力試験　徹底トレーニングＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	松岡龍美	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-776-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ⅡB	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-012

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法確認演習	磯
第２回	Ｎ３、Ｎ２レベル文字・語彙確認演習　　聴解テキスト学習①　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習②　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習③　第１章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第５回	聴解テキスト学習④　第２章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習⑤　第２章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第７回	聴解テキスト学習⑥　第２章5，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯

第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習		磯
第１０回	聴解テキスト学習⑦　第３章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④		磯
第１１回	聴解テキスト学習⑧　第３章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤		磯
第１２回	聴解テキスト学習⑨　第３章５　第４章１　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤		磯
第１３回	聴解テキスト学習⑩　第４章２，３　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦		磯
第１４回	聴解テキスト学習⑪　第４章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑧		磯
第１５回	聴解テキスト学習⑫　第５章　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑨		磯
第１６回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験対策　日本語総まとめＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-791-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子

第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子	
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子	
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子	
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子	
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子	
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子	
第１３回	コロケーション	雲津 英子	
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子	
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子	
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子

第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子	
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子	
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子	
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子	
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子	
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子	
第１３回	コロケーション	雲津 英子	
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子	
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子	
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文学への招待	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしようとする態度を身につけることを到達目標とする。
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は，大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，図書館の利用方法など，学生の読書活動，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	文学とはなにか	雲津 英子
第２回	図書館活用方法の理解	雲津 英子
第３回	図書館活用の実践	雲津 英子
第４回	日本文学史（１）-上代文学	雲津 英子
第５回	日本文学史（２）-中古文学	雲津 英子
第６回	日本文学史（３）-中世文学	雲津 英子
第７回	日本文学史（４）-近世文学	雲津 英子

第８回	日本文学史（５）-近代文学		雲津 英子
第９回	日本文学史（６）-現代文学		雲津 英子
第１０回	夏目漱石・森鴎外・泉鏡花の作品（討論）		雲津 英子
第１１回	芥川龍之介の作品（討論）		雲津 英子
第１２回	宮沢賢治の作品（討論）		雲津 英子
第１３回	小林多喜二・太宰治の作品		雲津 英子
第１４回	詩・俳句・短歌（討論）		雲津 英子
第１５回	まとめ		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本文学概論	参・出版社名１	財団法人　放送大学教育振興会
参・著者名１	島内裕子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-595-31342-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	美術の見方	担当者	前嶋　英輝
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家
事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	２号館６階の前嶋研究室において、毎週月曜日５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝

第２回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第３回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第４回	古代オリエント	前嶋英輝
第５回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第６回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第７回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第８回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第９回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第１０回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第１１回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第１２回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第１３回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第１４回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第１５回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第１６回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名１	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名１	平凡社
参・著者名１	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ１	978-4582206371
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・子ども・アニメ	担当者	羽野　真哉
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容30％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返遷	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野
第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス	羽野
第５回	スポーツの技術	羽野
第６回	体力について	羽野
第７回	心とスポーツ	羽野

第８回	発育・発達とスポーツ	羽野	
第９回	現代社会とスポーツ	羽野	
第１０回	スポーツの上達法	羽野	
第１１回	健康のためのスポーツ	羽野	
第１２回	スポーツと教育	羽野	
第１３回	スポーツと経済	羽野	
第１４回	スポーツ動作の分析	羽野	
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ	羽野	
第１６回	試験	筆記試験	
教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ実習 （アニメ・心理・経社）	担当者	天岡　寛
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-006

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は実習通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわり、たくさんプレーすることによって高めることができる。 ☒
授業概要	球技（バスケットボール、フットサル、卓球、バトミントン）を通してルールを守り、仲間と助けあうことを体感する。 気軽にできる体幹トレーニングにより、基礎筋力、全身コーディネーションを高める。 ストレッチを学び、怪我予防を学ぶことができる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	受講態度（50%）及び理解度（50%） 全力で取り組み、技術習得に努めてたか。 仲間と協力して、目的にむかってプレーしているか。 授業のマナー・ルールを守っているか。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために競技のルール等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	体育館シューズを準備。 運動できる服装の準備（ジーンズ等は認めない） 水分（水、スポーツ飲料、お茶）の準備 競技に関する競技規則等について、復習及び指示された予習を行うこと.
実務経験のある教員	該当する　内容　健康運動指導士
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからスポーツや健康に興味関心を持つこと.
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	天岡
第２回	卓球	天岡
第３回	卓球	天岡
第４回	バスケットボール	天岡
第５回	バスケットボール	天岡

第６回	フットサル	天岡
第７回	フットサル	天岡
第８回	バトミントン	天岡
第９回	バトミントン	天岡
第１０回	器具を使用しての筋力トレーニング	天岡
第１１回	器具を使用しての筋力トレーニング　２	天岡
第１２回	自体重でできる筋力トレーニング	天岡
第１３回	自体重でできる筋力トレーニング　２	天岡
第１４回	フットサル　ゲーム１	天岡
第１５回	フットサル　ゲーム２	天岡
第１６回	単位認定試験	天岡

教科書			
教・書籍名１	実習科目につき教科書は使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する.	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本

第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本

第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	宗教学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ	山本
第２回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教	山本
第３回	文明誕生：メソポタミア	山本
第４回	エジプト文明	山本
第５回	古代ギリシャ文明	山本
第６回	ユダヤ教の成立	山本
第７回	ヘレニズム期の宗教	山本
第８回	キリスト教の成立と展開	山本
第９回	ローマカトリック	山本
第１０回	初期のイスラーム	山本
第１１回	宗教改革とその後	山本
第１２回	日本宗教史：古代・中世・近世	山本
第１３回	現代日本の宗教事情	山本
第１４回	現代世界の宗教事情	山本

第１５回	総括	山本	
第１６回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	倫理学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持て余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』を一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホッブズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。　また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	「好きなこと」とは？	山本
第２回	パスカルとニーチェの退屈論	山本
第３回	暇と退屈の原理論	山本
第４回	定住革命について	山本
第５回	暇と退屈の系譜学	山本
第６回	暇と退屈の経済史	山本
第７回	ホッブズ、ルソー、マルクス	山本
第８回	暇と退屈の疎外論	山本
第９回	暇と退屈の哲学	山本
第１０回	環世界論	山本
第１１回	暇と退屈の人間学	山本
第１２回	ハイデッガー	山本
第１３回	暇と退屈の倫理学	山本
第１４回	スピノザ	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	暇と退屈の倫理学	教・出版社名１	太田出版
教・著者名１	國分功一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7783-1437-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学 （経営・スポ・心理）	担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居
第７回	(7) 心理検査について	土居
第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮

第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	多文化理解	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二

第１６回	単位認定試験		末吉秀二
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二

第１６回	単位認定試験		末吉秀二
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法				担当者	入江　祥子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。
実務経験のある教員	該当する　　内容　司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる

	こと。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江　祥子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。
実務経験のある教員	該当する　内容　司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる

	こと。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	民法	担当者	生駒　正文
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。 具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。
授業概要	我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。 本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	試験７０％　授業態度・意欲・小テスト３０％の評価
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと
実務経験のある教員	該当する　内容　大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（２０年）
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	１２：３０から１３：２０　１４号館６階（生駒研究室）

	授業計画	担当者
第１回	（１）民法学の基礎知識（総則）　①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力	生駒正文
第２回	（２）民法学の基礎知識（総則）②制限行為能力者制度	生駒正文
第３回	（３）民法学の基礎知識（総則）③法人とは、物とは	生駒正文
第４回	（４）民法学の基礎知識（総則）④意思表示	生駒正文
第５回	（５）民法学の基礎知識（総則）⑤代理、時効	生駒正文
第６回	（６）民法学の基礎知識（財産法）⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義	生駒正文
第７回	（７）民法学の基礎知識　⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）	生駒正文
第８回	（８）民法学の基礎知識（財産法）　⑧即時取得、担保とは何か	生駒正文
第９回	（９）民法学の基礎知識（財産法）⑨一般的な不法行為	生駒正文
第１０回	（１０）民法学の基礎知識（財産法）　⑩特殊的な不法行為　賃貸借	生駒正文
第１１回	（１１）（３）家族法の基礎知識　⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚	生駒正文
第１２回	（１２）家族法の基礎知識　⑫親子関係、親権、相続	生駒正文
第１３回	（１３）家族法の基礎知識　⑬遺言	生駒正文

第１４回	（１４）家族法の基礎知識　⑭遺留分		生駒正文
第１５回	（１５）その他　⑮割賦販売、訪問販売		生駒正文
第１６回	（１６）定期試験		生駒正文
教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８２３－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学	担当者	張　秉煥
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

	授業計画	担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書

教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学	担当者	張　秉煥
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書

教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学	担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

	授業計画	担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮
第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元

第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学	担当者	赤坂　真人
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂
第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂
第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。 3.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因	赤坂

第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わりと没落。	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

	授業計画	担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一
第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一

第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

	授業計画	担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一
第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一

第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	物理学	担当者	藤原　智子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：物理学の１分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。 到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどういうことかを理解する。
授業概要	太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけではなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各１時間の学修が望ましい。
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。

	授業計画	担当者
第１回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー	藤原智子
第２回	宇宙観の変遷	藤原智子
第３回	星と文化①　星座と星物語	藤原智子
第４回	星と文化②　暦の成立	藤原智子
第５回	天体の記録と基礎データ①　天体の位置、明るさ、距離	藤原智子
第６回	天体の記録と基礎データ②　光のスペクトル	藤原智子
第７回	観測装置の発展①　光学・電波望遠鏡	藤原智子
第８回	観測装置の発展②　人工衛星・探査機	藤原智子
第９回	人工衛星・ロケットの仕組み	藤原智子
第１０回	宇宙の環境問題	藤原智子
第１１回	太陽系の素顔①　太陽系の天体	藤原智子
第１２回	太陽系の素顔②　太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星	藤原智子
第１３回	恒星の誕生と死	藤原智子

第１４回	私たちの起源と未来	藤原智子
第１５回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第１６回	レポート試験	藤原智子

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学	担当者	香田　康年
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ

	れてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 　授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 　復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 　過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学	担当者	香田　康年
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ

	れてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 　授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 　復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 　過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学				担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

	授業計画	担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一

第５回	化学反応、結合		秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）		秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）		秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）		秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）		秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類		秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類		秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類		秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）		秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）		秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画		担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一

第５回	化学反応、結合		秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）		秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）		秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）		秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）		秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類		秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類		秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類		秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）		秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）		秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人類生態学	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレークダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80%）、小テスト（10%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	生態系と人類の特性	末吉秀二
第３回	人類の起源と進化	末吉秀二
第４回	生存様式の変化と多様性	末吉秀二
第５回	生業と社会	末吉秀二
第６回	身体とその機能	末吉秀二
第７回	行動の生態学	末吉秀二
第８回	栄養と健康	末吉秀二
第９回	病気の生態学	末吉秀二
第１０回	長期的な人口変化	末吉秀二
第１１回	人口指標と集団の適応	末吉秀二
第１２回	現代の人口問題	末吉秀二
第１３回	エネルギーと資源	末吉秀二
第１４回	ライフスタイルと環境	末吉秀二
第１５回	地球環境問題と人類	末吉秀二
第１６回	試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１	人類生態学	教・出版社名１	東京大学出版会
教・著者名１	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか	教・ＩＳＢＮ１	4-13-052300-7
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-007

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

	授業計画	担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本

第１４回	判断推理：論証		山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面		山本
第１６回	単位認定試験		山本
教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-007

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

	授業計画	担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本

第１４回	判断推理：論証		山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面		山本
第１６回	単位認定試験		山本
教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	韓国地域社会	担当者	李　分一
配当学科・研究科	2017～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	SS-BU-2-305

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（1）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （2）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（1）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （2）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	韓国という国	李　分一

第３回	韓国の歴史（民族と国家）	李　分一
第４回	韓国民主主義の位相と行方	李　分一
第５回	韓国民主主義の制約	李　分一
第６回	解放前の要因	李　分一
第７回	解放後の要因	李　分一
第８回	韓国の権威主義体制	李　分一
第９回	民主化・人権擁護運動	李　分一
第１０回	1980年代の韓国	李　分一
第１１回	1980年代の政治体制	李　分一
第１２回	190年代の民主化運動	李　分一
第１３回	1990年代の民主化運動	李　分一
第１４回	韓国政治社会の新潮流	李　分一
第１５回	韓国の民主主義と市民社会	李　分一
第１６回	単位認定試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会スポーツ概論	担当者	高藤　順
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年	ナンバリング	SS-SM-4-105

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	学生が、「社会スポーツの概念」及び「社会制度としての社会スポーツの実態」をテーマとし、それらについて地域のスポーツ指導者になるために必要な知識を習得するとともに、指導者としての能力をスポーツ指導現場において発揮できる。
授業概要	現在スポーツは、特に先進諸国においては人々の社会生活の一部となり、きわめて高度に整備され機能している。しかしながら、学校体育や企業スポーツを中心にスポーツが普及・発展してきたわが国の社会スポーツは、1993年日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）開幕以降、文部科学省や日本体育協会、スポーツ競技団体を中心にようやく発展しつつある現状である。また、バブル経済の崩壊、リーマンショック以降、企業クラブが休・廃部が増加する一方、地域・市民を中心とした総合型地域スポーツクラブも増加傾向にある。本講義では、スポーツと社会に関わる様々なしくみや課題及び今後の展望を解説する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（40%）中間レポート（30%）毎回授業終了後のプレゼンテーション（20%）受講姿勢（10%）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業終了後の小レポート内容とともに自分なりの考察を毎回授業後、ノートにまとめておくこと。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業終了後、毎回2時間程度授業内容を必ず復習し、次回のテーマについて予習すること。
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	社会スポーツの概念	高藤
第２回	学校体育との相違点	高藤
第３回	日本における社会スポーツ発展の歴史	高藤
第４回	アメリカにおける社会スポーツ発展の歴史	高藤
第５回	ヨーロッパにおける社会スポーツ発展の歴史	高藤
第６回	日本における社会スポーツの現状	高藤
第７回	社会スポーツ発展のための行政支援	高藤
第８回	社会スポーツ発展のための企業支援	高藤
第９回	FC吉備国際大学シャルムの実践を通した地域貢献活動	高藤
第１０回	地域スポーツクラブ活動の現状と課題	高藤
第１１回	社会スポーツ発展のための地域住民とのタイアップ	高藤
第１２回	民間スポーツクラブの現状と課題	高藤
第１３回	プロスポーツの社会スポーツへの貢献と課題	高藤

第１４回	スポーツを通したまちづくり（地域スポーツクラブ）	高藤	
第１５回	スポーツを通したまちづくり（トップリーグクラブ）	高藤	
第１６回	単位認定試験	高藤	
教科書			
教・書籍名１	スポーツのリスクマネジメント	教・出版社名１	ぎょうせい
教・著者名１	小笠原正・諏訪伸夫　編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-08838-8
教・書籍名２	スポーツ政策の現代的課題	教・出版社名2	日本評論社
教・著者名2	諏訪伸夫・井上洋一・齋藤健司・出雲輝彦　編	教・ＩＳＢＮ2	978-4-535-59514-0
参考書			
参・書籍名１	使用しない。（プリントを配布する）	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経絡鍼灸学	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年	ナンバリング	SS-SM-2-324

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ： １：経絡とは何かを理解できるようになる。 ２：正しい鍼灸治療を身につけることができる。 到達目標： １：経絡の意義を説明できるようになる。 ２：経絡の走行ルートを理解できるようになる。 ３：鍼の刺し方を身につけることができる。 ４：艾柱の作り方をできるようになる。
授業概要	「経絡学説」は東洋医学における最も重要な生理学の一環であると同時に、臨床各科治療の基礎でもある。本講義ではまず経絡の起源に関わる背景を紹介し、その後「十二正経」を講義する。その中で主に経絡の循行部位、生理機能、病理特徴および分布特徴、相関部位及び代表経穴の取り方を中心として行われる。更に現代医学を併せてそれに関わっている筋肉、神経及び血管などを中心としている。「鍼灸学」について主に鍼の刺し方、灸療法のすえ方、適応症、注意事項及び鍼灸治療のメカニズム、また、中国の鍼灸状況を解説する。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「経絡の意義、走行ルート、鍼の刺し方及び艾柱の作り方をできるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（５０％）、講義ノート（３０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（２０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくること。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	２）６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	肺経・大腸経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第２回	胃経・脾経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第３回	心経・小腸経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第４回	腎経・膀胱経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第５回	心包経・三焦経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第６回	胆経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第７回	肝経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然

第８回	鍼灸概説	孫基然
第９回	片手挿管	孫基然
第１０回	鍼に関する一般知識	孫基然
第１１回	鍼治療の適応症	孫基然
第１２回	刺鍼手技法	孫基然
第１３回	灸療法概説	孫基然
第１４回	灸療法の実際	孫基然
第１５回	鍼灸理論	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ	担当者	中瀬　克己
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年	ナンバリング	HS-NU-1-116

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。 到達目標：個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程に関わる主要な要因について学び、健康課題を評価する基本的な能力を養う。
授業概要	人を取り巻く社会・文化的、物理・化学・生物学的環境が人のライフスタイル・行動や健康に与える影響と仕組み、それをコントロールするため設けられている公衆衛生を担う機関やその働きの基礎を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	期末の試験（５０％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（５０％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、個別の評価にも反映させる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時にフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。
履修条件・注意事項	プリントを配布し、理解を助けるための演習も行うので、初回授業よりファイルを用意し整理して保存すること。期末試験時にはファイルを元に復習すると効率的である。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要とされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、教科書は体系的で簡潔に纏められ確認や整理に有用であり、授業内容の背景理解にはテキスト、参考資料などで補うことを勧める。
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	社会と健康	中瀬克己
第２回	食のイメージマッピング	中瀬克己
第３回	公衆衛生を担う機関	中瀬克己
第４回	行動経済学	中瀬克己
第５回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション	中瀬克己
第６回	環境保健	中瀬克己
第７回	医療政策	中瀬克己
第８回	レポート発表、グループワーク	中瀬克己
第９回	定期試験	中瀬克己
第１０回		

第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			
第１５回			
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	公衆衛生―健康支援と社会保 制度〈2〉14版 （ただし、新たな版が出版されたら新しいものとする）	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	神馬征峰ら	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03574-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名１	メディックメディア
参・著者名１	医療情報科学研究所(編)	参・ＩＳＢＮ１	4896328582、978-4896328585
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	看護学概論	担当者	掛谷　益子、澤田　和子
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年	ナンバリング	HS-NU-1-201

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	〈テーマ〉看護とは何かを理解するための基盤となる看護の主な概念を学び、看護の対象となるその人とその生活を理解する。そして、看護を実践するための場と仕組みおよび看護専門職の役割や機能を学習する。 〈到達目標〉 1. 看護の機能と役割、看護の構成要素を理解できる。 2. 看護の対象とある人とその生活を理解できる。 3. 看護活動を実践するために必要な法律について理解できる
授業概要	看護を志す初学者として、看護の核となる概念である人間、健康、環境について基本的捉えかたを学び、看護の対象や看護の役割について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	筆記試験（70%）課題レポート（20%）受講態度（10%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	看護とは何かが考えられるように主体的に学習に取り組む。 日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュース報道に関心をもち、視野を広げておく。 授業終了後は課題レポートを期限厳守で提出する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床での実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習：授業において問題提起と討論が可能なように教科書の該当ページを熟読しておくこと。 復習：授業終了後に授業内容を再確認する。
オフィスアワー	研究室にて平日昼休憩(12:40～13:30)に実施する。

授業計画		担当者
第１回	看護とは　看護の概念	掛谷
第２回	看護の役割と機能	掛谷
第３回	看護の対象の理解　人間のこころ・からだ・発達	澤田
第４回	看護の対象の理解　地域での暮らし	澤田
第５回	健康とは	掛谷
第６回	ライフサイクルと健康・生活	澤田
第７回	看護の歴史	掛谷
第８回	看護職のキャリア	掛谷
第９回	看護における倫理　現代社会と職業倫理	掛谷
第１０回	看護における倫理　看護実践における倫理的問題	掛谷

第１１回	看護サービスの提供	掛谷	
第１２回	国際化と看護	澤田	
第１３回	看護をめぐる制度と政策	掛谷	
第１４回	災害時における看護	澤田	
第１５回	私の看護観	掛谷・澤田	
第１６回	試験	掛谷・澤田	
教科書			
教・書籍名１	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　　基礎看護学①　看護学概論　医学書院	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動学Ⅰ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	HS-PT-1-108

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	ヒトの身体運動に関する基本的な知識を学修する。主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。 学生は、１）身体運動に関する基礎的な知識を理解する、２）運動器の構造と機能を理解する、３）上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して理解を深め、基本事項を記憶できることを到達目標とする。
授業概要	運動学は理学療法士の最も基本的な学問であり、また臨床の理学療法士が治療場面で応用する学問である。授業ではその中で主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。参加型学習における授業であるが、運動学の基本事項についてより理解度を深めるために課題を与え、グループ討論も取り入れた授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	参加型学習における授業への積極的参加態度（30%）、知識修得程度を確認するための試験（60%）、自ら調べまとめる能力を確認するための授業ノート（10%）で評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習すること。 ３）初回の授業では、今後の授業にて学修する全体像を説明するため必ず出席すること。 ４）隔週で行う小テストや定期試験は必ず行うため、授業に出席していただけでは単位は取れない。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員がその経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。指示に従って必ずノートを作成し復習すること。試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位はとれないため、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	上肢帯の運動と構造	井上茂樹
第２回	上肢の運動と構造 肩関節（1）	井上茂樹
第３回	上肢の運動と構造 肘関節（2）	井上茂樹
第４回	上肢の運動と構造 手関節（3）	井上茂樹
第５回	上肢の運動と構造手指（4）	井上茂樹

第６回	運動と動作の分析（1）	井上茂樹
第７回	運動と動作の分析（2）	井上茂樹
第８回	体力と運動処方（1）	井上茂樹
第９回	体力と運動処方（2）	井上茂樹
第１０回	姿勢（1）	井上茂樹
第１１回	姿勢（2）	井上茂樹
第１２回	姿勢（3）	井上茂樹
第１３回	歩行と走行（1）	井上茂樹
第１４回	歩行と走行（2）	井上茂樹
第１５回	歩行と走行（3）	井上茂樹
第１６回	単位認定試験	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	基礎運動学　第6版　補訂	教・出版社名１	医歯薬出版
教・著者名１	中村隆一、齋藤　宏、長崎　浩	教・ＩＳＢＮ１	978-4-263-21153-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業療法概論 （オムニバス）	担当者	岩田　美幸、三宅　優紀、狩長　弘親、山本　倫子、京極　真、寺岡　睦
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	HS-OT-1-201

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 学生は、将来、作業療法士として従事することを目指し、保健・医療・福祉、あるいは新しく開拓される領域での作業療法の役割を多様な観点で捉えることができる。 【到達目標】 学生は、作業療法の専門性と独自性を明確に理解できることを目標とする。
授業概要	作業的存在としての人と作業療法の役割を理解するために、作業のイメージを明確にし、各領域における作業療法の実践過程を理解する。また、作業療法の歴史的背景と実践理論の概要を学び、根拠に基づく実践の重要性と今後の作業療法への展望について検討する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度（50%）、単位認定レポート試験（50%）の結果で総合評価する。 なお、単位認定レポート試験は採点結果を返却し、模範解答を掲示する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内で課題や試験のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループワークや発表時に欠席した場合は成績評価に大きく影響するため、必ず担当教員に連絡すること。 日常生活の中で人（自分自身も含む）と作業の関係について洞察を深めること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、作業療法士としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業を確実に理解できるように教員が指定する内容を必ず1時間以上予習し、主体的に参加すること。また、授業後は重要な事項を必ず1時間以上復習しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限（15：10～16：40）、6428研究室 ※他教員のオフィスアワーは別途確認

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション，作業とは何か	京極
第２回	作業療法の対象，Enabling occupation	岩田
第３回	身体障害領域の作業療法	寺岡
第４回	精神障害領域の作業療法	山本
第５回	高齢者・認知症の作業療法	岩田
第６回	作業療法の歴史（起源）	京極
第７回	作業療法の歴史（パラダイムシフト）	京極
第８回	作業療法の実践理論（OBP2.0、MOHO）	寺岡
第９回	作業療法の実践理論（CMOP-E・OTIPM）	寺岡
第１０回	高次脳機能障害領域の作業療法	狩長

第１１回	発達障害領域の作業療法	外部講師	
第１２回	生活行為向上マネジメント	狩長	
第１３回	作業療法における研究の重要性	三宅	
第１４回	予防領域の作業療法	三宅	
第１５回	作業療法を取り巻く状況、まとめ	狩長	
第１６回	試験	京極	
教科書			
教・書籍名１	作業療法学概論 第3版（標準作業療法学専門分野）	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	二木淑子・能登真一	教・ＩＳＢＮ１	978-4260025355
教・書籍名２	「作業」って何だろう－作業科学入門 第2版	教・出版社名2	医歯薬出版
教・著者名2	吉川ひろみ	教・ＩＳＢＮ2	978-4263216675
参考書			
参・書籍名１	基礎作業学 第3版（標準作業療法学専門分野）	参・出版社名１	医学書院
参・著者名１	濱口豊太	参・ＩＳＢＮ１	978-4260030557
参・書籍名２	作業療法士になろう！	参・出版社名2	青弓社
参・著者名2	齋藤さわ子	参・ＩＳＢＮ2	978-4787210531

授業科目名	人間と作業	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	HS-OT-1-217

必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義、AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：学生は，作業療法士が主とする「作業」が健康と幸福に与える影響を理解できる 到達目標：学生は，講義とアクティブラーニングを通して，作業が人間の健康と幸福に与える影響を理解できる
授業概要	作業とは，人間が経験すること全てである． 作業療法士になるためにはこの作業を理解し，作業療法という方法を使ってクライエントへ介入を行う必要がある． そのためには作業がもつ力を理解し，健康と幸福に近づく作業の使い方を教えたり，やり方を変更したり，自身で運用できるようになることが求められる． 作業は経験である以上，どのような経験を積むかによって将来の健康と幸福が変化する． 質の悪い経験＝作業機能障害を積み重ねると人の健康と幸福は阻害される． しかし質の良い経験＝作業機能状態を積み重ねると人の健康と幸福は促進される． この科目では，健康と幸福に特に良い影響を与える作業を学生に紹介し，実際に体験する時間を設けることでその影響や効果を理解し，解釈出来るように構成している． この科目は，作業科学を研究し，臨床現場で実践していた者が講義を行う．人間が行う作業が健康と幸福に関連する基礎知識に加え，臨床現場での活用方法なども講義し学生の理解を深める． ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が，その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	試験60％，提出物20％，授業への態度20％で評価する．なお，提出物へのフィードバックは授業内で行う．
ルーブリック評価	本科目ではルーブリック評価を用いる。 /uprx/sagyou.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題提出のフィードバックは書面上、もしくは授業時間内に行う。 試験のフィードバックは提出された問題用紙の返却をもって行う。
履修条件・注意事項	授業の復習をきちんと行うこと 講義内で出た課題には取り組むこと
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習はシラバスについて記載されているテーマについて教科書を読み，事前にインターネットなどを活用し調べておくこと． 予習の時間は1時間程度とする． 講義終了時に，作業を習得して効果を体験してもらうために課題を毎回出すので必ず行うこと．

	課題は３０分～1時間程度で行える内容で提供する．課題は次回の講義前までに提出すること．
オフィスアワー	授業終了後，教室で行う．それ以外は月曜か金曜に6430研究室で対応する

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	寺岡
第２回	作業と健康と幸福の関係性	寺岡
第３回	意志力と作業、演習、課題発表	寺岡
第４回	疲労と作業、演習、課題発表	寺岡
第５回	感謝と作業、演習、課題発表	寺岡
第６回	フローと作業、演習、課題発表	寺岡
第７回	人間関係と作業、演習、課題発表	寺岡
第８回	挫折と作業、演習、課題発表	寺岡
第９回	ストレス軽減と作業、演習、課題発表	寺岡
第１０回	強みと作業、演習、課題発表	寺岡
第１１回	レジリエンスと作業、演習、課題発表	寺岡
第１２回	習慣と作業、演習、課題発表	寺岡
第１３回	自己肯定感と作業、演習、課題発表	寺岡
第１４回	睡眠と作業、演習、課題の発表	寺岡
第１５回	人間と作業まとめ	寺岡
第１６回	単位認定試験	寺岡

教科書			
教・書籍名１	「作業」って何だろう　作業科学入門　第2版	教・出版社名１	医歯薬出版
教・著者名１	吉川ひろみ	教・ＩＳＢＮ１	4263216679
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年	ナンバリング	PS-CE-2-212

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井
第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井

第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉		森井
第１１回	言語を使った世界の広がり		森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論		森井
第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性		森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育		森井
第１５回	まとめ		森井
第１６回	定期試験		森井
教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	対人関係論	担当者	栗田　喜勝
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年	ナンバリング	PS-CE-3-219

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０％）・期末試験（６０％）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより呈示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

	授業計画	担当者
第１回	心理学と社会心理学	栗田喜勝
第２回	社会心理学の対象と研究方法について	栗田喜勝
第３回	社会的認知について	栗田喜勝
第４回	社会的相互作用について	栗田喜勝
第５回	社会的欲求と適応行動について	栗田喜勝
第６回	人間関係とストレス	栗田喜勝
第７回	人間関係とフラストレーション	栗田喜勝
第８回	人間関係と認知	栗田喜勝
第９回	印象形成について	栗田喜勝

第１０回	人間関係と感情	栗田喜勝
第１１回	社会的態度と行動について	栗田喜勝
第１２回	社会的態度（１）ステレオタイプ	栗田喜勝
第１３回	社会的態度（２）偏見	栗田喜勝
第１４回	態度変容について	栗田喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田喜勝
第１６回	期末試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	藤本忠明他編著	参・ＩＳＢＮ１	4-88848-833-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	デジタルメディアと社会	担当者	大谷　卓史
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	AN-AN-1-108

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為･コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 ２．倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 ３．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。
授業概要	現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方と枠組みを活用する。 具体的実例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代的問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって

バック方法	（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。 予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。 復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（２）倫理学の基本的な立場	大谷
第５回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第６回	サーチエンジンの倫理	大谷
第７回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第８回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第９回	プライバシーの基礎	大谷
第１０回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第１１回	監視と見守り	大谷
第１２回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第１３回	AI・ロボットの倫理	大谷
第１４回	バーチャルリアリティー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ＩＳＢＮ2	978-4621305881

授業科目名	心理学概論Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	PS-PS-1-101		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】行動(心の働き)と環境との関わり，つまりヒトが環境に「適応する」とはどういうことなのか，について，感覚，知覚，記憶，学習の観点から理解する。 【到達目標】人間の行動(心の働き)には，環境が大きな影響を与える。そのため，学生は人間がどのように外界からの情報を取り入れ，適応行動を行っていくのかについての理解を深めることができる。
授業概要	本講では，人間が自分を取り巻く環境からさまざまな情報を取り入れ，蓄積し，また多くの経験を積みながら，置かれた環境に適応していく。我々は，錯覚などを含めて外界をどのように捉えるのか，また，その情報をどのように記憶したり，忘却したりするのか，さらにそれらをもとにどのように適応行動を行っていくのかについて講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) OR/心理学とは	橋本翠
第２回	(2) 心理学の課題と研究法	橋本翠
第３回	(3) 感覚と知覚(外界を捉える)	橋本翠
第４回	(4) 感覚と知覚(知覚と認知)	橋本翠
第５回	(5) さまざまな知覚(視覚の不思議)	橋本翠
第６回	(6) さまざまな知覚(感覚器官の性質)	橋本翠
第７回	(7) 記憶とは	橋本翠
第８回	(8) 記憶のしくみ(感覚記憶)	橋本翠
第９回	(9) 記憶のしくみ(短期記憶)	橋本翠

第１０回	(10) 記憶のしくみ(長期記憶)	橋本翠
第１１回	(11) 記憶術の原理	橋本翠
第１２回	(12) 学習の基本原理(古典的条件づけ)	橋本翠
第１３回	(13) 学習の基本原理(道具的条件づけ)	橋本翠
第１４回	(14) 認知学習	橋本翠
第１５回	(15) 学習原理の応用	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学の基礎　四訂版	参・出版社名１	培風館
参・著者名１	今田寛，宮田洋，賀集寛　共編	参・ＩＳＢＮ１	4-563-05670-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学概論Ⅱ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年	ナンバリング	PS-PS-1-102

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	多様な心理学分野の中で、時間の経過にともなって発達・退行していく心理過程、また、心理社会的枠組みの拡がりともなって拡充・拡散していく心理構造を理解できるようになる。適応・偽擬適応・不適応の過程を個人差の観点から捉えるのがテーマである。発達、personality 構造、適応行動の阻止事態等についての授業内容の6割以上を理解することが到達目標である。
授業概要	心理学分野は多様である。そのうち、ヒトとして生まれて、一人の人間として心理的な発達を遂げる過程を理解する。そして、人間社会の中で社会的に成長していく際の他者や社会的枠組みについても理解を深める。このように、時間軸に沿って、また心理社会的枠組みの拡大に沿って、深化・拡大していく心理過程について理解を深めることによって、教職免許履修の基礎と心理学的基礎が確立できる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点（返却をもってフィードバックとする）。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出後、次回の授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについては返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	遺伝と環境	三宅俊治
第３回	誕生から青年へ	三宅俊治
第４回	生涯発達	三宅俊治
第５回	パーソナリティ・性格・気質	三宅俊治
第６回	パーソナリティ理論	三宅俊治
第７回	モチベーション	三宅俊治
第８回	諸種の動機	三宅俊治
第９回	知能	三宅俊治
第１０回	心理学における検査	三宅俊治
第１１回	脳と心	三宅俊治
第１２回	こころの不調	三宅俊治
第１３回	適応の機制	三宅俊治
第１４回	ストレスの心理	三宅俊治
第１５回	健康心理	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBH978-89514-507-7 C3011
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの心理発達			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	PS-PS-1-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	系統発生的な視点を取り入れながら、とくに子ども期に焦点を当てて、ヒト・人間の発達・発生をとらえることをテーマとし、動物としてのヒト発達の特殊性や共通性を知り、発達心理学の幅広い知識を習得するとともに、心理学的な考え方を理解することを到達目標とする。
授業概要	系統発生的な観点をふまえつつ、ヒトの特殊性を学ぶとともに、個体発生的な観点からは、胎児期から思春期に至る人間の行動や心的機能の発生、発達、成熟過程等の変化について学習する。また、人間のもつ諸機能の発達を相互関連的に理解し、それぞれの発達段階における発達の遅れやつまずきなどの問題についても学習する。 　生涯発達の心理学を念頭に置きつつも、ここでは子どもの時期に焦点を当て、個々の心的機能・問題について多面的に概説していく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	小テスト（30%）、定期試験（70%）の結果に受講態度を勘案し総合的に評価する。つまり，テストで満点であっても受講態度が悪いと，不可ということもある。小テストは採点後、フィードバックとして返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは採点後返却し、必要に応じて授業時間内に解説する。
履修条件・注意事項	人間の発達的な理解を深めるために真剣に学習に取り組むこと。 頻繁に、小テストを行うので、最低限，教科書の当該箇所は精読し，予習・復習を怠ることのないようつとめること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキストの該当箇所の精読。（2時間） 復習：テキストとともに、講義中に配付する資料と返却された小テスト結果を中心に復習すること。（2時間）
オフィスアワー	月曜４限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達における生物学的基盤	森井
第３回	胎児にできること	森井
第４回	新生児の見る世界、聴く世界	森井
第５回	発達初期の不思議	森井
第６回	母子相互作用を促進する仕組み	森井
第７回	愛着形成と親子関係	森井
第８回	愛着関係に影響する要因	森井
第９回	愛着剥奪の事例	森井
第１０回	幼児期の認知発達	森井
第１１回	遊びと認知発達	森井
第１２回	遊びと仲間関係	森井
第１３回	ことばの前のことば	森井
第１４回	ことばの発達	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回	試験	森井

教科書			
教・書籍名１	乳幼児のこころ	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	遠藤・佐久間・徳田・野田	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12429-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	幼児心理学への招待　［改訂版］	参・出版社名１	サイエンス社
参・著者名１	内田伸子	参・ＩＳＢＮ１	978-4781911823
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学実験Ⅰ（オムニバス）			担当者	橋本　翠、村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-201		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得】 実験計画(変数の設定，条件操作の方法等)の立て方，および実験器具の操作法を修得する。 【到達目標：実験レポート作成方法の修得】 得られた量的，質的データを統計的に処理することができるようになるとともに，行った実験の目的，方法，結果，そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになる。
授業概要	【概要】ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために，基礎的な心理学実験を行う。 グループはランダムに選択される。基本的に，実験者と実験参加者の両方を経験する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験レポート(70%)，受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポートを全て提出しなければ（再提出を含む），その期の単位は認定不可とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し、フィードバックを行う。そして、再提出をすること。
履修条件・注意事項	実験実習はグループで行うため，欠席をすると同じグループの仲間に多大な迷惑をかけることになる。よって，原則として，遅刻・欠席は認めない。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は，必ず講義開始までに担当教員に連絡すること。 無断で欠席をした場合は，当該課題は不可となるので十分気を付けること。 学外試合・病気などで欠席をする際は，欠席願・診断書等を必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	提出された実験レポートはコメントをつけて返却するが、再提出を求めることもある。 各課題の内容をしっかり把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各実験の担当者の個人研究室にて実施。 森井：月曜日の３時間目、　　橋本：月曜日の5時間目　　、村上：木曜日の3時間目

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション，ミュラー・リヤー錯視：理論・実習	橋本・村上
第２回	ミュラー・リヤー錯視：解説	橋本・村上
第３回	ミュラー・リヤー錯視：ピアレヴュー	橋本・村上
第４回	ミュラー・リヤー錯視：解説・ピアレヴュー	橋本・村上
第５回	ミュラー・リヤー錯視：フィードバック	橋本・村上
第６回	触2点閾の測定：理論・実験	橋本・村上
第７回	触2点閾の測定：解説	橋本・村上
第８回	触2点閾の測定：ピアレヴュー	橋本・村上
第９回	触2点閾の測定：解説・ピアレヴュー	橋本・村上
第１０回	触2点閾の測定：フィードバック	橋本・村上
第１１回	重量弁別：理論・実験	橋本・村上
第１２回	重量弁別：実験	橋本・村上
第１３回	重量弁別：解説	橋本・村上
第１４回	重量弁別：ピアレヴュー	橋本・村上

第１５回	重量弁別：フィードバック		橋本・村上
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ-	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	利島保・生和秀敏	教・ＩＳＢＮ１	4-7628-0186-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学実験Ⅱ （オムニバス）			担当者	橋本　翠、村上　勝典、森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-202		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得】 実験計画(変数の設定，条件操作の方法等)の立て方，および実験器具の操作法を修得する。 【到達目標：実験レポート作成方法の修得】 得られた量的，質的データを統計的に処理することができるようになるとともに，行った実験の目的，方法，結果，そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになる。
授業概要	ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために，基礎的な心理学実験を行う。 基本的に，実験者と実験参加者の両方を経験する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験レポート(70%)，受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポートを全て提出しなければ（再提出を含む），その期の単位は認定不可とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し、フィードバックを行う。そして、再提出をすること。
履修条件・注意事項	実験実習はグループで行うため，欠席をすると同じグループの仲間に多大な迷惑をかけることになる。よって，原則として，遅刻・欠席は認めない。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は，必ず講義開始までに担当教員に連絡すること。 無断で欠席をした場合は，当該課題は不可となるので十分気を付けること。 学外試合・病気などで欠席をする際は，欠席願・診断書等を必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	提出された実験レポートはコメントをつけて返却するが、再提出を求めることもある。 各課題の内容をしっかり把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各実験の担当者の個人研究室にて実施。 森井：月曜日の３時間目、　　橋本：月曜日の5時間目　　、村上：木曜日の3時間目

	授業計画	担当者
第１回	OR	橋本
第２回	鏡映描写：理論・実験	橋本
第３回	鏡映描写：解説	橋本
第４回	鏡映描写：ピアレヴュー	橋本
第５回	鏡映描写：解説・ピアレヴュー	橋本
第６回	鏡映描写：フィードバック	橋本
第７回	認知的葛藤：理論・実験	村上
第８回	認知的葛藤：解説	村上
第９回	認知的葛藤：ピアレヴュー	村上
第１０回	認知的葛藤：解説・ピアレヴュー	村上
第１１回	認知的葛藤：フィードバック	村上
第１２回	自由再生：理論	森井
第１３回	自由再生：理論・実験	森井
第１４回	自由再生：実験	森井

第１５回	自由再生：解説		森井
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ-	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	利島保・生和秀敏	教・ＩＳＢＮ１	4-7628-0186-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学研究法Ⅰ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-203

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学研究を行う際の理念及び操作がテーマである。参加学生は、先行研究の概観と問題点の発見・その問題に見合ったデータ収集・データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。心理学的な研究を進めるに際して、どのような操作をすべきかが理解できるようになる。そのことが、到達目標である。
授業概要	研究を進めていく際の、目的・方法・結果・考察などの一連の論理性や整合性、意識や行動を分析するためのデータの収集法、具体的には、実験、調査、観察、検査などについて、その特徴や問題点を客観的な視点から講義する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	科学としての心理学	三宅俊治
第３回	心理学研究法の分類	三宅俊治
第４回	観察法とは	三宅俊治
第５回	観察法の特徴	三宅俊治
第６回	観察法を用いた研究事例	三宅俊治
第７回	観察データの信頼性と妥当性	三宅俊治
第８回	調査法	三宅俊治
第９回	相関・共変・因果関係	三宅俊治
第１０回	質問紙調査と心理尺度	三宅俊治
第１１回	調査法を用いた研究例	三宅俊治
第１２回	心理実験とは	三宅俊治
第１３回	無作為割り当て	三宅俊治
第１４回	条件統制	三宅俊治
第１５回	要因デザイン	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	Progress & Application 心理学研究法 第２飯	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	村井 潤一郎（編著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7819-1307-0 C-3311

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学研究法Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年	ナンバリング	PS-PS-2-204

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「心理学の研究法を学ぶ」をテーマとして、特に面接法に関する知識を身に付ける。 到達目標は、支援・介入的実践活動の理論的基盤である臨床心理学的研究の実際と手法を学び、卒論レベルの研究において適用可能な能力を身に付ける。また、心理学の研究についての基礎的な内容を学習し、心理学実験Ⅰ・Ⅱのレポート作成や卒業論文の作成に活かせる知識を身に付ける。
授業概要	心理学の研究法についての基礎的な内容を紹介する。具体的には、面接法について紹介し、体験を通した授業をおこなう。また、論文の書き方や分析方法についても扱う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	テーマ「こころと行動の仕組みや働きに関する実証的な研究法を理解する」の到達度について、知識をはかるために、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、教科書を読み、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	面接法とは	村上
第３回	調査的面接法の分類	村上
第４回	調査的面接法の留意点	村上
第５回	調査的面接法のプロセス	村上
第６回	量的データの分析	村上
第７回	質的データの分析	村上
第８回	KJ法（1）：概要	村上
第９回	KJ法（2）：実施	村上
第１０回	論文の構成	村上
第１１回	問題・目的の立て方	村上
第１２回	研究方法とデータの集計	村上
第１３回	統計（1）：変数間の比較	村上
第１４回	統計（2）：変数間の関連	村上
第１５回	統計（3）：多変量解析	村上
第１６回	期末試験	村上

教科書			
教・書籍名１	『心理学研究法』	教・出版社名１	サイエンス社

教・著者名１	村井潤一郎（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7819-1307-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学統計法Ⅰ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-205		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。 【到達目標】心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できる。
授業概要	心理学(行動科学)における，測定値を適切に取り扱う知識が必要不可欠である。本講義では，まず測定値の取り扱いの基礎としての度数分布の考え方，代表値としての平均値等の概念を理解することから始め，相関に至る統計学の基礎を学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（90%）で評価する。講義中の小テストや課題の取り組み状況、積極的な態度により加点を行う（10%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の後半に復習小テストを行う。フィードバックは、小テストの解答を元に行う。
履修条件・注意事項	本講義は各回の知識の積み重ねになるので，絶対に欠席をしないこと。また，実際に計算等を行うので，簡単な電卓(加減乗除，ルート計算が出来るもの)を持参のこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の指定ページを学習してくること。講義後には、小テストの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 数学の基礎	土居
第３回	3. データとは	土居
第４回	4. ヒストグラム	土居
第５回	5. 平均値、中央値、最頻値	土居
第６回	6. 散布度	土居
第７回	7. 標準化	土居
第８回	8. 散布図	土居
第９回	9. 共分散について	土居
第１０回	10. 共分散の計算	土居
第１１回	11. 相関について	土居
第１２回	12. 相関係数の計算	土居
第１３回	13. クロス集計表と連関係数	土居
第１４回	14. 推測統計	土居
第１５回	15. 確率密度	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	よくわかる心理統計	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	山田剛史，村井潤一郎	教・ＩＳＢＮ１	4-623-03999-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学統計法Ⅱ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-206		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。 【到達目標】心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できる。
授業概要	心理統計Ｉで学んだ，記述統計でまとめたデータをもとに母集団の推定，統計的分析について学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（90%）で評価する。講義中の小テストや課題の取り組み状況、積極的な態度により加点を行う（10%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の後半に復習小テストを行う。フィードバックは、小テストの解答を元に行う。
履修条件・注意事項	本講義は各回の知識の積み重ねになるので，絶対に欠席をしないこと。また，実際に計算等を行うので，簡単な電卓(加減乗除，ルート計算が出来るもの)を持参のこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の指定ページを学習してくること。講義後には、小テストの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 統計的仮説検定と確率分布	土居
第２回	2. 正規分布とその性質	土居
第３回	3. 標準正規分布表について	土居
第４回	4. 統計的仮説検定の手順	土居
第５回	5. 両側片側検定と２種類の誤り	土居
第６回	6. 標準正規分布を用いた検定	土居
第７回	7. t分布を用いた検定	土居
第８回	8. 相関係数の検定	土居
第９回	9. カイ2乗検定：適合度の検定	土居
第１０回	10. カイ2乗検定：独立性の検定	土居
第１１回	11. 対応のないt検定	土居
第１２回	12. 対応のあるt検定	土居
第１３回	13. 分散分析	土居
第１４回	14. 多重比較	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	よくわかる心理統計	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	山田剛史，村井潤一郎	教・ＩＳＢＮ１	4-623-03999-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	医学概論Ｉ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-207		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義とグループ発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	６．安全な水とトイレを世界中に／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	「医療」がどのように実践されているかを学ぶ。自分と家族と環境の健康管理を学ぶことを目標とする。
授業概要	医学を感染症、疫学、疾病予防、環境保健、地域保健、母子保健などを多面的に学ぶことにより、現在行われている医療の現状を知る。さらに飲酒、喫煙、性感染症、睡眠について講義する。また逐次、関連する疾患、自分・家族の健康管理法についても触れる。学生自身がSDGsのテーマに沿い環境問題を学び発表する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	SDGsの安全な水、気候変動、海、陸の保全について、その問題点を国際的な視野に立って、調査研究を行い、その現状を発表する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に対する貢献や、試験の結果をもとに、判定する。前者を４０％、後者を６０％とする。 発表内容については、発表時に学生・教官がコメントを加え改善に努める。
履修条件・注意事項	講義内容は医学的な内容を含むが、プリントとパワーポイントの両方で講義をする。二つの資料をTeamsで配布ｓるので、予習復習を行うこと。内容が後半になるので、可能な限り、医学概論Ｉ，ＩＩともに受講してほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　東北大学で医学教育を行い、さらにHuman security courseのdirectorを務めた。
事前学習・事後学習とその時間	指定した教科書に則り講義をするので、授業前に予習すること。またSDGsのテーマに沿い、グループで資料を収集し、発表する。
オフィスアワー	木曜日午前10時から１１時

	授業計画	担当者
第１回	１．医学の歴史・概要　SDGsテーマの紹介	服部俊夫
第２回	健康を維持する様々な機構。　テーマに沿った学生のグループ分け	服部俊夫
第３回	疫学とその研究方法　グループによる役割分担	服部俊夫
第４回	疾病予防と健康管理　１　総論的事項　一般の感染症　グループ討議	服部俊夫
第５回	疾病予防と健康管理　２癌　生活習慣病　グループ討議	服部俊夫
第６回	疾患予防と健康管理　３．アレルギー疾患　グループ討議	服部俊夫
第７回	疾病予防と健康管理　４　自己の健康管理　グループ討議	服部俊夫
第８回	疾患予防と健康管理　５．喫煙　飲酒　グループ討議	服部俊夫
第９回	疾病予防と健康管理　６　感染症　グループ討議	服部俊夫
第１０回	世界の環境問題	JICA
第１１回	環境保健　１．環境と生態系　グループ討議	服部俊夫
第１２回	環境保健　２　地球的環境問題　グループ討議	服部俊夫
第１３回	地域保健と衛生行政　グループ討議	服部俊夫
第１４回	学生発表　（前半）	服部俊夫
第１５回	学生発表　（後半）	服部俊夫
第１６回	試験	服部俊夫

教科書			
教・書籍名１	服部俊夫	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	シンプル公衆衛生学　2022　鈴木庄亮　監修　辻一郎　小山洋　編集	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	医学概論Ⅱ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-208		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義とグループ発表
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「医療」がどのように実践されているかを学ぶ。自分と家族と環境の健康管理を学ぶことを目標とする。
授業概要	医学を感染症、疫学、疾病予防、環境保健、地域保健、母子保健などを多面的に学ぶことにより、現在行われている医療の現状を知る。さらに飲酒、喫煙、性感染症、睡眠について講義する。また逐次、関連する疾患、自分・家族の健康管理法についても触れる。学生自身がSDGsのテーマに沿い世界の感染症を学び発表する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	SDGsの世界の感染症について、その問題点を国際的な視野に立って、調査研究を行い、その現状を発表する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に対する貢献や、試験の結果をもとに、判定する。前者を４０％、後者を６０％とする。 発表内容については、発表時に学生・教官がコメントを加え改善に努める。
履修条件・注意事項	講義内容は医学的な内容を含むが、プリントとパワーポイントの両方で講義をする。二つの資料をTeamsで配布ｓるので、予習復習を行うこと。内容が後半になるので、可能な限り、医学概論Ｉ，ＩＩともに受講してほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　東北大学で医学教育を行い、さらにHuman security courseのdirectorを務めた。
事前学習・事後学習とその時間	指定した教科書に則り講義をするので、授業前に予習すること。またSDGsのテーマに沿い、グループで資料を収集し、発表する。
オフィスアワー	木曜日午前10時から１１時

	授業計画	担当者
第１回	１．災害医療　　SDGsテーマの紹介	服部俊夫
第２回	地域保健と行政　１－２　　テーマに沿った学生のグループ分け	服部俊夫
第３回	地域保健と行政　３－４　　グループによる役割分担	服部俊夫
第４回	母子保健　　グループ討議	服部俊夫
第５回	学校保健　　グループ討議	服部俊夫
第６回	産業保健　１－３　　グループ討議	服部俊夫
第７回	産業保健　４－６　グループ討議	服部俊夫
第８回	高齢者保健　グループ討議	服部俊夫
第９回	精神保健　　グループ討議	服部俊夫
第１０回	世界の健康問題	JICA
第１１回	国際保健　　グループ討議	服部俊夫
第１２回	世界の呼吸器感染症　コロナ・結核　グループ討議	服部俊夫
第１３回	エイズ　マラリアの現状　　グループ討議	服部俊夫
第１４回	学生発表　（前半）	服部俊夫
第１５回	学生発表　（後半）	服部俊夫
第１６回	試験	服部俊夫

教科書			
教・書籍名１	服部俊夫	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	シンプル公衆衛生学　2022　鈴木庄亮　監修　辻一郎　小山洋　編集	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人体の構造と機能及び疾病	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	PS-PS-1-209

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは人体の構造と機能及び疾病。到達目標は、公認心理師が各種医療職スタッフと連携を保ち、共同の作業を営むうえで必要な医学の基礎（人体の構造と機能、主な疾病の概要など）、国際生活機能分類や各種身体障害の概要ならびにリハビリテーションの概念などに関する必要最小限の知識を身につけること。
授業概要	人の成長、発達、老化にはじまり、正常の人体の構造と機能について学んだうえで、主要な疾病について概説する。その他、国際生活機能分類や健康の概念、人口動態、国民の健康づくり対策、産業保健などの概略にも触れる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度、定期試験の成績を併せて評価する。成績評価基準として知識習得状況を把握するための最終試験80%、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度20%の割合で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書に沿って、スライドを用いて講義する。教科書は必ず用意すること。スライド内容は紙媒体と電子媒体双方で配布する。 特段の事情のない睡眠や遅刻は厳禁。
実務経験のある教員	該当する　内容　整形外科を中心とした臨床経験を持つ医師である教員が、医療の現実に即した授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の次回の授業範囲を読んでおくこと。復習として、教科書やスライド内容を読み返すこと。予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

	授業計画	担当者
第１回	小児の成長発達と疾患	森
第２回	加齢と疾患	森
第３回	内科疾患の理解①	森
第４回	内科疾患の理解②	森
第５回	整形外科疾患の理解①	森
第６回	整形外科疾患の理解②	森
第７回	整形外科疾患の理解③	森
第８回	在宅医療	森
第９回	神経疾患の理解	森
第１０回	難病の理解	森
第１１回	がんの理解	森
第１２回	周産期医療・婦人科疾患の理解	森
第１３回	感染症の理解と対策	森
第１４回	ICFの理解・健康と健康増進の理解	森
第１５回	形成外科	森
第１６回	期末試験	森

教科書			
教・書籍名１	人体の構造と機能及び疾病	教・出版社名１	医歯薬出版株式会社

教・著者名１	武田克彦　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26597-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理的アセスメント	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年	ナンバリング	PS-PS-2-210

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、クライエントの見立てや適切な援助方法の選択・援助過程の評価等に用いる「心理的アセスメント」の基礎知識と方法を学ぶことである。 アセスメントのための面接、行動観察、種々の心理検査について、知識だけでなく、実際の体験を通して理解することを到達目標とする。
授業概要	アセスメントとして用いる面接・心理検査について、それぞれの基盤となる理論や技法、その応用方法を学ぶ。 講義だけでなく、グループ演習や、実際の心理検査を自身が体験する演習も行いながら、各検査の概要や実施方法を理解していく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師として各種心理検査の実務経験（小中高等学校・心理相談室・公的機関での知能検査・心理検査・発達検査等の実務）がある教員が担当する。 実際の心理臨床実践における心理アセスメント必要な知識や検査方法を、演習を通して教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、心理検査とは	藤原直子
第２回	臨床心理アセスメントの基本	藤原直子
第３回	アセスメントとしての心理面接	藤原直子
第４回	アセスメント面接の種類と方法	藤原直子
第５回	心理検査の歴史と概要	藤原直子
第６回	知能検査	藤原直子
第７回	乳幼児の発達に関する検査	藤原直子
第８回	高齢者の認知機能に関する検査	藤原直子
第９回	アセスメントとしての行動観察	藤原直子
第１０回	人格検査（質問紙法）	藤原直子

第１１回	症状や状態のアセスメント	藤原直子
第１２回	投影法とは、描画法	藤原直子
第１３回	代表的な投影法検査	藤原直子
第１４回	心理的アセスメントの実際	藤原直子
第１５回	事例から理解する心理検査	藤原直子
第１６回	試験	藤原直子

教科書			
教・書籍名１	臨床心理アセスメントの基礎[第2版]	教・出版社名１	ナカニシヤ出版
教・著者名１	沼　初枝	教・ＩＳＢＮ１	978-4779514920
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	精神疾患とその治療			担当者	森信　繁		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・グループワーク・発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：精神医学を理解する。 到達目標： 公認心理師として必要な精神障害についての下記の知識を、学生が身につけられる。 １．精神医学の基礎的事項・総説的事項を理解できる。 ２．代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。 ３．精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学べる。 ４．精神医学の歴史的な背景を理解できる。 ５．精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。
授業概要	精神医療に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、精神療法や社会福祉的支援の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要です。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断・検査法や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにすると同時に、成績の評価にも反映します。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「精神医学を理解する」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、ケースカンファレンスの課題発表（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたグループ学習発表のレジメに、コメントや修正を記載して、学生に返却する。
履修条件・注意事項	毎回プリントを配布するので、ファイリングを工夫すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

	授業計画	担当者
第１回	精神医学総論：精神症状と検査	森信　繁
第２回	統合失調症及び関連障害	森信　繁
第３回	うつ病及び関連障害	森信　繁
第４回	双極性障害 自殺の実態とその予防	森信　繁
第５回	不安障害と強迫性障害	森信　繁
第６回	外傷後ストレス障害(PTSD)と関連障害	森信　繁
第７回	身体表現性障害と解離性転換性障害	森信　繁
第８回	パーソナリティ障害	森信　繁

第９回	摂食障害 精神分析学	森信　繁
第１０回	睡眠障害	森信　繁
第１１回	認知症	森信　繁
第１２回	てんかん 器質性精神障害 症状性精神障害	森信　繁
第１３回	物質関連障害	森信　繁
第１４回	自閉性スペクトラム障害 注意欠損多動性障害 チック症	森信　繁
第１５回	緩和ケア 精神保健福祉法	森信　繁
第１６回	試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	精神医学テキスト	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	上島　国利、立山　萬里、三村　将　　編	教・ＩＳＢＮ１	IBSN976-4-524-25942-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】心の働き(行動)のもととなる感覚機能と神経系の機能について理解する。 【到達目標】神経系の機能を知るとともに，心理学を学ぶ上で重要である感覚機能の神経生理学的基礎についての理解を深める。
授業概要	本講では，人の心を理解する上で重要となる人体についての知識と理解を幅広く深められるよう講義する。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，定期試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは，次回の講義及びユニパ上で行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。遅刻および欠席はしないでください。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる(2時間)こと。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) OR/人体の構造と機能を学ぶための基礎知識1(人体の構成)	橋本翠
第２回	(2) 人体の構造と機能を学ぶための基礎知識2(生命現象を支える物理現象と化学的知識)	橋本翠
第３回	(3) 消化と吸収	橋本翠
第４回	(4) 血液	橋本翠
第５回	(5) 呼吸	橋本翠
第６回	(6) 心臓と血液の循環1(解剖)	橋本翠
第７回	(7) 心臓と血液の循環2(心周期，血圧)	橋本翠
第８回	(8) 尿の生成と体液の調節	橋本翠
第９回	(9) 内臓機能の調節1(自立神経，内分泌，ホルモン)	橋本翠
第１０回	(10) 内臓機能の調節2(内分泌腺)	橋本翠

第１１回	(11) 骨格	橋本翠
第１２回	(12) 神経系1(感覚器官)	橋本翠
第１３回	(13) 神経系2(中枢神経系)	橋本翠
第１４回	(14) 生体の防御機構	橋本翠
第１５回	(15) まとめ	橋本翠
第１６回	(16)定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	イラストで学ぶ生理学	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	田中越郎	教・ＩＳＢＮ１	4-260-34087-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イラストで学ぶ解剖学	参・出版社名１	医学書院
参・著者名１	松村譲兇	参・ＩＳＢＮ１	4-260-330007-1
参・書籍名２	人体の構造と機能	参・出版社名2	放送大学教育振興会
参・著者名2	坂井建雄・岡田隆夫	参・ＩＳＢＮ2	978-4-595-31869-6

授業科目名	心理学史			担当者	三宅　俊治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	19Ｃに哲学から独立した心理学の発展の経過をたどり、多様な心理学の根幹を理解するのがテーマである。 心理学の成立に貢献してきた人物、方法論、科学観などの知識を俯瞰的にとらえることができる。現代心理学に至る歴史的経過に関する授業内容の６割以上を理解することが、この科目の到達目標である。
授業概要	今日の心理学の基礎を築いてきた意識主義、行動主義、ゲシュタルト心理学、新行動主義、精神分析などを中心に、心理学史に残る著名な心理学者の心理学に対する取り組みやその理念の相互関係を、歴史的、時間的推移の中に位置づけていく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出後、次回の授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	心理学が生まれる土壌	三宅俊治
第３回	ヴント（Wundt,W.）の意識主義心理学	三宅俊治
第４回	19世紀のアメリカ心理学	三宅俊治
第５回	行動主義	三宅俊治
第６回	ゲシュタルト（Gestalt）心理学	三宅俊治
第７回	新行動主義の台頭、ゲシュタルト心理学のアメリカ心理学への融合	三宅俊治
第８回	精神分析	三宅俊治
第９回	精神分析からネオフロイディアンへ	三宅俊治
第１０回	脳と心の連関	三宅俊治
第１１回	心理学の対象の拡大	三宅俊治
第１２回	個人差への注目、心理検査の開発	三宅俊治
第１３回	認知心理学の展開	三宅俊治
第１４回	ヒューマニスティック心理学	三宅俊治
第１５回	社会心理学の流れ	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	流れを読む心理学史 補訂版（有斐閣アルマ Basic）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	サトウタツヤ・高砂美樹（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-641-22182-6

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理尺度構成法Ⅰ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年	ナンバリング	PS-PS-3-214

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「尺度構成の手法について理解する」をテーマとして、態度等の主観的データを客観性、再現性のある手法で得るための測定法、得られた測定データに対する処理方法を体得する。 質問紙法の作成方法や統計的手法について説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	質問紙法および統計的手法についての基礎的な内容を紹介する。質問紙の作成や統計ソフトを用いた実習を取り入れながらおこなう。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	課題に対する取り組み、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、課題に対する取り組み（50%）、小テスト（20%）とレポート試験（30%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	質問紙法とは	村上
第３回	質問紙作成の留意点	村上
第４回	質問紙の構成	村上
第５回	質問項目の収集方法	村上
第６回	質問紙の作成	村上
第７回	調査の実施とデータ入力	村上
第８回	データの整理	村上
第９回	因子分析（1）：概要	村上
第１０回	因子分析（2）：分析の流れ	村上
第１１回	因子分析（3）：結果の見方	村上
第１２回	因子分析（4）：実施	村上
第１３回	結果のまとめ方（1）：説明	村上
第１４回	結果のまとめ方（2）：作成	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	レポート試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7795-0200-2
参・書籍名２	誰も教えてくれなかった因子分析―数式が絶対に出てこない因子分析入門―	参・出版社名2	北大路書房
参・著者名2	松尾太加志・中村知靖（著）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7628-2251-3

授業科目名	心理尺度構成法Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年	ナンバリング	PS-PS-3-215

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「尺度構成の原理と手続きについて理解する」をテーマとして、態度等の心理尺度の作成を通して、その原理と手続きを習得する。 尺度構成の手続きについて説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	尺度構成の手続きについて紹介する。尺度構成の一連の流れについてグループ活動を取り入れながらおこなう。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	課題に対する取り組み、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、課題に対する取り組み（50%）、小テスト（20%）とレポート試験（30%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	尺度構成の流れ	村上
第３回	信頼性と妥当性	村上
第４回	構成概念の検討	村上
第５回	先行研究の検索	村上
第６回	先行研究の検討	村上
第７回	質問項目の収集	村上
第８回	質問紙の作成	村上
第９回	質問紙の実施	村上
第１０回	データの処理	村上
第１１回	因子分析（1）：実施	村上
第１２回	因子分析（2）：結果の整理	村上
第１３回	信頼性の検討	村上
第１４回	妥当性の検討	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	レポート試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理尺度のつくり方	参・出版社名１	北大路書房
参・著者名１	村上宣寛（著）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-2523-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感情・人格心理学Ⅰ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年	ナンバリング	PS-PS-1-301

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】日常的に使われている，「性格（人格）」という心理学概念の利点と欠点について理解すること。 【到達目標】性格（人格）の心理学的概念を理解し、自らの必要性に応じて知識を活用できる。
授業概要	「性格（人格）」という語は日常的に使われている。私たちはその根拠も考えず，経験や直観，時には思いつきで他者の性格を推測し，やみくもに落ち込んだり，他者について勝手にこうだと決めつけて不利な立場に追い込むことすらある。本講義では，教科書や性格（人格）検査の実施を通して，様々な観点（臨床心理学的側面，文化的側面，発達的側面など）から「性格（人格）」を捉え，現在どのようなことがわかっているのか，いないのかを解説していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	単位認定試験（50%）で評価する。講義中の課題の取り組み状況により加点を行う（50%）。各回において小レポートの課題を出す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	各授業において、レポート課題を出す。それに対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業内において課題を出す予定である。全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 性格（人格）とは	土居
第３回	3. 類型論：クレッチマーの理論	土居
第４回	4. 類型論：ユングの理論	土居
第５回	5. 類型論：シェルドンの理論	土居
第６回	6. 類型論：シュプランガーの理論	土居
第７回	7. 特性論：オールポートの特性論	土居
第８回	.8 特性論：BigFive	土居
第９回	9. 性格の内的要因：遺伝要因	土居
第１０回	10. 性格の外的要因：環境要因	土居
第１１回	11. 自己愛性パーソナリティー障害	土居
第１２回	12. 解離性障害	土居
第１３回	13. 境界性パーソナリティー障害	土居
第１４回	14. 感情とは	土居
第１５回	15. 感情調節障害	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書

教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感情・人格心理学Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-302

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「感情心理学の基礎を習得する」をテーマとし、感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動に及ぼす影響、発達や病理との関係性を学ぶ。 感情の生起、感情の機能、感情と健康との関係について説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	感情がどのように理解されてきたかについて、情動末梢起源説、二要因説などの古典的理論を解説し、現代の説についても紹介する。さらに感情が行動に及ぼす影響について感情と認知・行動選択の諸説を概観し、表情とコミュニケーションのしくみや、不安からの立ち直り等を解説し、心身の健康と感情のつながりについて示す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「感情心理学の基礎を習得する」の到達度について、知識をはかるために、小テストや課題、定期試験の結果を総合して評価する。具体的には、小テスト・レポート（40%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	感情の基礎・生物学的基盤	村上
第３回	感情の理論（1）古典的理論	村上
第４回	感情の理論（2）基本的感情説と次元説	村上
第５回	感情の機能	村上
第６回	感情と進化	村上
第７回	感情と認知	村上
第８回	感情と発達（1）表情および表情認知	村上
第９回	感情と発達（2）感情のコミュニケーション	村上
第１０回	感情と言語	村上
第１１回	感情と病理（1）感情病理に関する心理学的理論	村上
第１２回	感情と病理（2）感情の病態の治療	村上
第１３回	感情と健康（1）感情と健康のとらえ方	村上
第１４回	感情と健康（2）感情と健康状態との関係	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	定期試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	感情心理学・入門	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	大平英樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12388-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経・生理心理学Ⅰ	担当者	森信　繁
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	PS-PS-1-303

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：中枢・抹消神経の構造と機能を理解する。 到達目尿：この講義のテーマは心理学と関係の深い脳･脊髄･末梢神経系、神経系を保護する骨や神経系と関係が深い内分泌系の構造と機能である。このため学生は、特に脳神経系の構造及び機能や、記憶、感情の生理学的反応の機序、高次脳機能障害及び必要な支援について説明でき、公認心理師試験にも対応できるレベルの知識の獲得することができる。
授業概要	「心」が存在すると考えられている神経系、その入れ物である頭蓋と脊椎、神経系と密接な関係のある内分泌系について学習する。講義はスライド(パワーポイント)で行う。スライド内容は前もって資料・テキストとして配布する。解剖学用語は医学系の学問を学ぶことができ、また医療系の臨床業務に従事する者の共通言語となる。将来医学系と関連した職種を希望する学生には特に有用な科目である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「中枢・末梢神経の構造と機能を理解する。」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（８０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（２０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表にはコメントを小テストには回答を示し、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、精神・神経障害の治療経験があり、神経解剖に精通した医師である教員が、その経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

	授業計画	担当者
第１回	神経系の全体像　その構造と機能	森信　繁
第２回	神経系を保護するもの　頭蓋骨、脊椎、髄膜(硬膜・くも膜・軟膜)	森信　繁
第３回	大脳の構造と大脳皮質の機能局在機能	森信　繁
第４回	間脳　視床と視床下部、下垂体とそのホルモン	森信　繁
第５回	脳幹の構造と機能	森信　繁
第６回	小脳の構造と機能	森信　繁
第７回	脊髄の構造と機能及び伝導路	森信　繁

第８回	運動系　錐体路	森信　繁
第９回	運動系　錐体外路と運動の制御	森信　繁
第１０回	体性感覚とその伝導路	森信　繁
第１１回	視覚・聴覚・嗅覚・味覚とその伝導路	森信　繁
第１２回	脳室系と脳脊髄液	森信　繁
第１３回	脳の血管　動脈系と静脈系	森信　繁
第１４回	自律神経系　交感神経系と副交感神経系	森信　繁
第１５回	末梢神経系　脳神経と脊髄神経	森信　繁
第１６回	定期試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	講義のスライドを資料として配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経・生理心理学Ⅱ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】　心(認知活動)と身体(生理的活動)との関連性について理解するとともに，それらの測定方法についても理解する。 【到達目標】神経系の働きや生理的反応の測定・記録法を学ぶとともに，さまざまな認知活動とそれに伴う生理反応との関連性についての理解を深める。
授業概要	本講では，生理心理学の基礎となる神経系の機能および脳電位，心臓の活動，皮膚電気活動などの測定法を概観する。その後，特にヒトの認知機能と脳波との関連や情動と自律神経活動との関連について実験，実習を交えながら講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，実験(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること(2時間)。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。また授業内容について，配布資料を再度見直し復習もやること(2時間)。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，教科書をよく読み各回の内容について学習すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，教科書と併せて内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。
オフィスアワー	月曜５限：橋本研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/生理心理学のあゆみ	橋本翠
第２回	(2) 脳と神経-中枢神経-	橋本翠
第３回	(3) 脳と神経-末梢神経-	橋本翠
第４回	(4) 脳電位の測定-原理-	橋本翠
第５回	(5) 脳電位の測定-技法-	橋本翠
第６回	(6) 認知活動と脳波-脳波の種類-	橋本翠
第７回	(7) 認知活動と脳波-特徴的な脳波パターンと行動-	橋本翠
第８回	(8) 認知活動と事象関連脳電位-事象関連電位とは-	橋本翠
第９回	(9) 認知活動と事象関連脳電位 -事象関連脳電位の測定法-	橋本翠
	(10) 認知活動と事象関連脳電位	

第１０回	--事象関連脳電位の解析法-	橋本翠
第１１回	(11) 認知活動と事象関連脳電位 -信号検出の制御的処理と自動的処理-	橋本翠
第１２回	(12) 眠りと夢のポリグラム測定	橋本翠
第１３回	(13) 脳波測定実習-技法-	橋本翠
第１４回	(14) 脳波測定実習-測定-	橋本翠
第１５回	(15) 脳波測定実習-分析-	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	生理心理学 -人間の行動を生理指標で測る-	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	堀 忠雄(著)	教・ＩＳＢＮ１	978-4-563-05878-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ｉ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	PS-PS-1-305

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	人と人の関係に基づく意識・行動について、社会的・文化的枠組みから理解することをテーマとする。社会心理学の理論や術語について理解できる。「中学校・社会・教員免許」、「高等学校・公民・教員免許」の取得の基礎となる社会心理学的所見を理解することができる。授業で扱う社会・集団に関する知識の理解度が、授業内容の６割以上に達することが、到達目標である。
授業概要	人間の生活は、一人では成り立たない。家庭、学校、職場、地域社会などの場面で、他者に影響を与える一方、他者からの影響も受けている。他者との現実の関わりのほか、記憶や想像なども含めて、心理的実在を通して、我々の意識や行動が変化することはよく知られている。社会的動機、社会的認知、社会的態度、集団、コミュニケーション等を通して人と人の相互関係を理解する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。提出物については、翌週もしくは翌々週までに返却・フィード・バックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	社会心理学とは何か	三宅俊治
第３回	現代社会心理学の対象と流れ	三宅俊治
第４回	社会的動機	三宅俊治
第５回	社会的環境の認知	三宅俊治
第６回	自己と対人行動	三宅俊治
第７回	対人関係の認知	三宅俊治
第８回	対人魅力	三宅俊治
第９回	社会的態度	三宅俊治
第１０回	集団	三宅俊治
第１１回	同調	三宅俊治
第１２回	リーダーシップ	三宅俊治
第１３回	コミュニケーション	三宅俊治
第１４回	非言語的コミュニケーション	三宅俊治
第１５回	組織論	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-89514-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ⅱ	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-306

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	家族システムや対人間の相互作用をテーマとする。 家族や集団に起こりう得るさまざまな問題をシステムや相互作用という視座から理解できることを到達目標とする。
授業概要	問題・症状を人の「中」に帰属するのではなく，人と人との「間」から諸々の現象を捉える視点を養う。人と人との「間」において問題・症状が起こり，また，人と人との「間」において変化や解決も生じる。この講義では，関係性や相互作用の視座から，問題の生成と変化について学ぶ。 ☒
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、単元ごとの小テスト（70%）、レポート（10%）、受講態度（20%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業のなかで、小テストやレポート課題についてのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	システム論独特の視座や概念に慣れるためにも、特に前半の授業にはしっかりついてくることを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、教育センターにおける教育相談、小・中・高におけるスクールカウンセリングなどの実務経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストの該当章を読んだ上で授業に参加すること。予習復習にそれぞれ２時間以上を確保してほしい。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	システム論：ものの見方	津川秀夫
第３回	システム論：アイソモーフィズム、円環的因果律	津川秀夫
第４回	システム論：まとめと小テスト	津川秀夫
第５回	構造派：ジェノグラム	津川秀夫
第６回	構造派：サブシステムの境界	津川秀夫
第７回	構造派：家族構造の見立て	津川秀夫
第８回	構造派：ジョイニングと介入	津川秀夫
第９回	構造派：まとめと小テスト	津川秀夫
第１０回	家族の発達段階、霊長類から見る家族	津川秀夫
第１１回	ダブルバインドとは	津川秀夫
第１２回	ダブルバインドの影響	津川秀夫
第１３回	MRI：５つの暫定的公理	津川秀夫
第１４回	MRI：第一次変化と第二次変化	津川秀夫
第１５回	MRI：介入の実際、まとめと小テスト	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書

教・書籍名１	家族療法入門：システムズアプローチの理論と実際	教・出版社名１	星和書店
教・著者名１	遊佐安一郎	教・ＩＳＢＮ１	4791100956

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践　11巻　社会・集団・家族心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１	竹村和久	参・ＩＳＢＮ１	4833160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	発達心理学	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年	ナンバリング	PS-PS-1-307

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容　臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	ライフサイクルについて	宇都宮
第３回	胎児期	宇都宮
第４回	新生児期	宇都宮
第５回	乳児期：愛着の形成	宇都宮
第６回	乳児期：言葉の発達	宇都宮
第７回	幼児期：表象の獲得	宇都宮
第８回	幼児期：社会性の発達	宇都宮
第９回	児童期：有能感と劣等感	宇都宮
第１０回	児童期：学校への適応・いじめ	宇都宮
第１１回	青年期前期	宇都宮
第１２回	青年期後期	宇都宮
第１３回	青年期の病理	宇都宮
第１４回	成人期	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	よくわかる発達心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05379-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会福祉原論			担当者	石田　敦		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	PS-PS-1-308		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに
到達目標	テーマ 　心理学を学ぶ学生が、社会福祉の基本的な内容を理解できる。 到達目標 　心理学を学んだ学生が、社会福祉専門職と協働して活躍するために必要な知識の獲得ができる。
授業概要	心理学を学んだ学生が、将来、福祉分野で活躍する際に必要な社会福祉の知識の獲得を目指して講義を行う。具体的には、①心理学生が社会福祉を学ぶ意味、②心理学生から見た社会福祉学とは何か、③心理専門職と福祉専門職の連携協働のあり方について学修する。そのため、社会福祉学に関する深い知識を獲得するというよりは、連携・協働に必要な知識の獲得に重点を置く。
アクティブラーニングの内容	反転授業
評価方法と割合	受講態度20%（①居眠りやスマートホンの操作等がなく、積極的受講態度であるか、②講義に必要な資料を持参しているか）、リアクションペーパー30%（記述内容を0～2点で点数化する）、レポート試験50%を総合して評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートにコメントを付記し返却する
履修条件・注意事項	テキストとして毎時間配布する資料とともにリアクションペーパーをファイルに保管し、毎回の講義に持参すること。なお、リアクションペーパーは、講義終了5分前に記述時間を確保し、その日に学修した内容を振り返らせる。記述内容を0～2点で点数化し、コメントを付して翌週に返却をするので、見直しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、リアクションペーパーを踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習、復習については、それぞれ2時間ずつ行うこと。
オフィスアワー	授業終了後もしくは質問カードに記載して提出（後日回答）

	授業計画	担当者
第１回	社会福祉機関の種類	石田
第２回	社会福祉機関で働く職員	石田
第３回	ソーシャルワーカーの専門性	石田
第４回	児童福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第５回	高齢者福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第６回	医療場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第７回	障碍者福祉におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第８回	貧困者に対する福祉場面のソーシャルワーカーの活動	石田
第９回	外国人に対する福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第１０回	国際貢献と社会福祉	石田
第１１回	青少年の健全育成と社会福祉	石田
第１２回	更生保護と社会福祉	石田
第１３回	社会福祉の援助の持つ独自の視点	石田
第１４回	今後の社会福祉の動向	石田
第１５回	全体のまとめと振り返り	石田

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	テキストとして資料を毎時間配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	健康・医療心理学	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年	ナンバリング	PS-PS-1-309

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。
授業概要	健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れておこなう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討する」の到達度について、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	健康心理学とは	村上
第２回	健康行動に関する基礎理論	村上
第３回	動機づけ理論	村上
第４回	健康行動とその理論モデル	村上
第５回	健康問題に関する予防	村上
第６回	ストレスとは	村上
第７回	ストレスに関するモデル	村上
第８回	ストレス対処	村上
第９回	疾病とパーソナリティ	村上
第１０回	ソーシャルサポート	村上
第１１回	アセスメント	村上
第１２回	健康心理カウンセリング	村上
第１３回	チーム医療と役割	村上

第１４回	医療領域の対象疾患と支援	村上	
第１５回	災害心理学	村上	
第１６回	定期試験	村上	
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	健康・医療心理学	参・出版社名１	医歯薬出版株式会社
参・著者名１	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26577-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	知覚・認知心理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】大脳における情報処理過程(知覚，注意，表象，記憶，言語，問題解決，推論など)の認知モデルとその検証実験について理解する。 【到達目標】大脳における情報処理過程の認知モデルを理解するとともに，認知処理を行うためのモデル構築のための実験パラダイムについて理解を深める。
授業概要	本講では，これまでブラックボックスという表現で処理されていた人間内部の問題，特に，記憶，情報の検索，イメージと空間の認知について，実験に基づく認知モデルを概観するとともに，日常生活におけるさまざまな認知活動について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，実験(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，教科書をよく読み各回の内容について学習する(2時間)こと。復習については，授業時に配布する資料を読み，教科書と併せて内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる(2時間)こと。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/認知心理学とは-歴史・方法・領域・これからの認知心理学-	橋本翠
第２回	(2) 知覚の基礎	橋本翠
第３回	(3) 記憶のしくみ	橋本翠
第４回	(4) 情報の検索と忘却	橋本翠
第５回	(5) 概念と言語	橋本翠
第６回	(6) 知識と表象	橋本翠
第７回	(7) 高次の知覚と注意	橋本翠
第８回	(8) イメージと空間の情報処理	橋本翠
第９回	(9) 認知の制御過程	橋本翠
第１０回	(10) 文章の理解	橋本翠

第１１回	(11) 文章の記憶	橋本翠
第１２回	(12) 推理	橋本翠
第１３回	(13) 問題解決	橋本翠
第１４回	(14) 意思決定	橋本翠
第１５回	(15) 日常世界と認知心理学	橋本翠
第１６回	(16)定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	グラフィック認知心理学	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	森敏昭，井上毅，松井孝雄(共著)	教・ＩＳＢＮ１	4-7819-0776-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	認知心理学 知のアーキテクチャを探る	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	道又爾，北崎充晃，大久保街亜，今井久登，山川恵子，黒沢学	参・ＩＳＢＮ１	4-641-12167-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	学習・言語心理学			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-311		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】学習による人の行動の科学的理論を理解することである。 【到達目標】心理学の基礎として，学習・行動理論の代表的な理論と応用方法を理解し，自らの必要性に応じて活用できる。
授業概要	代表的な学習理論である，古典的条件付け・オペラント条件付け，社会的学習の基礎理論と応用について概説する。学習とは，「活動や訓練あるいは観察の結果として生じた永続的な行動の変容」と定義される。「行動」が条件付けによって獲得されることを理解し，様々な環境要因によって行動が生じることを学ぶ。特に，古典的条件づけとオペラント条件付けについては，具体的な例をあげて理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、講義中の課題の取り組み、小レポートの提出状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業内で小レポートの課題を出す。また、授業の後半にグループワークを行う予定である。フィードバックは、小レポートに対して行う。
履修条件・注意事項	学習心理学は専門用語が多く、休むと分からなくなるため、全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 学習とは	土居
第３回	3. 学習心理学の歴史	土居
第４回	4. 古典的条件付け	土居
第５回	5. 古典的条件付けの手続き	土居
第６回	6. ソーンダイクの試行錯誤学習	土居
第７回	7. ケーラーの洞察学習	土居
第８回	8. ワトソンの行動主義	土居
第９回	9. オペラント条件付け	土居
第１０回	10. 強化スケジュール	土居
第１１回	11. 社会的学習理論：模倣学習	土居
第１２回	12. 社会的学習理論：観察学習	土居
第１３回	13. 応用行動分析：ABC分析	土居
第１４回	14. 応用行動分析：行動記録	土居
第１５回	15. 応用行動分析：強化の原理	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床心理学概論			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：臨床心理学とは何かについて包括的な理解をしてもらうことが、この授業のテーマである。到達目標：①臨床心理学の発展の歴史を理解する、②臨床心理学の定義・理念・体系について理解する、③代表的な心理療法について理解する、④心理アセスメントについて理解する、ことである。
授業概要	臨床心理学の発展の歴史、臨床心理学の定義・理念・体系、代表的な心理療法、心理アセスメントなどについて紹介する。 臨床心理学とは何かについての基礎的な内容を理解し、応用に向けた知識と態度を身につけてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、それらを合計して評価する。具体的には、受講態度（授業への積極的な態度）、小テスト・レポート（知識の習得状況を授業の内容が1つ終わるごとにチェックする。レポートはビデオ教材などの理解度チェック）、期末試験（総合的な知識習得状況を把握する）の内容で総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストとレポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で習い、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	宇都宮研究室（10号館10204 研究室）にて、火曜日2時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	臨床心理学の歴史	宇都宮
第３回	臨床心理学の定義・理念・体系	宇都宮
第４回	精神分析的アプローチ	宇都宮
第５回	精神分析的アプローチ（事例）	宇都宮
第６回	分析心理学的アプローチ	宇都宮
第７回	分析心理学的アプローチ（事例）	宇都宮
第８回	事例（DVD）	宇都宮
第９回	行動論的アプローチ	宇都宮
第１０回	認知論的アプローチ	宇都宮
第１１回	ヒューマニスティック・アプローチ	宇都宮
第１２回	ロジャーズのカウンセリング（DVD）	宇都宮
第１３回	その他のアプローチ	宇都宮
第１４回	心理アセスメント	宇都宮

第１５回	まとめ		宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	公認心理師の基礎と実践３　臨床心理学概論	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	野島一彦・岡村達也（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-053-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学的支援法			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、心理臨床においてベースとなる基本的な心理療法・心理学的支援法を理解することである。 さまざまな理論から展開されている心理療法について、その基本概念や手法の初歩的知識を習得する。 秋学期に開講される「心理的アセスメント」の導入として位置づけられ、基礎となる理論や背景、心理療法の具体的な方法を知識として覚えることを到達目標とする。
授業概要	多種多様な心理療法・心理学的支援法の理論と実際について、基礎的な知識を学んでいく。 特に、心理療法の代表的な立場である、精神分析、クライエント中心療法、行動療法を主に取り上げて概観し、その他の心理療法についても学ぶ。また、講義だけでなく、グループ演習や心理療法体験も行い、実際の心理療法を体感しながら理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校でのスクールカウンセラー、心理相談室でのカウンセリング等）がある教員が担当する。臨床心理実践において必要な理論や技法を、現場の事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、心理学的支援とは	藤原直子
第２回	心理療法の進め方	藤原直子
第３回	精神分析の理論	藤原直子
第４回	心理療法としての精神分析	藤原直子
第５回	フロイトからの分派と発展	藤原直子
第６回	交流分析	藤原直子
第７回	クライエント中心療法の理論と技法	藤原直子
第８回	クライエント中心療法の発展	藤原直子
第９回	面接の基本技法、動機づけ面接	藤原直子
第１０回	行動療法の理論と技法	藤原直子
第１１回	行動療法の技法と応用	藤原直子
第１２回	認知行動療法の歴史と理論	藤原直子

第１３回	認知行動療法の技法	藤原直子	
第１４回	芸術・表現療法	藤原直子	
第１５回	日本で生まれた心理療法	藤原直子	
第１６回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	やさしく学べる心理療法の基礎	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	窪内節子・吉武光世	教・ＩＳＢＮ１	978-4-563-05669-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	司法・犯罪心理学 （集中講義A）			担当者	田井　靖治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	講義のテーマ 犯罪や非行の実態、犯罪者及び被害者の心理過程を学ぶ。 到達目標 司法・犯罪心理学の基本的な知識を修得し、犯罪の未然防止や犯罪被害者への支援の取組について知見を身につける。
授業概要	司法・犯罪心理学の歴史的展開や各理論について理解し、また我が国における犯罪や非行の実態を近年の犯罪統計に基づき概観する。そして犯罪の原因の探求、犯罪者の心理や被害者の心理、被害者に対する支援の取組について考察をする。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講状況、課題提出および最終試験により評価。 成績評価基準：最終試験（60%）、発表・ディスカッションへの参加（20%）、課題提出（20%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、適宜授業の中で解説、講評する。
履修条件・注意事項	課題・復習によく取り組み、発表や質問を積極的にすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業に臨むにあたっての事前準備（参考書籍の精読等）をしっかりと行う。授業の予習、復習はそれぞれ2時間以上が望ましい。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	犯罪心理学とは	田井
第２回	犯罪・非行行動の現状と理解（１）	田井
第３回	犯罪に対して抱く特有の心理（１）	田井
第４回	犯罪に対して抱く特有の心理（１）	田井
第５回	犯罪研究の歴史的展開	田井
第６回	犯罪理論の多面性	田井
第７回	社会・文化的観点からの犯罪観	田井

第８回	社会・文化的要因からの犯罪理論	田井
第９回	個体要因からの犯罪理論	田井
第１０回	犯罪と冤罪	田井
第１１回	犯罪防止の心理学	田井
第１２回	犯罪者の矯正	田井
第１３回	被害者の心理	田井
第１４回	被害者への支援	田井
第１５回	犯罪心理学のこれから	田井
第１６回	筆記試験	田井

教科書			
教・書籍名１	教科書なし。適宜プリントを配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	犯罪心理学	参・出版社名１	朝倉書店
参・著者名１	越智　啓太（編集）	参・ＩＳＢＮ１	4-2544-52678-4
参・書籍名２	知っておきたい最新犯罪心理学	参・出版社名2	ナツメ社
参・著者名2	細江　達郎	参・ＩＳＢＮ2	978-4-8163-5350-5

授業科目名	産業・組織心理学 （集中講義E）	担当者	田井　靖治
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-315

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	産業組織心理学は産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。 本講義では、産業組織心理学のこれまでの研究において得られた理論や成果を理解し考察を深めることを目標とする。 また個人と組織間の相互作用の中で生まれる「こころの働き」に重点をおき、人々が幸福に働くことに重要な産業心理学の知識、知見を養うことを目指す。
授業概要	近年の技術革新の進展、産業構造の変化、労働者意識の多様化等に伴う労働移動の増加、職業能力のミスマッチの拡大等、産業界は大きく変貌してきた。そしてそれは職場環境や働く人々の価値観に大きく影響をおよぼしている。こうした状況を踏まえ個人と組織、個人にとっての職業・産業心理について理解し考察をする。 なかでもワーク・モチベーション、キャリア発達、コミュニケーションと人間関係、産業カウンセリング等の領域をとりあげ産業場面における人間の心理や行動を明らかにしていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義出席状況、受講状況及び最終試験により評価する。 成績評価基準：最終試験（60%）、発表・ディスカッションへの参加（20%）、授業態度（40%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、適宜授業の中で解説、講評する。
履修条件・注意事項	課題・復習によく取り組み、発表・質問を積極的にすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業に臨むにあたっての事前準備（参考書籍の精読、自身のキャリアデザイについて考える等）をしっかりと行う。授業の予習、復習はそれぞれ2時間以上が望ましい。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	田井
第２回	産業組織心理学とは	田井
第３回	ワークモチベーション（１） ～動機付け～	田井
第４回	ワークモチベーション（２） ～期待理論～	田井
第５回	ワークモチベーション（３） ～コミットメント～	田井
第６回	キャリア発達（１） ～キャリアとは～	田井
第７回	キャリア発達（２） ～キャリア発達理論～	田井
第８回	コミュニケーションと人間関係（１） ～職場集団の特性～	田井
第９回	コミュニケーションと人間関係（２）	田井

	～職場集団と発達論～	
第１０回	リーダーシップ（１） ～リーダーシップの概念と研究の歴史～	田井
第１１回	リーダーシップ（２） ～特性アプローチ・行動アプローチ～	田井
第１２回	消費行動とマーケティング	田井
第１３回	職場のストレスとメンタルヘルス	田井
第１４回	産業カウンセリング	田井
第１５回	まとめ	田井
第１６回	最終試験	田井

教科書			
教・書籍名１	なし。適宜プリントを配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	産業心理学への招待	参・出版社名１	有斐閣ブックス
参・著者名１	佐々木土師二（編）	参・ＩＳＢＮ１	4-641-08562-5
参・書籍名２	よくわかる産業・組織心理学	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2	山口裕幸／金井篤子（編）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-623-04871-7

授業科目名	生涯発達心理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講は，人間の様々な認知機能を理解する上での基礎となる心理学を土台にし，特に，ヒトの発達の原理とともにその過程の法則性，機能および多様性について学び理解することができる。
授業概要	胎児期から老年期までの各期における様々な機能の発達について講義する。それぞれの時期で重要となる機能に即した心理学的側面を理解することにより，科学的客観的根拠に基づいた発達心理学視点で生涯を概観するものである。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(5%)，感想(minutes paper)(5%)，試験の得点(90%)の合計点により総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは，次回の講義内及びユニパのコメントにて行います。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR・生涯発達心理学とは	橋本翠
第２回	2.発達の可塑性	橋本翠
第３回	3.認知発達の基盤① -胎児～0歳児-	橋本翠
第４回	4.認知発達の基盤② -表象の獲得-	橋本翠
第５回	5.他者との関係性のはじまり	橋本翠
第６回	6.子どもの自己発達	橋本翠
第７回	７.児童期までの概観-映画を通して	橋本翠
第８回	8.レポートのピアレヴュー	橋本翠

第９回	9.認知能力の生涯発達	橋本翠
第１０回	10.発達と障がい	橋本翠
第１１回	11.関係性の発達①-乳幼児期～児童期-	橋本翠
第１２回	12.関係性の発達②-青年期～高齢期-	橋本翠
第１３回	13.大人の自己発達	橋本翠
第１４回	14.成熟と英知	橋本翠
第１５回	15.まとめ	橋本翠
第１６回	16.筆記試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	生涯発達心理学	教・出版社名１	有斐閣アルマ
教・著者名１	鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-22074-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅰ（面接）	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	PS-PS-2-317

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：心理支援を要する者等に関する知識及び技能を身につけるため、心理面接についての基礎的な知識とスキルを学ぶことがこの授業のテーマである。 到達目標：心理面接の諸理論、面接技法など、心理支援に必要な知識と技能の基礎を習得できることが到達目標である。
授業概要	講義と演習を並行して行い、心理面接の基礎理論を理解した上で、面接技法を体験的に学んでいく。事例検討やロールプレイイングを通して、心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理面接技法などを体験的に学んでもらう。またグループアプローチの一つである構成的グループエンカウンターも実施したいと考えている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	取り組み姿勢（４０%）とレポートおよびポートフォリオ（６０%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートやポートフォリオのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。各回レポートを出し、最後にポートフォリオとしてまとめたものを提出してもらう。また、「傾聴の基本」の部分については、説明と実践を切り離して行うことが難しいため、2コマ連続（1・2時限連続）で行う回を複数回含むので履修の際は注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した部分について、復習すること。授業の中で口頭やレポート等で確認を行う。 次回行う部分について、事前に学習しておくこと。復習と事前学習に各1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	宇都宮：火曜日2時限目

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	傾聴について	宇都宮
第３回	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論：ロジャーズ	宇都宮
第４回	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論：その他	宇都宮
第５回	傾聴：関わり行動	宇都宮
第６回	傾聴：質問の仕方（説明）	宇都宮
第７回	傾聴：質問の仕方（実践）	宇都宮
第８回	傾聴：はげまし等（説明）	宇都宮
第９回	傾聴：はげまし等（実践）	宇都宮
第１０回	傾聴：感情の反映等（説明）	宇都宮
第１１回	傾聴：感情の反映等（実践）	宇都宮
第１２回	傾聴：まとめ	宇都宮
第１３回	ロジャーズの面接（DVD）	宇都宮
第１４回	構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ（説明）	宇都宮
第１５回	構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ（実践）	宇都宮
第１６回	ポートフォリオ提出およびレポート試験	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	授業内で資料プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マイクロカウンセリング技法ー事例場面から学ぶ	参・出版社名１	風間書房
参・著者名１	福原眞知子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7599-1637-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅱ（面接）			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-318		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ： 心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、心理的支援をおこなっていくための基礎的知識とスキルを養う。 到達目標： ・心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握するためのスキルを身につける。 ・支援計画を立て、実行できるための基礎的知識とスキルを身につける。
授業概要	心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、心理的支援をおこなっていくための基本的知識やスキルについて、ロールプレイや事例検討を通して修得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	試験50％、スキルの習得程度30％、小レポート20％で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小レポートに関しては、授業時にフィードバックする。
履修条件・注意事項	（履修条件） ・原則として、心理演習Ⅰ（面接）の単位を取得済みであること。 （注意事項） ・実技演習を伴う授業のため、毎回の出席を原則とする。 ・ロールプレイの際には、練習相手への気遣いを大切にすること。
実務経験のある教員	該当する　内容：精神科クリニックにおける心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育研究所での教育相談などの経験を踏まえて当該授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	心理演習Ⅰ（面接）で学んだ心理支援の基礎について復習しておくこと。指定テキストについては早めに読み進めておくこと。予習・復習に3時間以上の学修を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限　個人研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	心理支援の基本指針	津川秀夫
第３回	情報収集：ニーズの把握	津川秀夫
第４回	情報収集：問題のパターン	津川秀夫
第５回	情報収集：現病歴	津川秀夫
第６回	情報収集：成育歴	津川秀夫
第７回	関係性のアセスメント	津川秀夫
第８回	ゴールづくり：要支援者	津川秀夫
第９回	ゴールづくり：関係者	津川秀夫
第１０回	ゴールづくり：長期目標と短期目標	津川秀夫
第１１回	リソースの把握	津川秀夫
第１２回	リソースの活用	津川秀夫
第１３回	コンプリメント	津川秀夫
第１４回	面接の実際	津川秀夫

第１５回	まとめ		津川秀夫
第１６回	試験		津川秀夫
教科書			
教・書籍名１	ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	日本ブリーフサイコセラピー学会	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	認知行動療法とブリーフセラピーの接点	教・出版社名2	日本評論社
教・著者名2	津川秀夫・大野裕史	教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅲ（検査）	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年	ナンバリング	PS-PS-3-319

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：代表的な心理検査を習得することを通して、心理アセスメントの基本を理解する。 到達目標：①発達検査の実施や解釈が一通りできる。②投影法等を査定する質問紙の実施や解釈ができる。
授業概要	本演習では、①発達検査と②投影法について体験を通して学ぶ。①では、新版K式発達検査等の実施方法や結果の処理、分析、所見の書き方を学習する。②では、HTPPやSCT、TAT等の実施方法や分析、所見の書き方を学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	検査法の理解、実施法の習得，および評価法を確実に学習するため，一つの検査が終わり次第、レポート提出を求める。レポートの提出とその内容（50%）と授業中の課題の取り組み状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は心理検査の結果に基づいてレポートを作成する。
履修条件・注意事項	授業は、二人グループに分かれて検査を行う。一方の学生が休むともう一方の学生が検査ができなくなってしまうことから、休まないように。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目では、保健医療領域、教育領域、福祉領域における心理検査、心理面接等の実務経験のある教員が指導する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は配布された資料について学習してくること。講義後には、課題やレポートの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	土居：月曜2限（土居研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 新版K式：検査の説明	土居
第３回	3. 新版K式：実施方法	土居
第４回	4. 新版K式：実施	土居
第５回	5. 新版K式：記録の仕方	土居
第６回	6. 新版K式：解釈の仕方	土居
第７回	7. 新版K式：レポートの書き方	土居
第８回	8. BGT：説明と実施	土居
第９回	9. 樹木画テスト：説明	土居
第１０回	10. 樹木画テスト：実施	土居
第１１回	11. 人物画テスト：説明と実施	土居
第１２回	12. 家屋画テスト：説明と実施	土居
第１３回	13. SCT：説明と実施	土居
第１４回	14. TAT：説明と実施	土居
第１５回	15. TAT：実施	土居
第１６回	レポート試験	土居

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅳ（検査）	担当者	津川　秀夫、土居　正人、村上　勝典
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-320

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：公認心理師に必要な知識と技能（①コミュニケーション、②心理検査、③心理支援）について体験を通して、学修する。 到達目標：①コミュニケーション、②心理検査（発達・知能検査、不安やうつの検査）、③心理支援、の基本的な知識とスキルを修得する。
授業概要	本演習では、①コミュニケーションは、マイクロカウンセリング技法の体験を通して、基本的なかかわり方について学ぶ。②心理検査は、乳幼児期の発達・知能検査である田中ビネー式知能検査、および成人の不安とうつの程度を把握する質問紙検査について、体験を通して検査の実際を学ぶ。③心理支援については、マインドフルネスについて体験的に学修する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	各担当教員により、レポート提出を求める。レポートの提出とその内容（50%）と授業中の課題の取り組み状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時のなかで、レポートおよびグループワークについてフィードバックする。
履修条件・注意事項	（履修条件） ・原則として、2年次秋学期終了時までのGPAが2.0以上であること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 （注意事項） ・実技演習を行う授業のため、毎回出席すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目では、保健医療領域、教育領域、福祉領域における心理検査、心理面接等の実務経験のある教員が指導する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は配布された資料について学習してくること。講義後には、課題やレポートの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	津川：月曜4限（津川研究室） 土居：月曜2限（土居研究室） 村上：木曜3限（村上研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	津川・村上・土居
第２回	2. 職業倫理と法的義務	村上・津川・土居
第３回	3. コミュニケーション：基本的態度	村上・津川・土居
第４回	4. コミュニケーション：傾聴	村上・津川・土居
第５回	5. コミュニケーション：感情の反映	村上・津川・土居
第６回	6. 検査：田中ビネー検査について	土居・津川・村上
第７回	7. 検査：田中ビネー実施	土居・津川・村上
第８回	8. 検査：田中ビネー実施	土居・津川・村上
第９回	9. 検査：田中ビネー分析	土居・津川・村上
第１０回	10. 検査：田中ビネーレポート	土居・津川・村上
第１１回	11. 検査：STAI、LSAS	津川・村上・土居
第１２回	12. 検査：SDS、BDI	津川・村上・土居
第１３回	13. 不安やうつを支える心の癖	津川・村上・土居

第１４回	14. 脱中心化とマインドフルネス		津川・村上・土居
第１５回	15. マインドフルネス実習		津川・村上・土居
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害者・障害児心理学			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-321		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	授業テーマは、発達障害をはじめとするさまざまな障害の種類や特性を理解し、心理師として現場において支援する具体的な方法を学ぶことである。 具体的には、さまざまな障害による制約や特性、個々に対応するためのアセスメント、支援方法等について、障害ごとに理解していく。 「障害」とは何か、その種類、症状・特性、診断基準、支援方法等の知識を習得し、実際の心理臨床に生かすことを目標とする。
授業概要	主に発達障害についてDVD視聴、テキストの輪読、講義、グループ演習を通して学んでいく。 各テーマについて、適宜レポートや課題を課したり、グループ演習や討議によって理解を深めたりする。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループで行う演習やディスカッションを行うため、積極的に発言すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、心理師として障害児者に対する心理的支援の実務経験（小中高等学校におけるスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回指導・研修会講師、心理相談室における発達障害児のカウンセリング、保護者支援等）がある教員が担当する。障害児者の支援において必要な知識や技法を、実際のの事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、障害とは	藤原直子
第２回	発達障害とは何か、発達障害の種類と概要	藤原直子
第３回	発達障害に関する法律、合理的配慮	藤原直子
第４回	自閉スペクトラム症の特性と支援	藤原直子
第５回	注意欠如・多動症の特性と支援	藤原直子
第６回	限局性学習症の特性と支援	藤原直子
第７回	発達障害のアセスメント	藤原直子
第８回	発達障害に特化した検査	藤原直子
第９回	様々な障害に対する理解と支援：視覚・聴覚障害	藤原直子
第１０回	様々な障害に対する理解と支援：肢体不自由	藤原直子
第１１回	様々な障害に対する理解と支援：病弱・身体虚弱、重度・重複障害	藤原直子
第１２回	公認心理師として実施できる支援方法	藤原直子
第１３回	事例で考えるアセスメントと支援：地域	藤原直子

第１４回	事例で考えるアセスメントと支援：学校		藤原直子
第１５回	まとめ		藤原直子
第１６回	試験		藤原直子
教科書			
教・書籍名１	公認心理師のための発達障害入門	教・出版社名１	金子書房
教・著者名１	黒田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7698-2420-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	福祉心理学			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-322		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	福祉心理学では、福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な制度や支援について学習し、心理支援の必要性とあり方について理解を深めることをテーマとしている。到達目標は、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について理解することである。
授業概要	福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な支援や制度について紹介する。また、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について学習し、理解を深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストも行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で習い、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習にはそれぞれ２時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	社会福祉の歴史	宇都宮
第３回	福祉対象者への心理支援	宇都宮
第４回	児童虐待への心理支援	宇都宮
第５回	子どもと親への心理支援	宇都宮
第６回	福祉対象者への心理支援（事例DVD）	宇都宮
第７回	日本と世界の高齢者の現状	宇都宮
第８回	老年期の発達理論	宇都宮
第９回	認知症とは	宇都宮
第１０回	認知症の対応と援助	宇都宮
第１１回	認知症のアセスメント	宇都宮
第１２回	生活困窮・貧困者への心理支援	宇都宮
第１３回	精神障害者への心理支援	宇都宮
第１４回	精神障害者への心理支援（事例）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	第17巻 福祉心理学（公認心理師の基礎と実践）	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	中島健一（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-067-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育・学校心理学	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-323

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学校教育場面における問題行動とその対応法をテーマとする。 テーマに関する調査資料や論文を読み取る力を身につけるとともに、エビデンスに基づいた対応法を知ることを到達目標とする。
授業概要	学校教育場面において生じるさまざまな問題のなかでも，特に不登校に焦点をあて，未然防止や再登校援助の具体的な指針について理解する。授業では，不登校に関する調査資料や論文に実際にあたって読み進める。その作業を通して，不登校に関する最新情報を得るとともに，論文や統計データの読み取り方を習得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、授業での発言や取り組み姿勢（20%）、レポート（20%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について授業のなかでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	使用する資料は適宜配布する。参加型学習であるため授業の出席は必須である。もしも何らかの事情で欠席した場合には，他の受講者より内容を聞き，しっかり理解しておくことを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　小・中・高におけるスクールカウンセリング、教育センターにおける教育相談、精神科クリニックでの心理臨床活動などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料を読み込み授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日４時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	学校における問題行動	津川秀夫
第３回	不登校の現状：出現率の推移	津川秀夫
第４回	不登校の現状：不登校のきっかけ	津川秀夫
第５回	不登校の現状：長期欠席と不登校	津川秀夫
第６回	不登校の現状：地域別データから見えるもの	津川秀夫
第７回	不登校の現状：改善率	津川秀夫
第８回	学校ストレス	津川秀夫
第９回	不登校に影響する学校ストレスとは	津川秀夫
第１０回	欠席パターン	津川秀夫
第１１回	欠席パターンと不登校の未然防止	津川秀夫
第１２回	スクール・コネクテッドネス	津川秀夫
第１３回	スクール・コネクテッドネスの活用	津川秀夫
第１４回	PBISの活用	津川秀夫
第１５回	まとめと展望：教育行政の方針転換およびコロナ禍の影響	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書			
教・書籍名１	使用しない。 文部科学省のWEBを適宜参照する	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践18巻　教育・学校心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	4866160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	比較心理学			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	テーマ：動物の認知行動との比較を通して「こころ」の多様性を知り、ヒトの「こころ」について理解を深める。 到達目標：様々な動物の（認知）行動についての研究法を知り、ヒトに特異的と考えられている能力を他の動物との比較の中で捕らえ直すことができる。
授業概要	比較心理学は、ヒトと様々な動物の行動や認知能力を比較するこ とにより、ヒトの独自性と進化の過程を明らかにし、生物としてのヒトの「こころ」を理解しようとする学問である。本講義では、様々な動物種の認知能力についての研究事例を紹介し、それ ぞれの種がもつ「こころ」とその生物学的基盤および行動の機能・発達・進化について講義する。授業の後半は、講義で取り上げたテーマの中から１つを選び、ヒトを含む動物種ごとに担当を決めて資料を集め，内容を発表し、全員で議論することにより「こころ」について、あるいはその研究方法についての理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	４回ほど行う小テストの結果（20%）、研究発表・参加態度（40%）、定期試験（40%）で行う予定である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	フィードバックは小テストの返却、発表に対するコメント等において行う。
履修条件・注意事項	心理学実験実習、心理学研究法の知識は基本である。 後半は、各自の研究発表とそれについての討論が中心となるので、種々の文献の読みこなしが必須となる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの指定された箇所を読んでおくことと、配付資料を基に、予習と復習に3～4時間を要す。
オフィスアワー	月曜4限　教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	動物行動と心理学	森井
第３回	様々な学習と生物学的意義	森井
第４回	動物の記憶・研究方法	森井
第５回	動物の概念と思考	森井
第６回	問題解決と道具使用	森井
第７回	様々なコミュニケーション行動	森井
第８回	言語的コミュニケーション	森井
第９回	社会的認知と社会行動	森井
第１０回	演習テーマの決定と分担	森井
第１１回	資料の整理・進捗報告	森井
第１２回	発表と議論１	森井
第１３回	発表と議論２	森井
第１４回	発表と議論３	森井
第１５回	まとめ：ヒトと動物のこころ	森井
第１６回	学期末試験	森井

教科書			
教・書籍名１	動物たちは何を考えている？ -動物心理学の挑戦ー	教・出版社名１	技術評論社

教・著者名１	藤田和生（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7741-7258-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	コミュニティ心理学 （集中講義B）	担当者	松本　奈浦
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-325

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	コミュニティ心理学に関する基本的理念を学び、コミュニティ心理学が発展してきた背景、実際の臨床現場での取り組み等を理解、習得し説明することができるようになる。加えて心理社会的課題から今後どのような施策が必要かについて等自ら考える力を身につけられるようになる。またコミュニティ心理学の知識を身につけた上で架空の事例について検討を行うが、実践に近いケースを体験的に学習することによりコミュニティ感覚を養い、実際の現場で生かせるよう専門職としての質の向上を目指す。
授業概要	コミュニティ心理学は1960年代のアメリカにおいて地域精神保健活動を母体に誕生し、時代と社会のニーズの変遷とともに定義や手法も形を変えながら発展し続けている比較的新しい心理学分野である。コミュニティ心理学は地域臨床の文脈で実践・研究されてきた経緯がある。実際の臨床現場では、“児童虐待”、“いじめ問題”、“ハラスメント”等多様な心理社会的問題への支援が専門職として求められることになる。本授業ではコミュニティ心理学の理論やアプローチ方法を学び知識を深めていくとともに、実際にケース検討を行うなど自ら体験的に学ぶことも取り入れながらコミュニティ心理学の知識と技法を検討・理解し、心理専門職としての資質を高めていけるように構成している。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	コミュニティ心理学の基礎的な知識、そして心理専門職としての資質を高めるために、試験結果や授業での態度、参加の仕方、グループワークでの対応の仕方等を通じて総合的に評価する。具体的な評価はコミュニティ心理学の基礎知識や理論、実践的アプローチについて問う定期試験(50%)、グループワークにおける周囲への関わりや活発な意見交換(30%)、授業中の学びの程度を判定するための授業への積極的な参加態度(20%)を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	資料中心に授業を進めていく。講師の説明を聞き、重要なポイントと思われる場合には適宜記述し理解を深めていくこと。定着を図るために配布資料や参考図書をもとに予習・復習することが望ましい。受講態度の良くないもの、特に他学生の受講を妨げる行為を行うものには退出を求める。積極的な発言や議論を期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は実際にコミュニティ心理学的アプローチを実践している教員が、その経験を活かし、心理専門的・社会的に役立つ授業を実践する。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に調べ、理解したうえで授業を受けるとわかりやすい。単位認定試験は授業で学習した内容について満遍なく出題されるため、学んだことはその日のうちに事後学習することを進める。
オフィスアワー	10号館1階非常勤講師室にて実施。授業終了後でも対応可能。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション コミュニティ心理学とは	松本
第２回	コミュニティ心理学の歴史的背景	松本
第３回	人と環境の適合	松本
第４回	予防の重視とエンパワメント	松本

第５回	危機介入とは 危機への心理的アプローチ	松本
第６回	相談援助活動の実際「アセスメントツールの活用」	松本
第７回	事例検討①「心理的アセスメント実習」	松本
第８回	家庭・地域における実践	松本
第９回	児童相談所における心理的支援	松本
第１０回	事例検討②「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」	松本
第１１回	事例検討③「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」	松本
第１２回	まとめ「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」 今後の展望と課題	松本
第１３回	精神科領域における心理的支援と多職種との協働	松本
第１４回	事例検討④「精神科デイケアにおけるコミュニティアプローチ」	松本
第１５回	まとめ	松本
第１６回	単位認定試験	松本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかるコミュニティ心理学	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-04611-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営心理学			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-326		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	人々が雇用者として、あるいは被雇用者として職に就き、その組織において利潤を追求する目的で仕事に取り組む際に直面する多様な問題を心理学的立場から実証的に捉え、検討し、解決に役立てるための基本的知識を習得するのがテーマである。到達目標は上記内容を理解できるようにすることである。
授業概要	職業集団や組織における個人の心理過程を、経営・組織の意思決定、人事マネジメント、組織内人間関係とコミュニケーション、人材育成と職業的アイデンティティ、ストレスと健康などの観点から、今日的な経済・経営趨勢の中で捉え直すことによって、組織の生産性の向上と個人の職業的充実感に折り合いをつけて、いわゆる「役立つ」人材とは何であるのか、抉っていきたい。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから、ポイントを適宜指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	リーダーシップ	崔　瑞玹
第３回	フォロワーシップ	崔　瑞玹
第４回	組織コミットメント	崔　瑞玹
第５回	ストレスとメンタルヘルス	崔　瑞玹
第６回	心の健康	崔　瑞玹
第７回	経営・組織の意思決定	崔　瑞玹
第８回	人間関係とコミュニケーション	崔　瑞玹
第９回	人材教育とキャリア	崔　瑞玹
第１０回	人事マネジメント	崔　瑞玹
第１１回	消費者行動の心理学	崔　瑞玹
第１２回	広告の心理学	崔　瑞玹
第１３回	ファッションの心理学	崔　瑞玹
第１４回	分化・環境・経営	崔　瑞玹
第１５回	組織神経科学	崔　瑞玹
第１６回	定期試験	崔　瑞玹

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	経営・ビジネス心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	松田幸弘（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7795-1263-6 C3011
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	家庭支援論			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-327		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。到達目標としては次の通りである。 １．学生が、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援 の現状、課題について理解する。
授業概要	家族機能の衰退や家族の病理が深刻な問題とされている一方で、家族はなお基本的な社会集団としての役割を期待されている。家族の意義やその有用性を再認識し、家族のもつ力を活用した家庭支援のあり方を講義する。とりわけ家族・家庭への援助技術について詳しく講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業態度（20%）、課題発表（20%）、試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に出された課題は次の週の授業時にフィードバックする。試験に関する解説をフィードバックする。
履修条件・注意事項	単位の取得には3分の2以上の出席が条件。教科書による予習や講義後の復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習は90分以上を費やし、毎回の授業内容について、教科書や関連する文献で調べておき、わからないところはまとめておくこと。復習も90分以上を費やし、授業で学んだことを整理しておくこと。適宜、宿題を出す。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

	授業計画	担当者
第１回	１．子ども家庭支援の意義と必要性	中野明子
第２回	２．子ども家庭支援の目的と機能	中野明子
第３回	３．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	中野明子
第４回	４．子育て家庭の福祉を図るための社会資源	中野明子
第５回	５．保育の専門性を活かした子ども家庭支援	中野明子
第６回	６．子どもの育ちの喜びの共有	中野明子
第７回	７．保護者および地域の実践に対する支援	中野明子
第８回	８．保育士に求められる基本的態度	中野明子
第９回	９．家庭の状況に応じた支援	中野明子
第１０回	10．地域資源の活用と関連機関との連携・協力	中野明子
第１１回	11.子ども家庭支援の内容と対象	中野明子

第１２回	12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援	中野明子
第１３回	13.地域の子育て家庭への支援	中野明子
第１４回	14.要保護児童およびその家庭に対する支援	中野明子
第１５回	15.子育て支援に関する課題と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	新基本保育シリーズ　⑤　子ども家庭支援論	教・出版社名１	中央法規出版
教・著者名１	編集：松原　康雄他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5785-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床神経学			担当者	中角　祐治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-328		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	この授業のテーマは、神経疾患の臨床像についての理解である。 公認心理士等として、医療福祉施設に勤務する場合に必要な知識の習得を到達目標とする。
授業概要	神経系に関係する血管障害、変性疾患、外傷、腫瘍、感染症、先天性疾患、機能性疾患について講義する。 最初の授業の時に、各学生に２回目以降の授業時に発表してもらうテーマを提示します。 ２回目以降は、学生のプレゼンテーションに続いて、ディスカッションを行います。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	プレゼンテーションが６０％、ディスカッション２０％、毎回の授業の最後に行う小テスト２０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の最後に行う小テストについて、次回の授業の最初に解説をします。
履修条件・注意事項	神経疾患を理解するためには、正常な解剖・生理と病態生理・症候学の知識を有していることが必要です。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員は、東京都立神経病院神経内科、Iowa大学Neurology等での勤務経験があります。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習に各２時間を要します。配布資料を中心に取り組んで下さい。
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階、６４１１研究室

	授業計画	担当者
第１回	脳血管障害；総論	中角
第２回	脳血管障害；出血性	中角
第３回	脳血管障害；虚血性	中角
第４回	変性疾患１	中角
第５回	変性疾患２	中角
第６回	変性疾患３	中角
第７回	脱髄疾患	中角
第８回	神経筋接合部疾患	中角
第９回	筋疾患	中角
第１０回	外傷	中角
第１１回	慢性的な圧迫	中角
第１２回	腫瘍	中角
第１３回	感染症	中角
第１４回	先天性疾患	中角
第１５回	機能性疾患	中角
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	なし（配布資料を教科書代わりに使ってください）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	神経内科学テキスト	参・出版社名１	南江堂

参・著者名１	江藤文夫	参・ＩＳＢＮ１	978-524-26215-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経診断学			担当者	中角　祐治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-329		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	この授業のテーマは、神経系が障害された時に見られる症候を理解し、それらの症候から神経系の障害部位を考えるための検査法（神経診断学）を学生が理解することである。
授業概要	神経系の病態生理、神経解剖学に基づいた系統的な神経所見の診察法、補助検査について、各学生に課題を指定する。 学生のプレゼンテーションに続き、質疑応答を行う。授業の最後に小テストを行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業内での発表内容について60%、質疑応答の内容20%、小テスト20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の最初に、前回授業時に行った小テストの解説をする。
履修条件・注意事項	積極的にディスカッションに参加して下さい。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員は、東京都立神経病院神経内科、アイオワ大Neurology　などで勤務した経験があります。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習に各２時間を要す
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階、６４１１研究室

	授業計画	担当者
第１回	神経系の発生学と解剖学総論	中角
第２回	大脳	中角
第３回	基底核・小脳	中角
第４回	脳幹・脊髄	中角
第５回	末梢神経・血管	中角
第６回	神経生理学	中角
第７回	生化学、薬理	中角
第８回	診断学１；総論	中角
第９回	診断学２；脳神経	中角
第１０回	診断学３；運動系	中角
第１１回	診断学４；感覚系	中角
第１２回	診断学５；自律神経系	中角
第１３回	診断学６；高次脳機能	中角
第１４回	補助検査１；画像診断	中角
第１５回	補助検査２；生理検査、生化学検査	中角
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	なし（配布資料を教科書代わりに使って下さい）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	神経内科学テキスト	参・出版社名１	南江堂

参・著者名１	江藤文夫	参・ＩＳＢＮ１	978-524-26215-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床の倫理				担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年				ナンバリング	PS-PS-3-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	【テーマ】教育・医療・産業等における心理臨床現場における例題を通して、倫理を調べ学習と討論、考察により、自分なりの視点を持てるようになること。 【到達目標】臨床現場（教育・医療・産業等）は治療者とクライアント、両者を取り巻く人間関係の上に成り立つ場であるため、守秘、インフォームドコンセント等において治療者の倫理が問われる。学生は、適切なアセスメントや支援が行われるためのクライアント理解のあり方、障害に対する一般的心理反応等について学習し、それらに対する対応を理解・修得できること。
授業概要	法律や倫理的観点を学習し、インフォームドコンセント、守秘義務、いじめや不登校、研究倫理、研究結果の公表などテーマを絞って、それらにおける倫理的問題を検討する。 グループごとに話し合いをすることになる。一つのテーマについて、4コマかけてディスカッション及び図書館で調べたりすることを通して、会話に深みをつけていく。しっかり時間をとって話し合うため、学生同士は多方面の意見が出て新たな気づきが生まれると思われる。大学時代でしかできないこの体験は、貴重なものとなるであろう。主観と客観を分ける聞いて話す技術、人の話を聞きだし聞く力、まとめる力、発表する力などこれから就職する学生にとっては、大きな経験となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度、レポート提出と討論への参加状況を総合して評価する。４回の個人レポート（25%）、受講態度を含む討論への参加状況、授業内で出す課題や小レポートへの取り組み（75%）を目安とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は、1つのテーマにつき、前半の話し合いを行った後の集団レポート、後半の話し合いを行った後の個人レポートの2種類があり、それぞれを提出する必要がある。レポートを元にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	様々なテーマについて、グループごとに話し合いを行う。グループの人と会話をしようとする気持ちを持って、授業を受けること。 話し合いでは、自分なりの意見を持って発言すること。また、レポート作成の際に講義内容を振り返るような学習を期待する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、配布されたプリントを学習してくること。講義後には、グループで話し合ったテーマについて復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション・インフォームド・コンセントのテーマ	土居
第２回	2. インフォームド・コンセントの調べ学習	土居
第３回	3. インフォームド・コンセントの討論・レポート	土居
第４回	4. 教育現場の倫理のテーマと話し合い	土居
第５回	5. 教育現場の倫理の調べ学習	土居
第６回	6. 教育現場の倫理の調べ学習と討論	土居
第７回	7. 教育現場の倫理の討論・レポート	土居
第８回	8. 研究倫理のテーマと話し合い	土居
第９回	9. 研究倫理の調べ学習	土居
第１０回	10. 研究倫理の調べ学習と話し合い	土居
第１１回	11. 研究倫理の討論・レポート	土居

第１２回	12. 剽窃・改ざん・ディブリーフィングのテーマ	土居	
第１３回	13. 剽窃、改ざん、ディブリーフィングの調べ学習	土居	
第１４回	14. 剽窃、改ざん、ディブリーフィングの討論・レポート	土居	
第１５回	15. まとめ	土居	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本史 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-901		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	【テーマ】日本の歴史について、古代から現代までグローバルな講義で講義をし、演習も取り入れる。 【到達目標】 1　日本の歴史の大きな流れと時代の変化について理解することができる。 2　日本の歴史が、世界の歴史の影響を受けながらあることを理解することができる。 3　地域の歴史を学ぶことで、日本の歴史に関連付けた理解ができる。 4　中学校社会での教授を想定し、基礎的な事項の理解と教材化に向けた視点をもつことができる。
授業概要	日本の通史を扱い、混迷する２１世紀において生きる指針を歴史から学ぶ。既習事項を整理しながら、それぞれの時代の全体像について把握し、差異に着目して将来の教授につながる時間となるよう多様な資料を活用して進めていく。地域の歴史教材（備中松山城と城下町・高梁）を組み入れた授業も行う。ビデオ教材やWeb教材も積極的に活用し、ビジュアルに進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	定期試験７０％、課題・小テスト２０％、授業への積極的態度１０％課題
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、小レポートは授業でフィードバックし、理解の深化・統合に活用する。
履修条件・注意事項	講義の３分の２以上の出席が定期試験を受けるための条件である。真剣な授業への取り組みの姿勢を求める。毎時間配付する資料をファイルし整理できるように。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習としての予習復習（各３０時間程度）が大切です。資料整理も必要です。
オフィスアワー	毎時間講義の後で教室にて実施

授業計画		担当者
第１回	授業の進め方　日本の文化のあけぼの	小林
第２回	律令制度と平城京の時代	小林
第３回	摂関政治と国風文化	小林
第４回	鎌倉幕府の成立と元寇	小林
第５回	室町時代と戦国大名の登場、戦国期の高梁	小林
第６回	幕藩体制の成立と城下町高梁	小林
第７回	開国と幕末の動乱	小林
第８回	明治維新と富国強兵	小林
第９回	立憲国家の成立と日清・日露戦争	小林
第１０回	第一次世界大戦と日本	小林
第１１回	第二次世界大戦と日本	小林
第１２回	太平洋戦争（地域、広島・長崎・沖縄から学ぶ）	小林
第１３回	占領下の日本	小林
第１４回	高度成長の時代	小林
第１５回	激動する世界と日本	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	詳説日本史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	笹山晴生　佐藤信　五味文彦　高埜利彦（ほか１０名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70012-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	東洋史 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-902		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】古代から現代の中国を中心とした東洋の歴史の概要を講義する。 【到達目標】 1　東洋史の大きな流れや他地域との関連など、グローバルに把握することができる。 2　日本の歴史と東洋の歴史の密接な関係について、具体的な事象を通して理解することができる。 3　中学校社会の教授をイメージし、日本史の背景として東洋の歴史について教材化の視点をもつことができる。
授業概要	本講義では、主として中国の古代から現代に至る歴史について講義する．中国史に関する様々な問題をテーマとして取上げながら、全体として通史的な構成する。あわせて、朝鮮半島やインド、イスラム諸国の歴史についても言及。日本との関係や影響についてふれる。ビデオ教材やWeb教材を積極的に活用し、ビジュアルに授業を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験、課題、積極的授業態度を総合的に判断して評価する。定期試験（７０%）、課題（２０%）、積極的授業態度(10%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題にはレポートを含み、授業中にフィードバックし、理解の深化・統合を図るものとする。
履修条件・注意事項	資料を用意するのでファイルを毎時間持参すること。講義の３分の２以上出席することが、定期試験を受ける条件である。課題は必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は。中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	テキストをよく読むとともに、資料の予習復習をしっかり行ってほしい。予習・復習（各30時間）は欠かせない。
オフィスアワー	毎時間授業後、教室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	授業の進め方　インドの古典文明	小林
第２回	中国の古典文明	小林
第３回	北方民族の活動と三国志の世界	小林
第４回	イスラム世界の形成と発展	小林
第５回	モンゴル帝国の成立と元寇	小林
第６回	明代の中国と日本	小林
第７回	清と東アジア諸国	小林
第８回	西アジア地域の変容	小林
第９回	アジア諸地域の動揺	小林
第１０回	アジア諸国の改革と民族運動	小林
第１１回	東アジアの民族運動	小林
第１２回	満州事変と日中戦争	小林
第１３回	中華人民共和国の成立と歩み	小林
第１４回	アジア地域の民族運動と独立	小林

第１５回	第三世界の台頭と現在の世界		小林
第１６回	単位認定試験		小林
教科書			
教・書籍名１	詳説世界史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	木村靖二、岸本美緒、小松久男（ほか５名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70034-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	西洋史 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-903		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】古代ギリシア世界～現代に至る西洋の歴史にグローバルな視点で学ぶ。 【到達目標】 1　西洋の歴史を他の地域や日本との歴史と関係付けて、理解することができる。 2　中学校社会での教授を想定し、日本史の背景として西洋の歴史がどのような影響を与えたのか理解することができる。
授業概要	我が国の歴史の理解や今後の他国との信頼関係構築には、諸外国が歩んできた歴史を踏まえた深い異文化理解が不可欠である。現代の西洋世界を理解するためには、遠い過去から積み重ねられてきた伝統を理解することが必要である。ビデオ教材やWeb教材を積極的に活用し、ビジュアルに授業を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション
評価方法と割合	単位認定試験(７０％)、課題・小テスト（２０％）、積極的授業態度（１０％）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題・小テストについては授業中にフィードバックさせて理解の深化に努める。
履修条件・注意事項	毎時間資料を用意するのでファイルし、教科書とともに持参すること。３分の２以上の出席が単位認定試験参加の条件である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予・復習（各３０時間）と課題への真剣な取り組みの姿勢を期待する。
オフィスアワー	授業終了後教室にて実施。

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　ギリシア世界	小林
第２回	ローマ世界	小林
第３回	西ヨーロッパ中世の変容と文化	小林
第４回	ヨーロッパ世界の拡大	小林
第５回	ルネサンス	小林
第６回	宗教改革	小林
第７回	重商主義と専制政治	小林
第８回	ヨーロッパ諸国の海外進出と日本への影響	小林
第９回	産業革命	小林
第１０回	アメリカ合衆国の成立	小林
第１１回	フランス革命とナポレオン	小林
第１２回	アメリカ合衆国の発展	小林
第１３回	第一次世界大戦と日本	小林
第１４回	世界恐慌と第２次世界大戦	小林
第１５回	冷戦の終結と第三世界の独立	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	詳説世界史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	木村靖二、岸本美緒、小松久男（ほか５名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70034-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地理学概論 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-904		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】地理学の基礎的知識についてグローバルな視点で講義し、理解を深める。 【到達目標】 1　世界の気候について、様々な地域の理解と人々に暮らしについて理解することができる。 2　日本の産業とその変化について、知識と理解を深めることができる。 2　中学校社会地理分野での教授をイメージし、授業づくりに生かす視点をもつことができる。
授業概要	・中学校社会科地理的分野の内容を教授できる系統地理・人文地理の基礎的内容を現代社会の課題に触れながら学習する。 ・中学校・高等学校の既習知識を呼び起こし、現代社会の地理的諸課題について考察する。 ・Web教材やタブレット端末を活用し、探究的な授業を進める。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（７０％）、レポート（１５％）、積極的態度（１５％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートについては授業でフィードバックさせ深化・統合を図る。
履修条件・注意事項	テキストは毎時間持参すること。参考資料・課題を配布するのでノートとともに毎時間記録整理しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習復習に心がけ課題意識をもって授業に参加してほしい。積極的、建設的な意見がもてるよう日々の課題意識が求められる。予習復習には２時間程度は必要です。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　地球をながめて	小林
第２回	世界の様々な生活と環境	小林
第３回	暑い地域の暮らし	小林
第４回	乾燥した地域の暮らし	小林
第５回	温暖な地域の暮らし	小林
第６回	寒い地域の暮らし	小林
第７回	高地の暮らし	小林
第８回	宗教と生活のかかわり	小林
第９回	日本の領域と領土問題	小林
第１０回	環境問題と環境保全	小林
第１１回	世界や日本の資源・エネルギー・電力	小林
第１２回	日本の農業、林業、漁業とその変化	小林
第１３回	日本の工業とその変化	小林
第１４回	日本の商業・サービス業	小林
第１５回	世界の日本の交通・通信網	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	中学校社会科地図	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	金坂清則、荒井良雄、岩本廣美（ほか９名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8071-6588-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地誌学 （心理）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】地誌学の概要と日本及び世界の主要地域の地誌を学ぶ。 【到達目標】 1　グローバルな視点により、地理的事象を分析・探求することができる。 2　様々な地域の特徴と諸問題、地域間のつながりについて理解することができる。 3　中学校社会科教員として授業ができる知識・技能を身に付けることができる。
授業概要	・日本や世界の各地方を題材に、自然や人々の暮らしの様子、特徴を地理的に考察する。 ・世界や日本の地理を多面的・多角的に考察し、世界の中の日本の姿をイメージできるように進める。 ・Web教材やタブレット端末を活用し、探究的な学習を取り入れる。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（７０％）、課題提出（１５％）、積極的な授業態度（１５％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題提出については、授業でフィードバックし深化・統合に資する。
履修条件・注意事項	教科書を毎時間持参すること。資料を毎時間配付するのでファイルとノートを準備すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校社会科教員として実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業中に課題を提示するので、Webページで調べたり、自分の考えをまとめるなど、積極的に学習に取り組んでいただきたい。予習復習には２時間程度は必要。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　学習指導要領と社会科地理的分野	小林
第２回	九州地方の自然と人々の生活	小林
第３回	中国四国地方の自然と暮らし	小林
第４回	瀬戸内の産業と観光	小林
第５回	近畿地方の自然と暮らし	小林
第６回	中部地方の自然と暮らし	小林
第７回	関東地方の暮らしと産業	小林
第８回	東北地方の自然と産業	小林
第９回	北海道の自然と産業	小林
第１０回	東アジアの地誌	小林
第１１回	東南アジア・南アジアの地誌	小林
第１２回	ヨーロッパの地誌	小林
第１３回	北アメリカの地誌	小林
第１４回	南アメリカの地誌	小林
第１５回	オセアニアの地誌	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書

教・書籍名１	社会科中学生の地理（令和３年度）世界の姿と日本の国土	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	梅田克樹、漆間浩一、大山修一（ほか15名）	教・ＩＳＢＮ１	4807164783
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	法学 （心理）	担当者	生駒　正文
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年	ナンバリング	TC-PS-1-906

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義（法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識）を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。
授業概要	本講義では、個人の生活、企業のビジネスで体験する身近な法的問題を取り上げることによって法の生きた現実の機能を学ぶとともに、法的なものの考え方（リーガルマインド）を学習できるようになっています。講義中に配布する簡単なレジュメ・教科書をもとに授業します。 　各講義とも、それに関係する基礎的な知識習得として、「テーマ」を出しますので、各自意見を文章にしてもらいます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート及び平常点３０％、定期試験７０％として総合評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題・小テスト等は後日添削して返却
履修条件・注意事項	新聞記事を毎日読むこと、受講に際して、ノートを取ること、考えることを原則に講義に臨むこと
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員として各案件処理等経験を持つ教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施します
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	12:00～13：２０　14号館6階（生駒研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. 法律の基礎知識	生駒正文
第２回	2. 日本国憲法の構成と基本原理	生駒正文
第３回	3・平和主義・国民主権（三権分立）	生駒正文
第４回	4. 基本的人権	生駒正文
第５回	5. 基本的人権	生駒正文
第６回	６．基本的人権	生駒正文
第７回	7. 家族法の基礎知識（婚姻、内縁）	生駒正文
第８回	８．家族法の基礎知識（親族）	生駒正文
第９回	9. 家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１０回	10. 家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１１回	11. 契約一般の基礎知識（契約上の注意点、無効、取消）	生駒正文
第１２回	12. 契約一般の基礎知識（代理、契約解除に必要な条件）	生駒正文
第１３回	13. 訪問販売・割賦販売の基礎知識（消費者契約法、クレジット）	生駒正文
第１４回	14. 訪問販売・割賦販売の基礎知（特定商取引法）	生駒正文
第１５回	15. 電子取引上の契約とホームページ	生駒正文
第１６回	16. 定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８３４－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	政治学 （心理）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	大学で政治の問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。 この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的な出来事の理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。
授業概要	この講義では、様々な政治現象を分析し説明する。なお、複雑な政治現象の仕組みを理解するためには、政治学の基礎的な概念と考え方、そして理論についての説明は不可避である。講義の主な内容は、政治学の基礎知識を習得しながら、「先進民主主義国・日本の政治と社会」について、様々なトピックを取り上げて説明する。そのため、受講生は、日常の政治社会学的な出来事とその経済的関連について関心を持つことが大切である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	政治とは何か	李　分一
第３回	現代社会と政治	李　分一
第４回	政治の地位と役割	李　分一
第５回	国家論	李　分一
第６回	政治学の行動科学主義的方法	李　分一
第７回	政治学の歴史的接近方法	李　分一
第８回	政治と権力	李　分一
第９回	支配の正当性	李　分一
第１０回	権力の分立	李　分一
第１１回	政治的リーダーシップの意義	李　分一
第１２回	政治的リーダーと大衆	李　分一
第１３回	現代社会と政治的指導力	李　分一
第１４回	政治文化	李　分一

第１５回	政治参加	李　分一	
第１６回	定期試験	李　分一	
教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ　（心理）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-914		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、中学校社会科３分野のうち「歴史」分野を学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教師がコメントするだけでなく、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単なる単位取得目的ではなく、自身の将来への強い目的意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高等学校教員として実務経験を持つ教員が、その経験をいかし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。 事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	教材確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について①　その変遷と時代背景	磯
第３回	学習指導要領について②　現行学習指導要領の研究	磯
第４回	授業計画について①　作り方説明のあと作成	磯
第５回	授業計画について②　作成、提出、ディスカッション	磯
第６回	教材研究、教科書単元別指導法研究①　１章、２章	磯
第７回	教材研究、教科書単元別指導法研究②　３章	磯
第８回	教材研究、教科書単元別指導法研究③　４章	磯
第９回	教材研究、教科書単元別指導法研究④　５章	磯
第１０回	教材研究、教科書単元別指導法研究⑤　６章、７章	磯
第１１回	テスト問題作成演習	磯
第１２回	テスト問題についてディスカッション、学習指導案作成演習①	磯
第１３回	学習指導案作成演習②、情報機器活用を考える。	磯

第１４回	学習指導案をめぐるディスカッション。模擬授業準備	磯	
第１５回	模擬授業、授業後ディスカッション	磯	
第１６回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名１	新しい社会　歴史	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	坂上康俊　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-12332-2
教・書籍名２	中学校学指導要領解説　社会編	教・出版社名2	東洋館出版社
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03471-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ　（心理）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、中学校社会科のうち「地理」「公民」について学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について	磯
第３回	地理、公民授業計画書作成①	磯
第４回	地理、公民授業計画書作成②	磯
第５回	教材研究、地理教科書単元指導法研究　第１部	磯
第６回	教材研究、地理教科書単元指導法研究　第２部	磯
第７回	地理　テスト問題作成演習	磯
第８回	学習指導案作成演習：情報機器の利用を考える	磯
第９回	地理　模擬授業　実施後ディスカッション	磯
第１０回	教材研究、公民教科書単元指導法研究　１～３章	磯
第１１回	教材研究、公民教科書単元指導法研究　４～終章	磯
第１２回	公民　テスト問題作成演習	磯
第１３回	学習指導案作成演習：情報機器の利用を考える	磯
第１４回	公民　模擬授業　実施後ディスカッション	磯

第１５回	１年間の総括（様々な取り組みに対する反省、意見交換） 自分自身の将来に向けての展望を提出	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	社会科　中学生の地理	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	谷内　達　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8071-6478-3
教・書籍名２	新しい社会　公民	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	坂上康俊　他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-12333-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学指導要領解説　社会編	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03471-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ（心理）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-916		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる高校生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「公共」について学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について①　変遷と時代背景	磯
第３回	学習指導要領について②　公民科の変遷、「公共」という科目について	磯
第４回	「公共」教科書分析（「現代社会」との比較）	磯
第５回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究①	磯
第６回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究②	磯
第７回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究③	磯
第８回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究④	磯
第９回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究⑤	磯
第１０回	「公共」テスト問題作成演習	磯
第１１回	「公共」テスト問題ディスカッション（提出されたテスト問題について意見交換）	磯
第１２回	学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第１３回	学習指導案ディスカッション（提出されたテスト問題について意見交換）	磯
第１４回	模擬授業準備	磯

第１５回	模擬授業、実施後意見交換	磯	
第１６回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名１	公共	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	間宮陽介　他	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	高等学校学習指導要領解説　公民編	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-28633-1
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ　（心理）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	TC-PS-3-917

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる高校生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「倫理」、「政治経済」を学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について	磯
第３回	「倫理」授業計画書作成	磯
第４回	教材研究、「倫理」教科書単元指導法研究①　１～３章	磯
第５回	教材研究、「倫理」教科書単元指導法研究②　４～５章	磯
第６回	「倫理」テスト問題作成演習	磯
第７回	テスト問題ディスカッション、学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第８回	学習指導案作成、提出、ディスカッション	磯
第９回	「政治経済」授業計画書作成	磯
第１０回	教材研究、「政治経済」教科書単元指導法研究①　１編、３編の一部	磯
第１１回	教材研究、「政治経済」教科書単元指導法研究②　２編、３編の一部公民	磯
第１２回	「政治経済」テスト問題作成演習	磯
第１３回	「政治経済」テスト問題ディスカッション、学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第１４回	学習指導案ディスカッション、模擬授業準備	磯

第１５回	「倫理」あるいは「政治経済」模擬授業、実施後意見交換		磯
第１６回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名１	倫理	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	竹内整一　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-16523-0
教・書籍名２	最新政治経済　新訂版	教・出版社名2	実教出版
教・著者名2	伊東光晴　他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-407-20402-5
参考書			
参・書籍名１	高等学校学習指導要領解説　公民編	参・出版社名１	東京書籍
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-487-28633-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	介護等体験の研究 （心理）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-926		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義してをいただく。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）と毎回課されるレポート（６０％）により評価する。レポートは内容確認後返却する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。 教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。 講義予定回数は８回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。
事前学習・事後学習とその時間	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間） 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間） 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	介護等体験の意義・目的（第１部１～３章）	
第２回	介護等体験の実際（第２部２章，３章）	
第３回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）	
第４回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）	
第５回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）	
第６回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）	
第７回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）	
第８回	まとめ・試験（第１部４章）	
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック　五訂版	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	現代教師養成研究会（編）	教・ＩＳＢＮ１	9.78447E+12
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職論 （心理）			担当者	池上　真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。
授業概要	教師，教職，人を教え育てるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	10号館１階非常勤講師室にて、毎週月曜日２限及び昼休みに行う。

	授業計画	担当者
第１回	教師の歴史と教師論	池上
第２回	求められる教員の資質の変遷	池上
第３回	教育的諸問題と教職の課題	池上
第４回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）	池上
第５回	教員の仕事と役割②（教科指導）	池上
第６回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上

第７回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上
第８回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上
第９回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上
第１０回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上
第１１回	教員の研修	池上
第１２回	服務規程	池上
第１３回	小中学校の教員	池上
第１４回	高等学校・特別支援学校の教員	池上
第１５回	教員養成と教職課程	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	教職論　教師を志すすべての人へ　第2版	教・出版社名１	
教・著者名１	教職問題研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05305-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職論 （心理）			担当者	池上　真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年			ナンバリング	TC-PS-1-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。
授業概要	教師，教職，人を教え育てるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	10号館１階非常勤講師室にて、毎週月曜日２限及び昼休みに行う。

	授業計画	担当者
第１回	教師の歴史と教師論	池上
第２回	求められる教員の資質の変遷	池上
第３回	教育的諸問題と教職の課題	池上
第４回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）	池上
第５回	教員の仕事と役割②（教科指導）	池上
第６回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上

第７回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上
第８回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上
第９回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上
第１０回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上
第１１回	教員の研修	池上
第１２回	服務規程	池上
第１３回	小中学校の教員	池上
第１４回	高等学校・特別支援学校の教員	池上
第１５回	教員養成と教職課程	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	教職論　教師を志すすべての人へ　第2版	教・出版社名１	
教・著者名１	教職問題研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05305-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育原論 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-909		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 １．教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる ２．代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する ３．近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する ４．家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する ５．上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく６つの段階に分けて展開する。１・２回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）

授業計画	担当者

第１回	教育の基礎概念	倉知典弘
第２回	教育の源形態－家庭・共同 体による教育	倉知典弘
第３回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘
第４回	第４回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘
第５回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘
第６回	第６回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘
第７回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘
第８回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘
第９回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘
第１０回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘
第１１回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘
第１２回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘
第１３回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘
第１４回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘
第１５回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	今井康雄編	教・ＩＳＢＮ１	978-4641123847
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育の歴史と思想	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	石村華代・軽部勝一郎編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065844
参・書籍名２	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ＩＳＢＮ2	978-4861633171

授業科目名	教育原論 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-909		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 １．学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる ２．学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる ３．学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる ４．学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる ５．学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく６つの段階に分けて展開する。１・２回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）

授業計画	担当者

第１回	教育の基礎概念		倉知典弘
第２回	教育の源形態－家庭・共同体による教育		倉知典弘
第３回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想		倉知典弘
第４回	第４回：古代の教育思想（2）日本の教育思想		倉知典弘
第５回	中世の教育思想（1）宗教と教育		倉知典弘
第６回	第６回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育		倉知典弘
第７回	近代の教育思想（1）産業革命と教育		倉知典弘
第８回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立		倉知典弘
第９回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開		倉知典弘
第１０回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相		倉知典弘
第１１回	現代の教育思想（2）戦争と教育		倉知典弘
第１２回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育		倉知典弘
第１３回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育		倉知典弘
第１４回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育		倉知典弘
第１５回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて		倉知典弘
第１６回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名１	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	今井康雄編	教・ＩＳＢＮ１	978-4641123847
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教育の歴史と思想	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	石村華代・軽部勝一郎編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065844
参・書籍名２	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ＩＳＢＮ2	978-4861633171

授業科目名	教育心理学 （心理）			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-910		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	１．教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ ２．児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける ３．児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける
授業概要	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。 まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的に実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教育心理学とは	藤原直子
第２回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達	藤原直子
第３回	心身の発達②：児童期	藤原直子
第４回	心身の発達③：青年期以降	藤原直子
第５回	学習と知識獲得	藤原直子
第６回	認知的情報処理と記憶	藤原直子
第７回	動機づけと学習	藤原直子
第８回	認知発達と学習支援	藤原直子
第９回	学級集団と学習支援	藤原直子
第１０回	個性や個人差と学習支援	藤原直子
第１１回	教育評価	藤原直子
第１２回	障害の基本的理解と学校教育における配慮	藤原直子
第１３回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子

第１４回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援		藤原直子
第１５回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学		藤原直子
第１６回	試験		藤原直子
教科書			
教・書籍名１	よくわかる教職エクササイズ②　教育心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	森田健宏・田爪宏二	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08177-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別支援教育 （心理）後半8回			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-911		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。 さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。
授業概要	特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための具体的な方法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育現場における障害児者に対する心理的支援の実務経験（幼稚園・小学校での教員、小中高等学校でのスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回相談）がある教員が担当し、教育現場における現状や課題、教員として必要とされる特別支援に関する知識や支援方法について教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 ②授業内で実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 ③授業内で配布するプリントの空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

	授業計画	担当者
第１回	特別支援教育の制度と理念、学校における支援体制及び連携	藤原直子
第２回	特別支援教育の実際、指導計画の作成	藤原直子
第３回	発達障害児の心身の発達・心理的特性	藤原直子
第４回	自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒への理解と支援	藤原直子
第５回	注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒への理解と支援	藤原直子
第６回	限局性学習症（LD）の児童生徒への理解と支援	藤原直子
第７回	様々な障害のある児童生徒の特性と支援、まとめ	藤原直子
第８回	試験	藤原直子
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		

第１５回			
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト	教・出版社名１	学研教育みらい
教・著者名１	小林倫代（編・著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-05-801762-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育行政学 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 １．学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる ２．学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる ３．学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる ４．学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる ５．学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる ６．学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第１回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第２回～第７回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第８回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に着けてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として1）講義に取り上げる予定の法令調べ　2）講義にかかわる事項の調べ　3）テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1）講義のキーワードのまとめ　2）論述課題　3）講義の振り返りを課す（2時間程度）
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）にて

授業計画		担当者
第１回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について	倉知典弘
第２回	教育の法制の概要：教育の法律主義について	倉知典弘
第３回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス	倉知典弘
第４回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立	倉知典弘
第５回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から	倉知典弘
第６回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習	倉知典弘
第７回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に	倉知典弘
第８回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に	倉知典弘
第９回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル	倉知典弘
第１０回	学校における教育活動：教育課程	倉知典弘
第１１回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応	倉知典弘
第１２回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携	倉知典弘
第１３回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健	倉知典弘
第１４回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応	倉知典弘
第１５回	現代教育改革と教育行政・学校経営	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	教育行政学　第３版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名１	八千代出版
教・著者名１	横井敏郎編	教・ＩＳＢＮ１	9784842917849
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育小六法	参・出版社名１	学陽書房
参・著者名１	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ＩＳＢＮ１	978-4313011953
参・書籍名２	中学校学習指導要領（最新版）　高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育行政学 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 １．学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる ２．学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる ３．学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる ４．学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる ５．学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる ６．学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第１回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第２回～第７回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第８回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に着けてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として1）講義に取り上げる予定の法令調べ　2）講義にかかわる事項の調べ　3）テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1）講義のキーワードのまとめ　2）論述課題　3）講義の振り返りを課す（2時間程度）
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）にて

授業計画		担当者
第１回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について	倉知典弘
第２回	教育の法制の概要：教育の法律主義について	倉知典弘
第３回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス	倉知典弘
第４回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立	倉知典弘
第５回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から	倉知典弘
第６回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習	倉知典弘
第７回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に	倉知典弘
第８回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に	倉知典弘
第９回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル	倉知典弘
第１０回	学校における教育活動：教育課程	倉知典弘
第１１回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応	倉知典弘
第１２回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携	倉知典弘
第１３回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健	倉知典弘
第１４回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応	倉知典弘
第１５回	現代教育改革と教育行政・学校経営	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	教育行政学　第３版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名１	八千代出版
教・著者名１	横井敏郎編	教・ＩＳＢＮ１	9784842917849
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育小六法	参・出版社名１	学陽書房
参・著者名１	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ＩＳＢＮ１	978-4313011953
参・書籍名２	中学校学習指導要領（最新版）　高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育課程論 （心理）前半8回	担当者	池上　真由美
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-913

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義・AL

年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し，学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する，また，編成した教育課程を実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルについて理解することを目標とする。
授業概要	教育課程とは何か，教育課程の変遷，教育課程の法体系と学習指導要領，新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また，編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを，実践例を通して学び，演習やグループワーク等を行うことで，カリキュラム・マネジメント力を養う。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日２時限目

	授業計画	担当者
第１回	教育課程とは何か	池上
第２回	教育の目的と教育課程の編成	池上
	現代日本の教育課程の変遷	

第３回		池上
第４回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第５回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第６回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第７回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第８回	筆記試験	池上
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	広岡義之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-07559-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	TC-PS-3-918

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

	授業計画	担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学修指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上
第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例	川上

第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ	川上	
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上	
教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一　藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 （心理）			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-918		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

	授業計画	担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学修指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上
第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例	川上

第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ	川上	
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上	
教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一　藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-919

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義　演習　AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	【テーマ】特別活動，総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し，実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 １．特別活動・総合的な学習の時間の意義，目標，教育課程上の位置づけ，内容を理解する。 ２．特別活動の内容の種類と関連性を理解し，学級活動の年間計画，学習指導案を作成することができる。 ３．総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し，その強みと探求の過程について説明することができる。 ４．特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら，下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標，教育課程上の位置づけ，学級活動，クラブ活動，生徒会活動等の内容については，事前にプリントで予習しておく。そして，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については，実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標，教育課程上の位置づけ，特徴については，予習プリントで事前に学修しておき，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ⑤全体計画，年間計画，単元計画，思考ツール等は作成，活用することを通して，学修する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート，小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画，年間計画，学習指導案はコメントを付けて説明する。
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。
実務経験のある教員	該当する　内容　小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをする。 復習　2時間　学習したことの要点をまとめる。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館 個人研究室 10309）

授業計画		担当者
第１回	授業予定　特別活動の目標　特質	川上
第２回	特別活動の内容（学級活動　学校行事　生徒会活動）と全体計画	川上
第３回	学級活動の目標，内容，年間計画	川上
第４回	学級活動の年間計画作成（演習）	川上
第５回	学校行事、生徒会活動の目標，内容，具体的活動	川上
第６回	学級活動の指導案の書き方　指導案作成	川上
第７回	模擬授業　　代表グループ①②	川上
第８回	学級活動とSEL	川上/GT（中学校教諭）
第９回	総合的な学習の時間の意義，目標	川上

第１０回	総合的な学習の時間の歴史　教育課程上の位置づけ	川上
第１１回	総合的な学習の時間　全体計画　単元計画	川上
第１２回	単元計画の考え方　作成の仕方	川上
第１３回	作成した単元計画の発表　（グループ内で情報交換）	川上
第１４回	思考ツールと活用例（演習）	川上
第１５回	総合的な学習の時間の評価	川上
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上

教科書			
教・書籍名１	新しい教職教育講座９　特別活動	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	中村　豊/ 原　清治	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08192-9
教・書籍名２	新しい教職教育講座８　総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹　/　篠原正典	教・ＩＳＢＮ2	978-4-623-08191-2
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領　解説　総合的な学習の時間	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8278-1561- 0
参・書籍名２	中学校学習指導要領　解説　特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	東山書房

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-919

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義　演習　AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	【テーマ】特別活動，総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し，実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 １．特別活動・総合的な学習の時間の意義，目標，教育課程上の位置づけ，内容を理解する。 ２．特別活動の内容の種類と関連性を理解し，学級活動の年間計画，学習指導案を作成することができる。 ３．総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し，その強みと探求の過程について説明することができる。 ４．特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら，下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標，教育課程上の位置づけ，学級活動，クラブ活動，生徒会活動等の内容については，事前にプリントで予習しておく。そして，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については，実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標，教育課程上の位置づけ，特徴については，予習プリントで事前に学修しておき，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ④全体計画，年間計画，単元計画，思考ツール等は作成，活用することを通して，学修する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート，小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画，年間計画，学習指導案はコメントを付けて説明する。
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをする。 復習　2時間　学習したことの要点をまとめる。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館 個人研究室 10309）

授業計画		担当者
第１回	授業予定　特別活動の目標　特質	川上
第２回	特別活動の内容（学級活動　学校行事　生徒会活動）と全体計画	川上
第３回	学級活動の目標，内容，年間計画	川上
第４回	学級活動の年間計画作成（演習）	川上
第５回	学校行事、生徒会活動の目標，内容，具体的活動	川上
第６回	学級活動の指導案の書き方　指導案作成	川上
第７回	模擬授業　　代表グループ①②	川上
第８回	学級活動とSEL	川上/GT（中学校教諭）
第９回	総合的な学習の時間の意義，目標	川上

第１０回	総合的な学習の時間の歴史　教育課程上の位置づけ	川上
第１１回	総合的な学習の時間　全体計画　単元計画	川上
第１２回	単元計画の考え方　作成の仕方	川上
第１３回	作成した単元計画の発表　（グループ内で情報交換）	川上
第１４回	思考ツールと活用例（演習）	川上
第１５回	総合的な学習の時間の評価	川上
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上

教科書			
教・書籍名１	新しい教職教育講座９　特別活動	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	中村　豊/ 原　清治	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08192-9
教・書籍名２	新しい教職教育講座８　総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹　/　篠原正典	教・ＩＳＢＮ2	978-4-623-08191-2
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領　解説　総合的な学習の時間	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8278-1561- 0
参・書籍名２	中学校学習指導要領　解説　特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	東山書房

授業科目名	教育の方法と技術 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	TC-PS-3-920

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 １　教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ２　個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 ３　情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 ４　特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 ５　学校における情報セキュリティの重要性について理解している。
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるＩＣＴ活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30%）、授業への参加態度（20%）、単位認定試験（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらか（免許状取得を目指す方）と、「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が２時間程度必要。
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施

	授業計画	担当者
第１回	教育の方法と技術とは	小林
第２回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）	小林
第３回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）	小林
第４回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）	小林
第５回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）	小林
第６回	情報通信技術を効果的に活用したオンライン教育や校務の推進の在り方	小林
	情報通信技術を活用した学習指導（デジタル教材の作成・利用、特別な支援を必要とする児童生徒	

第７回	への支援）	小林
第８回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、ＰＣの活用）	小林
第９回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）	小林
第１０回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）	小林
第１１回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施	小林
第１２回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）	小林
第１３回	教育における評価（授業評価と学習評価について）	小林
第１４回	学校における情報セキュリティの重要性について	小林
第１５回	授業の振り返りとまとめ	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	中学校学習指導要領	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	10 4827815402
教・書籍名２	高等学校学習指導要領	教・出版社名2	東山書房
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8278-1567-2
参考書			
参・書籍名１	三訂版　教育の方法と技術	参・出版社名１	図書文化社
参・著者名１	平沢　茂	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8100-8701-7
参・書籍名２	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名2	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育の方法と技術 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	TC-PS-3-920

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 １　教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ２　個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 ３　情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 ４　特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 ５　学校における情報セキュリティの重要性について理解している。
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるＩＣＴ活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30%）、授業への参加態度（20%）、単位認定試験（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらか（免許状取得を目指す方）と、「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が２時間程度必要。
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施

	授業計画	担当者
第１回	教育の方法と技術とは	小林
第２回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）	小林
第３回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）	小林
第４回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）	小林
第５回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）	小林
第６回	情報通信技術を効果的に活用したオンライン教育や校務の推進の在り方	小林
	情報通信技術を活用した学習指導（デジタル教材の作成・利用、特別な支援を必要とする児童生徒	

第７回	への支援）	小林
第８回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、ＰＣの活用）	小林
第９回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）	小林
第１０回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）	小林
第１１回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施	小林
第１２回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）	小林
第１３回	教育における評価（授業評価と学習評価について）	小林
第１４回	学校における情報セキュリティの重要性について	小林
第１５回	授業の振り返りとまとめ	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	中学校学習指導要領	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	10 4827815402
教・書籍名２	高等学校学習指導要領	教・出版社名2	東山書房
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8278-1567-2
参考書			
参・書籍名１	三訂版　教育の方法と技術	参・出版社名１	図書文化社
参・著者名１	平沢　茂	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8100-8701-7
参・書籍名２	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名2	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生徒・進路指導論			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-921		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井
第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井

第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）		藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）		藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）		藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）		藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）		藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）		藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）		藤井
第１２回	キャリア教育とは何か		藤井
第１３回	中学校におけるキャリア教育推進のために		藤井
第１４回	中学校におけるキャリア教育の実践		藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性		藤井
第１６回	試験		藤井
教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30026-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生徒・進路指導論			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-921		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井
第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井

第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）		藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）		藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）		藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）		藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）		藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）		藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）		藤井
第１２回	キャリア教育とは何か		藤井
第１３回	中学校におけるキャリア教育推進のために		藤井
第１４回	中学校におけるキャリア教育の実践		藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性		藤井
第１６回	試験		藤井
教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30026-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎 （心理）	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年	ナンバリング	TC-PS-2-922

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。自己学修2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	児童生徒の発達の多様性	津川秀夫
第３回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害	津川秀夫
第４回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症	津川秀夫
第５回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症	津川秀夫
第６回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症	津川秀夫
第７回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性	津川秀夫
第８回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去	津川秀夫
第９回	問題行動の見立てと介入：行動の機能	津川秀夫
第１０回	問題行動の見立てと介入：不登校	津川秀夫
第１１回	知能検査：種類と活用法	津川秀夫
第１２回	知能検査：検査の実際	津川秀夫
第１３回	ポジティブ行動の促進：事例	津川秀夫
第１４回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張―形成理論	津川秀夫

第１５回	ポジティブ行動の促進：PBIS		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	メリットの法則	教・出版社名１	集英社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	よくわかる教育相談	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎（心理）			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	TC-PS-2-922		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。自己学修2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	児童生徒の発達の多様性	津川秀夫
第３回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害	津川秀夫
第４回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症	津川秀夫
第５回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症	津川秀夫
第６回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症	津川秀夫
第７回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性	津川秀夫
第８回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去	津川秀夫
第９回	問題行動の見立てと介入：行動の機能	津川秀夫
第１０回	問題行動の見立てと介入：不登校	津川秀夫
第１１回	知能検査：種類と活用法	津川秀夫
第１２回	知能検査：検査の実際	津川秀夫
第１３回	ポジティブ行動の促進：事例	津川秀夫
第１４回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張―形成理論	津川秀夫

第１５回	ポジティブ行動の促進：PBIS		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	メリットの法則	教・出版社名１	集英社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	よくわかる教育相談	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習指導 （心理）			担当者	倉知　典弘、森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	TC-PS-3-923		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、４年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）、およびレポート（６０％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの１５回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教育実習に向けて－教師の適性	森井・倉知
第３回	教師への道（高等学校）（外部）	森井・外部講師
第４回	教師への道（中学校）（外部）	森井・外部講師
第５回	授業改革（外部）	森井・外部講師
第６回	実習生の授業を見る１	森井・倉知
第７回	指導案の作成と授業の展開（1）　基本的考え方（外部）	森井・外部講師
第８回	指導案の作成と授業の展開（2）　教材研究と授業の展開（外部）	森井・外部講師

第９回	授業実践（外部）	森井・外部講師
第１０回	実習生の授業を見る２	森井・倉知
第１１回	模擬授業（１）	森井・倉知
第１２回	模擬授業（２）	森井・倉知
第１３回	模擬授業（３）	森井・倉知
第１４回	模擬授業（４）	森井・倉知
第１５回	模擬授業（５）・まとめ	森井・倉知
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習 （心理）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	TC-PS-4-924		
必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、４年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）、およびレポート（６０％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの１５回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教育実習に向けて－教師の適性	森井・倉知
第３回	教師への道（高等学校）（外部）	森井・外部講師
第４回	教師への道（中学校）（外部）	森井・外部講師
第５回	授業改革（外部）	森井・外部講師
第６回	実習生の授業を見る１	森井・倉知
第７回	指導案の作成と授業の展開（1）　基本的考え方（外部）	森井・外部講師
第８回	指導案の作成と授業の展開（2）　教材研究と授業の展開（外部）	森井・外部講師

第９回	授業実践（外部）	森井・外部講師
第１０回	実習生の授業を見る２	森井・倉知
第１１回	模擬授業（１）	森井・倉知
第１２回	模擬授業（２）	森井・倉知
第１３回	模擬授業（３）	森井・倉知
第１４回	模擬授業（４）	森井・倉知
第１５回	模擬授業（５）・まとめ	森井・倉知
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職実践演習(中・高)　(心理)			担当者	倉知　典弘、森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	TC-PS-4-925		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ，教師として必要な知識，技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。
授業概要	以下の3点を中心に，学校や教育委員会の先生方の協力のもと，講義，討議，ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。 １．教育実習を振り返り，総括するとともに，教師として必要な資質能力，自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 ２．クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 ３．教科の指導に必要な知識・技能などを見直し，力量向上のための取り組みを検討する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	評価は受講態度（討議などへの参加状況など；30%）と課題レポート・模擬授業（70%）の評価による。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、内容確認後、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり，将来，教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。 教職カルテを持参すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この授業では半数の回で、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。 4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。 課題レポート等の作成（４時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。
オフィスアワー	月曜４限、10号館4階、森井研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教材研究１	森井・外部講師
第３回	教師の服務と学校現場の課題	森井・外部講師
第４回	学校の安全管理	森井・外部講師
第５回	教材研究２（実践）	森井・外部講師
第６回	国際バカロレア教育	森井・外部講師
第７回	いじめ・不登校への取り組み	森井・学内講師
第８回	特別支援教育の現状と実際	森井・外部講師
第９回	道徳教科化の問題	森井・学内講師
第１０回	模擬授業と授業研究１	森井・倉知
第１１回	模擬授業と授業研究２	森井・倉知

第１２回	模擬授業と授業研究3		森井・倉知
第１３回	模擬授業と授業研究4		森井・倉知
第１４回	模擬授業と授業研究5		森井・倉知
第１５回	自己分析・まとめ		森井・倉知
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ	担当者	津川　秀夫、土居　正人、橋本　翠、若森　孝彰
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-401

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】地域についての学びを通して、大学における授業や試験に関する学び方を習得するとともに、学科内の良好な人間関係を形成することを目的とする。 【到達目標】基礎演習Ⅰでは、まず大学生活に溶け込み、今後の学習を円滑に進めていくための支援として、様々な体験活動を通して、仲間・人間関係の構築を目指す。到達目標は、学内の人間関係を築き、安定した学生生活を過ごせるようになることである。
授業概要	「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、1年次向けの導入教育として開講し、大学における学修で必要となる環境作りと基礎的な学習スキルを身につけることを目指す。 最初に、教員の紹介や簡単な大学生活に関するオリエンテーション等を行い、大学での学び方についての基本的な態度・スキルについて紹介する。その後、履修生は、クラス別に、あるいは全クラス合同で、体験的学習をもとに、人間関係づくりを進めていく。教室外での活動も多く、体を動かすことが重要な演習といえる。 チューター別の時間では、大学生活や授業履修（単位習得）について情報交換したり、教員が相談に応じたりする。少人数での会話や関わりを通して、自己表現や自己開示のスキルも身につけていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	学科行事および親睦イベントへの積極的な参加意欲・態度を重視する。各行事や演習の中で（あるいは事後に）提出するミニレポートや振り返りシートも評価の対象とする。学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	各授業で出される課題に対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	心理学科1年生の必修科目である。基礎演習Ⅰの各クラス合同（1年生全員）で実施する回と、各クラス個別に行う回があるので注意すること。また、合同実施の場合を中心に、授業時間外に、時間を変更しても行うこともあるので、担当者からの指示・連絡にはくれぐれも注意すること。チューター別実施の場合は、演習後、ミニレポート等の提出が求められる。レポートを基にフィードバックを行う。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	体験・参加型演習のために、事前指導に基づいて情報収集等の課題を行う必要がある。日々の活動の中で、より豊かな人間関係のネットワークを形成するように、意識的に取り組むことが重要である。事前事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて「何でも相談時間」に対応する。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	全教員
第２回	2. コロナ禍における大学生活	全教員
第３回	3. マナー講座（メールのマナー）	全教員
第４回	4. 図書館活動と電子書籍の使い方	全教員
第５回	5. 学内案内	全教員
第６回	6. 防災講座	全教員
第７回	7. マナー講座（レポートの書き方）	全教員
第８回	8. 公認心理師について	全教員
第９回	9. 大学部署の案内	全教員

第１０回	10. マナー講座（挨拶の仕方等）	全教員
第１１回	11. マナー講座（メール実践編）	全教員
第１２回	12. 前期試験対策（在学生から聞こう）	全教員
第１３回	13. 心理学を学んだその先は？（進路選択について）	全教員
第１４回	14. 総括	全教員
第１５回	15. レポート試験	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行います。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ	担当者	津川　秀夫、土居　正人、橋本　翠、若森　孝彰
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年	ナンバリング	PS-PS-1-402

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】大学における学び方の習得と学科内の良好な人間関係を形成すること。 【到達目標】基礎演習Ⅱでは、大学・学科への所属意識を高め、人間関係を豊かにするとともに、学修基礎力を涵養することを目指す。到達目標は、吉備国際大学生としてのアイデンティティの形成と仲間づくり、大学における居場所づくりの進展、そして、情報を収集・整理し、それをわかりやすく発表できることである。
授業概要	「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、1年次向けの導入教育として開講し、大学における学修に必要な環境づくりと基礎的な学習スキルを身につけることを目指す。オリエンテーションの後、大学での学び方についての基本的な態度・スキルについて紹介する。その後、クラス別に、あるいは全クラス合同で、スポーツなどのイベントの企画・運営・実施などについて体験的に学習することで、一層の人間関係づくりを進めていく。教室外での活動も多く、体を動かすことが重要である。 チューター別の時間では、大学生活や授業履修（単位習得）について情報交換したり、教員が相談に応じたりする。少人数での会話や関わりを通して、自己表現や自己開示のスキルも身につけていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	学科行事および体験活動への積極的な参加意欲・態度を重視する。各行事や演習の中で（あるいは事後に）提出するミニレポートや振り返りシートも評価の対象とする。学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の中で課題を出し、その課題に対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	心理学科1年生の必修科目である。各クラス合同（1年生全員）で実施する回と、各クラス個別に行う回があるので注意すること。また、合同実施の場合を中心に、授業時間外に、時間を変更しても行うこともあるので、担当者からの指示・連絡にはくれぐれも注意すること。個別実施の場合は、演習後、ミニレポート等の提出が求められる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	体験・参加型演習のために、事前指導に基づいて情報収集等の課題を行う必要がある。演習の準備のため、約2時間（あるいは毎日約15分）の予習、復習等のワークが必要である。日々の活動の中で、より豊かな人間関係のネットワークを形成するように、意識的に取り組むことが重要である。
オフィスアワー	担当教員が各研究室にて「なんでも相談時間」に対応する。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーションと履修指導、調べ学習について	全教員
第２回	2. 調べ学習課題提示	全教員
第３回	3. 調べ学習：図書館での調べ学習	全教員
第４回	4. 調べ学習：小グループで発表	全教員
第５回	5. 郊外学習：事前学習	全教員
第６回	6. 郊外学習：実施	全教員
第７回	7. 調べ学習：スライド作成	全教員
第８回	8. 調べ学習：経過報告	全教員

第９回	9. 調べ学習：発表練習		全教員
第１０回	10. 心理学検定について		全教員
第１１回	11. 調べ学習：発表資料提出		全教員
第１２回	12. 調べ学習：発表前半組		全教員
第１３回	13. 調べ学習：発表後半組		全教員
第１４回	14. 総括		全教員
第１５回	15. レポート試験		全教員
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行います。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅲ			担当者	藤原　直子、村上　勝典、森井　康幸、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学の学び方、研究のしかたに触れながら、3年次からの心理学演習Ⅰ・Ⅱに向けた基礎的力を身につける。そのために、まずは心理学検定の勉強を行いながら基礎知識を積み上げていく。また、心理学の研究を進めていくにあたり、大学の教育資源の理解と活用の仕方について理解する。さらに，大学での学びが充実感をもって円滑に進んでいくために、学科内の人間関係を良好なものへ築いていく。
授業概要	心理学基礎演習Ⅲは、次年度の心理学演習Ⅰにつながる準備教育を行う。 準備教育は３つに大別される。ひとつは、心理学演習のための基礎知識を培うため、心理学検定に向けての取り組みを開始する。心理学検定2級の取得を目指した対策講座を開講し、知識の定着を図る。２つめは、心理学演習における心理学研究のデモを行う。パソコンを用いた検索エンジンの使い方、図書館における文献収集の実際などを取り入れる。３つめは、大学での学びが円滑に進んでいくための交流イベントを取り入れる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	ミニレポートのフィードバックは、授業時間内に行う。
履修条件・注意事項	同一内容が継続するわけでなない。必ず次回についての指示を確認すること。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前指導に基づき、主体的に情報収集等の課題を行う必要がある。課題には、最低でも4時間以上をあてること。体験・参加型演習の場合は、さらなる仲間・人間関係の構築に向け、コミュニケーションを積極的に取り、役割意識を持って行動することが重要である。
オフィスアワー	森井：月曜4限　藤原：月曜4限　宇都宮：火曜4限　村上：木曜3限　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	担当教員全員
第２回	松山城登山	担当教員全員
第３回	パンフレット作成	担当教員全員
第４回	パンフレット発表	担当教員全員
第５回	調べ学習A：課題提示	担当教員全員
第６回	調べ学習A：本のまとめ方	担当教員全員
第７回	調べ学習A：中間指導	担当教員全員
第８回	調べ学習A：発表（前半）	担当教員全員
第９回	調べ学習A：発表（後半）	担当教員全員
第１０回	調べ学習B：課題提示	担当教員全員
第１１回	調べ学習B：個別作業	担当教員全員

第１２回	調べ学習B：中間指導	担当教員全員	
第１３回	調べ学習B：発表（前半）	担当教員全員	
第１４回	調べ学習B：発表（後半）	担当教員全員	
第１５回	まとめ	担当教員全員	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学検定 一問一答問題集[A領域編]	参・出版社名１	実務教育出版
参・著者名１	日本心理学諸学会連合 心理学検定局（編集）	参・ＩＳＢＮ１	978-4788961012
参・書籍名２	心理学検定 一問一答問題集[B領域編]	参・出版社名2	実務教育出版
参・著者名2	日本心理学諸学会連合 心理学検定局	参・ＩＳＢＮ2	978-4788961029

授業科目名	基礎演習Ⅳ			担当者	藤原　直子、村上　勝典、森井　康幸、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年			ナンバリング	PS-PS-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学の学び方、研究のしかたに触れながら、3年次からの演習Ⅰ・Ⅱに向けた基礎的力を身につける。そのために、まずは心理学検定の勉強を行いながら基礎知識を積み上げていく。また、心理学の研究を進めていくにあたり、大学の教育資源の理解と活用の仕方について理解する。さらに，大学での学びが充実感をもって円滑に進んでいくために、学科内の人間関係を良好なものへ築いていく。
授業概要	基礎演習Ⅳは、次年度の演習Ⅰにつながる準備教育を行う。 準備教育は３つに大別される。ひとつは、演習のための基礎知識を培うため、心理学検定に向けての取り組みを開始する。心理学検定2級の取得を目指した対策講座を開講し、知識の定着を図る。２つめは、心理学演習における心理学研究のデモを行う。パソコンを用いた検索エンジンの使い方、図書館における文献収集の実際などを取り入れる。３つめは、大学での学びが円滑に進んでいくための交流イベントを取り入れる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	学修態度(50%)、ミニレポート等(50%)により、総合的に評価する。ミニレポートのフィードバックは、授業時間内に行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	ミニレポートのフィードバックは、授業時間内に行う。
履修条件・注意事項	同一内容が継続するわけでなない。必ず次回についての指示を確認すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前指導に基づき、主体的に情報収集等の課題を行う必要がある。課題には、最低でも4時間以上をあてること。体験・参加型演習の場合は、さらなる仲間・人間関係の構築に向け、コミュニケーションを積極的に取り、役割意識を持って行動することが重要である。
オフィスアワー	森井：月曜4限　藤原：月曜4限　宇都宮：火曜4限　村上：木曜3限　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	担当教員全員
第２回	頼久寺見学	担当教員全員
第３回	頼久寺見学：事後学習	担当教員全員
第４回	頼久寺見学：発表	担当教員全員
第５回	調べ学習：尺度選択	担当教員全員
第６回	調べ学習：質問紙作成	担当教員全員
第７回	調べ学習：質問紙完成	担当教員全員
第８回	調べ学習：データ入力	担当教員全員
第９回	調べ学習：中間指導	担当教員全員
第１０回	調べ学習：レポート作成	担当教員全員
第１１回	調べ学習：スライド作成	担当教員全員
第１２回	調べ学習：発表練習	担当教員全員
第１３回	調べ学習：発表（前半）	担当教員全員
第１４回	調べ学習：発表（後半）	担当教員全員
第１５回	まとめ	担当教員全員

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学検定一問一答問題集【A領域編】	参・出版社名１	実務教育出版
参・著者名１	日本心理学諸学会連合　心理学検定局	参・ＩＳＢＮ１	978-4788961012
参・書籍名２	心理学検定一問一答問題集【B領域編】	参・出版社名2	実務教育出版
参・著者名2	日本心理学諸学会連合　心理学検定局	参・ＩＳＢＮ2	978-4788961029

授業科目名	演習Ｉ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成にむけて，研究テーマを設定する 到達目標： １．先行研究について情報収集し，何がどこまで明らかにされているか把握できる ２．研究テーマが設定できる
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているかを把握する。春学期の終わりまでに研究テーマを設定することを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	7回以上の発表を行ったものに対して単位を与える。発表内容（８０％）と討議への参加態度（２０％）により評価する。発表内容について適宜フィードバックを行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	卒業論文の作成に向けて主体的、計画的に動くことを期待する
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	研究テーマに直接・間接的に関連する文献を大量に読み進めておくこと。１日１時間以上は自己学修の時間を確保してほしい。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーションおよび研究倫理	津川秀夫
第２回	文献収集の仕方	津川秀夫
第３回	データベース	津川秀夫
第４回	発表論文集	津川秀夫
第５回	学術雑誌・紀要	津川秀夫
第６回	先行研究の概観	津川秀夫
第７回	表の書き方	津川秀夫
第８回	先行研究の検討	津川秀夫
第９回	図の書き方	津川秀夫
第１０回	先行研究の批判的検討	津川秀夫
第１１回	相関分析	津川秀夫
第１２回	テーマの検討	津川秀夫
第１３回	ｔ検定	津川秀夫
第１４回	テーマの再検討	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	ポジティブなこころの科学	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	堀毛一也	教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第２版	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	平井明代	教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	認知行動療法とブリーフセラピーの接点	参・出版社名１	日本評論社
参・著者名１	津川秀夫・大野裕史	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する―認知心理学的手法を用いて―」をテーマとして心理学研究の基礎を学び、様々な実験手続きを理解し、自らの問題事象について実験的に解明するための計画を立案できるようになることを到達目標とする。
授業概要	認知心理学の実験的研究についての文献購読・発表を中心に研究方法について理解することを目的とする。特に，実験方法についての理解を重視する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み　発表：５０％、ディスカッションへの参加など：３０％ 最終レポート：２０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	欠席の場合も無断で休むと評価対象から外れるので注意すること。 合宿等の学外活動にも積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキストしっかり読んでおくこと。 　　不明箇所は、調べておくこと。（2時間以上） 復習：復習をかねた課題を行うこと。（2時間以上）
オフィスアワー	月曜日4限、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　＆　研究倫理について	森井
第２回	記憶の基礎	森井
第３回	記憶のモデル	森井
第４回	忘却と抑制	森井
第５回	日常記憶	森井
第６回	知識の成り立ち	
第７回	メタ認知	
第８回	問題解決と推論	森井
第９回	認知バイアス	森井
第１０回	判断と意思決定	森井
第１１回	潜在認知	森井
第１２回	文脈効果	森井
第１３回	学生テーマ発表（１）	森井
第１４回	学生テーマ発表（２）	森井
第１５回	今後に向けて	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	認知心理学	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	箱田・都築・川畑・萩原	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-05374-8
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 心理学論文を読み解く。 【到達目標】 心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒業論文作成に必要な研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて論文に対するディスカッションを行うことで批判的思考、議論する力を強化する。
授業概要	本演習では日本や海外の代表的な心理学研究雑誌からいくつかの論文を抜粋し、輪読形式で読み進めることで論文の内容を読み解く。心理学研究論文は、問題と目的、研究方法、研究結果、考察、引用論文から構成されている。これら各章をディスカッションを重ねながら輪読することで記述スタイル、記述された意味を理解すると同時に論文に対する批判的思考、発展的思考を身につけ、学生自身の論文構成能力を高めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	論文の構成について	若森
第３回	研究テーマの立て方	若森
第４回	論文の調べ方	若森
第５回	輪読論文　問題と目的	若森
第６回	輪読論文　方法、分析、結果	若森
第７回	輪読論文　考察、引用論文	若森
第８回	輪読論文　質問紙調査研究	若森
第９回	輪読論文　実験的研究（実験社会心理系）	若森
第１０回	輪読論文　観察的研究	若森
第１１回	輪読論文　病院臨床に関する研究	若森
第１２回	輪読論文　慢性期疾患に関する研究	若森

第１３回	輪読論文　高次脳機能障害に関する研究		若森
第１４回	研究テーマの構想発表		若森
第１５回	まとめ		若森
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の作成への第一段階として、文献検索・論文の読み方、統計処理・分析方法、研究方法等を習得することが目標である。 各自が関心をもっている心理学領域の中でテーマをしぼり、研究の目的・意義、研究方法を見出していく。
授業概要	各自が関心をもっている領域・分野の文献を検索し、読み進めていく。その中で、研究方法や統計処理方法についても学び、データ収集から、処理に関する技法も獲得する。 また、4年生が行う実践研究に準備段階から参加し、実践研究の手続きや実施技術を習得するとともに、自身の研究テーマ決定につなげていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日4限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方	藤原直子
第２回	卒業論文抄録の講読	藤原直子
第３回	研究テーマの決め方	藤原直子
第４回	研究テーマの探索・仮設定	藤原直子
第５回	論文紹介・発表の仕方	藤原直子
第６回	論文紹介・発表	藤原直子
第７回	実践研究の準備（4年生の実践に参加）	藤原直子
第８回	実践研究のリハーサル参加	藤原直子
第９回	実践研究への参加	藤原直子
第１０回	実践研究の振り返り	藤原直子
第１１回	実践研究の結果報告	藤原直子
第１２回	研究テーマの決定	藤原直子

第１３回	先行研究発表	藤原直子	
第１４回	論文発表	藤原直子	
第１５回	まとめ，今後の予定	藤原直子	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】心理学論文を読み解くことができるようになること。 【到達目標】心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒論作成に必要な、研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて、論文に対するディスカッションをおこなうことで、批判的思考力、議論をする力を強化する。
授業概要	本演習では、代表的な心理学研究雑誌からいくつかの論文を抜粋し、輪読形式で読み進めることで論文の内容を読み解いてゆく。心理学研究論文は概ね、問題と目的・研究方法・研究結果・考察・引用文献から構成されている。これら各章を、ディスカッションを重ねながら輪読することで記述スタイル、記述された意味を深く理解すると同時に、論文に対する批判的思考、発展的思考の適用をおこない、学生自身の論文作成能力を高めてゆく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション、研究倫理教育	土居
第２回	2. 研究論文とは	土居
第３回	3. 、研究倫理に基づく責任ある研究活動	土居
第４回	4. 論文輪読　論文の集め方	土居
第５回	5. 論文輪読　レジュメ作成	土居
第６回	6. 論文輪読　行動療法について	土居
第７回	7. 論文輪読　認知療法について	土居
第８回	8. 論文輪読　CBTについて	土居
第９回	9. 論文輪読　ABAについて	土居
第１０回	10. 論文輪読　学校臨床について	土居
第１１回	11. 論文輪読　不登校について	土居
第１２回	12. 論文輪読　病院臨床について	土居
第１３回	13. 論文輪読　発達障害について	土居
第１４回	14. 論文輪読　パーソナリティについて	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版
参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。また基礎的な心理査定についての学習と技術の修得、論文の読み方や書き方などを身に着けられるようになることも到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献を輪読し、発表してもらう。 ２．基礎的な面接技法・心理査定について学習する。 ３．卒論作成に向け、論文の読み方や書き方などを学習する。 ４．心理学検定の受検を薦めており、その内容についての学習。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。 2年次春期までの、必修科目22単位中16単位を修得していること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	卒業論文とは	宇都宮
第３回	文献検索の方法	宇都宮
第４回	文献輪読「調査系論文の読み方」(1)　論文と研究	宇都宮
第５回	文献輪読「調査系論文の読み方」(2)　心理測定とその方法	宇都宮
第６回	文献輪読「調査系論文の読み方」(3)　相関係数	宇都宮
第７回	文献輪読「調査系論文の読み方」(4)　一要因分散分析	宇都宮
第８回	文献輪読「調査系論文の読み方」(5)　二要因分散分析	宇都宮
第９回	文献輪読「調査系論文の読み方」(6)　因子分析	宇都宮
第１０回	文献輪読「調査系論文の読み方」(7)　重回帰分析	宇都宮
第１１回	論文輪読・担当者発表（1グループ目）	宇都宮
第１２回	論文輪読・担当者発表（2グループ目）	宇都宮
第１３回	論文輪読・担当者発表（3グループ目）	宇都宮
第１４回	論文輪読・担当者発表（4グループ目）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京図書
教・著者名１	浦上昌則・脇田貴文	教・ＩＳＢＮ１	978-4-489-02038-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解する。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案するための実践的技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，研究計画を立案する段階に焦点をあて，認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を検討する。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。研究を発表するために，文献の検索や収集を行う。研究の発表を通して，プレゼンテーションの技術なども身につけ，総合的な実践能力を養う。心理学演習Ⅰでは，関連領域におけるテキストの輪読を中心とする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習(2時間)・復習(2時間)時間として行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR　ゼミ運営について	橋本翠
第２回	2.感覚と知覚	橋本翠
第３回	3.知覚の現象	橋本翠
第４回	4.視覚の基本特性	橋本翠
第５回	5.聴覚の基本特性	橋本翠
第６回	6.精神物理学と心理測定法	橋本翠
第７回	7.感覚・知覚に関わる神経系	橋本翠
第８回	8.知覚の構造	橋本翠

第９回	9.知覚の発達	橋本翠
第１０回	10.注意	橋本翠
第１１回	11.知覚の情報処理的研究	橋本翠
第１２回	12.感覚・知覚の心理生理学	橋本翠
第１３回	13.認知と事象関連電位	橋本翠
第１４回	14.知覚研究の光学的応用	橋本翠
第１５回	15.総括	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	知覚と認知	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	八木昭宏(著)	教・ＩＳＢＮ１	4-563-05746-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ｉ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の作成への第一ステップであり、各ゼミ生の関心に沿った心理学的問題をゼミ参加者相互の議論を通して明確化していくことがテーマである。 心理学的問題の所在、研究の目的・意義、方法の工夫、先行研究との関連まで進めることを到達目標とする。
授業概要	関心のあるテーマについての先行研究の発表を通して、研究論文の読み方や書き方、研究方法や統計的手法の学習をおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、先行研究を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること。 復習（2時間程度）として、授業内容の振り返りをおこなうこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	論文の構成	村上
第３回	研究テーマの立て方	村上
第４回	先行研究の調べ方	村上
第５回	研究方法	村上
第６回	統計（1）：t検定	村上
第７回	統計（2）：1要因の分散分析	村上
第８回	統計（3）：2要因の分散分析	村上
第９回	統計（4）：相関と重回帰分析	村上
第１０回	統計（5）：因子分析	村上
第１１回	研究テーマの構想発表（日本人学生）	村上
第１２回	研究テーマの構想発表（留学生）	村上
第１３回	関連研究の発表（日本人学生）	村上
第１４回	関連研究の発表（留学生）	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版

参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成に向けて、研究デザインをつくる 到達目標： １．先行研究について情報収集し、何がどこまで明らかにされているか把握できる ２．研究テーマを設定できる ３．研究デザインをたてる
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、どのような手法を用いているかを把握する。秋学期の終わりまでに、研究デザインをたてることを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表内容（80%）と討議への参加態度（20%）により評価する
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	主体的な参加を希望する
実務経験のある教員	該当する　内容：スクールカウンセリング、精神科クリニックでの心理臨床などの経験を踏まえて指導する。
事前学習・事後学習とその時間	各自の興味にしたがって文献を多く読むこと。日に1時間以上の自己学修を期待する。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	先行研究紹介	津川秀夫
第３回	先行研究の概観	津川秀夫
第４回	先行研究の批判的検討	津川秀夫
第５回	テーマの検討	津川秀夫
第６回	テーマの設定	津川秀夫
第７回	研究デザインの検討	津川秀夫
第８回	研究デザインの批判的検討	津川秀夫
第９回	研究デザインの設定	津川秀夫
第１０回	結果の処理についての検討	津川秀夫
第１１回	結果の処理の批判的検討	津川秀夫
第１２回	研究手続の検討	津川秀夫

第１３回	研究手続の決定		津川秀夫
第１４回	研究の実施		津川秀夫
第１５回	まとめ		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて－」をテーマとして心理学研究の基礎を学び、自ら実験計画を立案し、実験を行い、結果の分析を経て報告書にまとめることを到達目標とする。
授業概要	認知心理学の実験的研究についての理解をふまえ，自ら実験テーマを考え、科学的な手法に基づいて実験を行い、データを統計的に整理・分析してレポートにまとめる。そして、４ 年次の卒業論文のテーマの決定に結びつける。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み　発表：５０％、ディスカッションへの参加など：３０％ 最終レポート：２０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	欠席の場合、無断で休むと評価対象から外れるので注意すること。 合宿等の学外活動にも積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 自分の研究発表のための準備は、常に行っておくこと。 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	実験研究と調査研究	森井
第３回	独立変数・従属変数・剰余変数	森井
第４回	記憶実験（展望記憶）	森井
第５回	記憶実験（潜在記憶）	森井
第６回	記憶実験（虚偽記憶）	森井
第７回	記憶実験（文脈依存効果）	森井
第８回	記憶実験（自己関連記憶）	森井
第９回	思考と問題解決（確率判断）	森井
第１０回	思考と問題解決（Wason課題）	森井
第１１回	実験計画の作成と検討	森井
第１２回	実験実施上の問題	森井
第１３回	結果の集計と整理	森井
第１４回	レポートの作成	森井
第１５回	もとめ	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 心理学論文を読み解く。 【到達目標】 心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒業論文作成に必要な研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて論文に対するディスカッションを行うことで批判的思考、議論する力を強化する。
授業概要	演習Ⅰを踏まえ、各自の研究テーマに関連する論文を雑誌から見つけ出し、毎回交代でその論文内容を発表する。演習内でのディスカッションにより、プレゼンテーション力、ディスカッション力を高めると共に各自の研究テーマをより精緻化し、具体的な研究活動に繋げる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題やプレゼンテーションについては適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究に関連する論文の発表（学生1）	若森
第３回	研究に関連する論文の発表（学生2）	若森
第４回	研究に関連する論文の発表（学生3）	若森
第５回	研究に関連する論文の発表（学生4）	若森
第６回	研究テーマの検討（学生1）	若森
第７回	研究テーマの検討（学生2）	若森
第８回	研究テーマの検討（学生3）	若森
第９回	研究テーマの検討（学生4）	若森
第１０回	研究計画について	若森
第１１回	研究計画の構想について（学生1）	若森
第１２回	研究計画の構想について（学生2）	若森
第１３回	研究計画の構想について（学生3）	若森
第１４回	研究計画の構想について（学生4）	若森

第１５回	次年度について	若森	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	3年次終了までに、卒業論文・研究テーマ・研究方法を決定し、次年度の研究実施に向けて準備を進めることが目標である。 先行研究の検索・熟読、統計処理・分析方法の習得も進めつつ、各自が関心をもっている心理学領域の中でテーマをしぼり、研究の目的・意義、研究方法を見出していく。
授業概要	卒業論文・研究のテーマにしたい領域・分野の文献を検索し、読み進めていく。その中で、研究方法や統計処理方法についても学び、データ収集から、処理に関する技法も獲得する。 アンケートによる調査研究を行う場合は、3年次中に具体的な内容・対象・実施方法を検討してアンケートを作成し、4年次初めに実施できるよう準備を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方	藤原直子
第２回	卒業論文・研究テーマの検討	藤原直子
第３回	先行研究の検索	藤原直子
第４回	研究テーマの探索・仮設定	藤原直子
第５回	先行研究紹介・発表	藤原直子
第６回	実践研究の内容検討	藤原直子
第７回	実践研究の実施計画作成	藤原直子
第８回	研究実施における倫理的配慮・個人情報保護の確認	藤原直子
第９回	効果測定方法・質問紙の検討	藤原直子
第１０回	分析方法の検討	藤原直子
第１１回	実践研究の準備	藤原直子
第１２回	実践研究のリハーサル	藤原直子

第１３回	論文紹介・発表	藤原直子	
第１４回	研究テーマ・研究方法の検討	藤原直子	
第１５回	卒業論文・研究計画の作成	藤原直子	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-406

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】心理学論文を読み解くことができるようになること。 【到達目標】心理学研究論文を繰り返し読み通すことで、卒論作成に必要な、研究のための問題意識の形成、研究手法と分析法の理解、考察の立て方、論文スタイルの理解を高める。合わせて、論文に対するディスカッションをおこなうことで、批判的思考力、議論をする力を強化する。
授業概要	本演習では、代表的な心理学研究雑誌からいくつかの論文を抜粋し、輪読形式で読み進めることで論文の内容を読み解いてゆく。心理学研究論文は概ね、問題と目的・研究方法・研究結果・考察・引用文献から構成されている。これら各章を、ディスカッションを重ねながら輪読することで記述スタイル、記述された意味を深く理解すると同時に、論文に対する批判的思考、発展的思考の適用をおこない、学生自身の論文作成能力を高めてゆく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 論文輪読：1人目	土居
第２回	2. 論文輪読：2人目	土居
第３回	3. 論文輪読：3人目	土居
第４回	4. 論文輪読：4人目	土居
第５回	5. 調査研究の歴史	土居
第６回	6. 調査研究の目的	土居
第７回	7. 調査研究の方法	土居
第８回	8. テーマ探索：1人目	土居
第９回	9. テーマ探索：2人目	土居
第１０回	10. テーマ探索：3人目	土居
第１１回	11. テーマ探索：4人目	土居
第１２回	12. テーマ決め：1人目	土居
第１３回	13. テーマ決め：2人目	土居
第１４回	14. テーマ決め：3人目	土居
第１５回	15. テーマ決め：4人目	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版
参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。また基礎的な心理査定についての学習と技術の修得、論文の読み方や書き方などを身に着けられるようになることも到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献を輪読し、発表してもらう。 ２．基礎的な面接技法・心理査定について学習する。 ３．卒論作成に向け、論文の読み方や書き方などを学習する。 ４．心理学検定の受検を薦めており、その内容についての学習。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。 2年次春期までの、必修科目22単位中16単位を修得していること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には、それぞれ1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	卒論計画書の書き方	宇都宮
第３回	アンケート調査の方法：質問紙の作成方法	宇都宮
第４回	アンケート調査のWeb版の作成方法	宇都宮
第５回	論文輪読・担当者発表（1グループ目）	宇都宮
第６回	論文輪読・担当者発表（2グループ目）	宇都宮
第７回	論文輪読・担当者発表（3グループ目）	宇都宮
第８回	論文輪読・担当者発表（4グループ目）	宇都宮
第９回	卒論計画書の発表（1グループ目）	宇都宮
第１０回	卒論計画書の発表（2グループ目）	宇都宮
第１１回	卒論計画書の発表（3グループ目）	宇都宮
第１２回	卒論計画書の発表（4グループ目）	宇都宮
第１３回	アンケートの作成	宇都宮
第１４回	アンケートの実施方法	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京図書
教・著者名１	浦上昌則・脇田貴文	教・ＩＳＢＮ１	978-4-489-02038-4
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 1)	橋本翠
第２回	(2) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 2)	橋本翠
第３回	(3) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 3)	橋本翠
第４回	(4) 研究課題と研究構想の発表(発表者1)	橋本翠
第５回	(5) 研究課題と研究構想の発表(発表者2)	橋本翠
第６回	(6) 研究課題と研究構想の発表(発表者3)	橋本翠
第７回	(7) 研究計画の発表(発表者1)	橋本翠

第８回	(8) 研究計画の発表(発表者2)	橋本翠
第９回	(9) 研究計画の発表(発表者3)	橋本翠
第１０回	(10) 研究計画書の作成(発表者 1)	橋本翠
第１１回	(11) 研究計画書の作成(発表者 2)	橋本翠
第１２回	(12) 研究計画書の作成(発表者 3)	橋本翠
第１３回	(13) 研究計画のまとめ(発表者1)	橋本翠
第１４回	(14) 研究計画のまとめ(発表者2)	橋本翠
第１５回	(15) 研究計画のまとめ(発表者3)	橋本翠
第１６回	(16)単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて，適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の作成への第二ステップであり、各ゼミ生の関心に沿った心理学的問題をゼミ参加者相互の議論を通じて深化させることがテーマである。 心理学的問題の所在、研究の目的・意義等を明確化し、各自の研究テーマを絞り込んでいくことを到達目標とする。
授業概要	関心のあるテーマについての先行研究の発表をもとにディスカッションをおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、先行研究を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること。 復習（2時間程度）として、授業内容の振り返りをおこなうこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	関連研究の発表（学生1）	村上
第３回	関連研究の検討（学生1）	村上
第４回	関連研究の発表（学生2）	村上
第５回	関連研究の検討（学生2）	村上
第６回	関連研究の発表（学生3）	村上
第７回	関連研究の検討（学生3）	村上
第８回	研究テーマの検討（学生1）	村上
第９回	研究テーマの検討（学生2）	村上
第１０回	研究テーマの検討（学生3）	村上
第１１回	研究計画の立て方	村上
第１２回	研究計画の構想発表（学生1）	村上
第１３回	研究計画の構想発表（学生2）	村上
第１４回	研究計画の構想発表（学生3）	村上
第１５回	次年度に向けて	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版

参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成に向けて、研究計画に基づき実験や調査を実施する 到達目標： １．研究計画を立てる ２．計画に基づき、実験や調査を実施する
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、どのような手法を用いているかを把握する。秋学期の終わりまでに、研究デザインをたてることを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表内容（80%）と討議への参加態度（20%）により評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主体的な参加を希望する
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリングなど
事前学習・事後学習とその時間	調査や実験手続きや統計処理に関する文献を読み込むこと。１日１時間以上の自己学修を期待する。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーションおよび研究倫理	津川秀夫
第２回	研究計画：作成	津川秀夫
第３回	研究計画：報告	津川秀夫
第４回	研究計画：検討	津川秀夫
第５回	研究計画：修正	津川秀夫
第６回	予備検討：実施	津川秀夫
第７回	予備検討：結果のまとめ	津川秀夫
第８回	予備検討：結果の検討	津川秀夫
第９回	予備検討：研究計画の再検討	津川秀夫
第１０回	調査・実験：実施	津川秀夫
第１１回	調査・実験：実施状況の報告	津川秀夫
第１２回	調査・実験：結果	津川秀夫
第１３回	調査・実験：記述統計	津川秀夫
第１４回	調査・実験：図表の作成	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門　第２版	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて」というテーマのもと、卒業論文作成のための実験を実施し、結果の整理・分析ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	基本的には、卒業論文の作成に向けての経過報告の形で行うが、折に触れ、論文の紹介（発表）、統計的手法の概説などを行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表：６０％、受講態度：４０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表の都度、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	所定の時間外でも演習を行うことがあるので注意するように。 他のゼミ生の卒業論文についても、深く関与し、全員で協力してすすめるように。 無断欠席には厳しく対処するので気をつけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	卒論研究に関係する論文等、自ら探し、要約して発表できるように準備すること。 これまで学んできた心理学の知識をフルに活用できるように、過去の教科書・ノートなどを有効利用すること。指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限目、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　＆　研究倫理について	森井
第２回	個々の卒論テーマ発表（１）	森井
第３回	個々の卒論テーマ発表（２）	森井
第４回	論文紹介（１）	森井
第５回	論文紹介（２）	森井
第６回	データの種類と集計方法	森井
第７回	研究倫理の問題	森井
第８回	実験実施上の注意点	森井
第９回	心理統計の復習	森井
第１０回	個々の研究計画発表（１）	森井
第１１回	個々の研究計画発表（２）	森井
第１２回	データ分析について	森井
第１３回	エクセルの利用	森井
第１４回	統計ソフトの利用	森井
第１５回	卒論作成に向けて	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 卒業論文作成に向けて先行研究を調べ、先行研究で用いられている実施方法や結果の処理方法などを学習する。 【到達目標】 各自の研究テーマに沿った調査や実験を実施できるようになること。
授業概要	各自のテーマに沿った先行研究を調べ、研究方法や結果の処理方法について学習する。 卒業論文の研究計画、結果について議論する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	卒業論文について	若森
第３回	先行研究の発表（一人目）	若森
第４回	先行研究の発表（二人目）	若森
第５回	先行研究の発表（三人目）	若森
第６回	研究計画の発表（一人目）	若森
第７回	研究計画の発表（二人目）	若森
第８回	研究計画の発表（三人目）	若森
第９回	卒業論文の調査や実験の進め方	若森
第１０回	結果の処理方法について	若森
第１１回	臨床における研究について	若森
第１２回	経過報告（一人目）	若森
第１３回	経過報告（二人目）	若森
第１４回	経過報告（三人目）	若森
第１５回	まとめ	若森
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを適宜配布する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の執筆に向け、先行研究・文献の検索、統計処理・分析方法の検討をすることが目標である。 同時に、各自が研究を進め、春学期終了までに実践あるいは調査が完了していることを目指す。
授業概要	各自の研究テーマに関する領域・分野の文献を検索し、先行研究を読み進めていく。 統計処理方法についても再度学び、論文執筆にあたってどのような手法で結果をまとめるのかを決定する。 同時に、春学期中に実践研究を実施し，論文執筆に必要なデータ収集や分析を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。 発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方、研究林倫理について	藤原直子
第２回	卒業論文抄録の講読	藤原直子
第３回	研究テーマ・目的の検討	藤原直子
第４回	研究実施における倫理的配慮・個人情報保護の確認	藤原直子
第５回	実践内容の検討・決定	藤原直子
第６回	効果測定方法の検討・決定	藤原直子
第７回	実践研究の準備・練習	藤原直子
第８回	実践研究の実施	藤原直子
第９回	実践研究の経過報告	藤原直子
第１０回	結果の処理・分析方法の検討	藤原直子
第１１回	結果のまとめ方	藤原直子
第１２回	データ入力	藤原直子
第１３回	データ分析	藤原直子
第１４回	研究経過報告	藤原直子
第１５回	まとめ、今後の計画検討	藤原直子

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業論文作成のための先行研究を調べる，統計処理・分析方法を学習する。 【到達目標】春学期が終了するまでに調査や実験が終了することを目指す。
授業概要	本演習では、自身が進める卒業研究に関連する文献を検索し，統計的分析方法などを学ぶ。論文執筆に必要なスキルを習得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション、研究倫理教育	土居
第２回	2. 卒論作成について	土居
第３回	3. 卒業論文とは	土居
第４回	4. 卒論の目的	土居
第５回	5. 卒論のテーマについて	土居
第６回	6. 卒論テーマの決め方	土居
第７回	7. 卒論の方向性について	土居
第８回	8. 岡山心理学会について	土居
第９回	9. 卒論の調査実施：1人目	土居
第１０回	10. 卒論の調査実施：2人目	土居
第１１回	11. 卒論の調査実施：3人目	土居
第１２回	12. 卒論の経過報告：1人目	土居
第１３回	13. 卒論の経過報告：2人目	土居
第１４回	14. 卒論の経過報告：3人目	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。 さらに、4年次においては各自卒業論文に掲げたテーマについての知識を深め、卒業論文作成に向けた実践できることが到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献や卒業論文のテーマに関する文献を輪読し、発表してもらう。 ２．卒業論文作成に向け、論文の書き方や調査法などを学習する。 ３．卒業論文作成に向け調査を行い、その結果をまとめて発表する。 ４．調査結果を分析、考察し、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には、それぞれ1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、木曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	研究計画の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第３回	研究計画の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第４回	研究計画の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第５回	研究計画の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第６回	調査方法の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第７回	調査方法の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第８回	調査方法の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第９回	調査方法の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１０回	調査データの入力と経過発表（1グループ目）	宇都宮
第１１回	調査データの入力と経過発表（2グループ目）	宇都宮
第１２回	調査データの入力と経過発表（3グループ目）	宇都宮
第１３回	調査データの入力と経過発表（4グループ目）	宇都宮
第１４回	分析結果のまとめ方	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		宇都宮

教科書			
教・書籍名１	特になし。資料は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰ・Ⅱに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。演習の方法は，テキスト「脳と心」を輪読する。発表者は，レジュメを作成し，発表する。また，教員の研究への参加等も積極的に行うことで，自身の研究へとつなげてほしい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR　ゼミ運営について	橋本翠
第２回	2.脳と神経	橋本翠
第３回	3.生理心理学	橋本翠
第４回	4.注意	橋本翠
第５回	5.対象の認知と右脳・左脳	橋本翠
第６回	6.生物リズム	橋本翠
第７回	7.睡眠	橋本翠
第８回	8.感情，表情そして身体表現	橋本翠

第９回	9.目と印象形成	橋本翠
第１０回	10.タイプA	橋本翠
第１１回	11.行動を支える脳内ホルモン	橋本翠
第１２回	12.ストレス評価とマネジメント	橋本翠
第１３回	13.バイオフィードバック	橋本翠
第１４回	14.音楽と脳	橋本翠
第１５回	15.生理心理学とコンピュータ	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	脳と心	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	宮田洋(著)	教・ＩＳＢＮ１	4-563-05742-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	関連研究で用いられている調査の実施方法や統計的処理の方法を学習することがテーマである。 到達目標は、テーマに沿った調査を実施し、統計的処理をおこなえるようになることである。
授業概要	研究計画および調査結果についてのデスカッションをおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の調査方法や統計的処理の方法を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	関連研究の発表（学生1）	村上
第３回	関連研究の発表（学生2）	村上
第４回	関連研究の発表（学生3）	村上
第５回	研究計画の発表（学生1）	村上
第６回	研究計画の発表（学生2）	村上
第７回	研究計画の発表（学生3）	村上
第８回	調査の進め方	村上
第９回	質問紙の作成方法	村上
第１０回	質問紙の作成	村上
第１１回	結果の処理の方法	村上
第１２回	記述統計	村上
第１３回	推測統計	村上
第１４回	多変量解析	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を完成する 到達目標： １．所定の形式にしたがい、卒業論文を作成できる ２．自分の研究について分かりやすく他者に伝えられる ３．自分の研究のよい点と課題について、客観的に理解できる
授業概要	得られたデータを統計的な手続きを経てまとめ、そこから何が言えるか明らかにする。それを踏まえて、自分の研究を問題、方法、結果、考察の章立てにしたがって
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	論文の進捗状況および発表内容（80%）、そして討議への参加状況（20%）により評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	論文完成に向けて、できる限りの時間とエネルギーを使うこと。1日2時間以上の学修を期待する。
オフィスアワー	月4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	調査・実験：実施	津川秀夫
第３回	調査・実験：結果	津川秀夫
第４回	調査・実験：記述統計	津川秀夫
第５回	調査・実験：図表	津川秀夫
第６回	調査・実験：統計	津川秀夫
第７回	調査・実験：結果の解釈	津川秀夫
第８回	論文：問題	津川秀夫
第９回	論文：目的	津川秀夫
第１０回	論文：方法	津川秀夫
第１１回	論文：結果	津川秀夫
第１２回	論文：考察	津川秀夫
第１３回	論文：考察の検討	津川秀夫
第１４回	論文：考察の修正	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門	教・出版社名2	東京書籍

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて」というテーマのもと、卒業論文作成のための実験の実施し、結果を整理・分析できるようになることを到達目標とする。
授業概要	基本的には、卒業論文の作成に向けての経過報告の形で行うが、折に触れ、論文の紹介（発表）、統計的手法の概説などを行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表:：５０％、受講態度：５０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	所定の時間外でも演習を行うことがあるので注意するように。 他のゼミ生の卒業論文についても、深く関与し、全員で協力してすすめるように。 無断欠席には厳しく対処するので気をつけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各自の研究テーマに沿った論文の熟読をすること。 特に、方法と結果の整理については十分に理解するように取り組むこと。 心理統計の講義などを含め、図書館での文献検索などを活用して、自主的に進めること。 指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・経過報告	森井
第２回	記述統計(1)　度数分布と散布図	森井
第３回	記述統計(2)　標準偏差と標準誤差	森井
第４回	推測統計(1)　カイ二乗検定	森井
第５回	推測統計(2)　ｔ 検定	森井
第６回	推測統計(3)　分散分析	森井
第７回	統計ソフトの実際(1)　SPSS	森井
第８回	統計ソフトの実際(2)　ANOVA4	森井
第９回	データの分析結果報告	森井
第１０回	結果の整理(1)　図表の作成	森井
第１１回	結果の整理(2)　統計結果の記述森井	森井
第１２回	科学論文の表現(1)　主語と述語	森井
第１３回	科学論文の表現(2)　主観と客観	森井
第１４回	科学論文の表現(3)　冗長表現	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 各自の研究結果をまとめ、考察を行う。 考察に関連する論文を調べ、考察を深める。 【到達目標】 卒業論文を締め切りまでに提出すること。
授業概要	卒業論文の提出に向けてディスカッションを行い、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。 卒業論文の執筆を各自で進めていくこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究の進捗状況と研究結果の報告（一人目）	若森
第３回	研究の進捗状況と研究結果の報告（二人目）	若森
第４回	研究の進捗状況と研究結果の報告（三人目）	若森
第５回	研究結果の分析と解釈（一人目）	若森
第６回	研究結果の分析と解釈（二人目）	若森
第７回	研究結果の分析と解釈（三人目）	若森
第８回	論文の執筆における注意点について	若森
第９回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（一人目）	若森
第１０回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（二人目）	若森
第１１回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（三人目）	若森
第１２回	抄録の書き方、まとめ方	若森
第１３回	抄録の作成	若森
第１４回	発表会の準備	若森
第１５回	まとめ	若森
第１６回		

教科書

教・書籍名１	プリントを適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究結果をまとめ、考察を加え、卒業論文および抄録を完成させることが目標である。 各自が執筆を進め、ゼミの中で経過報告をしたり、不明な点を検討したりして、論文を完成させていく。
授業概要	各自が行った研究について、先行研究をもとに考察したり、全員で議論したりする。 また、論文執筆に必要な統計処理・分析、図表の書き方、本文の書き方などを検討し、共有して学習していく。必要に応じて協同作業で分析をしたり、文献検索をしたりして、執筆を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方、研究倫理について	藤原直子
第２回	研究実施報告	藤原直子
第３回	卒業研究の経過報告	藤原直子
第４回	アンケート処理・分析	藤原直子
第５回	研究結果発表	藤原直子
第６回	研究結果について討論	藤原直子
第７回	序論のまとめ方	藤原直子
第８回	データ入力、統計処理	藤原直子
第９回	分析方法・結果のまとめ方の検討	藤原直子
第１０回	考察の検討	藤原直子
第１１回	論文最終確認、検討	藤原直子
第１２回	抄録作成	藤原直子
第１３回	発表会資料作成	藤原直子
第１４回	発表会プレゼン、検討	藤原直子
第１５回	卒業論文発表会	藤原直子

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業論文作成のための先行研究を調べる，統計処理・分析方法を学習する。 【到達目標】１２月締め切りまでに卒論提出及び発表会における発表実施、１月の抄録提出完了をすること。
授業概要	本演習では、自身が進める卒業研究に関連する文献を検索し，統計的分析方法などを学ぶ。論文執筆に必要なスキルを習得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディベート
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 卒論結果分析：1人目	土居
第２回	2. 卒論結果分析：2人目	土居
第３回	3. 卒論結果分析：3人目	土居
第４回	4. 卒論結果分析：4人目	土居
第５回	5. 卒論結果検討：1人目	土居
第６回	6. 卒論結果検討：2人目	土居
第７回	7. 卒論結果検討：3人目	土居
第８回	8. 卒論結果検討：4人目	土居
第９回	9. 卒論執筆：1人目	土居
第１０回	10. 卒論執筆：2人目	土居
第１１回	11. 卒論執筆：3人目	土居
第１２回	12. 卒論執筆：4人目	土居
第１３回	13. 卒論発表会のポスター印刷	土居
第１４回	14. 卒論発表会の練習	土居
第１５回	15. 卒論抄録の提出	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版
参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。 さらに、4年次においては各自卒業論文に掲げたテーマについての知識を深め、卒業論文作成に向けた実践できることが到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献や卒業論文のテーマに関する文献を輪読し、発表してもらう。 ２．卒業論文作成に向け、論文の書き方や調査法などを学習する。 ３．卒業論文作成に向け調査を行い、その結果をまとめて発表する。 ４．調査結果を分析、考察し、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、木曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	研究の進行状況の発表（1グループ目）	宇都宮
第３回	研究の進行状況の発表（２グループ目）	宇都宮
第４回	研究の進行状況の発表（3グループ目）	宇都宮
第５回	研究の進行状況の発表（４グループ目）	宇都宮
第６回	研究結果の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第７回	研究結果の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第８回	研究結果の発表と検討（３グループ目）	宇都宮
第９回	研究結果の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１０回	考察の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第１１回	考察の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第１２回	考察の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第１３回	考察の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１４回	ポスター発表（発表と検討1）	宇都宮
第１５回	ポスター発表（発表と検討2）	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	特になし。適宜、資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰ・Ⅰに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは毎回の授業前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅲ・Ⅳは，卒業研究のまとめとなる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 1)	橋本翠
第２回	(2) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 2)	橋本翠
第３回	(3) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 3)	橋本翠
第４回	(4) 研究課題と研究構想の発表(発表者1)	橋本翠
第５回	(5) 研究課題と研究構想の発表(発表者2)	橋本翠
第６回	(6) 研究課題と研究構想の発表(発表者3)	橋本翠
第７回	(7) 研究計画の発表(発表者1)	橋本翠
第８回	(8) 研究計画の発表(発表者2)	橋本翠

第９回	(9) 研究計画の発表(発表者3)	橋本翠
第１０回	(10) 研究計画書の作成(発表者 1)	橋本翠
第１１回	(11) 研究計画書の作成(発表者 2)	橋本翠
第１２回	(12) 研究計画書の作成(発表者 3)	橋本翠
第１３回	(13) 研究計画のまとめ(発表者1)	橋本翠
第１４回	(14) 研究計画のまとめ(発表者2)	橋本翠
第１５回	(15) 研究計画のまとめ(発表者3)	橋本翠
第１６回	(16)単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて，適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	計画を立て、結果をまとめ、考察を深めることがテーマである。 到達目標は、期限内に卒業論文を完成・提出することである。
授業概要	卒業論文の内容・体裁についてのデスカッションをおこない、期限内に卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究を参考に卒業論文の執筆をおこなうこと（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	卒業論文の経過報告	村上
第３回	先行研究の輪読（問題と目的）	村上
第４回	序論の検討	村上
第５回	先行研究の輪読（方法）	村上
第６回	方法の検討	村上
第７回	先行研究の輪読（結果）	村上
第８回	結果の検討	村上
第９回	先行研究の輪読（考察）	村上
第１０回	考察の検討	村上
第１１回	卒業論文の執筆	村上
第１２回	卒業論文の検討	村上
第１３回	抄録の書き方	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	

参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理実習Ⅰ　（オムニバス）			担当者	津川　秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原　直子、土居　正人、村上　勝典、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-409		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	45	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。 到達目標：実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の（ア）（イ）（ウ）の基礎を理解することができる。
授業概要	保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学実習や事前事後学習、学内外の講師による授業等を通して、公認心理師に求められる知識や技能等をはじめとして、基本的な実習態度、実習記録のつけ方、当該施設やその利用者についての知識、指導者への連絡や報告の仕方等について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	規定の出席や外部実習参加を前提として、参加態度（50%）とレポート（50%）により評価を行う。 レポート課題として、（1）学内外の講師による講義のまとめ、（2）実習記録、（3）事前・事後学習、（4）実習全体の振返り、の4種を課す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	記録やレポートに関して適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	〈履修条件〉 ・原則として、2年次秋学期までのGPAが2.0以上であること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 〈注意事項〉 ・原則として、すべての実習施設に行くことが求められる。ただし，正当な理由がある場合（医療費の領収書などの提出が必要）には、1か所の欠席（2時間分）までは許容する。 ・学外実習は正規の時間外に行うこともあるので、連絡事項に注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野において実務経験のある実習指導者が指導する。 また、実習前後の指導については心理的支援に関する実務経験のある学内の教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、次回行う内容・実習施設について資料収集し、下調べをしてくること。（2時間） 授業中・実習中にノートにまとめた内容について報告書を作成すること。（2時間）
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて「何でも相談時間」に対応します。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	全員
第２回	実習心得	全員
第３回	新型肺炎対策	
第４回	事前指導（教育）	津川
第５回	不登校への支援（外部講師）	村上
第６回	総社市ふれあい教室	津川
第７回	家庭裁判所（外部講師）	藤原
第８回	事前指導（司法犯罪）	藤原

第９回	岡山少年鑑別所（外部講師）	藤原
第１０回	療育施設（外部講師）	藤原
第１１回	老人福祉施設（外部講師）	宇都宮
第１２回	岡山県総合教育センター	土居
第１３回	四ツ葉会（外部講師）	村上
第１４回	事後指導	全員
第１５回	事前指導（福祉・教育）	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理実習Ⅱ （オムニバス）	担当者	津川　秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原　直子、土居　正人、村上　勝典、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年	ナンバリング	PS-PS-3-410

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	45	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。 到達目標：実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の（ア）（イ）（ウ）の基礎を理解することができる。
授業概要	福保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学実習や事前事後学習、学内外の講師による授業等を通して、公認心理師に求められる知識や技能等をはじめとして、基本的な実習態度、実習記録のつけ方、当該施設やその利用者についての知識、指導者への連絡や報告の仕方等について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	規定の出席や外部実習参加を前提として、参加態度（50%）とレポート（50%）により評価を行う。 レポート課題として、（1）学内外の講師による講義のまとめ、（2）実習記録、（3）事前・事後学習、（4）実習全体の振返り、の4種を課す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	〈履修条件〉 ・原則として、2年次秋学期までのGPAが2.0以上であること。 ・原則として、「心理実習Ⅰ」の単位を取得していること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 〈注意事項〉 ・原則として、すべての実習施設に行くことが求められる。ただし，正当な理由がある場合（医療費の領収書などの提出が必要）には、1か所の欠席（2時間分）までは許容する。 ・学外実習は正規の時間外に行うこともあるので、連絡事項には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野において実務経験のある実習指導者が指導する。 また、実習前後の指導については、心理的支援に関する実務経験のある学内の教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、次回行う内容・実習施設について資料収集し、下調べをしてくること。（2時間） 授業中・実習中にノートにまとめた内容について報告書を作成すること。（2時間）
オフィスアワー	担当教員の研究室にて、「何でも相談時間」に対応する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	全員
第２回	心理相談室	津川
第３回	四ツ葉会実習	村上
第４回	グリーンヒル順正（外部講師）	宇都宮
第５回	事前指導（司法犯罪）	藤原
第６回	実習事前指導（福祉）	宇都宮
第７回	岡山少年院（外部講師）	藤原

第８回	津島児童学院（外部講師）	宇都宮
第９回	実習事前指導（医療）	土居
第１０回	たいようの丘ホスピタル（外部講師）	土居
第１１回	鶴山塾（外部講師）	土居
第１２回	母子生活支援施設（外部講師）	津川
第１３回	四ツ葉会実習	村上
第１４回	万成病院（外部講師）	津川
第１５回	事後指導（全体）	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	テキストは使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外書講読Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年			ナンバリング	PS-PS-3-411		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	【テーマ】英語の文献講読を通して，心理学領域における方法論および論点について理解する。 【到達目標】近々の心理学における英語の文献を読み，新しいトピックスに触れることで，自分なりの問題意識や興味を深める。
授業概要	本講では，2022年/2021年発行の学術専門誌「心理学研究，生理心理学と精神生理学，認知心理学研究，基礎心理学研究，健康心理学研究，発達心理学研究，教育心理学研究，他」の英文アブストラクトを講読し，内容について発表・ディスカッションを行う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する課題(25%)，ディスカッションへの参加度(25%)，試験の得点(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義ごとの課題のフィードバックは，次回の講義の前に実施する。 2回の単語小テストのフィードバックについても同様である。
履修条件・注意事項	英語の文献を読む為，ある程度の英語力が必要である。英語が苦手な学生については，十分考えた上で履修すること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。辞書を準備すること(電子辞書不可)。辞書を購入する場合は，参考図書に挙げている辞書を推奨する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の課題の指示をするので，予め和訳をし，内容について理解すること(2時間)。復習については，授業時の内容を理解し，さらに興味を持った場合は，文献の本文を読み見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/文献の検索の仕方	橋本翠
第２回	(2) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域A	橋本翠
第３回	(3) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域B	橋本翠
第４回	(4) 英文アブストラクトの読解(基本) 領域C	橋本翠
第５回	(5) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域D	橋本翠
第６回	(6) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域A	橋本翠
第７回	(7) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域B	橋本翠
第８回	(8) 単語小テスト	橋本翠
第９回	(9) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域D	橋本翠
第１０回	(10) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域A	橋本翠

第１１回	(11) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域B	橋本翠
第１２回	(12) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域C	橋本翠
第１３回	(13) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域D	橋本翠
第１４回	(14) 英文アブストラクトの読解　(上級) 領域A	橋本翠
第１５回	(15) 単語小テスト	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	教科書等は使用しません。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	英和中辞典 プログレッシブ　第5版	参・出版社名１	小学館
参・著者名１	瀬戸賢一・投野由紀夫	参・ＩＳＢＮ１	978-4-09-510205-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外書講読Ⅱ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-412		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：臨床心理学に関する英語文献を読み、内容を理解できるようになること。 到達目標：基本的な文法を把握し、それを応用した文章が読めること。また、臨床心理学に関する専門用語を覚え、内容の読解が出来るようになること。
授業概要	臨床心理学に関する英語文献を輪読する。大学院入試対策の問題なども適宜使用。輪読するので、予習・復習が必須である。構文や専門用語などについても、解説を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、定期試験50%、小テストとレポート30%、授業に取り組む姿勢20%とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	予習・復習を必ず行い、授業に備えること。 英和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。オリエンテーション時より使用します。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	復習として、授業で実施した部分について重要単語を覚えてくること。また、授業で出た英文課題について次回の授業時に必ずレポートを提出すること。時々、小テスト等で授業内容の理解度を確認する。予習・復習に1-2時間程度を要す。
オフィスアワー	研究室にて、火曜4時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	心理療法と面接：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第３回	心理療法と面接：文献講読	宇都宮
第４回	精神分析学（局所論、構造論）：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第５回	精神分析学（転移・逆転移、防衛機制）：文献講読	宇都宮
第６回	認知行動療法：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第７回	認知行動療法：文献講読	宇都宮
第８回	人間性心理学：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第９回	人間性心理学（ロジャーズ）：文献講読	宇都宮
第１０回	人間性心理学（フォーカシング、ゲシュタルト療法）：文献講読	宇都宮
第１１回	ストレス：文献講読	宇都宮
第１２回	知能検査：文献講読	宇都宮
第１３回	PTSD：文献講読	宇都宮
第１４回	PTSD：事例（DVD）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末テスト（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	特になし。英単語および文献については適宜プリントを配布。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	関係行政論					担当者	松原　浩一郎、田中　富子、藤原　直子、藤井　和郎、中瀬　克己、中野　明	
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年					ナンバリング	PS-PS-4-413	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限	

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	公認心理師として職務を遂行するにあたり、必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解する。
授業概要	人々の活動の基盤となる仕組みやルール、取り組みなどの歴史的経緯などを、法律や制度の紹介を通して明らかにしていく。 また公認心理師の主な活動領域である5分野について、それぞれの領域を専門とする講師によって法律や制度を概説し、具体的な心理的支援を認識できるよう講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	担当教員ごとに小テストやレポート課題を課す。 最終回に総合的な試験も実施し、評価は小テストおよびレポート20%、最終試験80%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックはそれぞれの担当教員からの指示にしたがって受けること。
履修条件・注意事項	オムニバスであるため、講義の日にちや時限が担当者ごとに変わる可能性がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、公認心理師として心理的支援に関する実務経験のある教員の他、医療、福祉、教育、司法、産業それぞれの療育において支援者としての経験を有する講師が担当する。 基本的な知識や近年の動向に加え、現場での実際の支援に関する情報を教授する。
事前学習・事後学習とその時間	予習のためテキストを繰り返し読み、疑問を明確にした上で受講すること。 授業内で配布するプリントや追加資料を元に復習も行うこと。 予習と復習にはそれぞれ2時間以上を必要とする。
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日4限目（研究室） 他の教員については、授業終了時等に対応可能時間を尋ねること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	藤原直子
第２回	法制度の基本	藤原直子、入江祥子（外部講師）
第３回	公認心理師の法的立場・各分野への展開	藤原直子
第４回	保健医療分野に関する法律・制度・医療全般	田中富子（看護学科）
第５回	保健医療分野に関係する法律・制度：精神科医療	田中富子（看護学科）
第６回	保健医療分野に関係する法律・制度：地域保健・医療	田中富子（看護学科）
第７回	福祉分野に関係する法律・制度：児童福祉	中野明子（経営社会学科）
第８回	福祉分野に関係する法律・制度：障害者・障害児福祉	松原浩一郎（社社会福祉学科）
第９回	福祉分野に関係する法律・制度：高齢者福祉	松原浩一郎（社会福祉学科）
第１０回	教育分野に関係する法律・制度	藤井和郎（子ども発達教育学科）

第１１回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：刑事	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１２回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：家事	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１３回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：少年非行	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１４回	産業・労働分野に関係する法律・制度	中瀬克己（看護学科）
第１５回	心の健康・障害・多様性への支援	藤原直子
第１６回	試験	藤原直子

教科書			
教・書籍名１	関係行政論	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	元永　拓郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-073-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	公認心理師の職責			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-414		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	公認心理師が人々の心の健康の保持、増進に寄与するため、職務上果たすべき責務について理解する。
授業概要	・心理専門職の国家資格である公認心理師について、その役割及び法的義務・倫理について解説する。 ・心理支援における安全の確保、情報の取り扱い、守秘義務などについて解説する。 ・心理支援の分野別の業務を具体的に示す。また、受講者に事例を提示し、ALを実施する場合もある。 ・心理専門職の自己研鑽に触れる。 ・多職種との連携及び地域連携についても臨床経験を踏まえながら具体的に説明する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	試験60%、ミニテストとレポート40%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ミニテストとレポートはコメントをつけてフィードバックする。
履修条件・注意事項	・積極的に授業に参加すること。 ・予習と復習を欠かさずに行うこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：公認心理師、臨床心理士として実務経験（心療内科におけるカウンセリング、慢性期疾患に対するカウンセリングや検査、小中学校でのスクールカウンセラーなど）のある教員が担当する。実際の現場における公認心理師の責務と関連付けて講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・予習として教科書をよく読み、ポイントと思われるところ、理解できないところを把握して、授業を受けること。 ・復習のために授業のノート、配布プリントに書くこと。その内容と教科書を照合し、学びを深めること。 ・予習、復習にはそれぞれ最低でも2時間は必要である。
オフィスアワー	火曜日　4限

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、公認心理師の資格について	若森
第２回	心理支援に必要な技能（コンピテンシー）	若森
第３回	心理支援の専門職になるために	若森
第４回	心理支援の専門職として求められる学び	若森
第５回	公認心理師の法的義務と倫理	若森
第６回	クライエントの安全の確保	若森
第７回	情報の適切な取り扱い	若森
第８回	多職種連携について	若森
第９回	保健医療分野における具体的業務	若森
第１０回	福祉分野における具体的業務	若森
第１１回	教育分野における具体的業務	若森
第１２回	司法・犯罪分野における具体的業務	若森
第１３回	産業・労働分野における具体的業務	若森
第１４回	公認心理師の今後の展開	若森
第１５回	まとめ、振り返りと疑問点の解決	若森
第１６回	定期試験	若森

教科書			
教・書籍名１	公認心理師の職責	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	下山晴彦、他監	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08611-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を作成する 到達目標： １．研究デザインを組むことができる ２．問題・方法・結果・考察という章立てにしたがって研究をまとめられる
授業概要	卒業論文作成のために少人数のゼミ形式で進める。先行研究をまとめ、研究デザインをかため、得られた結果を所定の手続きにもとづいて分析し、それを先行研究のなかに位置付けて考察する、という一連の論文作成の手続きが進められる指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	卒業論文の作成状況、完成度によって評価する(100%)。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	主体的な取り組みを期待する
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	論文完成に向けて、できる限りの時間とエネルギーを注ぐこと。1日2時間以上の学修を期待する。
オフィスアワー	水３時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	論文の構成	津川秀夫
第３回	問題	津川秀夫
第４回	方法	津川秀夫
第５回	記述統計	津川秀夫
第６回	表	津川秀夫
第７回	図	津川秀夫
第８回	相関分析	津川秀夫
第９回	ｔ検定	津川秀夫
第１０回	分散分析	津川秀夫
第１１回	統計結果の記述	津川秀夫
第１２回	因子分析の考え方	津川秀夫
第１３回	因子分析の結果の見方	津川秀夫
第１４回	回帰分析	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは「心理学研究の実施と論文の作成」であり、到達目標は、科学的な研究法に基づいた実験的研究の実施と、卒業論文の作成である。
授業概要	心理学科４ 年間の集大成を目指して、文献研究、実験・調査、データの分析などを通して論文の作成を行えるように、個別に指導・アドバイスする。受講者は、他の学生への指導に参加することで、自分自身の研究を進める上で、あるいは論文をまとめる上でのヒントをつかむようにすることが大切となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論文作成への取り組み５０％、出来上がり（発表会も含む）５０％により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	論文作成状況に応じて，適宜フィードバックしながら論文完成を目指す。
履修条件・注意事項	提出等の期限を守ること。 正規の時間帯以外の個別指導も多いので注意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自分で、計画的に学習を進めること。 実験計画案を考案した時点などの，節目では教員に相談しながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、研究室が基本ですが、在室時、随時実施。

	授業計画	担当者
第１回	進行状況の確認	森井
第２回	中間データの概要報告	森井
第３回	手続き等の改善点の検討	森井
第４回	テーマ・タイトルの再確認	森井
第５回	問題・目的の書き方	森井
第６回	方法の重要性	森井
第７回	データの整理・集計	森井
第８回	統計的検定	森井
第９回	図表による整理	森井
第１０回	結果の要約	森井
第１１回	考察の観点について	森井
第１２回	引用文献・参考文献について	森井
第１３回	卒論の全体的点検	森井
第１４回	卒論抄録原稿について	森井
第１５回	発表会用資料の作成について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文				担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年				ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を作成すること。 到達目標：卒業研究の実施、研究方法、統計方法、論文の作成に必要な知識や技能を習得すること。
授業概要	・先行研究の輪読と発表を行う。 ・研究方法を学習し、各自の研究テーマに沿って研究計画を立てる。 ・研究計画に従って調査や実験を実施する。 ・結果の統計処理や分析を行う。 ・卒業論文を作成する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	受講態度と論文作成までの過程（40%）、卒業論文の内容（60%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表、ディスカッションなどに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として先行研究の調査、購読を行い、レジュメにまとめる。わからない箇所を明確にして、ゼミで共有する。 復習として授業内容の振り返り、卒業論文の執筆を行う。 予習と復習は各2時間行うこと。
オフィスアワー	火曜日の4限をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究倫理について	若森
第３回	論文の構成について	若森
第４回	進捗状況の報告	若森
第５回	卒論の目的や先行研究の書き方	若森
第６回	方法の書き方	若森
第７回	方法のまとめ	若森
第８回	結果の報告と検討　1	若森
第９回	結果の報告と検討　2	若森
第１０回	結果（図や表）の分析	若森
第１１回	考察の書き方	若森
第１２回	考察の検討	若森
第１３回	論文のブラッシュアップ	若森
第１４回	卒論抄録の作成	若森
第１５回	卒論発表会の準備・練習	若森
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリント配布を適宜行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文				担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年				ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の執筆に向け、研究方法や論文の書き方を学習する。同時に、実践研究や調査研究を遂行し、結果の分析やまとめも行う。 最終的に、卒業論文を完成させ、発表することが到達目標である。
授業概要	1. 卒業論文完成までの計画をたて、準備を進める 2. 実践研究や調査研究を行う 3. 研究の結果を分析し、考察を考える 4. 論文を仕上げ、提出する 5. 抄録・発表資料の作成、発表練習を行い、卒業論文発表会において発表する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	実践や調査、論文執筆を計画的に進めていくこと。 発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、研究テーマに関連する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 報告・卒論指導に必要な資料作成や、研究実施にあたっての準備は必ず各自で行うこと。 研究実施、結果の分析、論文執筆は、いずれも各自の作業となるため、自己学修にかなりの時間を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他の時間に、相談や研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

授業計画		担当者
第１回	研究実施、卒論執筆における倫理的配慮・個人情報保護の確認	藤原直子
第２回	研究結果の分析方法検討	藤原直子
第３回	結果の分析	藤原直子
第４回	結果の記述方法検討	藤原直子
第５回	結果の解釈	藤原直子
第６回	経過報告	藤原直子
第７回	経過報告の発表	藤原直子
第８回	まとめ方の検討	藤原直子
第９回	考察の書き方	藤原直子
第１０回	論文の構成確認	藤原直子
第１１回	論文執筆	藤原直子
第１２回	論文執筆・個別指導	藤原直子
第１３回	論文の仕上げ・最終確認	藤原直子

第１４回	抄録・発表資料の作成	藤原直子	
第１５回	発表会準備・プレゼン	藤原直子	
第１６回	まとめ、卒論発表	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業研究の実施，執筆をするために必要な知識や技能を修得すること。 【到達目標】卒業論文を完成すること。
授業概要	この授業では，卒業論文を作成するための授業である。卒論のテーマを決め計画を立てる。それに必要な文献購読，発表を行う。卒論の書き方や調査の実施方法を学習する。質問紙を作成し実施したり面接調査などを行ったりする。結果の統計処理や分析を行い，それらをまとめ論文を作成していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	卒業論文について，問題と目的，方法，結果，考察，オリジナリティがあるか，有用性があるかなどを総合的に評価し，論文作成までの過程の積極性（60%），卒論内容（40%）で評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は「演習」の授業と同様で、論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	発表やディスカッションへの積極な参加を望む。慎重になりすぎると研究が滞ってしまうので，積極的にチャレンジしてみるという気持ちが必要である。全時間の出席を必須とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 卒論作成について	土居
第３回	3. 卒業論文とは	土居
第４回	4. 卒論の目的	土居
第５回	5. 卒論のテーマについて	土居
第６回	6. 卒論テーマの決め方	土居
第７回	7. 卒論の方向性について	土居
第８回	8. 卒論の調査準備	土居
第９回	9. 卒論の経過報告	土居
第１０回	10. 卒論結果分析	土居
第１１回	11. 卒論考察検討	土居
第１２回	12. 卒論執筆	土居
第１３回	13. 卒論発表会のポスター印刷	土居
第１４回	14. 卒論発表会の練習	土居
第１５回	15. 卒論抄録提出	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	図書館やインターネットで調べてきたり，プリント配布を行ったりする。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学演習で学んだ内容や自身で選択したテーマを、卒業論文として完成し、提出できることがこの授業のテーマであり、到達目標である。
授業概要	１．卒論計画を立て、関連文献の輪読と発表を行ってもらう。 ２．卒論の書き方や調査法について学習する。 ３．質問紙を作成し、実行する。または面接調査などを行い、まとめる。 ４．調査結果の分析と卒論の仕上げ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（20%）、卒論作成（80%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。卒論作成に向け、真摯に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 自己学習には最低でも1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	秋期：木曜日5時限（研究室）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	心理学論文の書き方	宇都宮
第３回	データの分析方法について	宇都宮
第４回	卒論調査結果の発表(1グループ目)	宇都宮
第５回	卒論調査結果の発表(2グループ目)	宇都宮
第６回	卒論調査結果の発表(3グループ目)	宇都宮
第７回	卒論調査結果についての検討と修正(1グループ目)	宇都宮
第８回	卒論調査結果についての検討と修正(2グループ目)	宇都宮
第９回	卒論調査結果についての検討と修正(3グループ目)	宇都宮
第１０回	卒論考察についての発表と検討(1グループ目)	宇都宮
第１１回	卒論考察についての発表と検討(2グループ目)	宇都宮
第１２回	卒論考察についての発表と検討(3グループ目)	宇都宮
第１３回	ポスター発表の方法について	宇都宮
第１４回	ポスター発表リハーサル（1）	宇都宮
第１５回	ポスター発表リハーサル（2）	宇都宮
第１６回		宇都宮

教科書			
教・書籍名１	改定新版　心理学論文の書き方	教・出版社名１	河出書房新社
教・著者名１	松井豊	教・ＩＳＢＮ１	978-4-3-0-24522-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ:ヒトの認知活動を心理生理学(Psychophysiology)の立場から理解する。 到達目標:ヒトの心的活動,特に認知情報処理活動について実験心理学的手法を用いて客観的に捉え,論文としてま とめることができる。
授業概要	ヒトの心的活動,特に認知情報処理活動についての実験心理学的手法を身に付け,それらを用いて卒業論文へと収 束させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	実験態度,作成過程とともに,論文について,研究の背景,実験方法,結果のまとめ方,考察のしかた,オリジナリティー があるかどうかなど,総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては講義内で実施する。
履修条件・注意事項	時間に余裕をもって,計画的に研究を進めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	先行研究を精査し，自身の研究計画と比較しながら，丁寧に研究を行う。また，自身の行った実験結果を確認し,間違いがないかチェックする。自己学習には最低2時間はあてること。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.各自の研究(実験)(1)	橋本翠
第２回	2.各自の研究(実験)(2)	橋本翠
第３回	3.各自の研究(実験)(3)	橋本翠
第４回	4.各自の研究(実験)(4)	橋本翠
第５回	5.各自の研究(実験)(5)	橋本翠
第６回	6.各自の研究(分析)(1)	橋本翠
第７回	7.各自の研究(分析)(2)	橋本翠
第８回	8.各自の研究(分析)(3)	橋本翠
第９回	9.各自の研究(分析)(4)	橋本翠
第１０回	10.各自の研究(分析)(5)	橋本翠
第１１回	11.各自の研究(ディスカッション)(1)	橋本翠
第１２回	12.各自の研究(ディスカッション)(2)	橋本翠

第１３回	13.各自の研究(ディスカッション)(3)	橋本翠
第１４回	14.各自の研究(ディスカッション)(4)	橋本翠
第１５回	15.各自の研究(ディスカッション)(5)	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文を作成することがテーマである。 到達目標は、研究方法、統計的処理の方法、論文のまとめ方を身に付けることである。
授業概要	1.　先行研究の輪読と発表をおこなう。 2.　研究方法や統計的処理の方法を学習する。 3.　研究計画に沿って調査を実施する。 4.　卒業論文のまとめ方を学習し、作成をおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および卒業論文（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の購読をおこない、論文の執筆を進めること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	村上
第２回	進捗状況の発表	村上
第３回	データのまとめ方	村上
第４回	統計的処理の方法	村上
第５回	統計的処理の実施	村上
第６回	調査結果の報告・検討（学生1）	村上
第７回	調査結果の報告・検討（学生2）	村上
第８回	結果のまとめ方	村上
第９回	図表の書き方	村上
第１０回	先行研究との比較	村上
第１１回	考察のまとめ方	村上
第１２回	考察の検討	村上
第１３回	論文の仕上げ	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

Syllabus

心理学部
心理学科

2018 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外	担当者	吉備国際大学未定教員、畝　伊智朗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、

			授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝 山本倫子
第２回	国境とは何か？	畝 山本倫子
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝 山本倫子
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝 山本倫子
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝 山本倫子
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝 山本倫子
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝 山本倫子
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝 山本倫子
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝 山本倫子
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝 山本倫子
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝 山本倫子
第１２回	高齢化社会の課題	畝 山本倫子
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝 山本倫子
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝 山本倫子
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝 山本倫子
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履１・２クラス)	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠

第９回	現代の社会	日笠	
第１０回	報道とマスコミ	日笠	
第１１回	ITと情報社会	日笠	
第１２回	科学と技術	日笠	
第１３回	日本の歴史	日笠	
第１４回	岡山の祭り	日笠	
第１５回	異文化理解	日笠	
第１６回	単位認定試験	日笠	
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履3・4クラス）	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光惠
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠

第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１４回	１４．振り返り	井上光惠
第１５回	１５．総括	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履１・2クラス)	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠

第８回	余暇と娯楽	日笠	
第９回	現代の社会	日笠	
第１０回	報道とマスコミ	日笠	
第１１回	ITと情報社会	日笠	
第１２回	科学と技術	日笠	
第１３回	日本の歴史	日笠	
第１４回	岡山の祭り	日笠	
第１５回	異文化理解	日笠	
第１６回	単位認定試験	日笠	
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）（再履３・４クラス）	担当者	井上　光恵
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-KE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵

第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光惠
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光惠
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光惠
第１４回	１４．振り返り	井上光惠
第１５回	１５．総括	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域学概論 心理				担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。
授業概要	順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。
履修条件・注意事項	地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。
オフィスアワー	月曜日4限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 地域創成と何かー吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) 各学科担当教員

第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園 専務理事 各学科担当教員
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	外部講師 各学科担当教員
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	外部講師 各学科担当教員
第５回	「未来につなぐ図書館」としての活動	外部講師 各学科担当教員
第６回	宇治地域住民総働のまちづくり	外部講師 各学科担当教員
第７回	日本遺産「備中吹屋」	外部講師 各学科担当教員
第８回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	各学科担当教員
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	毎回授業用資料をユニパで配信する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	留岡幸助と備中高梁	参・出版社名2	吉備人出版
参・著者名2	倉田 和四生	参・ＩＳＢＮ2	9784860690991

授業科目名	地域貢献ボランティア 心理	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-KE-2-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】 「多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する」ことをテーマとする。 【到達目標】 ①現代社会が抱える多様な課題を心理学の観点から分析出来るようになる。 ②課題解決に必要な手法を習得する。 ③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。 ④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。 ⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力を身につける
授業概要	既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。 具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。 以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題に対する取り組み（40%）とプレゼンテーション（60%）で評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表にはそれぞれフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	留学生（N2合格者以外）については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。
実務経験のある教員	該当する　内容　福祉・教育分野における勤務、実務経験を有する教員が担当をおこなう。
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。
オフィスアワー	木曜日3限（10207研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	村上
第２回	心理学で用いられる研究方法	村上
第３回	文献の検索方法	村上
第４回	グループでのアイスブレイク、テーマ決め	村上
第５回	文献を用いた課題解決①：文献収集	村上
第６回	文献を用いた課題解決②：文献まとめ	村上

第７回	文献を用いた課題解決③：発表材料作成	村上
第８回	文献を用いた課題解決④：成果発表	村上
第９回	調査を用いた課題解決①：テーマ決め	村上
第１０回	調査を用いた課題解決②：質問紙作成	村上
第１１回	調査を用いた課題解決③：データ収集	村上
第１２回	調査を用いた課題解決④：データ処理	村上
第１３回	調査を用いた課題解決⑤：成果まとめ	村上
第１４回	調査を用いた課題解決⑥：発表材料作成	村上
第１５回	調査を用いた課題解決⑦：成果発表	村上
第１６回	まとめ	村上

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	検討中	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 心理			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。
実務経験のある教員	該当する　　内容　第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリ

			アデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各２時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	（藤原）10号館2階の個人研究室にて、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。 また、月曜日2限目は、キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	藤原・若森
第２回	自分を知る・社会を知る：適正検査	外部講師（マイナビ）・藤原・若森
第３回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信・藤原・若森
第４回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原・若森
第５回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部（ラインズ・マイナビ）・藤原・若森
第６回	社会とつながる：対人コミュニケーション	藤原・若森
第７回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原・外部（ボランティアセンター）・若森
第８回	自分を知る・社会を知る：社会人基礎力	若森・藤原
第９回	自分を知る：自分の強みと弱み	若森
第１０回	社会とつながる：対人関係力	若森
第１１回	生き方を考える：これまでの振り返りとライフプラン	若森
第１２回	社会を知る・働き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	若森、外部講師（卒業生）
第１３回	社会を知る・働き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	若森、外部講師（卒業生）
第１４回	自分を知る：基礎学力（２回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	若森
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	若森、藤原

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 留学生（心理）	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CG-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】社会的自立と職業的自立にむけて、自らの生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し実行できるようになるため、日本での生活や大学生活に必要な知識やスキルを身につける。 【到達目標】キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。留学生が大学生活を充実させ、日本の社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）を学びながら、自分自身を知り具体的な目標をもって実行していくことが必要である。 　到達目標として、以下の3点を設定する。 ①日本の社会や地域で生活するために必要な知識やマナーを身につけるとともに、日本の法制度等を理解できる ②自分自身を知り、社会を知ることで自らの将来をイメージし、自身のキャリアをデザインして、大学生活をどのように過ごすか考え実践できる ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、文章理解力を向上させる
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、日本の法律や生活習慣、地域で円滑に生活するために必要な基礎知識について講義を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 　授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートや課題プリントへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行ってコミュニケーション能力や社会人基礎力を高めることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業時間内の活動（40%）、課題プリントや小テスト、キャリアデザインノート等の提出（40%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容、課題プリントや小テストについては、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	「心理学科授業」や「留学生用合同授業」，「他学科合同授業」が実施される教室は、それぞれ異なる。使用する教室は授業の中で説明するので，休まないように。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	配られたプリントの当該箇所を予習しておくこと。講義後には、復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に、予習2時間、復習2時間行うこと。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	ビザビ・ワサビ
第２回	社会を知る：日本の法律、社会におけるルールとマナー	岡崎行政書士
第３回	社会を知る：地域での生活、日常生活の基礎知識	岡崎行政書士

第４回	社会を知る・生き方を考える：大学生活の基礎・大学での学び方	ディスコ
第５回	社会を知る・社会とつながる：日本語を使う・遊ぶ	土居
第６回	自分を知る・社会とつながる：日本語能力・コミュニケーション	土居
第７回	自分を知る・社会とつながる：自己紹介・短文作り	土居
第８回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	ボランティアセンター
第９回	社会とつながる：会話（聞く、話す）	土居
第１０回	社会とつながる：文章理解・問題読解	土居
第１１回	社会とつながる：対人関係・会話力	土居
第１２回	自分を知る：自分の強みと弱み	土居
第１３回	自分を知る・生き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	土居
第１４回	社会を知る・生き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	土居
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	土居
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布，板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ 心理	担当者	橋本　翠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	GE-CG-3-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	自己適性発見力・目標設定力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択し、就活のため、具体的能力を発揮できるようにする。また、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。
授業概要	それぞれに適した進路選択を具体的に行い、就活力を身につけるため、合同授業と、各学科単位での授業の２形態とする。合同授業は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。各学科の学科単位の授業は、それぞれの進路に対しての具体的指導等である。また、キャリアポートフォリオを就活に活かせるように仕上げる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学科・合同授業中ごとに求める課題（80%）と単位認定レポート試験（20%）にて評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは，課題にコメントを入れて対応します。
履修条件・注意事項	毎回、授業内容の復習をし、職業選択と就活の実践および自立に向けて深く考えること。予習・復習の課題がある。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、事前学習を行い授業に参加すること。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(まとめ)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。学習時間は、1日2時間程度とする。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	就職活動準備情報収集　登録	情報サイト
第２回	インターンシップの必要性・申し込み方	シーズ
第３回	自分の傾向を学ぶ	リクナビ
第４回	自己分析・自己PR	ビザビ
第５回	エントリーとは・エントリーシート攻略	マイナビ・ベネッセ
第６回	乗り遅れるなWEB就活	シーズ
第７回	業界・職種を理解する	ディスコ
第８回	業界研究・職業教育	中小企業同友会

第９回	SPI(筆記試験)対策	リクナビ
第１０回	労働関係法規	岡山労働局
第１１回	社会人に必要なマナー	リクナビ
第１２回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	ベネッセ
第１３回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	学情
第１４回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	ビザビ
第１５回	まとめ　内定お礼・内定辞退　お詫び	マイナビ
第１６回	試験	学科

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。適宜，必要に応じて指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ｉ スポ社	担当者	天岡　寛、羽野　真哉
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-IT-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	天岡・羽野
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	天岡・羽野

第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	天岡・羽野
第４回	OSとアプリケーション	天岡・羽野
第５回	ファイルシステム操作	天岡・羽野
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	天岡・羽野
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	天岡・羽野
第８回	表計算ソフト操作	天岡・羽野
第９回	表計算ソフト課題	天岡・羽野
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	天岡・羽野
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	天岡・羽野
第１２回	ネットワークとインターネット	天岡・羽野
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	天岡・羽野
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	天岡・羽野
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	天岡・羽野
第１６回	単位認定試験	天岡・羽野

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ｉ 心理	担当者	村上　勝典、若森　孝彰
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-IT-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	若森：月曜日4時限　　村上：木曜日3時限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	若森・村上
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	若森・村上

第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	若森・村上
第４回	OSとアプリケーション	若森・村上
第５回	ファイルシステム操作	若森・村上
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	若森・村上
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	若森・村上
第８回	表計算ソフト操作	若森・村上
第９回	表計算ソフト課題	若森・村上
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	若森・村上
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	若森・村上
第１２回	ネットワークとインターネット	若森・村上
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	若森・村上
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	若森・村上
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	若森・村上
第１６回	単位認定試験	若森・村上

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11／Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅱ			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50％、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20％として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅱ			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 ２．万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 ３．情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。
授業概要	現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Ⅰの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室）

	秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理・法・慣習	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（１）基本的な用語と枠組み	大谷
第５回	コンピューティングの歴史　コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第６回	コンピューティングの歴史　インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第７回	身近な情報セキュリティ	大谷
第８回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第９回	著作権の基礎	大谷
第１０回	レポート作成の倫理問題	大谷
第１１回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第１２回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第１３回	ポイントカードと個人情報	大谷
第１４回	情報時代のプライバシー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅱ				担当者	今村　俊介		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。
ルーブリック評価	

課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅰ 心理	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LE-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使うことができるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１５分前後でよいので毎日自分で声に出して一週あたり９０分程度になるよう英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Ｆの研究室です。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	平見勇雄
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	平見勇雄
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	平見勇雄
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	平見勇雄
第６回	Japan Quiz　　日本クイズに挑戦　WH疑問文	平見勇雄
第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	平見勇雄
第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	平見勇雄
第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了	平見勇雄

第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形		平見勇雄
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現		平見勇雄
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY		平見勇雄
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問		平見勇雄
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞		平見勇雄
第１５回	春学期の試験		平見勇雄
第１６回	春学期の総復習、フィードバック		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅱ 心理	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LE-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でもよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０～１５分でよいので毎日自分で声に出して次の週までに９０分程度、英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Ｆです。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	平見勇雄
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	平見勇雄
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	平見勇雄
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	平見勇雄
第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	平見勇雄
第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	平見勇雄
第８回	Business この大企業の創始者は？　　基本的な前置詞 at on in	平見勇雄
第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if	平見勇雄

第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　　不定詞と動名詞		平見勇雄
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where		平見勇雄
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　　仮定法		平見勇雄
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞		平見勇雄
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法		平見勇雄
第１５回	秋学期の試験		平見勇雄
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅲ	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LE-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 　時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１６回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら２時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも２時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。
オフィスアワー	水曜日の３限　研究室にて（２号館６F）

	授業計画	担当者
第１回	リバプール	平見勇雄
第２回	メンバーの生い立ち　ジョンレノン	平見勇雄
第３回	ポールマッカートニーの生い立ち	平見勇雄
第４回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入	平見勇雄

第５回	メンバー交代　リンゴスター		平見勇雄
第６回	1960年デッカオーディション		平見勇雄
第７回	1962年ビートルズデビュー		平見勇雄
第８回	1964年ビートルマニア		平見勇雄
第９回	エドサリバンショー　アメリカ進出		平見勇雄
第１０回	オーストラリアや各国の状況		平見勇雄
第１１回	映画ア・ハード・ディズ・ナイト		平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　ヘルプ		平見勇雄
第１３回	世界制覇		平見勇雄
第１４回	アルバム　ラバーソール		平見勇雄
第１５回	アルバム　リボルバー　日本公演		平見勇雄
第１６回	筆記試験		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布いたします。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅳ	担当者	平見　勇雄
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LE-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な要点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は１６回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回２～３ページ進む予定ですから訳を書いてくることが最低限の予習です（２時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日１０～２０分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして２時間程度）
オフィスアワー	水曜日の３限、２号館６Ｆの研究室

授業計画		担当者
第１回	春学期の復習	平見勇雄
第２回	日本公演続き	平見勇雄
第３回	レコーディング革命	平見勇雄
第４回	アルバム　サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド	平見勇雄

第５回	世界同時衛星放送　「All you need is love」		平見勇雄
第６回	マネージャー　ブライアンエプスタインの死		平見勇雄
第７回	マジカルミステリーツアー		平見勇雄
第８回	インドでの生活　修行		平見勇雄
第９回	初の２枚組アルバム　通称ホワイトアルバム		平見勇雄
第１０回	ゲットバックプロジェクト		平見勇雄
第１１回	最後のレコーディング　アビーロード		平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　レットイットビー		平見勇雄
第１３回	解散後の４人　ジョンレノン		平見勇雄
第１４回	解散後の４人　ポールマッカートニー		平見勇雄
第１５回	解散後の４人　ジョージハリソンとリンゴスター		平見勇雄
第１６回	筆記試験		平見勇雄
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅰ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LF-1-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次
第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次
第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次

第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LF-1-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次
第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次
第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次

第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅲ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LF-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	あいさつ	加藤健次
第２回	発音	加藤健次
第３回	性と数	加藤健次
第４回	前置詞	加藤健次
第５回	規則動詞	加藤健次
第６回	形容詞	加藤健次
第７回	否定形	加藤健次
第８回	命令形	加藤健次
第９回	疑問形	加藤健次
第１０回	副詞	加藤健次

第１１回	疑問副詞		加藤健次
第１２回	疑問代名詞		加藤健次
第１３回	不規則動詞		加藤健次
第１４回	所有形容詞		加藤健次
第１５回	疑問形容詞		加藤健次
第１６回	筆記試験		加藤健次
教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅳ	担当者	加藤　健次
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LF-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてくることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

	授業計画	担当者
第１回	動詞allerとvenirの活用	加藤健次
第２回	近接未来と近接過去	加藤健次
第３回	命令形、否定表現	加藤健次
第４回	疑問代名詞	加藤健次
第５回	疑問副詞	加藤健次
第６回	指示代名詞	加藤健次
第７回	関係代名詞	加藤健次
第８回	過去分詞	加藤健次
第９回	直説法複合過去	加藤健次
第１０回	補語人称代名詞の語順	加藤健次

第１１回	比較級と最上級		加藤健次
第１２回	非人称構文		加藤健次
第１３回	直説法半過去		加藤健次
第１４回	条件法現在		加藤健次
第１５回	関係副詞と文の構造		加藤健次
第１６回	筆記試験		加藤健次
教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ｉ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LG-1-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ｉ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二
第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二

第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LG-1-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二
第５回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二
第７回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞	清水光二
第８回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形	清水光二

第９回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　過去形		清水光二
第１０回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　現在完了形		清水光二
第１１回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　非人称表現		清水光二
第１２回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　受動態		清水光二
第１３回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　比較表現		清水光二
第１４回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞		清水光二
第１５回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅲ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LG-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	Lektion 0 自己紹介	清水光二
第２回	Lektion 0 挨拶　動詞の現在人称変化	清水光二
第３回	Lektion 1 地理と天候	清水光二
第４回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化	清水光二
第５回	Lektion 2　食生活	清水光二
第６回	Lektion 2　前置詞の格変化	清水光二

第７回	Lektion 3 ドイツ語という言語		清水光二
第８回	Lektion 3 名詞の複数形		清水光二
第９回	Lektion 4　ドイツの大学		清水光二
第１０回	Lektion 4　話法の助動詞		清水光二
第１１回	Lektion 5　祝日と休暇		清水光二
第１２回	Lektion 5　形容詞の格変化		清水光二
第１３回	Lektion 6　ドイツの治安事情		清水光二
第１４回	Lektion 6　比較表現		清水光二
第１５回	Lektion 0 ～ Lektion 6 までの復習		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅳ	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LG-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

	授業計画	担当者
第１回	Lektion 7　教育制度	清水光二
第２回	Lektion 7　分離動詞と非分離動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　政治制度	清水光二
第４回	Lektion 8　受動態	清水光二
第５回	Lektion 9　ドイツの歴史概観	清水光二
第６回	Lektion 9　過去の表現	清水光二

第７回	Lektion 10　音楽の国ドイツ		清水光二
第８回	Lektion 10　副文の語順		清水光二
第９回	Lektion 11　ドイツの宗教事情		清水光二
第１０回	Lektion 11　関係代名詞		清水光二
第１１回	Lektion 12　二つのドイツ		清水光二
第１２回	Lektion 12　分詞の用法		清水光二
第１３回	Lektion 13　EUとドイツ		清水光二
第１４回	Lektion 13　接続法第2式		清水光二
第１５回	Lektion 14　EUとドイツ		清水光二
第１６回	筆記試験		清水光二
教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-560-06420-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅰ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LC-1-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	１、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 ２、単母音の発声練習	孫基然
第２回	１、声調発声リズムの復習 ２、単母音の発声復習 ３、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	１、声調発声リズムの復習 ２、単母音の発声復習 ３、複合母音の発声復習 ４、鼻音の発声練習	孫基然
第４回	１、発音の復習 ２、そり舌音の発声練習	孫基然

第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅱ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LC-1-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現 2、連動文	孫基然
第４回	1、時量補語 2、存在表現	孫基然
	1、助動詞「会」と「能」	孫基然

第５回	2、選択疑問文 3、比較表現	
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅲ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LC-2-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	１、前置詞「对」 ２、名詞前の「的」	孫基然
第２回	１、「有的……有的」の文型 ２、「既……又」の文型	孫基然
第３回	１、「每……都」の文型 ２、動詞、形容詞の前の「地」	孫基然
第４回	「除了……」の文型	孫基然
第５回	「即使……也」の文型	孫基然

第６回	持続を表す「着」	孫基然
第７回	結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第１０回	１、「因為……所以」の文型 ２、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第１１回	「是……的」の文型	孫基然
第１２回	現存文	孫基然
第１３回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第１４回	「一点也不」の文型	孫基然
第１５回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅳ	担当者	孫　基然
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LC-2-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	１、「是……的」の文型 ２、様態補語	孫基然
第２回	１、「不知道……才好」の文型 ２、「好像……一様」の文型	孫基然
第３回	疑問詞の不定用法	孫基然
第４回	可能補語「動詞+得了」	孫基然
第５回	１、「無論……都」の文型 ２、「要是……就」の文型	孫基然

第６回	１、動詞後の「給」 ２、受身表現	孫基然
第７回	中間テスト	孫基然
第８回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第９回	１、「不是……就是」の文型 ２、「再也没……過」の文型	孫基然
第１０回	１、「雖然……但是」の文型 ２、「不但……而且」の文型	孫基然
第１１回	１、動量補語 ２、離合詞	孫基然
第１２回	１、「有」の謙語文 ２、使役表現	孫基然
第１３回	１、副詞「就」 ２、副詞「都」	孫基然
第１４回	１、「有」の連動文 ２、「把」の文	孫基然
第１５回	１、「対……来説」の文献 ２、「只有……才」の文型	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履１クラス			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
授業計画			担当者
第１回	オリエンテーション		日笠
第２回	ユニット１		日笠
第３回	ユニット１		日笠
第４回	ユニット２		日笠
第５回	ユニット２		日笠
第６回	ユニット３		日笠
第７回	ユニット３		日笠
第８回	中間テスト		日笠
第９回	ユニット４		日笠
第１０回	ユニット４		日笠
第１１回	ユニット５		日笠
第１２回	ユニット５		日笠
第１３回	ユニット６		日笠
第１４回	ユニット６		日笠
第１５回	総復習		日笠
第１６回	単位認定試験		日笠
教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ １クラス	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ２クラス	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第３回	３．第25課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第５回	５．第28課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第７回	７．第31課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第９回	９．第34課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第１１回	１１．第37課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光惠
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光惠
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光惠
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履２クラス	担当者	福本　苗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現	福本苗

第４回	助詞の働きをする言葉① （場面・時点・手段・原因を示す表現）	福本苗
第５回	助詞の働きをする言葉② （添加・判断・評価を示す表現）	福本苗
第６回	主に文末に使われる言葉	福本苗
第７回	文章の文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	基本文法の復習	福本苗
第１３回	接続の言葉	福本苗
第１４回	敬語・丁寧な言い方	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履３クラス			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	文末に使われる表現	福本苗

第３回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第４回	例を挙げて示す表現	福本苗
第５回	原因・理由を表す表現	福本苗
第６回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第７回	「もの」を使った表現	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第１３回	付加を表す表現	福本苗
第１４回	基本文法の復習	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履クラス4	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)	
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)	
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)	
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)	
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)	
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)	
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)	
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)	
第１３回	動詞①	大下(朋)	
第１４回	動詞②	大下(朋)	
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)	
教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ＩＢ（1クラス）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（２クラス）			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習	

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第３回	３．第25課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第５回	５．第28課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第７回	７．第31課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第９回	９．第34課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１一導入・練習	井上光惠
第１１回	１１．第37課-２ 文型２一導入・練習　　会話	井上光惠
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光惠
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光惠
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光惠
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光惠
第１６回	単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス１	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠

第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス２	担当者	福本　苗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	いろいろな働きをする助詞	福本苗
第３回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉	福本苗
第４回	複合語として使われる言葉	福本苗

第５回	文章の文法	福本苗
第６回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　Ｎ2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	基本文法の復習	福本苗
第１１回	決まった使い方の副詞	福本苗
第１２回	仮定・逆説の表現	福本苗
第１３回	原因・理由を表す表現	福本苗
第１４回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策Ｎ2文法総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス３	担当者	福本　苗
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	くり返しを表す表現	福本苗
第４回	進行状態を示す表現	福本苗

第５回	相関関係を示す表現	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	比較を表す表現	福本苗
第１１回	対象を表す表現	福本苗
第１２回	仮定を表す表現	福本苗
第１３回	「から」が付く表現	福本苗
第１４回	評価・判断を示す表現	福本苗
第１５回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス４	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-002

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)	
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)	
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)	
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)	
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)	
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)	
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)	
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)	
第１３回	動詞①	大下(朋)	
第１４回	動詞②	大下(朋)	
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)	
教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ⅡＡ １・２クラス	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-003

必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	１課 時間関係	大下 朋子
第３回	２課 範囲の始まり・限度	大下 朋子
第４回	３課 限定・非限定・付加	大下 朋子
第５回	４課 例示	大下 朋子
第６回	５課 関連・無関係	大下 朋子
第７回	６課 様子	大下 朋子
第８回	【中間テスト】１～６課／中間テストの解説	大下 朋子
第９回	７課 付随行動	大下 朋子
第１０回	８課 逆接	大下 朋子
第１１回	９課 条件	大下 朋子
第１２回	10課 逆接条件	大下 朋子
第１３回	11課 目的・手段	大下 朋子
第１４回	12課 原因・理由	大下 朋子

第１５回	13課　可能・不可能・禁止		大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		大下 朋子
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡB	担当者	大下　朋子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-004

必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	14課　話題・評価の基準	大下 朋子
第３回	15課　比較対照	大下 朋子
第４回	16課　結末・最終の状態	大下 朋子
第５回	17課　強調	大下 朋子
第６回	18課　主張・断定	大下 朋子
第７回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説	大下 朋子
第８回	19課　評価・感想	大下 朋子
第９回	20課　心情・強制的思い	大下 朋子
第１０回	A　動詞の意味に着目-1	大下 朋子
第１１回	B　動詞の意味に着目-2	大下 朋子
第１２回	C　古い言葉を使った言い方	大下 朋子
第１３回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方	大下 朋子
第１４回	E　二つの言葉を組にする言い方	大下 朋子

第１５回	F　助詞・複合助詞		大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		大下 朋子
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履１クラス	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ １クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験N２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、

の時間	授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4

参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＡ２クラス	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＡ、応用日本語ＩＡ、日本語研究ＩＡ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1.２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履２クラス	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～3ラスに編成される。履修登録は教務課で一括で登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問	小西真弓

	文字・語彙：漢字読み、表記	
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス３	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-005

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第２課　語彙・本文１、プリント	久保田
第３回	第２課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第４課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第４課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第６課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第６課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第８課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第８課　本文2・文法	久保田
第１３回	第１０課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第１０課　本文2・文法	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス４			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ（1クラス）	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験N２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、N２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて	
	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版

参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＢ（２クラス）	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＡ、応用日本語ＩＡ、日本語研究ＩＡ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1.２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス１			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス２	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス3	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-006

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第1課　語彙・本文１-2、プリント	久保田
第３回	第3課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第3課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第5課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第5課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第7課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	第7課、Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第9課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第9課　本文2・文法	久保田
第１３回	第11課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第11課　本文2・文法	久保田
第１５回	第13課、総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス４			担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ2に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ｉ秋A・日本語研究Ｉ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光惠
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光惠
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光惠
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光惠
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光惠
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光惠
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ⅡA	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-007

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
	統合理解問題	

第６回	情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	応用日本語ⅡB	担当者	小西　真弓
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-008

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする.。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
	日本語能力試験対策	

第６回	模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ＩＡ再履クラス１	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必

	要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第１４回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習⑥	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第１回、第２回模擬試験問題	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ２聴解　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-057-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ２クラス	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ 、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ １クラス				担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	2．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	3．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	4．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	5．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	6．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	7．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	8．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	9．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス２	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50％)、小テスト(30％)、学習意欲・態度(20％)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	2．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	3．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	4．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	5．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	6．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	7．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	8．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	9．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ再履クラス３	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-009

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）		雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説		雲津 英子
第７回	課題理解５～９		雲津 英子
第８回	課題理解10～13		雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16		雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20		雲津 英子
第１１回	概要理解21～24		雲津 英子
第１２回	概要理解25～28		雲津 英子
第１３回	即時応答29～46		雲津 英子
第１４回	統合理解47～49		雲津 英子
第１５回	統合理解50～52		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ再履クラス４							担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年							ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限					
ディプロマポリシー対応項目											
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎				
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目					
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう										
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。										
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。										
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）										
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。										
ルーブリック評価											
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。										
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。										
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生への日本語教育								
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。										

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ＩＢ（1クラス）				担当者	井上　光惠		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

	授業計画	担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ（2クラス）	担当者	久保田　雅子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ 、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス１	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（文法）、応用日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（読解）、日本語研究ＩＢ/日本語ＩＢ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	文法確認演習、聴解テキスト学習　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習　第１章４，５	磯
第５回	聴解テキスト学習　第２章１，２	磯
第６回	聴解テキスト学習　第２章３，４	磯
第７回	聴解テキスト学習　第２章５，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　第３章１，２	磯
第１１回	聴解テキスト学習　第３章３，４	磯
第１２回	聴解テキスト学習　第３章５　第４章１	磯
第１３回	聴解テキスト学習　第４章２，３	磯
第１４回	聴解テキスト学習　第４章４，５	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第５章	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験　日本語総まとめＮ２　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス２	担当者	井上　光惠
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目IIを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目IIを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目IIの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光惠
第２回	2．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光惠
第３回	3．第１章（準備）-２　会話表現	井上光惠
第４回	4．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光惠
第５回	5．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光惠
第６回	6．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光惠
第７回	7．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光惠
第８回	8．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光惠
第９回	9．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光惠
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光惠
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光惠
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光惠
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光惠
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光惠
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光惠
第１６回	１６．単位認定試験	井上光惠

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス３	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-LJ-1-010

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）		雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説		雲津 英子
第７回	課題理解５～９		雲津 英子
第８回	課題理解10～13		雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16		雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20		雲津 英子
第１１回	概要理解21～24		雲津 英子
第１２回	概要理解25～28		雲津 英子
第１３回	即時応答29～46		雲津 英子
第１４回	統合理解47～49		雲津 英子
第１５回	統合理解50～52		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス４				担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　内容　留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅡＡ１・２クラス	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-011

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①　練習問題１～５	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　練習問題６～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①　練習問題１～６	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　練習問題７～14　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①　練習問題１～６	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　練習問題７～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯

第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習		磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　敬語表現、文末否定、慣用表現		磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②　練習問題１～８　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④		磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　練習問題９～20　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤		磯
第１３回	聴解テキスト学習　即時応答④　練習問題21～30　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑥		磯
第１４回	聴解テキスト学習　統合理解①　統合理解とは　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦		磯
第１５回	聴解テキスト学習　統合理解②　練習問題１～６		磯
第１６回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名１	絶対合格！日本語能力試験　徹底トレーニングＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	松岡龍美	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-776-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ⅡB	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	GE-LJ-2-012

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法確認演習	磯
第２回	Ｎ３、Ｎ２レベル文字・語彙確認演習　　聴解テキスト学習①　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習②　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習③　第１章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第５回	聴解テキスト学習④　第２章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習⑤　第２章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第７回	聴解テキスト学習⑥　第２章5，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯

第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習		磯
第１０回	聴解テキスト学習⑦　第３章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④		磯
第１１回	聴解テキスト学習⑧　第３章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤		磯
第１２回	聴解テキスト学習⑨　第３章５　第４章１　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤		磯
第１３回	聴解テキスト学習⑩　第４章２，３　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦		磯
第１４回	聴解テキスト学習⑪　第４章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑧		磯
第１５回	聴解テキスト学習⑫　第５章　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑨		磯
第１６回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験対策　日本語総まとめＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-791-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子

第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子	
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子	
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子	
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子	
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子	
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子	
第１３回	コロケーション	雲津 英子	
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子	
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子	
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子

第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子	
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子	
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子	
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子	
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子	
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子	
第１３回	コロケーション	雲津 英子	
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子	
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子	
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子	
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文学への招待	担当者	雲津　英子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしようとする態度を身につけることを到達目標とする。
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は，大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，図書館の利用方法など，学生の読書活動，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	文学とはなにか	雲津 英子
第２回	図書館活用方法の理解	雲津 英子
第３回	図書館活用の実践	雲津 英子
第４回	日本文学史（１）-上代文学	雲津 英子
第５回	日本文学史（２）-中古文学	雲津 英子
第６回	日本文学史（３）-中世文学	雲津 英子
第７回	日本文学史（４）-近世文学	雲津 英子

第８回	日本文学史（５）-近代文学		雲津 英子
第９回	日本文学史（６）-現代文学		雲津 英子
第１０回	夏目漱石・森鴎外・泉鏡花の作品（討論）		雲津 英子
第１１回	芥川龍之介の作品（討論）		雲津 英子
第１２回	宮沢賢治の作品（討論）		雲津 英子
第１３回	小林多喜二・太宰治の作品		雲津 英子
第１４回	詩・俳句・短歌（討論）		雲津 英子
第１５回	まとめ		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本文学概論	参・出版社名１	財団法人　放送大学教育振興会
参・著者名１	島内裕子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-595-31342-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	美術の見方	担当者	前嶋　英輝
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家
事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	２号館６階の前嶋研究室において、毎週月曜日５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝

第２回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第３回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第４回	古代オリエント	前嶋英輝
第５回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第６回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第７回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第８回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第９回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第１０回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第１１回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第１２回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第１３回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第１４回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第１５回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第１６回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名１	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名１	平凡社
参・著者名１	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ１	978-4582206371
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・子ども・アニメ	担当者	羽野　真哉
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容30％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返遷	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野
第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス	羽野
第５回	スポーツの技術	羽野
第６回	体力について	羽野
第７回	心とスポーツ	羽野

第８回	発育・発達とスポーツ	羽野	
第９回	現代社会とスポーツ	羽野	
第１０回	スポーツの上達法	羽野	
第１１回	健康のためのスポーツ	羽野	
第１２回	スポーツと教育	羽野	
第１３回	スポーツと経済	羽野	
第１４回	スポーツ動作の分析	羽野	
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ	羽野	
第１６回	試験	筆記試験	
教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ実習 （アニメ・心理・経社）	担当者	天岡　寛
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CH-0-006

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は実習通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわり、たくさんプレーすることによって高めることができる。 ☒
授業概要	球技（バスケットボール、フットサル、卓球、バトミントン）を通してルールを守り、仲間と助けあうことを体感する。 気軽にできる体幹トレーニングにより、基礎筋力、全身コーディネーションを高める。 ストレッチを学び、怪我予防を学ぶことができる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	受講態度（50%）及び理解度（50%） 全力で取り組み、技術習得に努めてたか。 仲間と協力して、目的にむかってプレーしているか。 授業のマナー・ルールを守っているか。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために競技のルール等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	体育館シューズを準備。 運動できる服装の準備（ジーンズ等は認めない） 水分（水、スポーツ飲料、お茶）の準備 競技に関する競技規則等について、復習及び指示された予習を行うこと.
実務経験のある教員	該当する　内容　健康運動指導士
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからスポーツや健康に興味関心を持つこと.
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	天岡
第２回	卓球	天岡
第３回	卓球	天岡
第４回	バスケットボール	天岡
第５回	バスケットボール	天岡

第６回	フットサル	天岡
第７回	フットサル	天岡
第８回	バトミントン	天岡
第９回	バトミントン	天岡
第１０回	器具を使用しての筋力トレーニング	天岡
第１１回	器具を使用しての筋力トレーニング　２	天岡
第１２回	自体重でできる筋力トレーニング	天岡
第１３回	自体重でできる筋力トレーニング　２	天岡
第１４回	フットサル　ゲーム１	天岡
第１５回	フットサル　ゲーム２	天岡
第１６回	単位認定試験	天岡

教科書			
教・書籍名１	実習科目につき教科書は使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する.	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本

第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本

第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	宗教学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

	授業計画	担当者
第１回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ	山本
第２回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教	山本
第３回	文明誕生：メソポタミア	山本
第４回	エジプト文明	山本
第５回	古代ギリシャ文明	山本
第６回	ユダヤ教の成立	山本
第７回	ヘレニズム期の宗教	山本
第８回	キリスト教の成立と展開	山本
第９回	ローマカトリック	山本
第１０回	初期のイスラーム	山本
第１１回	宗教改革とその後	山本
第１２回	日本宗教史：古代・中世・近世	山本
第１３回	現代日本の宗教事情	山本
第１４回	現代世界の宗教事情	山本

第１５回	総括	山本	
第１６回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	倫理学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持て余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』を一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホッブズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。　また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	「好きなこと」とは？	山本
第２回	パスカルとニーチェの退屈論	山本
第３回	暇と退屈の原理論	山本
第４回	定住革命について	山本
第５回	暇と退屈の系譜学	山本
第６回	暇と退屈の経済史	山本
第７回	ホッブズ、ルソー、マルクス	山本
第８回	暇と退屈の疎外論	山本
第９回	暇と退屈の哲学	山本
第１０回	環世界論	山本
第１１回	暇と退屈の人間学	山本
第１２回	ハイデッガー	山本
第１３回	暇と退屈の倫理学	山本
第１４回	スピノザ	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	暇と退屈の倫理学	教・出版社名１	太田出版
教・著者名１	國分功一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7783-1437-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学 （経営・スポ・心理）	担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居
第７回	(7) 心理検査について	土居
第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮

第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	多文化理解	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二

第１６回	単位認定試験		末吉秀二
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-GA-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二

第１６回	単位認定試験		末吉秀二
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法				担当者	入江　祥子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。
実務経験のある教員	該当する　　内容　司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる

	こと。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江　祥子		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。
実務経験のある教員	該当する　内容　司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる

	こと。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	民法	担当者	生駒　正文
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。 具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。
授業概要	我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。 本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	試験７０％　授業態度・意欲・小テスト３０％の評価
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと
実務経験のある教員	該当する　内容　大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（２０年）
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	１２：３０から１３：２０　１４号館６階（生駒研究室）

	授業計画	担当者
第１回	（１）民法学の基礎知識（総則）　①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力	生駒正文
第２回	（２）民法学の基礎知識（総則）②制限行為能力者制度	生駒正文
第３回	（３）民法学の基礎知識（総則）③法人とは、物とは	生駒正文
第４回	（４）民法学の基礎知識（総則）④意思表示	生駒正文
第５回	（５）民法学の基礎知識（総則）⑤代理、時効	生駒正文
第６回	（６）民法学の基礎知識（財産法）⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義	生駒正文
第７回	（７）民法学の基礎知識　⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）	生駒正文
第８回	（８）民法学の基礎知識（財産法）　⑧即時取得、担保とは何か	生駒正文
第９回	（９）民法学の基礎知識（財産法）⑨一般的な不法行為	生駒正文
第１０回	（１０）民法学の基礎知識（財産法）　⑩特殊的な不法行為　賃貸借	生駒正文
第１１回	（１１）（３）家族法の基礎知識　⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚	生駒正文
第１２回	（１２）家族法の基礎知識　⑫親子関係、親権、相続	生駒正文
第１３回	（１３）家族法の基礎知識　⑬遺言	生駒正文

第１４回	（１４）家族法の基礎知識　⑭遺留分		生駒正文
第１５回	（１５）その他　⑮割賦販売、訪問販売		生駒正文
第１６回	（１６）定期試験		生駒正文
教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８２３－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学	担当者	張　秉煥
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

	授業計画	担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書

教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学	担当者	張　秉煥
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書

教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学	担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

	授業計画	担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮
第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元

第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学	担当者	赤坂　真人
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SI-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂
第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂
第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。 3.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因	赤坂

第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わりと没落。	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

	授業計画	担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一
第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一

第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-001

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

	授業計画	担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一
第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一

第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	物理学	担当者	藤原　智子
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-002

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：物理学の１分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。 到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどういうことかを理解する。
授業概要	太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけではなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各１時間の学修が望ましい。
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。

	授業計画	担当者
第１回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー	藤原智子
第２回	宇宙観の変遷	藤原智子
第３回	星と文化①　星座と星物語	藤原智子
第４回	星と文化②　暦の成立	藤原智子
第５回	天体の記録と基礎データ①　天体の位置、明るさ、距離	藤原智子
第６回	天体の記録と基礎データ②　光のスペクトル	藤原智子
第７回	観測装置の発展①　光学・電波望遠鏡	藤原智子
第８回	観測装置の発展②　人工衛星・探査機	藤原智子
第９回	人工衛星・ロケットの仕組み	藤原智子
第１０回	宇宙の環境問題	藤原智子
第１１回	太陽系の素顔①　太陽系の天体	藤原智子
第１２回	太陽系の素顔②　太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星	藤原智子
第１３回	恒星の誕生と死	藤原智子

第１４回	私たちの起源と未来	藤原智子
第１５回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第１６回	レポート試験	藤原智子

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学	担当者	香田　康年
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ

	れてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 　授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 　復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 　過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学	担当者	香田　康年
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-003

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ

	れてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 　授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 　復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 　過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学				担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

	授業計画	担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一

第５回	化学反応、結合		秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）		秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）		秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）		秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）		秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類		秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類		秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類		秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）		秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）		秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学	担当者	秋山　純一
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画		担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一

第５回	化学反応、結合		秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）		秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）		秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）		秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）		秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類		秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類		秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類		秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）		秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）		秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人類生態学	担当者	末吉　秀二
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-005

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレークダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80%）、小テスト（10%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	生態系と人類の特性	末吉秀二
第３回	人類の起源と進化	末吉秀二
第４回	生存様式の変化と多様性	末吉秀二
第５回	生業と社会	末吉秀二
第６回	身体とその機能	末吉秀二
第７回	行動の生態学	末吉秀二
第８回	栄養と健康	末吉秀二
第９回	病気の生態学	末吉秀二
第１０回	長期的な人口変化	末吉秀二
第１１回	人口指標と集団の適応	末吉秀二
第１２回	現代の人口問題	末吉秀二
第１３回	エネルギーと資源	末吉秀二
第１４回	ライフスタイルと環境	末吉秀二
第１５回	地球環境問題と人類	末吉秀二
第１６回	試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１	人類生態学	教・出版社名１	東京大学出版会
教・著者名１	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか	教・ＩＳＢＮ１	4-13-052300-7
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-007

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

	授業計画	担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本

第１４回	判断推理：論証		山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面		山本
第１６回	単位認定試験		山本
教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学	担当者	山本　敦之
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-NM-0-007

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

	授業計画	担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本

第１４回	判断推理：論証		山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面		山本
第１６回	単位認定試験		山本
教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	韓国地域社会	担当者	李　分一
配当学科・研究科	2017～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	SS-BU-2-305

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（1）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （2）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（1）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （2）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	韓国という国	李　分一

第３回	韓国の歴史（民族と国家）	李　分一
第４回	韓国民主主義の位相と行方	李　分一
第５回	韓国民主主義の制約	李　分一
第６回	解放前の要因	李　分一
第７回	解放後の要因	李　分一
第８回	韓国の権威主義体制	李　分一
第９回	民主化・人権擁護運動	李　分一
第１０回	1980年代の韓国	李　分一
第１１回	1980年代の政治体制	李　分一
第１２回	190年代の民主化運動	李　分一
第１３回	1990年代の民主化運動	李　分一
第１４回	韓国政治社会の新潮流	李　分一
第１５回	韓国の民主主義と市民社会	李　分一
第１６回	単位認定試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	PS-CE-2-213

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井

第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井
第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉	森井
第１１回	言語を使った世界の広がり	森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回	定期試験	森井

教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	対人関係論	担当者	栗田　喜勝
配当学科・研究科	2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	PS-CE-3-219

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０％）・期末試験（６０％）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより呈示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

	授業計画	担当者
第１回	心理学と社会心理学	栗田喜勝
第２回	社会心理学の対象と研究方法について	栗田喜勝
第３回	社会的認知について	栗田喜勝
第４回	社会的相互作用について	栗田喜勝

第５回	社会的欲求と適応行動について	栗田喜勝
第６回	人間関係とストレス	栗田喜勝
第７回	人間関係とフラストレーション	栗田喜勝
第８回	人間関係と認知	栗田喜勝
第９回	印象形成について	栗田喜勝
第１０回	人間関係と感情	栗田喜勝
第１１回	社会的態度と行動について	栗田喜勝
第１２回	社会的態度（１）ステレオタイプ	栗田喜勝
第１３回	社会的態度（２）偏見	栗田喜勝
第１４回	態度変容について	栗田喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田喜勝
第１６回	期末試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	藤本忠明他編著	参・ＩＳＢＮ１	4-88848-833-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	デジタルメディアと社会	担当者	大谷　卓史
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	AN-AN-1-108

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為･コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 ２．倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 ３．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。
授業概要	現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方と枠組みを活用する。 具体的実例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代的問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって

バック方法	（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。 予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。 復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（２）倫理学の基本的な立場	大谷
第５回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第６回	サーチエンジンの倫理	大谷
第７回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第８回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第９回	プライバシーの基礎	大谷
第１０回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第１１回	監視と見守り	大谷
第１２回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第１３回	AI・ロボットの倫理	大谷
第１４回	バーチャルリアリティー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ＩＳＢＮ2	978-4621305881

授業科目名	心理学概論Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	PS-PS-1-101		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】行動(心の働き)と環境との関わり，つまりヒトが環境に「適応する」とはどういうことなのか，について，感覚，知覚，記憶，学習の観点から理解する。 【到達目標】人間の行動(心の働き)には，環境が大きな影響を与える。そのため，学生は人間がどのように外界からの情報を取り入れ，適応行動を行っていくのかについての理解を深めることができる。
授業概要	本講では，人間が自分を取り巻く環境からさまざまな情報を取り入れ，蓄積し，また多くの経験を積みながら，置かれた環境に適応していく。我々は，錯覚などを含めて外界をどのように捉えるのか，また，その情報をどのように記憶したり，忘却したりするのか，さらにそれらをもとにどのように適応行動を行っていくのかについて講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) OR/心理学とは	橋本翠
第２回	(2) 心理学の課題と研究法	橋本翠
第３回	(3) 感覚と知覚(外界を捉える)	橋本翠
第４回	(4) 感覚と知覚(知覚と認知)	橋本翠
第５回	(5) さまざまな知覚(視覚の不思議)	橋本翠
第６回	(6) さまざまな知覚(感覚器官の性質)	橋本翠
第７回	(7) 記憶とは	橋本翠
第８回	(8) 記憶のしくみ(感覚記憶)	橋本翠

第９回	(9) 記憶のしくみ(短期記憶)	橋本翠
第１０回	(10) 記憶のしくみ(長期記憶)	橋本翠
第１１回	(11) 記憶術の原理	橋本翠
第１２回	(12) 学習の基本原理(古典的条件づけ)	橋本翠
第１３回	(13) 学習の基本原理(道具的条件づけ)	橋本翠
第１４回	(14) 認知学習	橋本翠
第１５回	(15) 学習原理の応用	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学の基礎　四訂版	参・出版社名１	培風館
参・著者名１	今田寛，宮田洋，賀集寛　共編	参・ＩＳＢＮ１	4-563-05670-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学概論Ⅱ			担当者	三宅　俊治		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	PS-PS-1-102		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	多様な心理学分野の中で、時間の経過にともなって発達・退行していく心理過程、また、心理社会的枠組みの拡がりともなって拡充・拡散していく心理構造を理解できるようになる。適応・偽擬適応・不適応の過程を個人差の観点から捉えるのがテーマである。発達、personality 構造、適応行動の阻止事態等についての授業内容の6割以上を理解することが到達目標である。
授業概要	心理学分野は多様である。そのうち、ヒトとして生まれて、一人の人間として心理的な発達を遂げる過程を理解する。そして、人間社会の中で社会的に成長していく際の他者や社会的枠組みについても理解を深める。このように、時間軸に沿って、また心理社会的枠組みの拡大に沿って、深化・拡大していく心理過程について理解を深めることによって、教職免許履修の基礎と心理学的基礎が確立できる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出後、次回の授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについては返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	遺伝と環境	三宅俊治
第３回	誕生から青年へ	三宅俊治
第４回	生涯発達	三宅俊治
第５回	パーソナリティ・性格・気質	三宅俊治
第６回	パーソナリティ理論	三宅俊治
第７回	モチベーション	三宅俊治
第８回	諸種の動機	三宅俊治
第９回	知能	三宅俊治
第１０回	心理学における検査	三宅俊治
第１１回	脳と心	三宅俊治
第１２回	心の不調	三宅俊治
第１３回	適応の機制	三宅俊治
第１４回	ストレスの心理	三宅俊治
第１５回	健康心理	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBH978-89514-507-7 C3011
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの心理発達	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-103

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	系統発生的な視点を取り入れながら、とくに子ども期に焦点を当てて、ヒト・人間の発達・発生をとらえることをテーマとし、動物としてのヒト発達の特殊性や共通性を知り、発達心理学の幅広い知識を習得するとともに、心理学的な考え方を理解することを到達目標とする。
授業概要	系統発生的な観点をふまえつつ、ヒトの特殊性を学ぶとともに、個体発生的な観点からは、胎児期から思春期に至る人間の行動や心的機能の発生、発達、成熟過程等の変化について学習する。また、人間のもつ諸機能の発達を相互関連的に理解し、それぞれの発達段階における発達の遅れやつまずきなどの問題についても学習する。 　生涯発達の心理学を念頭に置きつつも、ここでは子どもの時期に焦点を当て、個々の心的機能・問題について多面的に概説していく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	小テスト（30%）、定期試験（70%）の結果に受講態度を勘案し総合的に評価する。つまり，テストで満点であっても受講態度が悪いと，不可ということもある。小テストは採点後、フィードバックとして返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは採点後返却し、必要に応じて授業時間内に解説する。
履修条件・注意事項	人間の発達的な理解を深めるために真剣に学習に取り組むこと。 頻繁に、小テストを行うので、最低限，教科書の当該箇所は精読し，予習・復習を怠ることのないようつとめること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキストの該当箇所の精読。（2時間） 復習：テキストとともに、講義中に配付する資料と返却された小テスト結果を中心に復習すること。（2時間）
オフィスアワー	月曜４限　　教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達における生物学的基盤	森井
第３回	胎児にできること	森井
第４回	新生児の見る世界、聴く世界	森井
第５回	発達初期の不思議	森井
第６回	母子相互作用を促進する仕組み	森井
第７回	愛着形成と親子関係	森井
第８回	愛着関係に影響する要因	森井
第９回	愛着剥奪の事例	森井
第１０回	幼児期の認知発達	森井
第１１回	遊びと認知発達	森井
第１２回	遊びと仲間関係	森井
第１３回	ことばの前のことば	森井
第１４回	ことばの発達	森井
第１５回	まとめ	森井

第１６回	試験		森井
教科書			
教・書籍名１	乳幼児のこころ	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	遠藤・佐久間・徳田・野田	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12429-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	幼児心理学への招待　［改訂版］	参・出版社名１	サイエンス社
参・著者名１	内田伸子	参・ＩＳＢＮ１	978-4781911823
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学実験Ⅰ（オムニバス）	担当者	橋本　翠、村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-201

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得】 実験計画(変数の設定，条件操作の方法等)の立て方，および実験器具の操作法を修得する。 【到達目標：実験レポート作成方法の修得】 得られた量的，質的データを統計的に処理することができるようになるとともに，行った実験の目的，方法，結果，そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになる。
授業概要	ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために，基礎的な心理学実験を行う。 グループはランダムに選択される。基本的に，実験者と実験参加者の両方を経験する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験レポート(70%)，受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポートを全て提出しなければ（再提出を含む），その期の単位は認定不可とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し、フィードバックを行う。そして、再提出をすること。
履修条件・注意事項	実験実習はグループで行うため，欠席をすると同じグループの仲間に多大な迷惑をかけることになる。よって，原則として，遅刻・欠席は認めない。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は，必ず講義開始までに担当教員に連絡すること。 無断で欠席をした場合は，当該課題は不可となるので十分気を付けること。 学外試合・病気などで欠席をする際は，欠席願・診断書等を必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	提出された実験レポートはコメントをつけて返却するが、再提出を求めることもある。 各課題の内容をしっかり把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各実験の担当者の個人研究室にて実施。 森井：月曜日の３時間目、　　橋本：月曜日の5時間目　　、村上：木曜日の3時間目

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション，ミュラー・リヤー錯視：理論・実習	橋本・村上
第２回	ミュラー・リヤー錯視：解説	橋本・村上
第３回	ミュラー・リヤー錯視：ピアレヴュー	橋本・村上
第４回	ミュラー・リヤー錯視：解説・ピアレヴュー	橋本・村上
第５回	ミュラー・リヤー錯視：フィードバック	橋本・村上
第６回	触2点閾の測定：理論・実験	橋本・村上
第７回	触2点閾の測定：解説	橋本・村上
第８回	触2点閾の測定：ピアレヴュー	橋本・村上
第９回	触2点閾の測定：解説・ピアレヴュー	橋本・村上
第１０回	触2点閾の測定：フィードバック	橋本・村上
第１１回	重量弁別：理論・実験	橋本・村上
第１２回	重量弁別：実験	橋本・村上
第１３回	重量弁別：解説	橋本・村上

第１４回	重量弁別：ピアレヴュー		橋本・村上
第１５回	重量弁別：フィードバック		橋本・村上
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ-	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	利島保・生和秀敏	教・ＩＳＢＮ１	4-7628-0186-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学実験Ⅱ （オムニバス）	担当者	橋本　翠、村上　勝典、森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-202

必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ：心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得】 実験計画(変数の設定，条件操作の方法等)の立て方，および実験器具の操作法を修得する。 【到達目標：実験レポート作成方法の修得】 得られた量的，質的データを統計的に処理することができるようになるとともに，行った実験の目的，方法，結果，そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになる。
授業概要	ヒトの心理現象の科学的理解を目指す実験的手法を学ぶために，基礎的な心理学実験を行う。 基本的に，実験者と実験参加者の両方を経験する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験レポート(70%)，受講態度(30%)で評価する。各課題ごとに課されるレポートを全て提出しなければ（再提出を含む），その期の単位は認定不可とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートに不備がある場合は返却し、フィードバックを行う。そして、再提出をすること。
履修条件・注意事項	実験実習はグループで行うため，欠席をすると同じグループの仲間に多大な迷惑をかけることになる。よって，原則として，遅刻・欠席は認めない。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は，必ず講義開始までに担当教員に連絡すること。 無断で欠席をした場合は，当該課題は不可となるので十分気を付けること。 学外試合・病気などで欠席をする際は，欠席願・診断書等を必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	提出された実験レポートはコメントをつけて返却するが、再提出を求めることもある。 各課題の内容をしっかり把握する意味でも予習・復習・レポート作成（合計4時間以上）をしっかり行うこと。
オフィスアワー	各実験の担当者の個人研究室にて実施。 森井：月曜日の4時間目、　　橋本：月曜日の5時間目　　、村上：木曜日の3時間目

	授業計画	担当者
第１回	OR	橋本
第２回	鏡映描写：理論・実験	橋本
第３回	鏡映描写：解説	橋本
第４回	鏡映描写：ピアレヴュー	橋本
第５回	鏡映描写：解説・ピアレヴュー	橋本
第６回	鏡映描写：フィードバック	橋本
第７回	認知的葛藤：理論・実験	村上
第８回	認知的葛藤：解説	村上
第９回	認知的葛藤：ピアレヴュー	村上
第１０回	認知的葛藤：解説・ピアレヴュー	村上
第１１回	認知的葛藤：フィードバック	村上
第１２回	自由再生：理論	森井
第１３回	自由再生：理論・実験	森井

第１４回	自由再生：実験		森井
第１５回	自由再生：解説		森井
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ-	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	利島保・生和秀敏	教・ＩＳＢＮ１	4-7628-0186-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学研究法Ⅰ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-203

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学研究を行う際の理念及び操作がテーマである。参加学生は、先行研究の概観と問題点の発見・その問題に見合ったデータ収集・データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。心理学的な研究を進めるに際して、どのような操作をすべきかが理解できるようになる。そのことが、到達目標である。
授業概要	研究を進めていく際の、目的・方法・結果・考察などの一連の論理性や整合性、意識や行動を分析するためのデータの収集法、具体的には、実験、調査、観察、検査などについて、その特徴や問題点を客観的な視点から講義する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	科学としての心理学	三宅俊治
第３回	心理学研究法の分類	三宅俊治
第４回	観察法とは	三宅俊治
第５回	観察法の特徴とその進め方	三宅俊治
第６回	観察法を用いた研究例	三宅俊治
第７回	観察データの信頼性と妥当性	三宅俊治
第８回	調査法	三宅俊治
第９回	相関・共変・因果関係	三宅俊治
第１０回	質問紙法と心理尺度	三宅俊治
第１１回	調査法を用いた研究例	三宅俊治
第１２回	心理実験とは	三宅俊治
第１３回	無作為割り当て	三宅俊治
第１４回	条件統制	三宅俊治
第１５回	要因デザイン	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	Progress & Application 心理学研究法 第２飯	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	村井 潤一郎（編著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7819-1509-

			8 C-3311
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学研究法Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-204

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「心理学の研究法を学ぶ」をテーマとして、特に面接法に関する知識を身に付ける。 到達目標は、支援・介入的実践活動の理論的基盤である臨床心理学的研究の実際と手法を学び、卒論レベルの研究において適用可能な能力を身に付ける。また、心理学の研究についての基礎的な内容を学習し、心理学実験Ⅰ・Ⅱのレポート作成や卒業論文の作成に活かせる知識を身に付ける。
授業概要	心理学の研究法についての基礎的な内容を紹介する。具体的には、面接法について紹介し、体験を通した授業をおこなう。また、論文の書き方や分析方法についても扱う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	テーマ「こころと行動の仕組みや働きに関する実証的な研究法を理解する」の到達度について、知識をはかるために、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、教科書を読み、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	面接法とは	村上
第３回	調査的面接法の分類	村上
第４回	調査的面接法の留意点	村上
第５回	調査的面接法のプロセス	村上
第６回	量的データの分析	村上
第７回	質的データの分析	村上
第８回	KJ法（1）：概要	村上
第９回	KJ法（2）：実施	村上
第１０回	論文の構成	村上
第１１回	問題・目的の立て方	村上
第１２回	研究方法とデータの集計	村上
第１３回	統計（1）：変数間の比較	村上
第１４回	統計（2）：変数間の関連	村上
第１５回	統計（3）：多変量解析	村上
第１６回	期末試験	村上

教科書			
教・書籍名１	『心理学研究法』	教・出版社名１	サイエンス社

教・著者名１	村井潤一郎（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7819-1307-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学統計法Ｉ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-205

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。 【到達目標】心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できる。
授業概要	心理学(行動科学)における、測定値を適切に取り扱う知識が必要不可欠である。本講義では、まず測定値の取り扱いの基礎としての度数分布の考え方、代表値としての平均値等の概念を理解することから始め、相関に至る統計学の基礎を学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（90%）で評価する。講義中の小テストや課題の取り組み状況、積極的な態度により加点を行う（10%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の後半に復習小テストを行う。フィードバックは、小テストの解答を元に行う。
履修条件・注意事項	本講義は各回の知識の積み重ねになるので、絶対に欠席をしないこと。また、実際に計算等を行うので、簡単な電卓(加減乗除、ルート計算が出来るもの)を持参のこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の指定ページを学習してくること。講義後には、小テストの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 数学の基礎	土居
第３回	3. データとは	土居
第４回	4. ヒストグラム	土居
第５回	5. 平均値、中央値、最頻値	土居
第６回	6. 散布度	土居
第７回	7. 標準化	土居
第８回	8. 散布図	土居
第９回	9. 共分散について	土居
第１０回	10. 共分散の計算	土居
第１１回	11. 相関について	土居
第１２回	12. 相関係数の計算	土居
第１３回	13. クロス集計表と連関係数	土居
第１４回	14. 推測統計	土居
第１５回	15. 確率密度	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	よくわかる心理統計	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	山田剛史，村井潤一郎	教・ＩＳＢＮ１	4-623-03999-4
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学統計法Ⅱ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-206

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。 【到達目標】心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できる。
授業概要	心理統計Ｉで学んだ、記述統計でまとめたデータをもとに母集団の推定、統計的分析について学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（90%）で評価する。講義中の小テストや課題の取り組み状況、積極的な態度により加点を行う（10%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の後半に復習小テストを行う。フィードバックは、小テストの解答を元に行う。
履修条件・注意事項	本講義は各回の知識の積み重ねになるので、絶対に欠席をしないこと。また、実際に計算等を行うので、簡単な電卓(加減乗除、ルート計算が出来るもの)を持参のこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の指定ページを学習してくること。講義後には、小テストの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 統計的仮説検定と確率分布	土居
第２回	2. 正規分布とその性質	土居
第３回	3. 標準正規分布表について	土居
第４回	4. 統計的仮説検定の手順	土居
第５回	5. 両側片側検定と２種類の誤り	土居
第６回	6. 標準正規分布を用いた検定	土居
第７回	7. t分布を用いた検定	土居
第８回	8. 相関係数の検定	土居
第９回	9. カイ2乗検定：適合度の検定	土居
第１０回	10. カイ2乗検定：独立性の検定	土居
第１１回	11. 対応のないt検定	土居
第１２回	12. 対応のあるt検定	土居
第１３回	13. 分散分析	土居
第１４回	14. 多重比較	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	よくわかる心理統計	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	山田剛史，村井潤一郎	教・ＩＳＢＮ１	4-623-03999-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	医学概論Ｉ	担当者	服部　俊夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-207

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義とグループ発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	６．安全な水とトイレを世界中に／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	「医療」がどのように実践されているかを学ぶ。自分と家族と環境の健康管理を学ぶことを目標とする。
授業概要	医学を感染症、疫学、疾病予防、環境保健、地域保健、母子保健などを多面的に学ぶことにより、現在行われている医療の現状を知る。さらに飲酒、喫煙、性感染症、睡眠について講義する。また逐次、関連する疾患、自分・家族の健康管理法についても触れる。学生自身がSDGsのテーマに沿い環境問題を学び発表する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	SDGsの安全な水、気候変動、海、陸の保全について、その問題点を国際的な視野に立って、調査研究を行い、その現状を発表する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に対する貢献や、試験の結果をもとに、判定する。前者を４０％、後者を６０％とする。 発表内容については、発表時に学生・教官がコメントを加え改善に努める。
履修条件・注意事項	講義内容は医学的な内容を含むが、プリントとパワーポイントの両方で講義をする。二つの資料をTeamsで配布ｓるので、予習復習を行うこと。内容が後半になるので、可能な限り、医学概論Ｉ，ＩＩともに受講してほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　東北大学で医学教育を行い、さらにHuman security courseのdirectorを務めた。
事前学習・事後学習とその時間	指定した教科書に則り講義をするので、授業前に予習すること。またSDGsのテーマに沿い、グループで資料を収集し、発表する。
オフィスアワー	木曜日午前10時から１１時

授業計画		担当者
第１回	１．医学の歴史・概要　SDGsテーマの紹介	服部俊夫
第２回	健康を維持する様々な機構。　テーマに沿った学生のグループ分け	服部俊夫
第３回	疫学とその研究方法　グループによる役割分担	服部俊夫
第４回	疾病予防と健康管理　１　総論的事項　一般の感染症　グループ討議	服部俊夫
第５回	疾病予防と健康管理　２癌　生活習慣病　グループ討議	服部俊夫
第６回	疾患予防と健康管理　３．アレルギー疾患　グループ討議	服部俊夫
第７回	疾病予防と健康管理　４　自己の健康管理　グループ討議	服部俊夫
第８回	疾患予防と健康管理　５．喫煙　飲酒　グループ討議	服部俊夫
第９回	疾病予防と健康管理　６　感染症　グループ討議	服部俊夫
第１０回	世界の環境問題	JICA
第１１回	環境保健　１．環境と生態系　グループ討議	服部俊夫
第１２回	環境保健　２　地球的環境問題　グループ討議	服部俊夫
第１３回	地域保健と衛生行政　グループ討議	服部俊夫
第１４回	学生発表　（前半）	服部俊夫
第１５回	学生発表　（後半）	服部俊夫
第１６回	試験	服部俊夫

教科書			
教・書籍名１	服部俊夫	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	シンプル公衆衛生学　2022　鈴木庄亮　監修　辻一郎　小山洋　編集	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	医学概論Ⅱ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-208		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義とグループ発表
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「医療」がどのように実践されているかを学ぶ。自分と家族と環境の健康管理を学ぶことを目標とする。
授業概要	医学を感染症、疫学、疾病予防、環境保健、地域保健、母子保健などを多面的に学ぶことにより、現在行われている医療の現状を知る。さらに飲酒、喫煙、性感染症、睡眠について講義する。また逐次、関連する疾患、自分・家族の健康管理法についても触れる。学生自身がSDGsのテーマに沿い世界の感染症を学び発表する。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	SDGsの世界の感染症について、その問題点を国際的な視野に立って、調査研究を行い、その現状を発表する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に対する貢献や、試験の結果をもとに、判定する。前者を４０％、後者を６０％とする。 発表内容については、発表時に学生・教官がコメントを加え改善に努める。
履修条件・注意事項	講義内容は医学的な内容を含むが、プリントとパワーポイントの両方で講義をする。二つの資料をTeamsで配布 s るので、予習復習を行うこと。内容が後半になるので、可能な限り、医学概論Ｉ，ＩＩともに受講してほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　東北大学で医学教育を行い、さらにHuman security courseのdirectorを務めた。
事前学習・事後学習とその時間	指定した教科書に則り講義をするので、授業前に予習すること。またSDGsのテーマに沿い、グループで資料を収集し、発表する。
オフィスアワー	木曜日午前10時から１１時

	授業計画	担当者
第１回	１．災害医療　　SDGsテーマの紹介	服部俊夫
第２回	地域保健と行政　１－２　　テーマに沿った学生のグループ分け	服部俊夫
第３回	地域保健と行政　３－４　　グループによる役割分担	服部俊夫
第４回	母子保健　　グループ討議	服部俊夫
第５回	学校保健　　グループ討議	服部俊夫
第６回	産業保健　１－３　　グループ討議	服部俊夫
第７回	産業保健　４－６　グループ討議	服部俊夫
第８回	高齢者保健　グループ討議	服部俊夫
第９回	精神保健　　グループ討議	服部俊夫
第１０回	世界の健康問題	JICA
第１１回	国際保健　　グループ討議	服部俊夫
第１２回	世界の呼吸器感染症　コロナ・結核　グループ討議	服部俊夫
第１３回	エイズ　マラリアの現状　　グループ討議	服部俊夫
第１４回	学生発表　（前半）	服部俊夫
第１５回	学生発表　（後半）	服部俊夫
第１６回	試験	服部俊夫

教科書			
教・書籍名１	服部俊夫	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	シンプル公衆衛生学　2022　鈴木庄亮　監修　辻一郎　小山洋　編集	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人体の構造と機能及び疾病	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-209

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは人体の構造と機能及び疾病。到達目標は、公認心理師が各種医療職スタッフと連携を保ち、共同の作業を営むうえで必要な医学の基礎（人体の構造と機能、主な疾病の概要など）、国際生活機能分類や各種身体障害の概要ならびにリハビリテーションの概念などに関する必要最小限の知識を身につけること。
授業概要	人の成長、発達、老化にはじまり、正常の人体の構造と機能について学んだうえで、主要な疾病について概説する。その他、国際生活機能分類や健康の概念、人口動態、国民の健康づくり対策、産業保健などの概略にも触れる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度、定期試験の成績を併せて評価する。成績評価基準として知識習得状況を把握するための最終試験80%、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度20%の割合で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書に沿って、スライドを用いて講義する。教科書は必ず用意すること。スライド内容は紙媒体と電子媒体双方で配布する。 特段の事情のない睡眠や遅刻は厳禁。
実務経験のある教員	該当する　内容　整形外科を中心とした臨床経験を持つ医師である教員が、医療の現実に即した授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、教科書の次回の授業範囲を読んでおくこと。復習として、教科書やスライド内容を読み返すこと。予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画		担当者
第１回	小児の成長発達と疾患	森
第２回	加齢と疾患	森
第３回	内科疾患の理解①	森
第４回	内科疾患の理解②	森
第５回	整形外科疾患の理解①	森
第６回	整形外科疾患の理解②	森
第７回	整形外科疾患の理解③	森
第８回	在宅医療	森
第９回	神経疾患の理解	森
第１０回	難病の理解	森
第１１回	がんの理解	森
第１２回	周産期医療・婦人科疾患の理解	森
第１３回	感染症の理解と対策	森
第１４回	ICFの理解・健康と健康増進の理解	森
第１５回	形成外科	森
第１６回	期末試験	森

教科書			
教・書籍名１	人体の構造と機能及び疾病	教・出版社名１	医歯薬出版株式会社

教・著者名１	武田克彦　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26597-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理的アセスメント	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-210

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、クライエントの見立てや適切な援助方法の選択・援助過程の評価等に用いる「心理的アセスメント」の基礎知識と方法を学ぶことである。 アセスメントのための面接、行動観察、種々の心理検査について、知識だけでなく、実際の体験を通して理解することを到達目標とする。
授業概要	アセスメントとして用いる面接・心理検査について、それぞれの基盤となる理論や技法、その応用方法を学ぶ。 講義だけでなく、グループ演習や、実際の心理検査を自身が体験する演習も行いながら、各検査の概要や実施方法を理解していく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師として各種心理検査の実務経験（小中高等学校・心理相談室・公的機関での知能検査・心理検査・発達検査等の実務）がある教員が担当する。実際の心理臨床実践における心理アセスメント必要な知識や検査方法を、演習を通して教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、心理検査とは	藤原直子
第２回	臨床心理アセスメントの基本	藤原直子
第３回	アセスメントとしての心理面接	藤原直子
第４回	アセスメント面接の種類と方法	藤原直子
第５回	心理検査の歴史と概要	藤原直子
第６回	知能検査	藤原直子
第７回	乳幼児の発達に関する検査	藤原直子
第８回	高齢者の認知機能に関する検査	藤原直子
第９回	アセスメントとしての行動観察	藤原直子

第１０回	人格検査（質問紙法）		藤原直子
第１１回	症状や状態のアセスメント		藤原直子
第１２回	投影法とは、描画法		藤原直子
第１３回	代表的な投影法検査		藤原直子
第１４回	心理的アセスメントの実際		藤原直子
第１５回	事例から理解する心理検査		藤原直子
第１６回	試験		藤原直子
教科書			
教・書籍名１	臨床心理アセスメントの基礎[第2版]	教・出版社名１	ナカニシヤ出版
教・著者名１	沼　初枝	教・ＩＳＢＮ１	978-4779514920
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	精神疾患とその治療			担当者	森信　繁		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・グループワーク・発表
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：精神医学を理解する 到達目標： 公認心理師として必要な精神障害についての下記の知識を、学生が身につけられる。 １．精神医学の基礎的事項・総説的事項を理解できる。 ２．代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。 ３．精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学べる。 ４．精神医学の歴史的な背景を理解できる。 ５．精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。
授業概要	精神医療に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、精神療法や社会福祉的支援の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要です。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断・検査法や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにすると同時に、成績の評価にも反映します。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「精神医学を理解する」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、ケースカンファレンスの課題発表（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたグループ学習発表のレジメに、コメントや修正を記載して、学生に返却する。
履修条件・注意事項	毎回プリントを配布するので、ファイリングを工夫すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

	授業計画	担当者
第１回	精神医学総論：精神症状と検査	森信　繁
第２回	統合失調症及び関連障害	森信　繁
第３回	うつ病及び関連障害	森信　繁
第４回	双極性障害 自殺の実態とその予防	森信　繁
第５回	不安障害と強迫性障害	森信　繁
第６回	外傷後ストレス障害(PTSD)と関連障害	森信　繁
第７回	身体表現性障害と解離性転換性障害	森信　繁

第８回	パーソナリティ障害	森信　繁
第９回	摂食障害 精神分析学	森信　繁
第１０回	睡眠障害	森信　繁
第１１回	認知症	森信　繁
第１２回	てんかん 器質性精神障害 症状性精神障害	森信　繁
第１３回	物質関連障害	森信　繁
第１４回	自閉性スペクトラム障害 注意欠損多動性障害 チック症	森信　繁
第１５回	緩和ケア 精神保健福祉法	森信　繁
第１６回	試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	精神医学テキスト	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	上島　国利、立山　萬里、三村　将　　編	教・ＩＳＢＮ１	IBSN976-4-524-25942-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生理学			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】心の働き(行動)のもととなる感覚機能と神経系の機能について理解する。 【到達目標】神経系の機能を知るとともに，心理学を学ぶ上で重要である感覚機能の神経生理学的基礎についての理解を深める。
授業概要	本講では，人の心を理解する上で重要となる人体についての知識と理解を幅広く深められるよう講義する。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，定期試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックは，次回の講義及びユニパ上で行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。遅刻および欠席はしないでください。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる(2時間)こと。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) OR/人体の構造と機能を学ぶための基礎知識1(人体の構成)	橋本翠
第２回	(2) 人体の構造と機能を学ぶための基礎知識2(生命現象を支える物理現象と化学的知識)	橋本翠
第３回	(3) 消化と吸収	橋本翠
第４回	(4) 血液	橋本翠
第５回	(5) 呼吸	橋本翠
第６回	(6) 心臓と血液の循環1(解剖)	橋本翠
第７回	(7) 心臓と血液の循環2(心周期，血圧)	橋本翠
第８回	(8) 尿の生成と体液の調節	橋本翠
第９回	(9) 内臓機能の調節1(自立神経，内分泌，ホルモン)	橋本翠
第１０回	(10) 内臓機能の調節2(内分泌腺)	橋本翠

第１１回	(11) 骨格	橋本翠
第１２回	(12) 神経系1(感覚器官)	橋本翠
第１３回	(13) 神経系2(中枢神経系)	橋本翠
第１４回	(14) 生体の防御機構	橋本翠
第１５回	(15) まとめ	橋本翠
第１６回	(16)定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	イラストで学ぶ生理学	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	田中越郎	教・ＩＳＢＮ１	4-260-34087-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イラストで学ぶ解剖学	参・出版社名１	医学書院
参・著者名１	松村譲兇	参・ＩＳＢＮ１	4-260-330007-1
参・書籍名２	人体の構造と機能	参・出版社名2	放送大学教育振興会
参・著者名2	坂井建雄・岡田隆夫	参・ＩＳＢＮ2	978-4-595-31869-6

授業科目名	心理学史			担当者	三宅　俊治		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	19Ｃに哲学から独立した心理学の発展の経過をたどり、多様な心理学の根幹を理解するのがテーマである。 心理学の成立に貢献してきた人物、方法論、科学観などの知識を俯瞰的にとらえることができる。現代心理学に至る歴史的経過に関する授業内容の６割以上を理解することが、この科目の到達目標である。
授業概要	今日の心理学の基礎を築いてきた意識主義、行動主義、ゲシュタルト心理学、新行動主義、精神分析などを中心に、心理学史に残る著名な心理学者の心理学に対する取り組みやその理念の相互関係を、歴史的、時間的推移の中に位置づけていく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出時の次回授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	心理学が生まれる土壌	三宅俊治
第３回	ブント（Wundt,W.）の意識主義心理学	三宅俊治
第４回	19世紀のアメリカ心理学	三宅俊治
第５回	行動主義	三宅俊治
第６回	ゲシュタルト（Gestalt）心理学	三宅俊治
第７回	新行動主義心理学の台頭、ゲシュタルト心理学のアメリカ心理学への融合	三宅俊治
第８回	精神分析	三宅俊治
第９回	精神分析からネオフロイディアンへ	三宅俊治
第１０回	脳と心の連関	三宅俊治
第１１回	心理学の対象の拡大	三宅俊治
第１２回	個人差への注目、心理検査の開発	三宅俊治
第１３回	認知心理学の展開	三宅俊治
第１４回	ヒューマニスティック心理学	三宅俊治
第１５回	社会心理学の流れ	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	流れを読む心理学史 補訂版（有斐閣アルマ Basic）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	サトウタツヤ・高砂美樹（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-641-22182-6

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理尺度構成法Ⅰ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-214

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「尺度構成の手法について理解する」をテーマとして、態度等の主観的データを客観性、再現性のある手法で得るための測定法、得られた測定データに対する処理方法を体得する。 質問紙法の作成方法や統計的手法について説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	質問紙法および統計的手法についての基礎的な内容を紹介する。質問紙の作成や統計ソフトを用いた実習を取り入れながらおこなう。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	課題に対する取り組み、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、課題に対する取り組み（50%）、小テスト（20%）とレポート試験（30%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	質問紙法とは	村上
第３回	質問紙作成の留意点	村上
第４回	質問紙の構成	村上
第５回	質問項目の収集方法	村上
第６回	質問紙の作成	村上
第７回	調査の実施とデータ入力	村上
第８回	データの整理	村上
第９回	因子分析（1）：概要	村上
第１０回	因子分析（2）：分析の流れ	村上
第１１回	因子分析（3）：結果の見方	村上
第１２回	因子分析（4）：実施	村上
第１３回	結果のまとめ方（1）：説明	村上
第１４回	結果のまとめ方（2）：作成	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	レポート試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7795-0200-2
参・書籍名２	誰も教えてくれなかった因子分析―数式が絶対に出てこない因子分析入門―	参・出版社名2	北大路書房
参・著者名2	松尾太加志・中村知靖（著）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7628-2251-3

授業科目名	心理尺度構成法Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-215

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「尺度構成の原理と手続きについて理解する」をテーマとして、態度等の心理尺度の作成を通して、その原理と手続きを習得する。 尺度構成の手続きについて説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	尺度構成の手続きについて紹介する。尺度構成の一連の流れについてグループ活動を取り入れながらおこなう。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	課題に対する取り組み、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、課題に対する取り組み（50%）、小テスト（20%）とレポート試験（30%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	尺度構成の流れ	村上
第３回	信頼性と妥当性	村上
第４回	構成概念の検討	村上
第５回	先行研究の検索	村上
第６回	先行研究の検討	村上
第７回	質問項目の収集	村上
第８回	質問紙の作成	村上
第９回	質問紙の実施	村上
第１０回	データの処理	村上
第１１回	因子分析（1）：実施	村上
第１２回	因子分析（2）：結果の整理	村上
第１３回	信頼性の検討	村上
第１４回	妥当性の検討	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	レポート試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理尺度のつくり方	参・出版社名１	北大路書房
参・著者名１	村上宣寛（著）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-2523-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感情・人格心理学Ｉ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-301

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】日常的に使われている，「性格（人格）」という心理学概念の利点と欠点について理解すること。 【到達目標】性格（人格）の心理学的概念を理解し、自らの必要性に応じて知識を活用できる。
授業概要	「性格（人格）」という語は日常的に使われている。私たちはその根拠も考えず、経験や直観，時には思いつきで他者の性格を推測し、やみくもに落ち込んだり、他者について勝手にこうだと決めつけて不利な立場に追い込むことすらある。本講義では、教科書や性格（人格）検査の実施を通して、様々な観点（臨床心理学的側面、文化的側面，発達的側面など）から「性格（人格）」を捉え、現在どのようなことがわかっているのか、いないのかを解説していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	単位認定試験（50%）で評価する。講義中の課題の取り組み状況により加点を行う（50%）。各回において小レポートの課題を出す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	各授業において、レポート課題を出す。それに対してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業内において課題を出す予定である。全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 性格（人格）とは	土居
第３回	3. 類型論：クレッチマーの理論	土居
第４回	4. 類型論：ユングの理論	土居
第５回	5. 類型論：シェルドンの理論	土居
第６回	6. 類型論：シュプランガーの理論	土居
第７回	7. 特性論：オールポートの特性論	土居
第８回	.8 特性論：BigFive	土居
第９回	9. 性格の内的要因：遺伝要因	土居
第１０回	10. 性格の外的要因：環境要因	土居
第１１回	11. 自己愛性パーソナリティー障害	土居
第１２回	12. 解離性障害	土居
第１３回	13. 境界性パーソナリティー障害	土居
第１４回	14. 感情とは	土居
第１５回	15. 感情調節障害	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感情・人格心理学Ⅱ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-302

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「感情心理学の基礎を習得する」をテーマとし、感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動に及ぼす影響、発達や病理との関係性を学ぶ。 感情の生起、感情の機能、感情と健康との関係について説明できるようになることを到達目標とする。
授業概要	感情がどのように理解されてきたかについて、情動末梢起源説、二要因説などの古典的理論を解説し、現代の説についても紹介する。さらに感情が行動に及ぼす影響について感情と認知・行動選択の諸説を概観し、表情とコミュニケーションのしくみや、不安からの立ち直り等を解説し、心身の健康と感情のつながりについて示す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「感情心理学の基礎を習得する」の到達度について、知識をはかるために、小テストや課題、定期試験の結果を総合して評価する。具体的には、小テスト・レポート（40%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	感情の基礎・生物学的基盤	村上
第３回	感情の理論（1）古典的理論	村上
第４回	感情の理論（2）基本的感情説と次元説	村上
第５回	感情の機能	村上
第６回	感情と進化	村上
第７回	感情と認知	村上
第８回	感情と発達（1）表情および表情認知	村上
第９回	感情と発達（2）感情のコミュニケーション	村上
第１０回	感情と言語	村上
第１１回	感情と病理（1）感情病理に関する心理学的理論	村上
第１２回	感情と病理（2）感情の病態の治療	村上
第１３回	感情と健康（1）感情と健康のとらえ方	村上
第１４回	感情と健康（2）感情と健康状態との関係	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回	定期試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	感情心理学・入門	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	大平英樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12388-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経・生理心理学Ｉ	担当者	森信　繁
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-303

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・課題学習・実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：中枢・抹消神経の構造と機能を理解する。 到達目尿：この講義のテーマは心理学と関係の深い脳･脊髄･末梢神経系、神経系を保護する骨や神経系と関係が深い内分泌系の構造と機能である。このため学生は、特に脳神経系の構造及び機能や、記憶、感情の生理学的反応の機序、高次脳機能障害及び必要な支援について説明でき、公認心理師試験にも対応できるレベルの知識の獲得することができる。
授業概要	「心」が存在すると考えられている神経系、その入れ物である頭蓋と脊椎、神経系と密接な関係のある内分泌系について学習する。講義はスライド(パワーポイント)で行う。スライド内容は前もって資料・テキストとして配布する。解剖学用語は医学系の学問を学ぶことができ、また医療系の臨床業務に従事する者の共通言語となる。将来医学系と関連した職種を希望する学生には特に有用な科目である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「中枢・末梢神経の構造と機能を理解する。」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（８０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（２０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表にはコメントを小テストには回答を示し、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、精神・神経障害の治療経験があり、神経解剖に精通した医師である教員が、その経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

	授業計画	担当者
第１回	神経系の全体像　その構造と機能	森信　繁
第２回	神経系を保護するもの　頭蓋骨、脊椎、髄膜(硬膜・くも膜・軟膜)	森信　繁
第３回	大脳の構造と大脳皮質の機能局在機能	森信　繁
第４回	間脳　視床と視床下部、下垂体とそのホルモン	森信　繁
第５回	脳幹の構造と機能	森信　繁
第６回	小脳の構造と機能	森信　繁
第７回	脊髄の構造と機能及び伝導路	森信　繁

第８回	運動系　錐体路	森信　繁
第９回	運動系　錐体外路と運動の制御	森信　繁
第１０回	体性感覚とその伝導路	森信　繁
第１１回	視覚・聴覚・嗅覚・味覚とその伝導路	森信　繁
第１２回	脳室系と脳脊髄液	森信　繁
第１３回	脳の血管　動脈系と静脈系	森信　繁
第１４回	自律神経系　交感神経系と副交感神経系	森信　繁
第１５回	末梢神経系　脳神経と脊髄神経	森信　繁
第１６回	定期試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	講義のスライドを資料として配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経・生理心理学Ⅱ	担当者	橋本　翠
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-304

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】　心(認知活動)と身体(生理的活動)との関連性について理解するとともに，それらの測定方法についても理解する。 【到達目標】神経系の働きや生理的反応の測定・記録法を学ぶとともに，さまざまな認知活動とそれに伴う生理反応との関連性についての理解を深める。
授業概要	本講では，生理心理学の基礎となる神経系の機能および脳電位，心臓の活動，皮膚電気活動などの測定法を概観する。その後，特にヒトの認知機能と脳波との関連や情動と自律神経活動との関連について実験，実習を交えながら講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，実験(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること(2時間)。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。また授業内容について，配布資料を再度見直し復習もやること(2時間)。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，教科書をよく読み各回の内容について学習すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，教科書と併せて内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。
オフィスアワー	月曜５限：橋本研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/生理心理学のあゆみ	橋本翠
第２回	(2) 脳と神経-中枢神経-	橋本翠
第３回	(3) 脳と神経-末梢神経-	橋本翠
第４回	(4) 脳電位の測定-原理-	橋本翠
第５回	(5) 脳電位の測定-技法-	橋本翠
第６回	(6) 認知活動と脳波-脳波の種類-	橋本翠
第７回	(7) 認知活動と脳波-特徴的な脳波パターンと行動-	橋本翠
第８回	(8) 認知活動と事象関連脳電位-事象関連電位とは-	橋本翠
第９回	(9) 認知活動と事象関連脳電位 -事象関連脳電位の測定法-	橋本翠

第１０回	(10) 認知活動と事象関連脳電位 --事象関連脳電位の解析法-	橋本翠
第１１回	(11) 認知活動と事象関連脳電位 -信号検出の制御的処理と自動的処理-	橋本翠
第１２回	(12) 眠りと夢のポリグラム測定	橋本翠
第１３回	(13) 脳波測定実習-技法-	橋本翠
第１４回	(14) 脳波測定実習-測定-	橋本翠
第１５回	(15) 脳波測定実習-分析-	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	生理心理学 -人間の行動を生理指標で測る-	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	堀 忠雄(著)	教・ＩＳＢＮ１	978-4-563-05878-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ｉ	担当者	三宅　俊治
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-305

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	人と人の関係に基づく意識・行動について、社会的・文化的枠組みから理解することをテーマとする。社会心理学の理論や術語について理解できる。「中学校・社会・教員免許」、「高等学校・公民・教員免許」の取得の基礎となる社会心理学的所見を理解することができる。授業で扱う社会・集団に関する知識の理解度が、授業内容の６割以上に達することが、到達目標である。
授業概要	人間の生活は、一人では成り立たない。家庭、学校、職場、地域社会などの場面で、他者に影響を与える一方、他者からの影響も受けている。他者との現実の関わりのほか、記憶や想像なども含めて、心理的実在を通して、我々の意識や行動が変化することはよく知られている。社会的動機、社会的認知、社会的態度、集団、コミュニケーション等を通して人と人の相互関係を理解する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。提出物については、翌週もしくは翌々週までに返却・フィード・バックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	社会心理学とは何か	三宅俊治
第３回	現代社会心理学の対象と流れ	三宅俊治
第４回	社会的動機	三宅俊治
第５回	社会的環境の認知	三宅俊治
第６回	自己と対人行動	三宅俊治
第７回	対人関係の認知	三宅俊治
第８回	対人魅力	三宅俊治
第９回	社会的態度	三宅俊治
第１０回	集団	三宅俊治
第１１回	同調	三宅俊治
第１２回	リーダーシップ	三宅俊治
第１３回	コミュニケーション	三宅俊治
第１４回	非言語的コミュニケーション	三宅俊治
第１５回	組織論	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-89514-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ⅱ	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-306

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	家族システムや対人間の相互作用をテーマとする。 家族や集団に起こりう得るさまざまな問題をシステムや相互作用という視座から理解できることを到達目標とする。
授業概要	問題・症状を人の「中」に帰属するのではなく，人と人との「間」から諸々の現象を捉える視点を養う。人と人との「間」において問題・症状が起こり，また，人と人との「間」において変化や解決も生じる。この講義では，関係性や相互作用の視座から，問題の生成と変化について学ぶ。 ☒
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、単元ごとの小テスト（70%）、レポート（10%）、受講態度（20%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業のなかで、小テストやレポート課題についてのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	システム論独特の視座や概念に慣れるためにも、特に前半の授業にはしっかりついてくることを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、教育センターにおける教育相談、小・中・高におけるスクールカウンセリングなどの実務経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	指定テキストの該当章を読んだ上で授業に参加すること。予習復習にそれぞれ２時間以上を確保してほしい。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	システム論：ものの見方	津川秀夫
第３回	システム論：アイソモーフィズム、円環的因果律	津川秀夫
第４回	システム論：まとめと小テスト	津川秀夫
第５回	構造派：ジェノグラム	津川秀夫
第６回	構造派：サブシステムの境界	津川秀夫
第７回	構造派：家族構造の見立て	津川秀夫
第８回	構造派：ジョイニングと介入	津川秀夫
第９回	構造派：まとめと小テスト	津川秀夫
第１０回	家族の発達段階、霊長類から見る家族	津川秀夫
第１１回	ダブルバインドとは	津川秀夫
第１２回	ダブルバインドの影響	津川秀夫
第１３回	MRI：５つの暫定的公理	津川秀夫
第１４回	MRI：第一次変化と第二次変化	津川秀夫
第１５回	MRI：介入の実際、まとめと小テスト	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書			
教・書籍名１	家族療法入門：システムズアプローチの理論と実際	教・出版社名１	星和書店

教・著者名１	遊佐安一郎	教・ＩＳＢＮ１	4791100956
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践　11巻　社会・集団・家族心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１	竹村和久	参・ＩＳＢＮ１	4833160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	発達心理学	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-307

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容　臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	ライフサイクルについて	宇都宮
第３回	胎児期	宇都宮
第４回	新生児期	宇都宮
第５回	乳児期：愛着の形成	宇都宮
第６回	乳児期：言葉の発達	宇都宮
第７回	幼児期：表象の獲得	宇都宮
第８回	幼児期：社会性の発達	宇都宮
第９回	児童期：有能感と劣等感	宇都宮
第１０回	児童期：学校への適応・いじめ	宇都宮

第１１回	青年期前期	宇都宮	
第１２回	青年期後期	宇都宮	
第１３回	青年期の病理	宇都宮	
第１４回	成人期	宇都宮	
第１５回	まとめ	宇都宮	
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮	
教科書			
教・書籍名１	よくわかる発達心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05379-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会福祉原論	担当者	石田　敦
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-308

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに
到達目標	テーマ 　心理学を学ぶ学生が、社会福祉の基本的な内容を理解できる。 到達目標 　心理学を学んだ学生が、社会福祉専門職と協働して活躍するために必要な知識の獲得ができる。
授業概要	心理学を学んだ学生が、将来、福祉分野で活躍する際に必要な社会福祉の知識の獲得を目指して講義を行う。具体的には、①心理学生が社会福祉を学ぶ意味、②心理学生から見た社会福祉学とは何か、③心理専門職と福祉専門職の連携協働のあり方について学修する。そのため、社会福祉学に関する深い知識を獲得するというよりは、連携・協働に必要な知識の獲得に重点を置く。
アクティブラーニングの内容	反転授業
評価方法と割合	受講態度20%（①居眠りやスマートホンの操作等がなく、積極的受講態度であるか、②講義に必要な資料を持参しているか）、リアクションペーパー30%（記述内容を0～2点で点数化する）、レポート試験50%を総合して評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートにコメントを付記し返却する
履修条件・注意事項	テキストとして毎時間配布する資料とともにリアクションペーパーをファイルに保管し、毎回の講義に持参すること。なお、リアクションペーパーは、講義終了5分前に記述時間を確保し、その日に学修した内容を振り返らせる。記述内容を0～2点で点数化し、コメントを付して翌週に返却をするので、見直しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、リアクションペーパーを踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習、復習については、それぞれ2時間ずつ行うこと。
オフィスアワー	授業終了後もしくは質問カードに記載して提出（後日回答）

	授業計画	担当者
第１回	社会福祉機関の種類	石田
第２回	社会福祉機関で働く職員	石田
第３回	ソーシャルワーカーの専門性	石田
第４回	児童福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第５回	高齢者福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第６回	医療場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第７回	障碍者福祉におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第８回	貧困者に対する福祉場面のソーシャルワーカーの活動	石田
第９回	外国人に対する福祉場面におけるソーシャルワーカーの活動	石田
第１０回	国際貢献と社会福祉	石田
第１１回	青少年の健全育成と社会福祉	石田
第１２回	更生保護と社会福祉	石田
第１３回	社会福祉の援助の持つ独自の視点	石田
第１４回	今後の社会福祉の動向	石田

第１５回	全体のまとめと振り返り	石田	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	テキストとして資料を毎時間配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	健康・医療心理学	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-309

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。
授業概要	健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れておこなう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討する」の到達度について、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	健康心理学とは	村上
第２回	健康行動に関する基礎理論	村上
第３回	動機づけ理論	村上
第４回	健康行動とその理論モデル	村上
第５回	健康問題に関する予防	村上
第６回	ストレスとは	村上
第７回	ストレスに関するモデル	村上
第８回	ストレス対処	村上
第９回	疾病とパーソナリティ	村上
第１０回	ソーシャルサポート	村上
第１１回	アセスメント	村上
第１２回	健康心理カウンセリング	村上
第１３回	チーム医療と役割	村上
第１４回	医療領域の対象疾患と支援	村上
第１５回	災害心理学	村上

第１６回	定期試験	村上	
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	健康・医療心理学	参・出版社名１	医歯薬出版株式会社
参・著者名１	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26577-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	知覚・認知心理学	担当者	橋本　翠
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-310

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】大脳における情報処理過程(知覚，注意，表象，記憶，言語，問題解決，推論など)の認知モデルとその検証実験について理解する。 【到達目標】大脳における情報処理過程の認知モデルを理解するとともに，認知処理を行うためのモデル構築のための実験パラダイムについて理解を深める。
授業概要	本講では，これまでブラックボックスという表現で処理されていた人間内部の問題，特に，記憶，情報の検索，イメージと空間の認知について，実験に基づく認知モデルを概観するとともに，日常生活におけるさまざまな認知活動について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，実験(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，教科書をよく読み各回の内容について学習する(2時間)こと。復習については，授業時に配布する資料を読み，教科書と併せて内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる(2時間)こと。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/認知心理学とは-歴史・方法・領域・これからの認知心理学-	橋本翠
第２回	(2) 知覚の基礎	橋本翠
第３回	(3) 記憶のしくみ	橋本翠
第４回	(4) 情報の検索と忘却	橋本翠
第５回	(5) 概念と言語	橋本翠
第６回	(6) 知識と表象	橋本翠
第７回	(7) 高次の知覚と注意	橋本翠
第８回	(8) イメージと空間の情報処理	橋本翠
第９回	(9) 認知の制御過程	橋本翠

第１０回	(10) 文章の理解	橋本翠
第１１回	(11) 文章の記憶	橋本翠
第１２回	(12) 推理	橋本翠
第１３回	(13) 問題解決	橋本翠
第１４回	(14) 意思決定	橋本翠
第１５回	(15) 日常世界と認知心理学	橋本翠
第１６回	(16)定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	グラフィック認知心理学	教・出版社名１	サイエンス社
教・著者名１	森敏昭，井上毅，松井孝雄(共著)	教・ＩＳＢＮ１	4-7819-0776-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	認知心理学 知のアーキテクチャを探る	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	道又爾，北崎充晃，大久保街亜，今井久登，山川恵子，黒沢学	参・ＩＳＢＮ１	4-641-12167-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	学習・言語心理学	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-311

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】学習による人の行動の科学的理論を理解することである。 【到達目標】心理学の基礎として、学習・行動理論の代表的な理論と応用方法を理解し、自らの必要性に応じて活用できる。
授業概要	代表的な学習理論である、古典的条件付け・オペラント条件付け、社会的学習の基礎理論と応用について概説する。学習とは、「活動や訓練あるいは観察の結果として生じた永続的な行動の変容」と定義される。「行動」が条件付けによって獲得されることを理解し、様々な環境要因によって行動が生じることを学ぶ。特に、古典的条件づけとオペラント条件付けについては、具体的な例をあげて理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、講義中の課題の取り組み、小レポートの提出状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業内で小レポートの課題を出す。また、授業の後半にグループワークを行う予定である。フィードバックは、小レポートに対して行う。
履修条件・注意事項	学習心理学は専門用語が多く、休むと分からなくなるため、全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 学習とは	土居
第３回	3. 学習心理学の歴史	土居
第４回	4. 古典的条件付け	土居
第５回	5. 古典的条件付けの手続き	土居
第６回	6. ソーンダイクの試行錯誤学習	土居
第７回	7. ケーラーの洞察学習	土居
第８回	8. ワトソンの行動主義	土居
第９回	9. オペラント条件付け	土居
第１０回	10. 強化スケジュール	土居
第１１回	11. 社会的学習理論：模倣学習	土居
第１２回	12. 社会的学習理論：観察学習	土居
第１３回	13. 応用行動分析：ABC分析	土居
第１４回	14. 応用行動分析：行動記録	土居
第１５回	15. 応用行動分析：強化の原理	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床心理学概論			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：臨床心理学とは何かについて包括的な理解をしてもらうことが、この授業のテーマである。到達目標：①臨床心理学の発展の歴史を理解する、②臨床心理学の定義・理念・体系について理解する、③代表的な心理療法について理解する、④心理アセスメントについて理解する、ことである。
授業概要	臨床心理学の発展の歴史、臨床心理学の定義・理念・体系、代表的な心理療法、心理アセスメントなどについて紹介する。 臨床心理学とは何かについての基礎的な内容を理解し、応用に向けた知識と態度を身につけてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、それらを合計して評価する。具体的には、受講態度（授業への積極的な態度）、小テスト・レポート（知識の習得状況を授業の内容が1つ終わるごとにチェックする。レポートはビデオ教材などの理解度チェック）、期末試験（総合的な知識習得状況を把握する）の内容で総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストとレポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で習い、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	宇都宮研究室（10号館10204 研究室）にて、火曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	臨床心理学の歴史	宇都宮
第３回	臨床心理学の定義・理念・体系	宇都宮
第４回	精神分析的アプローチ	宇都宮
第５回	精神分析的アプローチ（事例）	宇都宮
第６回	分析心理学的アプローチ	宇都宮
第７回	分析心理学的アプローチ（事例）	宇都宮
第８回	事例（DVD）	宇都宮
第９回	行動論的アプローチ	宇都宮
第１０回	認知論的アプローチ	宇都宮
第１１回	ヒューマニスティック・アプローチ	宇都宮
第１２回	ロジャーズのカウンセリング（DVD）	宇都宮
第１３回	その他のアプローチ	宇都宮

第１４回	心理アセスメント		宇都宮
第１５回	まとめ		宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	公認心理師の基礎と実践３　臨床心理学概論	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	野島一彦・岡村達也（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-053-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学的支援法	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-313

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、心理臨床においてベースとなる基本的な心理療法・心理学的支援法を理解することである。 さまざまな理論から展開されている心理療法について、その基本概念や手法の初歩的知識を習得する。 秋学期に開講される「心理的アセスメント」の導入として位置づけられ、基礎となる理論や背景、心理療法の具体的な方法を知識として覚えることを到達目標とする。
授業概要	多種多様な心理療法・心理学的支援法の理論と実際について、基礎的な知識を学んでいく。 特に、心理療法の代表的な立場である、精神分析、クライエント中心療法、行動療法を主に取り上げて概観し、その他の心理療法についても学ぶ。また、講義だけでなく、グループ演習や心理療法体験も行い、実際の心理療法を体感しながら理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校でのスクールカウンセラー、心理相談室でのカウンセリング等）がある教員が担当する。臨床心理実践において必要な理論や技法を、現場の事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、心理学的支援とは	藤原直子
第２回	心理療法の進め方	藤原直子
第３回	精神分析の理論	藤原直子
第４回	心理療法としての精神分析	藤原直子
第５回	フロイトからの分派と発展	藤原直子
第６回	交流分析	藤原直子
第７回	クライエント中心療法の理論と技法	藤原直子
第８回	クライエント中心療法の発展	藤原直子
第９回	面接の基本技法、動機づけ面接	藤原直子
第１０回	行動療法の理論と技法	藤原直子
第１１回	行動療法の技法と応用	藤原直子

第１２回	認知行動療法の歴史と理論	藤原直子	
第１３回	認知行動療法の技法	藤原直子	
第１４回	芸術・表現療法	藤原直子	
第１５回	日本で生まれた心理療法	藤原直子	
第１６回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	やさしく学べる心理療法の基礎	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	窪内節子・吉武光世	教・ＩＳＢＮ１	978-4-563-05669-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	司法・犯罪心理学 （集中講義A）	担当者	田井　靖治
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-314

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	講義のテーマ 犯罪や非行の実態、犯罪者及び被害者の心理過程を学ぶ。 到達目標 司法・犯罪心理学の基本的な知識を修得し、犯罪の未然防止や犯罪被害者への支援の取組について知見を身につける。
授業概要	司法・犯罪心理学の歴史的展開や各理論について理解し、また我が国における犯罪や非行の実態を近年の犯罪統計に基づき概観する。そして犯罪の原因の探求、犯罪者の心理や被害者の心理、被害者に対する支援の取組について考察をする。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講状況、課題提出および最終試験により評価。 成績評価基準：最終試験（60%）、発表・ディスカッションへの参加（20%）、課題提出（20%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、適宜授業の中で解説、講評する。
履修条件・注意事項	課題・復習によく取り組み、発表や質問を積極的にすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業に臨むにあたっての事前準備（参考書籍の精読等）をしっかりと行う。授業の予習、復習はそれぞれ2時間以上が望ましい。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	犯罪心理学とは	田井
第２回	犯罪・非行行動の現状と理解（１）	田井
第３回	犯罪に対して抱く特有の心理（１）	田井
第４回	犯罪に対して抱く特有の心理（１）	田井
第５回	犯罪研究の歴史的展開	田井
第６回	犯罪理論の多面性	田井
第７回	社会・文化的観点からの犯罪観	田井

第８回	社会・文化的要因からの犯罪理論	田井
第９回	個体要因からの犯罪理論	田井
第１０回	犯罪と冤罪	田井
第１１回	犯罪防止の心理学	田井
第１２回	犯罪者の矯正	田井
第１３回	被害者の心理	田井
第１４回	被害者への支援	田井
第１５回	犯罪心理学のこれから	田井
第１６回	筆記試験	田井

教科書			
教・書籍名１	教科書なし。適宜プリントを配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	犯罪心理学	参・出版社名１	朝倉書店
参・著者名１	越智　啓太（編集）	参・ＩＳＢＮ１	4-2544-52678-4
参・書籍名２	知っておきたい最新犯罪心理学	参・出版社名2	ナツメ社
参・著者名2	細江　達郎	参・ＩＳＢＮ2	978-4-8163-5350-5

授業科目名	産業・組織心理学 （集中講義E）	担当者	田井　靖治
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-315

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	産業組織心理学は産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。 本講義では、産業組織心理学のこれまでの研究において得られた理論や成果を理解し考察を深めることを目標とする。 また個人と組織間の相互作用の中で生まれる「こころの働き」に重点をおき、人々が幸福に働くことに重要な産業心理学の知識、知見を養うことを目指す。
授業概要	近年の技術革新の進展、産業構造の変化、労働者意識の多様化等に伴う労働移動の増加、職業能力のミスマッチの拡大等、産業界は大きく変貌してきた。そしてそれは職場環境や働く人々の価値観に大きく影響をおよぼしている。こうした状況を踏まえ個人と組織、個人にとっての職業・産業心理について理解し考察をする。 なかでもワーク・モチベーション、キャリア発達、コミュニケーションと人間関係、産業カウンセリング等の領域をとりあげ産業場面における人間の心理や行動を明らかにしていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義出席状況、受講状況及び最終試験により評価する。 成績評価基準：最終試験（60%）、発表・ディスカッションへの参加（20%）、授業態度（40%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、適宜授業の中で解説、講評する。
履修条件・注意事項	課題・復習によく取り組み、発表・質問を積極的にすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業に臨むにあたっての事前準備（参考書籍の精読、自身のキャリアデザイについて考える等）をしっかりと行う。授業の予習、復習はそれぞれ2時間以上が望ましい。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	田井
第２回	産業組織心理学とは	田井
第３回	ワークモチベーション（１） ～動機付け～	田井
第４回	ワークモチベーション（２） ～期待理論～	田井
第５回	ワークモチベーション（３） ～コミットメント～	田井
第６回	キャリア発達（１） ～キャリアとは～	田井
第７回	キャリア発達（２） ～キャリア発達理論～	田井
第８回	コミュニケーションと人間関係（１） ～職場集団の特性～	田井

第９回	コミュニケーションと人間関係（２） ～職場集団と発達論～	田井
第１０回	リーダーシップ（１） ～リーダーシップの概念と研究の歴史～	田井
第１１回	リーダーシップ（２） ～特性アプローチ・行動アプローチ～	田井
第１２回	消費行動とマーケティング	田井
第１３回	職場のストレスとメンタルヘルス	田井
第１４回	産業カウンセリング	田井
第１５回	まとめ	田井
第１６回	最終試験	田井

教科書			
教・書籍名１	なし。適宜プリントを配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	産業心理学への招待	参・出版社名１	有斐閣ブックス
参・著者名１	佐々木土師二（編）	参・ＩＳＢＮ１	4-641-08562-5
参・書籍名２	よくわかる産業・組織心理学	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2	山口裕幸／金井篤子（編）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-623-04871-7

授業科目名	生涯発達心理学	担当者	橋本　翠
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-316

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講は，人間の様々な認知機能を理解する上での基礎となる心理学を土台にし，特に，ヒトの発達の原理とともにその過程の法則性，機能および多様性について学び理解することができる。
授業概要	胎児期から老年期までの各期における様々な機能の発達について講義する。それぞれの時期で重要となる機能に即した心理学的側面を理解することにより，科学的客観的根拠に基づいた発達心理学視点で生涯を概観するものである。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(5%)，感想(minutes paper)(5%)，試験の得点(90%)の合計点により総合的に評価する。 なお，欠席については総合点より回数分減点します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは，次回の講義内及びユニパのコメントにて行います。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。 遅刻は禁じます。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR・生涯発達心理学とは	橋本翠
第２回	2.発達の可塑性	橋本翠
第３回	3.認知発達の基盤① -胎児～0歳児-	橋本翠
第４回	4.認知発達の基盤② -表象の獲得-	橋本翠
第５回	5.他者との関係性のはじまり	橋本翠
第６回	6.子どもの自己発達	橋本翠
第７回	７.児童期までの概観-映画を通して	橋本翠
第８回	8.レポートのピアレヴュー	橋本翠

第９回	9.認知能力の生涯発達	橋本翠
第１０回	10.発達と障がい	橋本翠
第１１回	11.関係性の発達①-乳幼児期～児童期-	橋本翠
第１２回	12.関係性の発達②-青年期～高齢期-	橋本翠
第１３回	13.大人の自己発達	橋本翠
第１４回	14.成熟と英知	橋本翠
第１５回	15.まとめ	橋本翠
第１６回	16.筆記試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	生涯発達心理学	教・出版社名１	有斐閣アルマ
教・著者名１	鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-22074-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅰ（面接）	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-317

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：心理支援を要する者等に関する知識及び技能を身につけるため、心理面接についての基礎的な知識とスキルを学ぶことがこの授業のテーマである。 到達目標：心理面接の諸理論、面接技法など、心理支援に必要な知識と技能の基礎を習得できることが到達目標である。
授業概要	講義と演習を並行して行い、心理面接の基礎理論を理解した上で、面接技法を体験的に学んでいく。事例検討やロールプレイイングを通して、心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理面接技法などを体験的に学んでもらう。またグループアプローチの一つである構成的グループエンカウンターも実施したいと考えている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	取り組み姿勢（４０%）とレポートおよびポートフォリオ（６０%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートやポートフォリオのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。各回レポートを出し、最後にポートフォリオとしてまとめたものを提出してもらう。また、「傾聴の基本」の部分については、説明と実践を切り離して行うことが難しいため、2コマ連続（1・2時限連続）で行う回を複数回含むので履修の際は注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した部分について、復習すること。授業の中で口頭やレポート等で確認を行う。 次回行う部分について、事前に学習しておくこと。復習と事前学習に各1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	宇都宮：火曜日2時限目

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	傾聴について	宇都宮
第３回	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論：ロジャーズ	宇都宮
第４回	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論：その他	宇都宮
第５回	傾聴：関わり行動	宇都宮
第６回	傾聴：質問の仕方（説明）	宇都宮
第７回	傾聴：質問の仕方（実践）	宇都宮
第８回	傾聴：はげまし等（説明）	宇都宮
第９回	傾聴：はげまし等（実践）	宇都宮
第１０回	傾聴：感情の反映等（説明）	宇都宮
第１１回	傾聴：感情の反映等（実践）	宇都宮
第１２回	傾聴：まとめ	宇都宮
第１３回	ロジャーズの面接（DVD）	宇都宮
第１４回	構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ（説明）	宇都宮
第１５回	構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ（実践）	宇都宮

第１６回	ポートフォリオ提出およびレポート試験		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	授業内で資料プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マイクロカウンセリング技法ー事例場面から学ぶ	参・出版社名１	風間書房
参・著者名１	福原眞知子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7599-1637-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅱ（面接）	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-318

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ： 心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、心理的支援をおこなっていくための基礎的知識とスキルを養う。 到達目標： ・心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握するためのスキルを身につける。 ・支援計画を立て、実行できるための基礎的知識とスキルを身につける。
授業概要	心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、心理的支援をおこなっていくための基本的知識やスキルについて、ロールプレイや事例検討を通して修得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	試験50％、スキルの習得程度30％、小レポート20％で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小レポートに関しては、授業時にフィードバックする。
履修条件・注意事項	（履修条件） ・原則として、心理演習Ⅰ（面接）の単位を取得済みであること。 （注意事項） ・実技演習を伴う授業のため、毎回の出席を原則とする。 ・ロールプレイの際には、練習相手への気遣いを大切にすること。
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックにおける心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育研究所での教育相談などの経験を踏まえて当該授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	心理演習Ⅰ（面接）で学んだ心理支援の基礎について復習しておくこと。指定テキストについては早めに読み進めておくこと。予習・復習に3時間以上の学修を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限　個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	心理支援の基本指針	津川秀夫
第３回	情報収集：ニーズの把握	津川秀夫
第４回	情報収集：問題のパターン	津川秀夫
第５回	情報収集：現病歴	津川秀夫
第６回	情報収集：成育歴	津川秀夫
第７回	関係性のアセスメント	津川秀夫
第８回	ゴールづくり：要支援者	津川秀夫
第９回	ゴールづくり：関係者	津川秀夫
第１０回	ゴールづくり：長期目標と短期目標	津川秀夫
第１１回	リソースの把握	津川秀夫
第１２回	リソースの活用	津川秀夫
第１３回	コンプリメント	津川秀夫

第１４回	面接の実際		津川秀夫
第１５回	まとめ		津川秀夫
第１６回	試験		津川秀夫
教科書			
教・書籍名１	ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	日本ブリーフサイコセラピー学会	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	認知行動療法とブリーフセラピーの接点	教・出版社名2	日本評論社
教・著者名2	津川秀夫・大野裕史	教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅲ（検査）	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-319

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：代表的な心理検査を習得することを通して、心理アセスメントの基本を理解する。 到達目標：①発達検査の実施や解釈が一通りできる。②投影法等を査定する質問紙の実施や解釈ができる。
授業概要	本演習では、①発達検査と②投影法について体験を通して学ぶ。①では、新版K式発達検査等の実施方法や結果の処理、分析、所見の書き方を学習する。②では、HTPPやSCT、TAT等の実施方法や分析、所見の書き方を学習する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	検査法の理解、実施法の習得，および評価法を確実に学習するため，一つの検査が終わり次第、レポート提出を求める。レポートの提出とその内容（50%）と授業中の課題の取り組み状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は心理検査の結果に基づいてレポートを作成する。
履修条件・注意事項	授業は、二人グループに分かれて検査を行う。一方の学生が休むともう一方の学生が検査ができなくなってしまうことから、休まないように。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目では、保健医療領域、教育領域、福祉領域における心理検査、心理面接等の実務経験のある教員が指導する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は配布された資料について学習してくること。講義後には、課題やレポートの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	土居：月曜2限（土居研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 新版K式：検査の説明	土居
第３回	3. 新版K式：実施方法	土居
第４回	4. 新版K式：実施	土居
第５回	5. 新版K式：記録の仕方	土居
第６回	6. 新版K式：解釈の仕方	土居
第７回	7. 新版K式：レポートの書き方	土居
第８回	8. BGT：説明と実施	土居
第９回	9. 樹木画テスト：説明	土居
第１０回	10. 樹木画テスト：実施	土居
第１１回	11. 人物画テスト：説明と実施	土居
第１２回	12. 家屋画テスト：説明と実施	土居
第１３回	13. SCT：説明と実施	土居
第１４回	14. TAT：説明と実施	土居
第１５回	15. TAT：実施	土居
第１６回	レポート試験	土居

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅳ（検査）	担当者	津川　秀夫、土居　正人、村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-320

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：公認心理師に必要な知識と技能（①コミュニケーション、②心理検査、③心理支援）について体験を通して、学修する。 到達目標：①コミュニケーション、②心理検査（発達・知能検査、不安やうつの検査）、③心理支援、の基本的な知識とスキルを修得する。
授業概要	本演習では、①コミュニケーションは、マイクロカウンセリング技法の体験を通して、基本的なかかわり方について学ぶ。②心理検査は、乳幼児期の発達・知能検査である田中ビネー式知能検査、および成人の不安とうつの程度を把握する質問紙検査について、体験を通して検査の実際を学ぶ。③心理支援については、マインドフルネスについて体験的に学修する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	各担当教員により、レポート提出を求める。レポートの提出とその内容（50%）と授業中の課題の取り組み状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時のなかで、レポートおよびグループワークについてフィードバックする。
履修条件・注意事項	（履修条件） ・原則として、2年次秋学期終了時までのGPAが2.0以上であること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 （注意事項） ・実技演習を行う授業のため、毎回出席すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　この科目では、保健医療領域、教育領域、福祉領域における心理検査、心理面接等の実務経験のある教員が指導する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は配布された資料について学習してくること。講義後には、課題やレポートの範囲を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	津川：月曜4限（津川研究室） 土居：月曜2限（土居研究室） 村上：木曜3限（村上研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	津川・村上・土居
第２回	2. 職業倫理と法的義務	村上・津川・土居
第３回	3. コミュニケーション：基本的態度	村上・津川・土居
第４回	4. コミュニケーション：傾聴	村上・津川・土居
第５回	5. コミュニケーション：感情の反映	村上・津川・土居
第６回	6. 検査：田中ビネー検査について	土居・津川・村上
第７回	7. 検査：田中ビネー実施	土居・津川・村上
第８回	8. 検査：田中ビネー実施	土居・津川・村上
第９回	9. 検査：田中ビネー分析	土居・津川・村上
第１０回	10. 検査：田中ビネーレポート	土居・津川・村上
第１１回	11. 検査：STAI、LSAS	津川・村上・土居
第１２回	12. 検査：SDS、BDI	津川・村上・土居

第１３回	13. 不安やうつを支える心の癖	津川・村上・土居
第１４回	14. 脱中心化とマインドフルネス	津川・村上・土居
第１５回	15. マインドフルネス実習	津川・村上・土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害者・障害児心理学	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-321

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	授業テーマは、発達障害をはじめとするさまざまな障害の種類や特性を理解し、心理師として現場において支援する具体的な方法を学ぶことである。 具体的には、さまざまな障害による制約や特性、個々に対応するためのアセスメント、支援方法等について、障害ごとに理解していく。 「障害」とは何か、その種類、症状・特性、診断基準、支援方法等の知識を習得し、実際の心理臨床に生かすことを目標とする。
授業概要	主に発達障害についてDVD視聴、テキストの輪読、講義、グループ演習を通して学んでいく。 各テーマについて、適宜レポートや課題を課したり、グループ演習や討議によって理解を深めたりする。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループで行う演習やディスカッションを行うため、積極的に発言すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、心理師として障害児者に対する心理的支援の実務経験（小中高等学校におけるスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回指導・研修会講師、心理相談室における発達障害児のカウンセリング、保護者支援等）がある教員が担当する。障害児者の支援において必要な知識や技法を、実際のの事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、障害とは	藤原直子
第２回	発達障害とは何か、発達障害の種類と概要	藤原直子
第３回	発達障害に関する法律、合理的配慮	藤原直子
第４回	自閉スペクトラム症の特性と支援	藤原直子
第５回	注意欠如・多動症の特性と支援	藤原直子
第６回	限局性学習症の特性と支援	藤原直子
第７回	発達障害のアセスメント	藤原直子
第８回	発達障害に特化した検査	藤原直子
第９回	様々な障害に対する理解と支援：視覚・聴覚障害	藤原直子
第１０回	様々な障害に対する理解と支援：肢体不自由	藤原直子
第１１回	様々な障害に対する理解と支援：病弱・身体虚弱、重度・重複障害	藤原直子
第１２回	公認心理師として実施できる支援方法	藤原直子

第１３回	事例で考えるアセスメントと支援：地域	藤原直子	
第１４回	事例で考えるアセスメントと支援：学校	藤原直子	
第１５回	まとめ	藤原直子	
第１６回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	公認心理師のための発達障害入門	教・出版社名１	金子書房
教・著者名１	黒田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7608-2420-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	福祉心理学			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	PS-PS-3-322		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	福祉心理学では、福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な制度や支援について学習し、心理支援の必要性とあり方について理解を深めることをテーマとしている。到達目標は、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について理解することである。
授業概要	福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な支援や制度について紹介する。また、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について学習し、理解を深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストも行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で習い、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習にはそれぞれ２時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	社会福祉の歴史	宇都宮
第３回	福祉対象者への心理支援	宇都宮
第４回	児童虐待への心理支援	宇都宮
第５回	子どもと親への心理支援	宇都宮
第６回	福祉対象者への心理支援（事例DVD）	宇都宮
第７回	日本と世界の高齢者の現状	宇都宮
第８回	老年期の発達理論	宇都宮
第９回	認知症とは	宇都宮
第１０回	認知症の対応と援助	宇都宮
第１１回	認知症のアセスメント	宇都宮
第１２回	生活困窮・貧困者への心理支援	宇都宮
第１３回	精神障害者への心理支援	宇都宮
第１４回	精神障害者への心理支援（事例）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	第17巻 福祉心理学（公認心理師の基礎と実践）	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	中島健一（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-067-2

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育・学校心理学	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-323

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学校教育場面における問題行動とその対応法をテーマとする。 テーマに関する調査資料や論文を読み取る力を身につけるとともに、エビデンスに基づいた対応法を知ることを到達目標とする。
授業概要	学校教育場面において生じるさまざまな問題のなかでも，特に不登校に焦点をあて，未然防止や再登校援助の具体的な指針について理解する。授業では，不登校に関する調査資料や論文に実際にあたって読み進める。その作業を通して，不登校に関する最新情報を得るとともに，論文や統計データの読み取り方を習得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、授業での発言や取り組み姿勢（20%）、レポート（20%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について授業のなかでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	使用する資料は適宜配布する。参加型学習であるため授業の出席は必須である。もしも何らかの事情で欠席した場合には，他の受講者より内容を聞き，しっかり理解しておくことを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容：小・中・高におけるスクールカウンセリング、教育センターにおける教育相談、精神科クリニックでの心理臨床活動などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料を読み込み授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日４時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	学校における問題行動	津川秀夫
第３回	不登校の現状：出現率の推移	津川秀夫
第４回	不登校の現状：不登校のきっかけ	津川秀夫
第５回	不登校の現状：長期欠席と不登校	津川秀夫
第６回	不登校の現状：地域別データから見えるもの	津川秀夫
第７回	不登校の現状：改善率	津川秀夫
第８回	学校ストレス	津川秀夫
第９回	不登校に影響する学校ストレスとは	津川秀夫
第１０回	欠席パターン	津川秀夫
第１１回	欠席パターンと不登校の未然防止	津川秀夫
第１２回	スクール・コネクテッドネス	津川秀夫
第１３回	スクール・コネクテッドネスの活用	津川秀夫
第１４回	PBISの活用	津川秀夫
第１５回	まとめと展望：教育行政の方針転換およびコロナ禍の影響	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書

教・書籍名１	使用しない。 文部科学省のWEBを適宜参照する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践18巻　教育・学校心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	4866160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	比較心理学			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	PS-PS-3-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	テーマ：動物の認知行動との比較を通して「こころ」の多様性を知り、ヒトの「こころ」について理解を深める。 到達目標：様々な動物の（認知）行動についての研究法を知り、ヒトに特異的と考えられている能力を他の動物との比較の中で捕らえ直すことができる。
授業概要	比較心理学は、ヒトと様々な動物の行動や認知能力を比較するこ とにより、ヒトの独自性と進化の過程を明らかにし、生物としてのヒトの「こころ」を理解しようとする学問である。本講義では、様々な動物種の認知能力についての研究事例を紹介し、それ ぞれの種がもつ「こころ」とその生物学的基盤および行動の機能・発達・進化について講義する。授業の後半は、講義で取り上げたテーマの中から１つを選び、ヒトを含む動物種ごとに担当を決めて資料を集め，内容を発表し、全員で議論することにより「こころ」について、あるいはその研究方法についての理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	４回ほど行う小テストの結果（20%）、研究発表・参加態度（40%）、定期試験（40%）で行う予定である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	フィードバックは小テストの返却、発表に対するコメント等において行う。
履修条件・注意事項	心理学実験実習、心理学研究法の知識は基本である。 後半は、各自の研究発表とそれについての討論が中心となるので、種々の文献の読みこなしが必須となる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの指定された箇所を読んでおくことと、配付資料を基に、予習と復習に3～4時間を要す。
オフィスアワー	月曜4限　教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	動物行動と心理学	森井
第３回	様々な学習と生物学的意義	森井
第４回	動物の記憶・研究方法	森井
第５回	動物の概念と思考	森井
第６回	問題解決と道具使用	森井
第７回	様々なコミュニケーション行動	森井
第８回	言語的コミュニケーション	森井
第９回	社会的認知と社会行動	森井
第１０回	演習テーマの決定と分担	森井
第１１回	資料の整理・進捗報告	森井
第１２回	発表と議論１	森井
第１３回	発表と議論２	森井
第１４回	発表と議論３	森井
第１５回	まとめ：ヒトと動物のこころ	森井
第１６回	学期末試験	森井

教科書

教・書籍名１	動物たちは何を考えている？ -動物心理学の挑戦ー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	藤田和生（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7741-7258-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	コミュニティ心理学 （集中講義B）	担当者	松本　奈浦
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-325

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	コミュニティ心理学に関する基本的理念を学び、コミュニティ心理学が発展してきた背景、実際の臨床現場での取り組み等を理解、習得し説明することができるようになる。加えて心理社会的課題から今後どのような施策が必要かについて等自ら考える力を身につけられるようになる。またコミュニティ心理学の知識を身につけた上で架空の事例について検討を行うが、実践に近いケースを体験的に学習することによりコミュニティ感覚を養い、実際の現場で生かせるよう専門職としての質の向上を目指す。
授業概要	コミュニティ心理学は1960年代のアメリカにおいて地域精神保健活動を母体に誕生し、時代と社会のニーズの変遷とともに定義や手法も形を変えながら発展し続けている比較的新しい心理学分野である。コミュニティ心理学は地域臨床の文脈で実践・研究されてきた経緯がある。実際の臨床現場では、“児童虐待”、“いじめ問題”、“ハラスメント”等多様な心理社会的問題への支援が専門職として求められることになる。本授業ではコミュニティ心理学の理論やアプローチ方法を学び知識を深めていくとともに、実際にケース検討を行うなど自ら体験的に学ぶことも取り入れながらコミュニティ心理学の知識と技法を検討・理解し、心理専門職としての資質を高めていけるように構成している。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	コミュニティ心理学の基礎的な知識、そして心理専門職としての資質を高めるために、試験結果や授業での態度、参加の仕方、グループワークでの対応の仕方等を通じて総合的に評価する。具体的な評価はコミュニティ心理学の基礎知識や理論、実践的アプローチについて問う定期試験(50%)、グループワークにおける周囲への関わりや活発な意見交換(30%)、授業中の学びの程度を判定するための授業への積極的な参加態度(20%)を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表の評価については、その都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	資料中心に授業を進めていく。講師の説明を聞き、重要なポイントと思われる場合には適宜記述し理解を深めていくこと。定着を図るために配布資料や参考図書をもとに予習・復習することが望ましい。受講態度の良くないもの、特に他学生の受講を妨げる行為を行うものには退出を求める。積極的な発言や議論を期待する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は実際にコミュニティ心理学的アプローチを実践している教員が、その経験を活かし、心理専門的・社会的に役立つ授業を実践する。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に調べ、理解したうえで授業を受けるとわかりやすい。単位認定試験は授業で学習した内容について満遍なく出題されるため、学んだことはその日のうちに事後学習することを進める。
オフィスアワー	10号館1階非常勤講師室にて実施。授業終了後でも対応可能。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション コミュニティ心理学とは	松本
第２回	コミュニティ心理学の歴史的背景	松本
第３回	人と環境の適合	松本

第４回	予防の重視とエンパワメント	松本
第５回	危機介入とは 危機への心理的アプローチ	松本
第６回	相談援助活動の実際「アセスメントツールの活用」	松本
第７回	事例検討①「心理的アセスメント実習」	松本
第８回	家庭・地域における実践	松本
第９回	児童相談所における心理的支援	松本
第１０回	事例検討②「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」	松本
第１１回	事例検討③「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」	松本
第１２回	まとめ「児童福祉におけるコミュニティアプローチ」 今後の展望と課題	松本
第１３回	精神科領域における心理的支援と多職種との協働	松本
第１４回	事例検討④「精神科デイケアにおけるコミュニティアプローチ」	松本
第１５回	まとめ	松本
第１６回	単位認定試験	松本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	よくわかるコミュニティ心理学	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-04611-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営心理学	担当者	崔　瑞玹
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-326

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	人々が雇用者として、あるいは被雇用者として職に就き、その組織において利潤を追求する目的で仕事に取り組む際に直面する多様な問題を心理学的立場から実証的に捉え、検討し、解決に役立てるための基本的知識を習得するのがテーマである。到達目標は上記内容を理解できるようにすることである。
授業概要	職業集団や組織における個人の心理過程を、経営・組織の意思決定、人事マネジメント、組織内人間関係とコミュニケーション、人材育成と職業的アイデンティティ、ストレスと健康などの観点から、今日的な経済・経営趨勢の中で捉え直すことによって、組織の生産性の向上と個人の職業的充実感に折り合いをつけて、いわゆる「役立つ」人材とは何であるのか、抉っていきたい。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	リーダーシップ	崔　瑞玹
第３回	フォロワーシップ	崔　瑞玹
第４回	組織コミットメント	崔　瑞玹
第５回	ストレスとメンタルヘルス	崔　瑞玹
第６回	心の健康	崔　瑞玹
第７回	経営・組織の意思決定	崔　瑞玹
第８回	人間関係とコミュニケーション	崔　瑞玹
第９回	人材教育とキャリア	崔　瑞玹
第１０回	人事マネジメント	崔　瑞玹
第１１回	消費者行動の心理学	崔　瑞玹
第１２回	広告の心理学	崔　瑞玹
第１３回	ファッションの心理学	崔　瑞玹
第１４回	分化・環境・経営	崔　瑞玹
第１５回	組織神経科学	崔　瑞玹
第１６回	単位認定試験	崔　瑞玹

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	経営・ビジネス心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	松田幸弘（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7795-1263-6 C3011
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	家庭支援論			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	PS-PS-3-327		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。到達目標としては次の通りである。 １．学生が、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援 の現状、課題について理解する。
授業概要	家族機能の衰退や家族の病理が深刻な問題とされている一方で、家族はなお基本的な社会集団としての役割を期待されている。家族の意義やその有用性を再認識し、家族のもつ力を活用した家庭支援のあり方を講義する。とりわけ家族・家庭への援助技術について詳しく講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業態度（20%）、課題発表（20%）、試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に出された課題は次の週の授業時にフィードバックする。試験に関する解説をフィードバックする。
履修条件・注意事項	単位の取得には3分の2以上の出席が条件。教科書による予習や講義後の復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習は90分以上を費やし、毎回の授業内容について、教科書や関連する文献で調べておき、わからないところはまとめておくこと。復習も90分以上を費やし、授業で学んだことを整理しておくこと。適宜、宿題を出す。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にておこなう。

	授業計画	担当者
第１回	1．子ども家庭支援の意義と必要性	中野明子
第２回	2．子ども家庭支援の目的と機能	中野明子
第３回	3．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	中野明子
第４回	4．子育て家庭の福祉を図るための社会資源	中野明子
第５回	5．保育の専門性を活かした子ども家庭支援	中野明子
第６回	6．子どもの育ちの喜びの共有	中野明子
第７回	7．保護者および地域の実践に対する支援	中野明子
第８回	8．保育士に求められる基本的態度	中野明子
第９回	9．家庭の状況に応じた支援	中野明子
第１０回	10．地域資源の活用と関連機関との連携・協力	中野明子

第１１回	11.子ども家庭支援の内容と対象	中野明子
第１２回	12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援	中野明子
第１３回	13.地域の子育て家庭への支援	中野明子
第１４回	14.要保護児童およびその家庭に対する支援	中野明子
第１５回	15.子育て支援に関する課題と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	新基本保育シリーズ　⑤　子ども家庭支援論	教・出版社名１	中央法規出版
教・著者名１	編集：松原　康雄他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5785-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床神経学			担当者	中角　祐治		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	PS-PS-3-328		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	１５回	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	この授業のテーマは、神経疾患の臨床像についての理解である。 公認心理士等として、医療福祉施設に勤務する場合に必要な知識の習得を到達目標とする。
授業概要	神経系に関係する血管障害、変性疾患、外傷、腫瘍、感染症、先天性疾患、機能性疾患について講義する。 最初の授業の時に、各学生に２回目以降の授業時に発表してもらうテーマを提示します。 ２回目以降は、学生のプレゼンテーションに続いて、ディスカッションを行います。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	プレゼンテーションが６０％、ディスカッション２０％、毎回の授業の最後に行う小テスト２０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の最後に行う小テストについて、次回の授業の最初に解説をします。
履修条件・注意事項	神経疾患を理解するためには、正常な解剖・生理と病態生理・症候学の知識を有していることが必要です。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員は、東京都立神経病院神経内科、Iowa大学Neurology等での勤務経験があります。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習に各２時間を要します。配布資料を中心に取り組んで下さい。
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階、６４１１研究室

	授業計画	担当者
第１回	脳血管障害；総論	中角
第２回	脳血管障害；出血性	中角
第３回	脳血管障害；虚血性	中角
第４回	変性疾患１	中角
第５回	変性疾患２	中角
第６回	変性疾患３	中角
第７回	脱髄疾患	中角
第８回	神経筋接合部疾患	中角
第９回	筋疾患	中角
第１０回	外傷	中角
第１１回	慢性的な圧迫	中角
第１２回	腫瘍	中角
第１３回	感染症	中角
第１４回	先天性疾患	中角
第１５回	機能性疾患	中角
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	なし（配布資料を教科書代わりに使ってください）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	神経内科学テキスト	参・出版社名１	南江堂
参・著者名１	江藤文夫	参・ＩＳＢＮ１	978-524-26215-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	神経診断学	担当者	中角　祐治
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-329

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	この授業のテーマは、神経系が障害された時に見られる症候を理解し、それらの症候から神経系の障害部位を考えるための検査法（神経診断学）を紹介することである。
授業概要	神経系の病態生理、神経解剖学に基づいた系統的な神経所見の診察法、補助検査について、各学生に課題を指定する。 学生のプレゼンテーションに続き、質疑応答を行う。授業の最後に小テストを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	学生が発表した内容について60%、質疑を行った内容20%、小テスト20%。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の最初に、前回授業時に行った小テストの解説をする。
履修条件・注意事項	積極的にディスカッションに参加して下さい。
実務経験のある教員	該当する　内容　担当教員は、東京都立神経病院神経内科、アイオワ大Neurology　などで勤務した経験があります。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習に各２時間を要す
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階、６４１１研究室

授業計画		担当者
第１回	神経系の発生学と解剖学総論	中角
第２回	大脳	中角
第３回	基底核・小脳	中角
第４回	脳幹・脊髄	中角
第５回	末梢神経・血管	中角
第６回	神経生理学	中角
第７回	生化学、薬理	中角
第８回	診断学１；総論	中角
第９回	診断学２；脳神経	中角
第１０回	診断学３；運動系	中角
第１１回	診断学４；感覚系	中角
第１２回	診断学５；自律神経系	中角
第１３回	診断学６；高次脳機能	中角
第１４回	補助検査１；画像診断	中角
第１５回	補助検査２；生理検査、生化学検査	中角
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	なし（配布資料を教科書代わりに使って下さい）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	神経内科学テキスト	参・出版社名１	南江堂
参・著者名１	江藤文夫	参・ＩＳＢＮ１	978-524-26215-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床の倫理					担当者	土居　正人	
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年					ナンバリング	PS-PS-3-330	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	【テーマ】教育・医療・産業等における心理臨床現場における例題を通して、倫理を調べ学習と討論、考察により、自分なりの視点を持てるようになること。 【到達目標】臨床現場（教育・医療・産業等）は治療者とクライアント、両者を取り巻く人間関係の上に成り立つ場であるため、守秘、インフォームドコンセント等において治療者の倫理が問われる。学生は、適切なアセスメントや支援が行われるためのクライアント理解のあり方、障害に対する一般的心理反応等について学習し、それらに対する対応を理解・修得できること。
授業概要	法律や倫理的観点を学習し、インフォームドコンセント、守秘義務、いじめや不登校、研究倫理、研究結果の公表などテーマを絞って、それらにおける倫理的問題を検討する。 グループごとに話し合いをすることになる。一つのテーマについて、4コマかけてディスカッション及び図書館で調べたりすることを通して、会話に深みをつけていく。しっかり時間をとって話し合うため、学生同士は多方面の意見が出て新たな気づきが生まれると思われる。大学時代でしかできないこの体験は、貴重なものとなるであろう。 主観と客観を分ける聞いて話す技術、人の話を聞きだし聞く力、まとめる力、発表する力などこれから就職する学生にとっては、大きな経験となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度、レポート提出と討論への参加状況を総合して評価する。４回の個人レポート（25%）、受講態度を含む討論への参加状況、授業内で出す課題や小レポートへの取り組み（75%）を目安とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は、1つのテーマにつき、前半の話し合いを行った後の集団レポート、後半の話し合いを行った後の個人レポートの2種類があり、それぞれを提出する必要がある。レポートを元にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	様々なテーマについて、グループごとに話し合いを行う。グループの人と会話をしようとする気持ちを持って、授業を受けること。 話し合いでは、自分なりの意見を持って発言すること。また、レポート作成の際に講義内容を振り返るような学習を期待する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、配布されたプリントを学習してくること。講義後には、グループで話し合ったテーマについて復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション・インフォームド・コンセントのテーマ	土居
第２回	2. インフォームド・コンセントの調べ学習	土居
第３回	3. インフォームド・コンセントの討論・レポート	土居
第４回	4. 教育現場の倫理のテーマと話し合い	土居
第５回	5. 教育現場の倫理の調べ学習	土居
第６回	6. 教育現場の倫理の調べ学習と討論	土居
第７回	7. 教育現場の倫理の討論・レポート	土居
第８回	8. 研究倫理のテーマと話し合い	土居
第９回	9. 研究倫理の調べ学習	土居
第１０回	10. 研究倫理の調べ学習と話し合い	土居

第１１回	11. 研究倫理の討論・レポート	土居
第１２回	12. 剽窃・改ざん・ディブリーフィングのテーマ	土居
第１３回	13. 剽窃、改ざん、ディブリーフィングの調べ学習	土居
第１４回	14. 剽窃、改ざん、ディブリーフィングの討論・レポート	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	必要に応じてプリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本史 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-901

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	【テーマ】日本の歴史について、古代から現代までグローバルな講義で講義をし、演習も取り入れる。 【到達目標】 1　日本の歴史の大きな流れと時代の変化について理解することができる。 2　日本の歴史が、世界の歴史の影響を受けながらあることを理解することができる。 3　地域の歴史を学ぶことで、日本の歴史に関連付けた理解ができる。 4　中学校社会での教授を想定し、基礎的な事項の理解と教材化に向けた視点をもつことができる。
授業概要	日本の通史を扱い、混迷する２１世紀において生きる指針を歴史から学ぶ。既習事項を整理しながら、それぞれの時代の全体像について把握し、差異に着目して将来の教授につながる時間となるよう多様な資料を活用して進めていく。地域の歴史教材（備中松山城と城下町・高梁）を組み入れた授業も行う。ビデオ教材やWeb教材も積極的に活用し、ビジュアルに進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	定期試験７０％、課題・小テスト２０％、授業への積極的態度１０％課題
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、小レポートは授業でフィードバックし、理解の深化・統合に活用する。
履修条件・注意事項	講義の３分の２以上の出席が定期試験を受けるための条件である。真剣な授業への取り組みの姿勢を求める。毎時間配付する資料をファイルし整理できるように。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習としての予習復習（各３０時間程度）が大切です。資料整理も必要です。
オフィスアワー	毎時間講義の後で教室にて実施

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　日本の文化のあけぼの	小林
第２回	律令制度と平城京の時代	小林
第３回	摂関政治と国風文化	小林
第４回	鎌倉幕府の成立と元寇	小林
第５回	室町時代と戦国大名の登場、戦国期の高梁	小林
第６回	幕藩体制の成立と城下町高梁	小林
第７回	開国と幕末の動乱	小林
第８回	明治維新と富国強兵	小林
第９回	立憲国家の成立と日清・日露戦争	小林
第１０回	第一次世界大戦と日本	小林
第１１回	第二次世界大戦と日本	小林
第１２回	太平洋戦争（地域、広島・長崎・沖縄から学ぶ）	小林
第１３回	占領下の日本	小林
第１４回	高度成長の時代	小林
第１５回	激動する世界と日本	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	詳説日本史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	笹山晴生　佐藤信　五味文彦　高埜利彦（ほか１０名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70012-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	東洋史 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-902

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】古代から現代の中国を中心とした東洋の歴史の概要を講義する。 【到達目標】 1　東洋史の大きな流れや他地域との関連など、グローバルに把握することができる。 2　日本の歴史と東洋の歴史の密接な関係について、具体的な事象を通して理解することができる。 3　中学校社会の教授をイメージし、日本史の背景として東洋の歴史について教材化の視点をもつことができる。
授業概要	本講義では、主として中国の古代から現代に至る歴史について講義する．中国史に関する様々な問題をテーマとして取上げながら、全体として通史的な構成する。あわせて、朝鮮半島やインド、イスラム諸国の歴史についても言及。日本との関係や影響についてふれる。ビデオ教材やWeb教材を積極的に活用し、ビジュアルに授業を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験、課題、積極的授業態度を総合的に判断して評価する。定期試験（７０%）、課題（２０%）、積極的授業態度(10%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題にはレポートを含み、授業中にフィードバックし、理解の深化・統合を図るものとする。
履修条件・注意事項	資料を用意するのでファイルを毎時間持参すること。講義の３分の２以上出席することが、定期試験を受ける条件である。課題は必ず提出すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は。中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	テキストをよく読むとともに、資料の予習復習をしっかり行ってほしい。予習・復習（各30時間）は欠かせない。
オフィスアワー	毎時間授業後、教室にて行う。

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　インドの古典文明	小林
第２回	中国の古典文明	小林
第３回	北方民族の活動と三国志の世界	小林
第４回	イスラム世界の形成と発展	小林
第５回	モンゴル帝国の成立と元寇	小林
第６回	明代の中国と日本	小林
第７回	清と東アジア諸国	小林
第８回	西アジア地域の変容	小林
第９回	アジア諸地域の動揺	小林
第１０回	アジア諸国の改革と民族運動	小林
第１１回	東アジアの民族運動	小林
第１２回	満州事変と日中戦争	小林
第１３回	中華人民共和国の成立と歩み	小林

第１４回	アジア地域の民族運動と独立		小林
第１５回	第三世界の台頭と現在の世界		小林
第１６回	単位認定試験		小林
教科書			
教・書籍名１	詳説世界史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	木村靖二、岸本美緒、小松久男（ほか５名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70034-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	西洋史 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-903

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】古代ギリシア世界～現代に至る西洋の歴史にグローバルな視点で学ぶ。 【到達目標】 1　西洋の歴史を他の地域や日本との歴史と関係付けて、理解することができる。 2　中学校社会での教授を想定し、日本史の背景として西洋の歴史がどのような影響を与えたのか理解することができる。
授業概要	我が国の歴史の理解や今後の他国との信頼関係構築には、諸外国が歩んできた歴史を踏まえた深い異文化理解が不可欠である。現代の西洋世界を理解するためには、遠い過去から積み重ねられてきた伝統を理解することが必要である。ビデオ教材やWeb教材を積極的に活用し、ビジュアルに授業を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション
評価方法と割合	単位認定試験(７０％)、課題・小テスト（２０％）、積極的授業態度（１０％）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題・小テストについては授業中にフィードバックさせて理解の深化に努める。
履修条件・注意事項	毎時間資料を用意するのでファイルし、教科書とともに持参すること。３分の２以上の出席が単位認定試験参加の条件である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予・復習（各３０時間）と課題への真剣な取り組みの姿勢を期待する。
オフィスアワー	授業終了後教室にて実施。

授業計画		担当者
第１回	授業の進め方　ギリシア世界	小林
第２回	ローマ世界	小林
第３回	西ヨーロッパ中世の変容と文化	小林
第４回	ヨーロッパ世界の拡大	小林
第５回	ルネサンス	小林
第６回	宗教改革	小林
第７回	重商主義と専制政治	小林
第８回	ヨーロッパ諸国の海外進出と日本への影響	小林
第９回	産業革命	小林
第１０回	アメリカ合衆国の成立	小林
第１１回	フランス革命とナポレオン	小林
第１２回	アメリカ合衆国の発展	小林
第１３回	第一次世界大戦と日本	小林
第１４回	世界恐慌と第２次世界大戦	小林
第１５回	冷戦の終結と第三世界の独立	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	詳説世界史B　改訂版	教・出版社名１	山川出版社
教・著者名１	木村靖二、岸本美緒、小松久男（ほか５名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-634-70034-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地理学概論 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-904

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】地理学の基礎的知識についてグローバルな視点で講義し、理解を深める。 【到達目標】 1　世界の気候について、様々な地域の理解と人々に暮らしについて理解することができる。 2　日本の産業とその変化について、知識と理解を深めることができる。 2　中学校社会地理分野での教授をイメージし、授業づくりに生かす視点をもつことができる。
授業概要	・中学校社会科地理的分野の内容を教授できる系統地理・人文地理の基礎的内容を現代社会の課題に触れながら学習する。 ・中学校・高等学校の既習知識を呼び起こし、現代社会の地理的諸課題について考察する。 ・Web教材やタブレット端末を活用し、探究的な授業を進める。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（７０％）、レポート（１５％）、積極的態度（１５％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートについては授業でフィードバックさせ深化・統合を図る。
履修条件・注意事項	テキストは毎時間持参すること。参考資料・課題を配布するのでノートとともに毎時間記録整理しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校社会科教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習復習に心がけ課題意識をもって授業に参加してほしい。積極的、建設的な意見がもてるよう日々の課題意識が求められる。予習復習には２時間程度は必要です。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　地球をながめて	小林
第２回	世界の様々な生活と環境	小林
第３回	暑い地域の暮らし	小林
第４回	乾燥した地域の暮らし	小林
第５回	温暖な地域の暮らし	小林
第６回	寒い地域の暮らし	小林
第７回	高地の暮らし	小林
第８回	宗教と生活のかかわり	小林
第９回	日本の領域と領土問題	小林
第１０回	環境問題と環境保全	小林
第１１回	世界や日本の資源・エネルギー・電力	小林
第１２回	日本の農業、林業、漁業とその変化	小林
第１３回	日本の工業とその変化	小林
第１４回	日本の商業・サービス業	小林
第１５回	世界の日本の交通・通信網	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	中学校社会科地図	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	金坂清則、荒井良雄、岩本廣美（ほか９名）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8071-6588-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地誌学 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-905

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】地誌学の概要と日本及び世界の主要地域の地誌を学ぶ。 【到達目標】 1　グローバルな視点により、地理的事象を分析・探求することができる。 2　様々な地域の特徴と諸問題、地域間のつながりについて理解することができる。 3　中学校社会科教員として授業ができる知識・技能を身に付けることができる。
授業概要	・日本や世界の各地方を題材に、自然や人々の暮らしの様子、特徴を地理的に考察する。 ・世界や日本の地理を多面的・多角的に考察し、世界の中の日本の姿をイメージできるように進める。 ・Web教材やタブレット端末を活用し、探究的な学習を取り入れる。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（７０％）、課題提出（１５％）、積極的な授業態度（１５％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題提出については、授業でフィードバックし深化・統合に資する。
履修条件・注意事項	教科書を毎時間持参すること。資料を毎時間配付するのでファイルとノートを準備すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校社会科教員として実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業中に課題を提示するので、Webページで調べたり、自分の考えをまとめるなど、積極的に学習に取り組んでいただきたい。予習復習には２時間程度は必要。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

	授業計画	担当者
第１回	授業の進め方　学習指導要領と社会科地理的分野	小林
第２回	九州地方の自然と人々の生活	小林
第３回	中国四国地方の自然と暮らし	小林
第４回	瀬戸内の産業と観光	小林
第５回	近畿地方の自然と暮らし	小林
第６回	中部地方の自然と暮らし	小林
第７回	関東地方の暮らしと産業	小林
第８回	東北地方の自然と産業	小林
第９回	北海道の自然と産業	小林
第１０回	東アジアの地誌	小林
第１１回	東南アジア・南アジアの地誌	小林
第１２回	ヨーロッパの地誌	小林
第１３回	北アメリカの地誌	小林
第１４回	南アメリカの地誌	小林
第１５回	オセアニアの地誌	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	社会科中学生の地理（令和３年度）世界の姿と日本の国土	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	梅田克樹、漆間浩一、大山修一（ほか15名）	教・ＩＳＢＮ１	4807164783
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	法学 （心理）	担当者	生駒　正文
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-906

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義

年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義（法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識）を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。
授業概要	本講義では、個人の生活、企業のビジネスで体験する身近な法的問題を取り上げることによって法の生きた現実の機能を学ぶとともに、法的なものの考え方（リーガルマインド）を学習できるようになっています。講義中に配布する簡単なレジュメ・教科書をもとに授業します。 　各講義とも、それに関係する基礎的な知識習得として、「テーマ」を出しますので、各自意見を文章にしてもらいます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート及び平常点３０％、定期試験７０％として総合評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題・小テスト等は後日添削して返却
履修条件・注意事項	新聞記事を毎日読むこと、受講に際して、ノートを取ること、考えることを原則に講義に臨むこと
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員として各案件処理等経験を持つ教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施します
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	12:00～13：２０　14号館6階（生駒研究室）

	授業計画	担当者
第１回	1. 法律の基礎知識	生駒正文
第２回	2. 日本国憲法の構成と基本原理	生駒正文
第３回	3・平和主義・国民主権（三権分立）	生駒正文
第４回	4. 基本的人権	生駒正文
第５回	5. 基本的人権	生駒正文
第６回	６．基本的人権	生駒正文
第７回	7. 家族法の基礎知識（婚姻、内縁）	生駒正文
第８回	８．家族法の基礎知識（親族）	生駒正文
第９回	9. 家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１０回	10. 家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１１回	11. 契約一般の基礎知識（契約上の注意点、無効、取消）	生駒正文
第１２回	12. 契約一般の基礎知識（代理、契約解除に必要な条件）	生駒正文
第１３回	13. 訪問販売・割賦販売の基礎知識（消費者契約法、クレジット）	生駒正文
第１４回	14. 訪問販売・割賦販売の基礎知（特定商取引法）	生駒正文
第１５回	15. 電子取引上の契約とホームページ	生駒正文
第１６回	16. 定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８３４－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	政治学 （心理）	担当者	李　分一
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-907

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	大学で政治の問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。 この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的な出来事の理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。
授業概要	この講義では、様々な政治現象を分析し説明する。なお、複雑な政治現象の仕組みを理解するためには、政治学の基礎的な概念と考え方、そして理論についての説明は不可避である。講義の主な内容は、政治学の基礎知識を習得しながら、「先進民主主義国・日本の政治と社会」について、様々なトピックを取り上げて説明する。そのため、受講生は、日常の政治社会学的な出来事とその経済的関連について関心を持つことが大切である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間やオフィスアワーを利用してフィードバックする。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	政治とは何か	李　分一
第３回	現代社会と政治	李　分一
第４回	政治の地位と役割	李　分一
第５回	国家論	李　分一
第６回	政治学の行動科学主義的方法	李　分一
第７回	政治学の歴史的接近方法	李　分一
第８回	政治と権力	李　分一
第９回	支配の正当性	李　分一
第１０回	権力の分立	李　分一
第１１回	政治的リーダーシップの意義	李　分一
第１２回	政治的リーダーと大衆	李　分一
第１３回	現代社会と政治的指導力	李　分一

第１４回	政治文化	李　分一
第１５回	政治参加	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職論 （心理）			担当者	池上　真由美		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	PS-PS-1-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。
授業概要	教師，教職，人を教え育てるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	10号館１階非常勤講師室にて、毎週月曜日２限及び昼休みに行う。

	授業計画	担当者
第１回	教師の歴史と教師論	池上
第２回	求められる教員の資質の変遷	池上
第３回	教育的諸問題と教職の課題	池上
第４回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）	池上
第５回	教員の仕事と役割②（教科指導）	池上

第６回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上
第７回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上
第８回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上
第９回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上
第１０回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上
第１１回	教員の研修	池上
第１２回	服務規程	池上
第１３回	小中学校の教員	池上
第１４回	高等学校・特別支援学校の教員	池上
第１５回	教員養成と教職課程	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	教職論　教師を志すすべての人へ　第2版	教・出版社名１	
教・著者名１	教職問題研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05305-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職論 （心理）	担当者	池上　真由美
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	PS-PS-1-908

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。
授業概要	教師，教職，人を教え育てるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	10号館１階非常勤講師室にて、毎週月曜日２限及び昼休みに行う。

	授業計画	担当者
第１回	教師の歴史と教師論	池上
第２回	求められる教員の資質の変遷	池上
第３回	教育的諸問題と教職の課題	池上
第４回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）	池上
第５回	教員の仕事と役割②（教科指導）	池上

第６回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上
第７回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上
第８回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上
第９回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上
第１０回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上
第１１回	教員の研修	池上
第１２回	服務規程	池上
第１３回	小中学校の教員	池上
第１４回	高等学校・特別支援学校の教員	池上
第１５回	教員養成と教職課程	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	教職論　教師を志すすべての人へ　第2版	教・出版社名１	
教・著者名１	教職問題研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05305-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育原論 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-909		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 １．学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる ２．学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる ３．学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる ４．学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる ５．学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく６つの段階に分けて展開する。１・２回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）

授業計画		担当者
第１回	教育の基礎概念	倉知典弘
第２回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘
第３回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘
第４回	第４回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘
第５回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘
第６回	第６回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘
第７回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘
第８回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘
第９回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘
第１０回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘
第１１回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘
第１２回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘
第１３回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘
第１４回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘
第１５回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	今井康雄編	教・ＩＳＢＮ１	978-4641123847
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育の歴史と思想	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	石村華代・軽部勝一郎編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065844
参・書籍名２	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ＩＳＢＮ2	978-4861633171

授業科目名	教育原論 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-909		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 １．教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる ２．代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する ３．近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する ４．家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する ５．上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく６つの段階に分けて展開する。１・２回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。
オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）

授業計画		担当者
第１回	教育の基礎概念	倉知典弘
第２回	教育の源形態－家庭・共同 体による教育	倉知典弘
第３回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘
第４回	第４回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘
第５回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘
第６回	第６回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘
第７回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘
第８回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘
第９回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘
第１０回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘
第１１回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘
第１２回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘
第１３回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘
第１４回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘
第１５回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘
第１６回	筆記試験	倉知典弘

教科書			
教・書籍名１	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	今井康雄編	教・ＩＳＢＮ１	978-4641123847
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育の歴史と思想	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	石村華代・軽部勝一郎編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065844
参・書籍名２	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ＩＳＢＮ2	978-4861633171

授業科目名	教育心理学 （心理）	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-910

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	１．教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ ２．児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける ３．児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける
授業概要	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。 まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的に実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教育心理学とは	藤原直子
第２回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達	藤原直子
第３回	心身の発達②：児童期	藤原直子
第４回	心身の発達③：青年期以降	藤原直子
第５回	学習と知識獲得	藤原直子
第６回	認知的情報処理と記憶	藤原直子
第７回	動機づけと学習	藤原直子
第８回	認知発達と学習支援	藤原直子
第９回	学級集団と学習支援	藤原直子
第１０回	個性や個人差と学習支援	藤原直子
第１１回	教育評価	藤原直子
第１２回	障害の基本的理解と学校教育における配慮	藤原直子

第１３回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第１４回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第１５回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第１６回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	よくわかる教職エクササイズ②　教育心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	森田健宏・田爪宏二	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08177-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育行政学 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 １．学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる ２．学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる ３．学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる ４．学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる ５．学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる ６．学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第１回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第２回～第７回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第８回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に着けてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として1）講義に取り上げる予定の法令調べ　2）講義にかかわる事項の調べ　3）テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1）講義のキーワードのまとめ　2）論述課題　3）講義の振り返りを課す（2時間程度）

オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）にて		
授業計画			担当者
第１回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第２回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第３回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第４回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第５回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第６回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第７回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第８回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第９回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第１０回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第１１回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第１２回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第１３回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第１４回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第１５回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第１６回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名１	教育行政学　第３版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名１	八千代出版
教・著者名１	横井敏郎編	教・ＩＳＢＮ１	9784842917849
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教育小六法	参・出版社名１	学陽書房
参・著者名１	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ＩＳＢＮ１	978-4313011953
参・書籍名２	中学校学習指導要領（最新版）　高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育行政学 （心理）			担当者	倉知　典弘		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	PS-PS-2-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 １．学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる ２．学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる ３．学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる ４．学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる ５．学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる ６．学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第１回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第２回～第７回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第８回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に着けてもらいたい。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として1）講義に取り上げる予定の法令調べ　2）講義にかかわる事項の調べ　3）テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1）講義のキーワードのまとめ　2）論述課題　3）講義の振り返りを課す（2時間程度）

オフィスアワー	水曜日4限　研究室（9301）にて		
授業計画			担当者
第１回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第２回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第３回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第４回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第５回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第６回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第７回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第８回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第９回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第１０回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第１１回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第１２回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第１３回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第１４回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第１５回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第１６回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名１	教育行政学　第３版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名１	八千代出版
教・著者名１	横井敏郎編	教・ＩＳＢＮ１	9784842917849
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教育小六法	参・出版社名１	学陽書房
参・著者名１	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ＩＳＢＮ１	978-4313011953
参・書籍名２	中学校学習指導要領（最新版）　高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育課程論 （心理）前半8回	担当者	池上　真由美
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-912

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義・AL

年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し，学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する，また，編成した教育課程を実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルについて理解することを目標とする。
授業概要	教育課程とは何か，教育課程の変遷，教育課程の法体系と学習指導要領，新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また，編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを，実践例を通して学び，演習やグループワーク等を行うことで，カリキュラム・マネジメント力を養う。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日２時限目

	授業計画	担当者
第１回	教育課程とは何か	池上
第２回	教育の目的と教育課程の編成	池上

第３回	現代日本の教育課程の変遷	池上
第４回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第５回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第６回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第７回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第８回	筆記試験	池上
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	広岡義之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-07559-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ　（心理）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-913

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、中学校社会科３分野のうち「歴史」分野を学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教師がコメントするだけでなく、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単なる単位取得目的ではなく、自身の将来への強い目的意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高等学校教員として実務経験を持つ教員が、その経験をいかし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	教材確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について①　その変遷と時代背景	磯
第３回	学習指導要領について②　現行学習指導要領の研究	磯
第４回	授業計画について①　作り方説明のあと作成	磯
第５回	授業計画について②　作成、提出、ディスカッション	磯
第６回	教材研究、教科書単元別指導法研究①　１章、２章	磯
第７回	教材研究、教科書単元別指導法研究②　３章	磯
第８回	教材研究、教科書単元別指導法研究③　４章	磯
第９回	教材研究、教科書単元別指導法研究④　５章	磯
第１０回	教材研究、教科書単元別指導法研究⑤　６章、７章	磯
第１１回	テスト問題作成演習	磯
第１２回	テスト問題についてディスカッション、学習指導案作成演習①	磯

第１３回	学習指導案作成演習②、情報機器活用を考える。	磯	
第１４回	学習指導案をめぐるディスカッション。模擬授業準備	磯	
第１５回	模擬授業、授業後ディスカッション	磯	
第１６回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名１	新しい社会　歴史	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	坂上康俊　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-12332-2
教・書籍名２	中学校学指導要領解説　社会編	教・出版社名2	東洋館出版社
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03471-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ　（心理）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-914

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「公共」について学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について	磯
第３回	地理、公民授業計画書作成①	磯
第４回	地理、公民授業計画書作成②	磯
第５回	教材研究、地理教科書単元指導法研究　第１部	磯
第６回	教材研究、地理教科書単元指導法研究　第２部	磯
第７回	地理　テスト問題作成演習	磯
第８回	学習指導案作成演習：情報機器の利用を考える	磯
第９回	地理　模擬授業　実施後ディスカッション	磯
第１０回	教材研究、公民教科書単元指導法研究　１～３章	磯
第１１回	教材研究、公民教科書単元指導法研究　４～終章	磯
第１２回	公民　テスト問題作成演習	磯
第１３回	学習指導案作成演習：情報機器の利用を考える	磯

第１４回	公民　模擬授業　実施後ディスカッション	磯
第１５回	１年間の総括（様々な取り組みに対する反省、意見交換） 自分自身の将来に向けての展望を提出	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	社会科　中学生の地理	教・出版社名１	帝国書院
教・著者名１	谷内　達　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8071-6478-3
教・書籍名２	新しい社会　公民	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	坂上康俊　他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-12333-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学指導要領解説　社会編	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03471-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ　（心理）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-915

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる高校生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「公共」について学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 単位認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について①　変遷と時代背景	磯
第３回	学習指導要領について②　公民科の変遷、「公共」という科目について	磯
第４回	「公共」教科書分析（「現代社会」との比較）	磯
第５回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究①	磯
第６回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究②	磯
第７回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究③	磯
第８回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究④	磯
第９回	教材研究、「公共」教科書単元指導法研究⑤	磯
第１０回	「公共」テスト問題作成演習	磯
第１１回	「公共」テスト問題ディスカッション（提出されたテスト問題について意見交換）	磯
第１２回	学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第１３回	学習指導案ディスカッション（提出されたテスト問題について意見交換）	磯

第１４回	模擬授業準備	磯
第１５回	模擬授業、実施後意見交換	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	公共	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	間宮陽介　他	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	高等学校学習指導要領解説　公民編	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-28633-1
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ　（心理）	担当者	磯　永二
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-916

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習、実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	心理学の知識や技法を身につけているだけでなく、社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる高校生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていく。
授業概要	本授業においては、高校公民科のうち「倫理」、「政治経済」を学ぶものとする。高校教員としての実務経験をもつ教員の指導により、学習指導要領にもとづいて年間を見通した授業計画を作成し、さらには、単元の教材研究・指導法研究をすすめていくなかで、単元相互のつながり、強調すべき点、効果的な指導法などを考える。さらに、どこを、何をもって評価するかなども考察する。加えて、テスト問題作成、学習指導案作成、模擬授業といった演習・実習を通して実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	多面的、総合的に評価をするが、目安は次の通り。 認定認定試験４０％、授業計画表作成１０％、単元別指導法研究表１０％、テスト問題作成１０％、学習指導案１０％、模擬授業１０％、授業へ取り組む姿勢１０％ なお、授業計画、テスト問題、学習指導案、模擬授業についてはそれぞれフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	教員のコメントに加え、学生相互がディスカッションする。
履修条件・注意事項	単に単位取得を目的とするのでなく、自身の将来に対する意識を持って履修してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、高校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に授業で使用される教材に目を通し、授業内容をあらかじめ知るとともに、問題点を見つけ出しておくこと。事後は授業内容を振り返り、理解の深化に努めること。それぞれに２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業後、休憩時間に教室、講師控室にて

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、教材等確認、授業概要説明	磯
第２回	学習指導要領について	磯
第３回	「倫理」授業計画書作成	磯
第４回	教材研究、「倫理」教科書単元指導法研究①　１～３章	磯
第５回	教材研究、「倫理」教科書単元指導法研究②　４～５章	磯
第６回	「倫理」テスト問題作成演習	磯
第７回	テスト問題ディスカッション、学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯
第８回	学習指導案作成、提出、ディスカッション	磯
第９回	「政治経済」授業計画書作成	磯
第１０回	教材研究、「政治経済」教科書単元指導法研究①　１編、３編の一部	磯
第１１回	教材研究、「政治経済」教科書単元指導法研究②　２編、３編の一部公民	磯
第１２回	「政治経済」テスト問題作成演習	磯
第１３回	「政治経済」テスト問題ディスカッション、学習指導案作成演習（情報機器使用検討）	磯

第１４回	学習指導案ディスカッション、模擬授業準備	磯
第１５回	「倫理」あるいは「政治経済」模擬授業、実施後意見交換	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	倫理	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	竹内整一　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-16523-0
教・書籍名２	最新政治経済　新訂版	教・出版社名2	実教出版
教・著者名2	伊東光晴　他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-407-20402-5
参考書			
参・書籍名１	高等学校学習指導要領解説　公民編	参・出版社名１	東京書籍
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-487-28633-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 （心理）	担当者	川上　はる江
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-917

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

	授業計画	担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学修指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上

第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例		川上
第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ		川上
第１６回	定期試験（筆記試験）		川上
教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一　藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 （心理）			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	PS-PS-3-917		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

	授業計画	担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学修指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上

第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例		川上
第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ		川上
第１６回	定期試験（筆記試験）		川上
教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一　藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育の方法と技術 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-919

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 １　教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ２　個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 ３　情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 ４　特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 ５　学校における情報セキュリティの重要性について理解している。
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるＩＣＴ活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30%）、授業への参加態度（20%）、単位認定試験（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらか（免許状取得を目指す方）と、「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が２時間程度必要。
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施

	授業計画	担当者
第１回	教育の方法と技術とは	小林
第２回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）	小林
第３回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）	小林
第４回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）	小林
第５回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）	小林
第６回	情報通信技術を効果的に活用したオンライン教育や校務の推進の在り方	小林

第７回	情報通信技術を活用した学習指導（デジタル教材の作成・利用、特別な支援を必要とする児童生徒への支援）		小林
第８回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、ＰＣの活用）		小林
第９回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）		小林
第１０回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）		小林
第１１回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施		小林
第１２回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）		小林
第１３回	教育における評価（授業評価と学習評価について）		小林
第１４回	学校における情報セキュリティの重要性について		小林
第１５回	授業の振り返りとまとめ		小林
第１６回	単位認定試験		小林
教科書			
教・書籍名１	中学校学習指導要領	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	10 4827815402
教・書籍名２	高等学校学習指導要領	教・出版社名2	東山書房
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8278-1567-2
参考書			
参・書籍名１	三訂版　教育の方法と技術	参・出版社名１	図書文化社
参・著者名１	平沢　茂	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8100-8701-7
参・書籍名２	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名2	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育の方法と技術 （心理）	担当者	小林　朝雄
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-919

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 １　教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ２　個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 ３　情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 ４　特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 ５　学校における情報セキュリティの重要性について理解している。
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるＩＣＴ活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30%）、授業への参加態度（20%）、単位認定試験（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらか（免許状取得を目指す方）と、「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が２時間程度必要。
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施

	授業計画	担当者
第１回	教育の方法と技術とは	小林
第２回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）	小林
第３回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）	小林
第４回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）	小林
第５回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）	小林
第６回	情報通信技術を効果的に活用したオンライン教育や校務の推進の在り方	小林

第７回	情報通信技術を活用した学習指導（デジタル教材の作成・利用、特別な支援を必要とする児童生徒への支援）		小林
第８回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、ＰＣの活用）		小林
第９回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）		小林
第１０回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）		小林
第１１回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施		小林
第１２回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）		小林
第１３回	教育における評価（授業評価と学習評価について）		小林
第１４回	学校における情報セキュリティの重要性について		小林
第１５回	授業の振り返りとまとめ		小林
第１６回	単位認定試験		小林
教科書			
教・書籍名１	中学校学習指導要領	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	10 4827815402
教・書籍名２	高等学校学習指導要領	教・出版社名2	東山書房
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8278-1567-2
参考書			
参・書籍名１	三訂版　教育の方法と技術	参・出版社名１	図書文化社
参・著者名１	平沢　茂	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8100-8701-7
参・書籍名２	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名2	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生徒・進路指導論 （心理）	担当者	藤井　和郎
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-920

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

	授業計画	担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井

第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）		藤井
第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）		藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）		藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）		藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）		藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）		藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）		藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）		藤井
第１２回	キャリア教育とは何か		藤井
第１３回	中学校におけるキャリア教育推進のために		藤井
第１４回	中学校におけるキャリア教育の実践		藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性		藤井
第１６回	試験		藤井
教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30026-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生徒・進路指導論 （心理）	担当者	藤井　和郎
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-920

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

	授業計画	担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井

第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）		藤井
第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）		藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）		藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）		藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）		藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）		藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）		藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）		藤井
第１２回	キャリア教育とは何か		藤井
第１３回	中学校におけるキャリア教育推進のために		藤井
第１４回	中学校におけるキャリア教育の実践		藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性		藤井
第１６回	試験		藤井
教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30026-9
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎 （心理）	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-921

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当する　内容：精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。自己学修2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	児童生徒の発達の多様性	津川秀夫
第３回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害	津川秀夫
第４回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症	津川秀夫
第５回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症	津川秀夫
第６回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症	津川秀夫
第７回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性	津川秀夫
第８回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去	津川秀夫
第９回	問題行動の見立てと介入：行動の機能	津川秀夫
第１０回	問題行動の見立てと介入：不登校	津川秀夫
第１１回	知能検査：種類と活用法	津川秀夫
第１２回	知能検査：検査の実際	津川秀夫
第１３回	ポジティブ行動の促進：事例	津川秀夫

第１４回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張一形成理論		津川秀夫
第１５回	ポジティブ行動の促進：PBIS		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	メリットの法則	教・出版社名１	集英社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	よくわかる教育相談	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎（心理）	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-921

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当する　内容：精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。自己学修2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	児童生徒の発達の多様性	津川秀夫
第３回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害	津川秀夫
第４回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症	津川秀夫
第５回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症	津川秀夫
第６回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症	津川秀夫
第７回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性	津川秀夫
第８回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去	津川秀夫
第９回	問題行動の見立てと介入：行動の機能	津川秀夫
第１０回	問題行動の見立てと介入：不登校	津川秀夫
第１１回	知能検査：種類と活用法	津川秀夫
第１２回	知能検査：検査の実際	津川秀夫
第１３回	ポジティブ行動の促進：事例	津川秀夫

第１４回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張一形成理論		津川秀夫
第１５回	ポジティブ行動の促進：PBIS		津川秀夫
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	メリットの法則	教・出版社名１	集英社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	よくわかる教育相談	参・出版社名2	ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習指導 （心理）	担当者	倉知　典弘、森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-922

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、４年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）、およびレポート（６０％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの１５回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教育実習に向けて－教師の適性	森井・倉知
第３回	教師への道（高等学校）（外部）	森井・外部講師
第４回	教師への道（中学校）（外部）	森井・外部講師
第５回	授業改革（外部）	森井・外部講師
第６回	実習生の授業を見る１	森井・倉知
第７回	指導案の作成と授業の展開（1）　基本的考え方（外部）	森井・外部講師

第８回	指導案の作成と授業の展開（2）　教材研究と授業の展開（外部）	森井・外部講師
第９回	授業実践（外部）	森井・外部講師
第１０回	実習生の授業を見る２	森井・倉知
第１１回	模擬授業（１）	森井・倉知
第１２回	模擬授業（２）	森井・倉知
第１３回	模擬授業（３）	森井・倉知
第１４回	模擬授業（４）	森井・倉知
第１５回	模擬授業（５）・まとめ	森井・倉知
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習 （心理）	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-923

必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。 ☒
授業概要	教育実習は、教員免許取得のための必修科目であり、中学校、または高等学校での実習を通して、大学で学んできた知識や技術を現場における実際の教育活動と結びつけるためのものである。そのために、３ 週間にわたる実数期間中に、授業実習のみならず、学校はどんな活動をするところか、教師はどんな仕事をしているのか、生徒の実態はどうか、授業はどのように行われているのかなどについて、観察したり、参加したりしなくてはならない。 実習期間は実習校によって違いがあるが、基本的には６ 月を中心とした３週間である。 学校での実習終了後、大学で事後指導としての授業もあるので、実施日時・場所についての掲示には注意すること。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	実習校からの成績評価（７０％）、実習日誌・最終レポート（２０％）、事前説明会及び事後反省会等への出席態度（１０％）により評価する。　フィードバックは事後指導時に行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習校からの評価、自己評価に対するフィードバックは事後指導時に行う。
履修条件・注意事項	３ 年次に行われる「教育実習指導」の単位の他、学生便覧で指示してある授業科目の単位を取得していない者は実習に参加できない。また、教職志望意識の低い者、大学での学業成績が全般に著しく低い者も実習を辞退していただく。 実習校での事前打ち合わせがある場合もあるので注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　内容　実習校の現職教諭が指導する。
事前学習・事後学習とその時間	実習前から、しっかりと教材研究等を行っておくこと。 また、模擬授業・マイクロティーチングなども経験しておくこと。
オフィスアワー	月曜４限、森井研究室。

	授業計画	担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		

第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	実習を行う教科の学習指導要領	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教職実践演習(中・高)　(心理)	担当者	倉知　典弘、森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-924

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ，教師として必要な知識，技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。
授業概要	以下の3点を中心に，学校や教育委員会の先生方の協力のもと，講義，討議，ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。 １．教育実習を振り返り，総括するとともに，教師として必要な資質能力，自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 ２．クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 ３．教科の指導に必要な知識・技能などを見直し，力量向上のための取り組みを検討する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	評価は受講態度（討議などへの参加状況など；30%）と課題レポート・模擬授業（70%）の評価による。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、内容確認後、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり，将来，教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。 教職カルテを持参すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この授業では半数の回で、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。 4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。 課題レポート等の作成（４時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。
オフィスアワー	月曜４限、10号館4階、森井研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	森井・倉知
第２回	教材研究１	森井・外部講師
第３回	教師の服務と学校現場の課題	森井・外部講師
第４回	学校の安全管理	森井・外部講師
第５回	教材研究２（実践）	森井・外部講師
第６回	国際バカロレア教育	森井・外部講師
第７回	いじめ・不登校への取り組み	森井・学内講師
第８回	特別支援教育の現状と実際	森井・外部講師
第９回	道徳教科化の問題	森井・学内講師
第１０回	模擬授業と授業研究１	森井・倉知

第１１回	模擬授業と授業研究２	森井・倉知
第１２回	模擬授業と授業研究3	森井・倉知
第１３回	模擬授業と授業研究4	森井・倉知
第１４回	模擬授業と授業研究5	森井・倉知
第１５回	自己分析・まとめ	森井・倉知
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	介護等体験の研究 （心理）	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	PS-PS-2-925

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義してをいただく。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）と毎回課されるレポート（６０％）により評価する。レポートは内容確認後返却する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。 教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。 講義予定回数は８回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。
事前学習・事後学習とその時間	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間） 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間） 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	介護等体験の意義・目的（第１部１～３章）	
第２回	介護等体験の実際（第２部２章，３章）	
第３回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）	
第４回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）	
第５回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）	
第６回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）	
第７回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）	
第８回	まとめ・試験（第１部４章）	
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック　五訂版	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	現代教師養成研究会（編）	教・ＩＳＢＮ１	9.78447E+12

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-407

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文作成に向けて、研究計画に基づき実験や調査を実施する 到達目標： １．研究計画を立てる ２．計画に基づき、実験や調査を実施する
授業概要	卒業論文作成に向けて、少人数のゼミ形式で指導する。先行研究を概観し、報告することを通して、何がどこまで明らかにされているか、どのような手法を用いているかを把握する。秋学期の終わりまでに、研究デザインをたてることを目指す。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表内容（80%）と討議への参加態度（20%）により評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主体的な参加を希望する
実務経験のある教員	該当する　内容　精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリングなど
事前学習・事後学習とその時間	調査や実験手続きや統計処理に関する文献を読み込むこと。１日１時間以上の自己学修を期待する。
オフィスアワー	月曜4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	研究計画：作成	津川秀夫
第３回	研究計画：報告	津川秀夫
第４回	研究計画：検討	津川秀夫
第５回	研究計画：修正	津川秀夫
第６回	予備検討：実施	津川秀夫
第７回	予備検討：結果のまとめ	津川秀夫
第８回	予備検討：結果の検討	津川秀夫
第９回	予備検討：研究計画の再検討	津川秀夫
第１０回	調査・実験：実施	津川秀夫
第１１回	調査・実験：実施状況の報告	津川秀夫
第１２回	調査・実験：結果	津川秀夫
第１３回	調査・実験：記述統計	津川秀夫
第１４回	調査・実験：図表の作成	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門　第２版	教・出版社名2	東京書籍

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-407

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて」というテーマのもと、卒業論文作成のための実験を実施し、結果の整理・分析ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	基本的には、卒業論文の作成に向けての経過報告の形で行うが、折に触れ、論文の紹介（発表）、統計的手法の概説などを行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表：６０％、受講態度：４０％
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表の都度、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	所定の時間外でも演習を行うことがあるので注意するように。 他のゼミ生の卒業論文についても、深く関与し、全員で協力してすすめるように。 無断欠席には厳しく対処するので気をつけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	卒論研究に関係する論文等、自ら探し、要約して発表できるように準備すること。 これまで学んできた心理学の知識をフルに活用できるように、過去の教科書・ノートなどを有効利用すること。指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限目、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション ＆ 研究倫理について	森井
第２回	個々の卒論テーマ発表（１）	森井
第３回	個々の卒論テーマ発表（２）	森井
第４回	論文紹介（１）	森井
第５回	論文紹介（２）	森井
第６回	データの種類と集計方法	森井
第７回	研究倫理の問題	森井
第８回	実験実施上の注意点	森井
第９回	心理統計の復習	森井
第１０回	個々の研究計画発表（１）	森井
第１１回	個々の研究計画発表（２）	森井
第１２回	データ分析について	森井
第１３回	エクセルの利用	森井
第１４回	統計ソフトの利用	森井
第１５回	卒論作成に向けて	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ	担当者	若森　孝彰
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-407

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 卒業論文作成に向けて先行研究を調べ、先行研究で用いられている実施方法や結果の処理方法などを学習する。 【到達目標】 各自の研究テーマに沿った調査や実験を実施できるようになること。
授業概要	各自のテーマに沿った先行研究を調べ、研究方法や結果の処理方法について学習する。 卒業論文の研究計画、結果について議論する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	卒業論文について	若森
第３回	先行研究の発表（一人目）	若森
第４回	先行研究の発表（二人目）	若森
第５回	先行研究の発表（三人目）	若森
第６回	研究計画の発表（一人目）	若森
第７回	研究計画の発表（二人目）	若森
第８回	研究計画の発表（三人目）	若森
第９回	卒業論文の調査や実験の進め方	若森
第１０回	結果の処理方法について	若森
第１１回	臨床における研究について	若森
第１２回	経過報告（一人目）	若森
第１３回	経過報告（二人目）	若森
第１４回	経過報告（三人目）	若森
第１５回	まとめ	若森
第１６回		

教科書

教・書籍名１	プリントを適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の執筆に向け、先行研究・文献の検索、統計処理・分析方法の検討をすることが目標である。 同時に、各自が研究を進め、春学期終了までに実践あるいは調査が完了していることを目指す。
授業概要	各自の研究テーマに関する領域・分野の文献を検索し、先行研究を読み進めていく。 統計処理方法についても再度学び、論文執筆にあたってどのような手法で結果をまとめるのかを決定する。 同時に、春学期中に実践研究を実施し，論文執筆に必要なデータ収集や分析を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日4限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方、研究倫理について	藤原直子
第２回	卒業論文抄録の講読	藤原直子
第３回	研究テーマ・目的の検討	藤原直子
第４回	先行研究紹介・発表	藤原直子
第５回	実践内容の検討・決定	藤原直子
第６回	効果測定方法の検討・決定	藤原直子
第７回	実践研究の準備・練習	藤原直子
第８回	実践研究の実施	藤原直子
第９回	実践研究の経過報告	藤原直子
第１０回	結果の処理・分析方法の検討	藤原直子
第１１回	結果のまとめ方	藤原直子
第１２回	データ入力	藤原直子
第１３回	データ分析	藤原直子
第１４回	研究経過報告	藤原直子

第１５回	まとめ、今後の計画検討	藤原直子	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-407

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業論文作成のための先行研究を調べる，統計処理・分析方法を学習する。 【到達目標】春学期が終了するまでに調査や実験が終了することを目指す。
授業概要	本演習では、自身が進める卒業研究に関連する文献を検索し、統計的分析方法などを学ぶ。論文執筆に必要なスキルを習得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 卒論作成について	土居
第３回	3. 卒業論文とは	土居
第４回	4. 卒論の目的	土居
第５回	5. 卒論のテーマについて	土居
第６回	6. 卒論テーマの決め方	土居
第７回	7. 卒論の方向性について	土居
第８回	8. 岡山心理学会について	土居
第９回	9. 卒論の調査実施：1人目	土居
第１０回	10. 卒論の調査実施：2人目	土居
第１１回	11. 卒論の調査実施：3人目	土居
第１２回	12. 卒論の経過報告：1人目	土居
第１３回	13. 卒論の経過報告：2人目	土居
第１４回	14. 卒論の経過報告：3人目	土居
第１５回	15. まとめ	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-407

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。 さらに、4年次においては各自卒業論文に掲げたテーマについての知識を深め、卒業論文作成に向けた実践できることが到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献や卒業論文のテーマに関する文献を輪読し、発表してもらう。 ２．卒業論文作成に向け、論文の書き方や調査法などを学習する。 ３．卒業論文作成に向け調査を行い、その結果をまとめて発表する。 ４．調査結果を分析、考察し、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には、それぞれ1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、木曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	研究計画の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第３回	研究計画の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第４回	研究計画の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第５回	研究計画の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第６回	調査方法の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第７回	調査方法の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第８回	調査方法の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第９回	調査方法の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１０回	調査データの入力と経過発表（1グループ目）	宇都宮
第１１回	調査データの入力と経過発表（2グループ目）	宇都宮
第１２回	調査データの入力と経過発表（3グループ目）	宇都宮
第１３回	調査データの入力と経過発表（4グループ目）	宇都宮
第１４回	分析結果のまとめ方	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回		宇都宮

教科書			
教・書籍名１	特になし。資料は適宜配布する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰ・Ⅱに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。演習の方法は，テキスト「脳と心」を輪読する。発表者は，レジュメを作成し，発表する。また，教員の研究への参加等も積極的に行うことで，自身の研究へとつなげてほしい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックについては，毎回の講義前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは，卒業研究の土台となる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.OR　ゼミ運営について	橋本翠
第２回	2.脳と神経	橋本翠
第３回	3.生理心理学	橋本翠
第４回	4.注意	橋本翠
第５回	5.対象の認知と右脳・左脳	橋本翠
第６回	6.生物リズム	橋本翠
第７回	7.睡眠	橋本翠

第８回	8.感情，表情そして身体表現	橋本翠
第９回	9.目と印象形成	橋本翠
第１０回	10.タイプA	橋本翠
第１１回	11.行動を支える脳内ホルモン	橋本翠
第１２回	12.ストレス評価とマネジメント	橋本翠
第１３回	13.バイオフィードバック	橋本翠
第１４回	14.音楽と脳	橋本翠
第１５回	15.生理心理学とコンピュータ	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	脳と心	教・出版社名１	培風館
教・著者名１	宮田洋(著)	教・ＩＳＢＮ１	4-563-05742-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-407

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	関連研究で用いられている調査の実施方法や統計的処理の方法を学習することがテーマである。 到達目標は、テーマに沿った調査を実施し、統計的処理をおこなえるようになることである。
授業概要	研究計画および調査結果についてのデスカッションをおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の調査方法や統計的処理の方法を調べ、その内容をまとめた上で、わからない点や疑問点を調べること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	関連研究の発表（学生1）	村上
第３回	関連研究の発表（学生2）	村上
第４回	関連研究の発表（学生3）	村上
第５回	研究計画の発表（学生1）	村上
第６回	研究計画の発表（学生2）	村上
第７回	研究計画の発表（学生3）	村上
第８回	調査の進め方	村上
第９回	質問紙の作成方法	村上
第１０回	質問紙の作成	村上
第１１回	結果の処理の方法	村上
第１２回	記述統計	村上
第１３回	推測統計	村上
第１４回	多変量解析	村上
第１５回	まとめ	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版

参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を完成する 到達目標： １．所定の形式にしたがい、卒業論文を作成できる ２．自分の研究について分かりやすく他者に伝えられる ３．自分の研究のよい点と課題について、客観的に理解できる
授業概要	得られたデータを統計的な手続きを経てまとめ、そこから何が言えるか明らかにする。それを踏まえて、自分の研究を問題、方法、結果、考察の章立てにしたがって
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	論文の進捗状況および発表内容（80%）、そして討議への参加状況（20%）により評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容について適宜フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主体的な参加を望む
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	論文完成に向けて、できる限りの時間とエネルギーを使うこと。1日2時間以上の学修を期待する。
オフィスアワー	月4時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	調査・実験：実施	津川秀夫
第３回	調査・実験：結果	津川秀夫
第４回	調査・実験：記述統計	津川秀夫
第５回	調査・実験：図表	津川秀夫
第６回	調査・実験：統計	津川秀夫
第７回	調査・実験：結果の解釈	津川秀夫
第８回	論文：問題	津川秀夫
第９回	論文：目的	津川秀夫
第１０回	論文：方法	津川秀夫
第１１回	論文：結果	津川秀夫
第１２回	論文：考察	津川秀夫
第１３回	論文：考察の検討	津川秀夫
第１４回	論文：考察の修正	津川秀夫
第１５回	まとめ	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２	教育・心理系研究のためのデータ分析入門	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	森井　康幸
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「こころの不思議を科学する－認知心理学的手法を用いて」というテーマのもと、卒業論文作成のための実験の実施し、結果を整理・分析できるようになることを到達目標とする。
授業概要	基本的には、卒業論文の作成に向けての経過報告の形で行うが、折に触れ、論文の紹介（発表）、統計的手法の概説などを行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表:：５０％、受講態度：５０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表内容については、その都度フィードバックする。
履修条件・注意事項	所定の時間外でも演習を行うことがあるので注意するように。 他のゼミ生の卒業論文についても、深く関与し、全員で協力してすすめるように。 無断欠席には厳しく対処するので気をつけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各自の研究テーマに沿った論文の熟読をすること。 特に、方法と結果の整理については十分に理解するように取り組むこと。 心理統計の講義などを含め、図書館での文献検索などを活用して、自主的に進めること。 指摘されたことは、その日のうちに取り組むこと。（2時間） 十分な準備のためには、復習も含めて、４時間以上必要である。
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション・経過報告	森井
第２回	記述統計(1)　度数分布と散布図	森井
第３回	記述統計(2)　標準偏差と標準誤差	森井
第４回	推測統計(1)　カイ二乗検定	森井
第５回	推測統計(2)　ｔ 検定	森井
第６回	推測統計(3)　分散分析	森井
第７回	統計ソフトの実際(1)　SPSS	森井
第８回	統計ソフトの実際(2)　ANOVA4	森井
第９回	データの分析結果報告	森井
第１０回	結果の整理(1)　図表の作成	森井
第１１回	結果の整理(2)　統計結果の記述森井	森井
第１２回	科学論文の表現(1)　主語と述語	森井
第１３回	科学論文の表現(2)　主観と客観	森井
第１４回	科学論文の表現(3)　冗長表現	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	若森　孝彰
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 各自の研究結果をまとめ、考察を行う。 考察に関連する論文を調べ、考察を深める。 【到達目標】 卒業論文を締め切りまでに提出すること。
授業概要	卒業論文の提出に向けてディスカッションを行い、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習課題への取り組み（50%）、演習中のディスカッションへの積極的な参加や受講態度（50%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については適宜フィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表やディスカッション、演習に積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として臨床経験（心療内科におけるカウンセリング、高齢者や慢性期疾患を対象としたカウンセリングや検査など）を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習は自分の関心の持っているテーマに関する論文の検索を行い、その内容をまとめる中で難しい点や疑問点を調べておくこと。 復習は授業内容の振り返りを行うこと。 予習 2時時間、復習 2時間は行うこと。 卒業論文の執筆を各自で進めていくこと。
オフィスアワー	10号館2階の研究室において、火曜日の4限目をオフィスアワーとしている。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	若森
第２回	研究の進捗状況と研究結果の報告（一人目）	若森
第３回	研究の進捗状況と研究結果の報告（二人目）	若森
第４回	研究の進捗状況と研究結果の報告（三人目）	若森
第５回	研究結果の分析と解釈（一人目）	若森
第６回	研究結果の分析と解釈（二人目）	若森
第７回	研究結果の分析と解釈（三人目）	若森
第８回	論文の執筆における注意点について	若森
第９回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（一人目）	若森
第１０回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（二人目）	若森
第１１回	卒論の執筆状況と内容のブラッシュアップ（三人目）	若森
第１２回	抄録の書き方、まとめ方	若森
第１３回	抄録の作成	若森
第１４回	発表会の準備	若森
第１５回	まとめ	若森
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	プリントを適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	藤原　直子
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究結果をまとめ、考察を加え、卒業論文および抄録を完成させることが目標である。 各自が執筆を進め、ゼミの中で経過報告をしたり、不明な点を検討したりして、論文を完成させていく。
授業概要	各自が行った研究について、先行研究をもとに考察したり、全員で議論したりする。 また、論文執筆に必要な統計処理・分析、図表の書き方、本文の書き方などを検討し、共有して学習していく。必要に応じて協同作業で分析をしたり、文献検索をしたりして、執筆を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	資料の検索・印刷等、分担しながら積極的に行うこと。　発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、自分が関心をもっているテーマに関する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 論文検索・熟読、レジュメ作成等に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他、研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、演習の進め方、研究倫理について	藤原直子
第２回	研究実施報告	藤原直子
第３回	卒業研究の経過報告	藤原直子
第４回	アンケート処理・分析	藤原直子
第５回	研究結果発表	藤原直子
第６回	研究結果について討論	藤原直子
第７回	序論のまとめ方	藤原直子
第８回	データ入力、統計処理	藤原直子
第９回	分析方法・結果のまとめ方の検討	藤原直子
第１０回	考察の検討	藤原直子
第１１回	論文最終確認、検討	藤原直子
第１２回	抄録作成	藤原直子
第１３回	発表会資料作成	藤原直子
第１４回	発表会プレゼン、検討	藤原直子

第１５回	卒業論文発表会	藤原直子	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業論文作成のための先行研究を調べる、統計処理・分析方法を学習する。 【到達目標】１２月締め切りまでに卒論提出及び発表会における発表実施、１月の抄録提出完了をすること。
授業概要	本演習では、自身が進める卒業研究に関連する文献を検索し、統計的分析方法などを学ぶ。論文執筆に必要なスキルを習得する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習課題への取組（40%）と演習中のディスカッションへの積極的な参加、受講態度（60%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	ゼミでは研究スケジュールに沿って活動する。時間や期日を守って行動すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. 卒論結果分析：1人目	土居
第２回	2. 卒論結果分析：2人目	土居
第３回	3. 卒論結果分析：3人目	土居
第４回	4. 卒論結果分析：4人目	土居
第５回	5. 卒論結果検討：1人目	土居
第６回	6. 卒論結果検討：2人目	土居
第７回	7. 卒論結果検討：3人目	土居
第８回	8. 卒論結果検討：4人目	土居
第９回	9. 卒論執筆：1人目	土居
第１０回	10. 卒論執筆：2人目	土居
第１１回	11. 卒論執筆：3人目	土居
第１２回	12. 卒論執筆：4人目	土居
第１３回	13. 卒論発表会のポスター印刷	土居
第１４回	14. 卒論発表会の練習	土居
第１５回	15. 卒論抄録の提出	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	卒業研究に関する、プリント配布を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	これから論文を書く若者のために	参・出版社名１	共立出版

参・著者名１	酒井聡樹	参・ＩＳＢＮ１	978-4-320-00595-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	青年期・成人期における発達過程の理解をテーマとし（ただし、各年度ごとに新たなテーマを加えることもある）、発達課題や臨床的問題についての知識を獲得できることが到達目標である。 さらに、4年次においては各自卒業論文に掲げたテーマについての知識を深め、卒業論文作成に向けた実践できることが到達目標である。
授業概要	１．心理臨床についての文献や卒業論文のテーマに関する文献を輪読し、発表してもらう。 ２．卒業論文作成に向け、論文の書き方や調査法などを学習する。 ３．卒業論文作成に向け調査を行い、その結果をまとめて発表する。 ４．調査結果を分析、考察し、卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（80%）、レポート等（20%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 予習・復習には1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、木曜日2時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	宇都宮
第２回	研究の進行状況の発表（1グループ目）	宇都宮
第３回	研究の進行状況の発表（２グループ目）	宇都宮
第４回	研究の進行状況の発表（3グループ目）	宇都宮
第５回	研究の進行状況の発表（４グループ目）	宇都宮
第６回	研究結果の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第７回	研究結果の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第８回	研究結果の発表と検討（３グループ目）	宇都宮
第９回	研究結果の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１０回	考察の発表と検討（1グループ目）	宇都宮
第１１回	考察の発表と検討（2グループ目）	宇都宮
第１２回	考察の発表と検討（3グループ目）	宇都宮
第１３回	考察の発表と検討（4グループ目）	宇都宮
第１４回	ポスター発表（発表と検討1）	宇都宮
第１５回	ポスター発表（発表と検討2）	宇都宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	特になし。適宜、資料を配布する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】　講義や日常生活の中で気づいた心理学で扱える問題を発見し，心理生理学的手法，実験的手法を用いて，どのようにすれば，その問題を解決できる研究を提案できるのかについて，実際の研究例に数多く触れて理解を深める。 【到達目標】 認知心理学，生理心理学領域におけるさまざまな認知活動における問題と，その解決方法に関する発表，ディスカッションを通じて，具体的な認知心理学研究，生理心理学研究を立案・実践するための技能や能力を身につける。
授業概要	本講では，心理学演習Ⅰ・Ⅰに続き，研究の進め方，まとめ方を実践的に学び，テーマに合った適切な資料を適切に分析したり，要約する段階に焦点をあてる。認知心理学研究，生理心理学研究領域におけるさまざまな研究例を通して問題解決の過程と結果をわかりやすく発表できるようになる。検討する対象となる研究は，学術雑誌に掲載された論文，教員が実施している研究，受講生自身が興味を持っている認知心理学，心理生理学領域のテーマを扱った研究などである。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	学修態度（減点法），発表の内容(50%)，ディスカッションへの参加度(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは毎回の授業前に行う。
履修条件・注意事項	心理学演習Ⅲ・Ⅳは，卒業研究のまとめとなる重要な科目である。積極的に研究に取り組むこと。日頃から，心理学で扱える問題に注意を向け，見聞を深めることを予習・復習時間(各2時間)に充てること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講は，授業時間以外での学修が非常に重要である。講義で学んだ内容について理解を深めるために復習(2時間)を行い，教員が行う研究に積極的に参加することで，学修効果も上がり，より実践的に学ぶことが可能となる。また，興味のあるテーマについて，積極的に情報を収集することを予習(2時間)として行うことで，討議への参加度の増大にもつながる。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 1)	橋本翠
第２回	(2) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 2)	橋本翠
第３回	(3) 研究事例報告と研究課題の発表(発表者 3)	橋本翠
第４回	(4) 研究課題と研究構想の発表(発表者1)	橋本翠
第５回	(5) 研究課題と研究構想の発表(発表者2)	橋本翠
第６回	(6) 研究課題と研究構想の発表(発表者3)	橋本翠
第７回	(7) 研究計画の発表(発表者1)	橋本翠

第８回	(8) 研究計画の発表(発表者2)	橋本翠
第９回	(9) 研究計画の発表(発表者3)	橋本翠
第１０回	(10) 研究計画書の作成(発表者 1)	橋本翠
第１１回	(11) 研究計画書の作成(発表者 2)	橋本翠
第１２回	(12) 研究計画書の作成(発表者 3)	橋本翠
第１３回	(13) 研究計画のまとめ(発表者1)	橋本翠
第１４回	(14) 研究計画のまとめ(発表者2)	橋本翠
第１５回	(15) 研究計画のまとめ(発表者3)	橋本翠
第１６回	(16)単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて，適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-408

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	計画を立て、結果をまとめ、考察を深めることがテーマである。 到達目標は、期限内に卒業論文を完成・提出することである。
授業概要	卒業論文の内容・体裁についてのデスカッションをおこない、期限内に卒業論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および課題への取り組み等（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究を参考に卒業論文の執筆をおこなうこと（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	村上
第２回	卒業論文の経過報告	村上
第３回	先行研究の輪読（問題と目的）	村上
第４回	序論の検討	村上
第５回	先行研究の輪読（方法）	村上
第６回	方法の検討	村上
第７回	先行研究の輪読（結果）	村上
第８回	結果の検討	村上
第９回	先行研究の輪読（考察）	村上
第１０回	考察の検討	村上
第１１回	卒業論文の執筆	村上
第１２回	卒業論文の検討	村上
第１３回	抄録の書き方	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理実習Ⅰ（オムニバス）	担当者	津川　秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原　直子、土居　正人、村上　勝典、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-409

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	45	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。 到達目標：実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の（ア）（イ）（ウ）の基礎を理解することができる。
授業概要	保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学実習や事前事後学習、学内外の講師による授業等を通して、公認心理師に求められる知識や技能等をはじめとして、基本的な実習態度、実習記録のつけ方、当該施設やその利用者についての知識、指導者への連絡や報告の仕方等について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	規定の出席や外部実習参加を前提として、参加態度（50%）とレポート（50%）により評価を行う。 レポート課題として、（1）学内外の講師による講義のまとめ、（2）実習記録、（3）事前・事後学習、（4）実習全体の振返り、の4種を課す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	記録やレポートに関して適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	〈履修条件〉 ・原則として、2年次秋学期までのGPAが2.0以上であること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 〈注意事項〉 ・原則として、すべての実習施設に行くことが求められる。ただし，正当な理由がある場合（医療費の領収書などの提出が必要）には、1か所の欠席（2時間分）までは許容する。 ・学外実習は正規の時間外に行うこともあるので、連絡事項に注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野において実務経験のある実習指導者が指導する。 また、実習前後の指導については心理的支援に関する実務経験のある学内の教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、次回行う内容・実習施設について資料収集し、下調べをしてくること。（2時間） 授業中・実習中にノートにまとめた内容について報告書を作成すること。（2時間）
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて「何でも相談時間」に対応します。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	全員
第２回	実習心得	全員
第３回	新型肺炎対策	宇都宮
第４回	事前指導（教育）	津川
第５回	不登校への支援（外部講師）	村上
第６回	総社市ふれあい教室	津川
第７回	家庭裁判所（外部講師）	藤原

第８回	事前指導（司法犯罪）	藤原
第９回	岡山少年鑑別所（外部講師）	藤原
第１０回	療育施設（外部講師）	藤原
第１１回	老人福祉施設（外部講師）	宇都宮
第１２回	岡山県総合教育センター	土居
第１３回	四ツ葉会（外部講師）	村上
第１４回	事後指導	全員
第１５回	事前指導（福祉・教育）	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理実習Ⅱ （オムニバス）	担当者	津川　秀夫、吉備国際大学未定教員、藤原　直子、土居　正人、村上　勝典、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年	ナンバリング	PS-PS-3-410

必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	45	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、（ア）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（イ）多職種連携及び地域連携、（ウ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。 到達目標：実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の（ア）（イ）（ウ）の基礎を理解することができる。
授業概要	福保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学実習や事前事後学習、学内外の講師による授業等を通して、公認心理師に求められる知識や技能等をはじめとして、基本的な実習態度、実習記録のつけ方、当該施設やその利用者についての知識、指導者への連絡や報告の仕方等について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	規定の出席や外部実習参加を前提として、参加態度（50%）とレポート（50%）により評価を行う。 レポート課題として、（1）学内外の講師による講義のまとめ、（2）実習記録、（3）事前・事後学習、（4）実習全体の振返り、の4種を課す。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	〈履修条件〉 ・原則として、2年次秋学期までのGPAが2.0以上であること。 ・原則として、「心理実習Ⅰ」の単位を取得していること。 ・公認心理師資格の取得希望者は必ず履修すること。 〈注意事項〉 ・原則として、すべての実習施設に行くことが求められる。ただし，正当な理由がある場合（医療費の領収書などの提出が必要）には、1か所の欠席（2時間分）までは許容する。 ・学外実習は正規の時間外に行うこともあるので、連絡事項には注意しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野において実務経験のある実習指導者が指導する。 また、実習前後の指導については、心理的支援に関する実務経験のある学内の教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、次回行う内容・実習施設について資料収集し、下調べをしてくること。（2時間） 授業中・実習中にノートにまとめた内容について報告書を作成すること。（2時間）
オフィスアワー	担当教員の研究室にて、「何でも相談時間」に対応する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	全員
第２回	心理相談室	津川
第３回	四ツ葉会実習	村上
第４回	グリーンヒル順正（外部講師）	宇都宮
第５回	事前指導（司法犯罪）	藤原
第６回	実習事前指導（福祉）	宇都宮

第７回	岡山少年院（外部講師）	藤原
第８回	津島児童学院（外部講師）	宇都宮
第９回	実習事前指導（医療）	土居
第１０回	たいようの丘ホスピタル（外部講師）	土居
第１１回	鶴山塾（外部講師）	土居
第１２回	母子生活支援施設（外部講師）	津川
第１３回	四ツ葉会実習	村上
第１４回	万成病院（外部講師）	津川
第１５回	事後指導（全体）	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	テキストは使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外書講読Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	PS-PS-3-411		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	【テーマ】英語の文献講読を通して，心理学領域における方法論および論点について理解する。 【到達目標】近々の心理学における英語の文献を読み，新しいトピックスに触れることで，自分なりの問題意識や興味を深める。
授業概要	本講では，2022年/2021年発行の学術専門誌「心理学研究，生理心理学と精神生理学，認知心理学研究，基礎心理学研究，健康心理学研究，発達心理学研究，教育心理学研究，他」の英文アブストラクトを講読し，内容について発表・ディスカッションを行う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する課題(25%)，ディスカッションへの参加度(25%)，試験の得点(50%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義ごとの課題のフィードバックは，次回の講義の前に実施する。 2回の単語小テストのフィードバックについても同様である。
履修条件・注意事項	英語の文献を読む為，ある程度の英語力が必要である。英語が苦手な学生については，十分考えた上で履修すること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。辞書を準備すること(電子辞書不可)。辞書を購入する場合は，参考図書に挙げている辞書を推奨する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の課題の指示をするので，予め和訳をし，内容について理解すること(2時間)。復習については，授業時の内容を理解し，さらに興味を持った場合は，文献の本文を読み見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	(1)OR/文献の検索の仕方	橋本翠
第２回	(2) 英文アブストラクトの読解　(基本) 領域A	橋本翠
第３回	(3)　英文アブストラクトの読解　(基本) 領域B	橋本翠
第４回	(4)　英文アブストラクトの読解(基本) 領域C	橋本翠
第５回	(5)　英文アブストラクトの読解　(基本) 領域D	橋本翠
第６回	(6)　英文アブストラクトの読解　(初級) 領域A	橋本翠
第７回	(7) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域B	橋本翠
第８回	(8) 単語小テスト	橋本翠
第９回	(9) 英文アブストラクトの読解　(初級) 領域D	橋本翠
第１０回	(10) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域A	橋本翠

第１１回	(11) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域B	橋本翠
第１２回	(12) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域C	橋本翠
第１３回	(13) 英文アブストラクトの読解　(中級) 領域D	橋本翠
第１４回	(14) 英文アブストラクトの読解　(上級) 領域A	橋本翠
第１５回	(15) 単語小テスト	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	教科書等は使用しません。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	英和中辞典 プログレッシブ　第5版	参・出版社名１	小学館
参・著者名１	瀬戸賢一・投野由紀夫	参・ＩＳＢＮ１	978-4-09-510205-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外書講読Ⅱ			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-412		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：臨床心理学に関する英語文献を読み、内容を理解できるようになること。 到達目標：基本的な文法を把握し、それを応用した文章が読めること。また、臨床心理学に関する専門用語を覚え、内容の読解が出来るようになること。
授業概要	臨床心理学に関する英語文献を輪読する。大学院入試対策の問題なども適宜使用。輪読するので、予習・復習が必須である。構文や専門用語などについても、解説を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、定期試験50%、小テストとレポート30%、授業に取り組む姿勢20%とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	予習・復習を必ず行い、授業に備えること。 英和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。オリエンテーション時より使用します。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	復習として、授業で実施した部分について重要単語を覚えてくること。また、授業で出た英文課題について次回の授業時に必ずレポートを提出すること。時々、小テスト等で授業内容の理解度を確認する。予習・復習に1-2時間程度を要す。
オフィスアワー	研究室にて、火曜4時限に実施。

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	心理療法と面接：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第３回	心理療法と面接：文献講読	宇都宮
第４回	精神分析学（局所論、構造論）：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第５回	精神分析学（転移・逆転移、防衛機制）：文献講読	宇都宮
第６回	認知行動療法：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第７回	認知行動療法：文献講読	宇都宮
第８回	人間性心理学：英単語、概要解説、文献講読	宇都宮
第９回	人間性心理学（ロジャーズ）：文献講読	宇都宮
第１０回	人間性心理学（フォーカシング、ゲシュタルト療法）：文献講読	宇都宮
第１１回	ストレス：文献講読	宇都宮
第１２回	知能検査：文献講読	宇都宮
第１３回	PTSD：文献講読	宇都宮
第１４回	PTSD：事例（DVD）	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末テスト（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	特になし。英単語および文献については適宜プリントを配布。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	関係行政論					担当者	松原　浩一郎、田中　富子、藤原　直子、藤井　和郎、中瀬　克己、中野　明	
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年					ナンバリング	PS-PS-4-413	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限	

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	公認心理師として職務を遂行するにあたり、必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解する。
授業概要	人々の活動の基盤となる仕組みやルール、取り組みなどの歴史的経緯などを、法律や制度の紹介を通して明らかにしていく。 また公認心理師の主な活動領域である5分野について、それぞれの領域を専門とする講師によって法律や制度を概説し、具体的な心理的支援を認識できるよう講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	担当教員ごとに小テストやレポート課題を課す。 最終回に総合的な試験も実施し、評価は小テストおよびレポート20%、最終試験80%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストやレポートのフィードバックはそれぞれの担当教員からの指示にしたがって受けること。
履修条件・注意事項	オムニバスであるため、講義の日にちや時限が担当者ごとに変わる可能性がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、公認心理師として心理的支援に関する実務経験のある教員の他、医療、福祉、教育、司法、産業それぞれの療育において支援者としての経験を有する講師が担当する。 基本的な知識や近年の動向に加え、現場での実際の支援に関する情報を教授する。
事前学習・事後学習とその時間	予習のためテキストを繰り返し読み、疑問を明確にした上で受講すること。 授業内で配布するプリントや追加資料を元に復習も行うこと。 予習と復習にはそれぞれ2時間以上を必要とする。
オフィスアワー	藤原：毎週月曜日4限目（研究室） 他の教員については、授業終了時等に対応可能時間を尋ねること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	藤原直子
第２回	法制度の基本	藤原直子、入江祥子（外部講師）
第３回	公認心理師の法的立場・各分野への展開	藤原直子
第４回	保健医療分野に関する法律・制度・医療全般	田中富子（看護学科）
第５回	保健医療分野に関係する法律・制度：精神科医療	田中富子（看護学科）
第６回	保健医療分野に関係する法律・制度：地域保健・医療	田中富子（看護学科）
第７回	福祉分野に関係する法律・制度：児童福祉	中野明子（経営社会学科）
第８回	福祉分野に関係する法律・制度：障害者・障害児福祉	松原浩一郎（社社会福祉学科）
第９回	福祉分野に関係する法律・制度：高齢者福祉	松原浩一郎（社会福祉学科）
第１０回	教育分野に関係する法律・制度	藤井和郎（子ども発達教育学科）

第１１回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：刑事	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１２回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：家事	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１３回	司法・犯罪分野に関係する法律・制度：少年非行	藤原直子、藤原正範（外部講師）
第１４回	産業・労働分野に関係する法律・制度	中瀬克己（看護学科）
第１５回	心の健康・障害・多様性への支援	藤原直子
第１６回	試験	藤原直子

教科書			
教・書籍名１	関係行政論	教・出版社名１	遠見書房
教・著者名１	元永　拓郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86616-073-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	公認心理師の職責			担当者	若森　孝彰		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-414		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	公認心理師が人々の心の健康の保持、増進に寄与するため、職務上果たすべき責務について理解する。
授業概要	・心理専門職の国家資格である公認心理師について、その役割及び法的義務・倫理について解説する。 ・心理支援における安全の確保、情報の取り扱い、守秘義務などについて解説する。 ・心理支援の分野別の業務を具体的に示す。また、受講者に事例を提示し、ALを実施する場合もある。 ・心理専門職の自己研鑽に触れる。 ・多職種との連携及び地域連携についても臨床経験を踏まえながら具体的に説明する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	試験60%、ミニテストとレポート40%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ミニテストとレポートはコメントをつけてフィードバックする。
履修条件・注意事項	・積極的に授業に参加すること。 ・予習と復習を欠かさずに行うこと。
実務経験のある教員	該当する　内容　公認心理師、臨床心理士として実務経験（心療内科におけるカウンセリング、慢性期疾患に対するカウンセリングや検査、小中学校でのスクールカウンセラーなど）のある教員が担当する。実際の現場における公認心理師の責務と関連付けて講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・予習として教科書をよく読み、ポイントと思われるところ、理解できないところを把握して、授業を受けること。 ・復習のために授業のノート、配布プリントに書くこと。その内容と教科書を照合し、学びを深めること。 ・予習、復習にはそれぞれ最低でも2時間は必要である。
オフィスアワー	火曜日　4限

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション、公認心理師の資格について	若森
第２回	心理支援に必要な技能（コンピテンシー）	若森
第３回	心理支援の専門職になるために	若森
第４回	心理支援の専門職として求められる学び	若森
第５回	公認心理師の法的義務と倫理	若森
第６回	クライエントの安全の確保	若森
第７回	情報の適切な取り扱い	若森
第８回	多職種連携について	若森
第９回	保健医療分野における具体的業務	若森
第１０回	福祉分野における具体的業務	若森
第１１回	教育分野における具体的業務	若森
第１２回	司法・犯罪分野における具体的業務	若森
第１３回	産業・労働分野における具体的業務	若森
第１４回	公認心理師の今後の展開	若森
第１５回	まとめ、振り返りと疑問点の解決	若森

第１６回	定期試験	若森	
教科書			
教・書籍名１	公認心理師の職責	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	下山晴彦、他監	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08611-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文	担当者	津川　秀夫
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-415

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：卒業論文を作成する 到達目標： １．研究デザインを組むことができる。 ２．問題・方法・結果・考察という章立てにしたがって研究をまとめられる。
授業概要	卒業論文作成のために少人数のゼミ形式で進める。先行研究をまとめ、研究デザインをかため、得られた結果を所定の手続きにもとづいて分析し、それを先行研究のなかに位置付けて考察する、という一連の論文作成の手続きが進められる指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	卒業論文の作成状況、完成度によって評価する(100%)。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表について適宜フィードバックする。
履修条件・注意事項	主体的な取り組みを期待する
実務経験のある教員	該当する　内容　心理臨床経験（精神科におけるカウンセリング、小・中・高におけるスクールカウンセリングなど）を有する教員が、心理臨床の視座を踏まえて論文作成について指導する。
事前学習・事後学習とその時間	論文完成に向けて、できる限りの時間とエネルギーを注ぐこと。1日2時間以上の学修を期待する。
オフィスアワー	月４時限、個人研究室

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	論文の構成	津川秀夫
第３回	問題	津川秀夫
第４回	方法	津川秀夫
第５回	結果の記述：記述統計	津川秀夫
第６回	結果の記述：表	津川秀夫
第７回	結果の記述：図	津川秀夫
第８回	統計的検討：相関分析	津川秀夫
第９回	統計的検討：ｔ検定	津川秀夫
第１０回	統計的検討：分散分析	津川秀夫
第１１回	統計的検討：結果のまとめ方	津川秀夫
第１２回	統計的検討：因子分析の考え方	津川秀夫
第１３回	統計的検討：因子分析の結果の見方	津川秀夫
第１４回	抄録の作成	津川秀夫
第１５回	ポスター／スライド作成	津川秀夫
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （春学期用）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは「心理学研究の実施と論文の作成」であり、到達目標は、科学的な研究法に基づいた実験的研究の実施と、卒業論文の作成である。
授業概要	心理学科４ 年間の集大成を目指して、文献研究、実験・調査、データの分析などを通して論文の作成を行えるように、個別に指導・アドバイスする。受講者は、他の学生への指導に参加することで、自分自身の研究を進める上で、あるいは論文をまとめる上でのヒントをつかむようにすることが大切となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論文作成への取り組み５０％、出来上がり（発表会も含む）５０％により評価する。
ルーブリック評価	/URL/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	論文作成状況に応じて，適宜フィードバックしながら論文完成を目指す。
履修条件・注意事項	提出等の期限を守ること。 正規の時間帯以外の個別指導も多いので注意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自分で、計画的に学習を進めること。 実験計画案を考案した時点などの，節目では教員に相談しながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、研究室が基本ですが、在室時、随時実施。

	授業計画	担当者
第１回	進行状況の確認	森井
第２回	中間データの概要報告	森井
第３回	手続き等の改善点の検討	森井
第４回	テーマ・タイトルの再確認	森井
第５回	問題・目的の書き方	森井
第６回	方法の重要性	森井
第７回	データの整理・集計	森井
第８回	統計的検定	森井
第９回	図表による整理	森井
第１０回	結果の要約	森井
第１１回	考察の観点について	森井
第１２回	引用文献・参考文献について	森井
第１３回	卒論の全体的点検	森井
第１４回	卒論抄録原稿について	森井
第１５回	発表会用資料の作成について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文の執筆に向け、研究方法や論文の書き方を学習する。同時に、実践研究や調査研究を遂行し、結果の分析やまとめも行う。 最終的に、卒業論文を完成させ、発表することが到達目標である。
授業概要	1. 卒業論文完成までの計画をたて、準備を進める 2. 実践研究や調査研究を行う 3. 研究の結果を分析し、考察を考える 4. 論文を仕上げ、提出する 5. 抄録・発表資料の作成、発表練習を行い、卒業論文発表会において発表する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究や卒業論文執筆に関する発表・報告、完成した卒論、最終発表を総合的に評価する。 おおむね、完成までの発表・報告30%、卒業論文70%で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表・プレゼン・研究の進捗状況については、随時検討しフィードバックし、個別指導を行う。
履修条件・注意事項	実践や調査、論文執筆を計画的に進めていくこと。 発表担当者以外も、自身の進捗状況を毎回報告すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師としての実務経験（小中高等学校のスクールカウンセラー・心理教育、心理相談室および公的機関でのカウンセリング・心理検査等）がある教員が担当する。 演習を通して臨床心理に関する実践研究を実施し、実際の臨床活動に参加する。
事前学習・事後学習とその時間	常に、研究テーマに関連する書籍や学術論文を検索し、熟読すること。 報告・卒論指導に必要な資料作成や、研究実施にあたっての準備は必ず各自で行うこと。 研究実施、結果の分析、論文執筆は、いずれも各自の作業となるため、自己学修にかなりの時間を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日5限（研究室）をオフィスアワーとする。 その他の時間に、相談や研究指導等を希望する際は、各自で連絡を取り日程を確認すること。

	授業計画	担当者
第１回	研究結果の整理	藤原直子
第２回	結果の分析方法検討	藤原直子
第３回	結果の分析	藤原直子
第４回	結果の記述方法検討	藤原直子
第５回	結果の解釈	藤原直子
第６回	経過報告	藤原直子
第７回	経過報告の発表	藤原直子
第８回	まとめ方の検討	藤原直子
第９回	考察の書き方	藤原直子
第１０回	論文の構成確認	藤原直子
第１１回	論文執筆	藤原直子
第１２回	論文執筆・個別指導	藤原直子

第１３回	論文の仕上げ・最終確認	藤原直子	
第１４回	抄録・発表資料の作成	藤原直子	
第１５回	発表会準備・プレゼン	藤原直子	
第１６回	まとめ、卒論発表	藤原直子	
教科書			
教・書籍名１	研究内容・研究方法に応じて、随時指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文	担当者	土居　正人
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-415

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】卒業研究の実施、執筆をするために必要な知識や技能を修得すること。 【到達目標】卒業論文を完成すること。
授業概要	この授業では、卒業論文を作成するための授業である。卒論のテーマを決め計画を立てる。それに必要な文献購読、発表を行う。卒論の書き方や調査の実施方法を学習する。質問紙を作成し実施したり面接調査などを行ったりする。結果の統計処理や分析を行い、それらをまとめ論文を作成していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	卒業論文について、問題と目的、方法、結果、考察、オリジナリティがあるか、有用性があるかなどを総合的に評価し、論文作成までの過程の積極性（60%）、卒論内容（40%）で評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は「演習」の授業と同様で、論文要約課題や発表が毎回ある。取り組みへのフィードバックは、毎回の授業の中で行う。
履修条件・注意事項	発表やディスカッションへの積極な参加を望む。慎重になりすぎると研究が滞ってしまうので，積極的にチャレンジしてみるという気持ちが必要である。全時間の出席を必須とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として論文要約をしてくること。研究授業後には、指摘されたことに対して調べ学習をして復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて）、活用すること。

	授業計画	担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 卒論作成について	土居
第３回	3. 卒業論文とは	土居
第４回	4. 卒論の目的	土居
第５回	5. 卒論のテーマについて	土居
第６回	6. 卒論テーマの決め方	土居
第７回	7. 卒論の方向性について	土居
第８回	8. 卒論の調査準備	土居
第９回	9. 卒論の経過報告	土居
第１０回	10. 卒論結果分析	土居
第１１回	11. 卒論考察検討	土居
第１２回	12. 卒論執筆	土居
第１３回	13. 卒論発表会のポスター印刷	土居
第１４回	14. 卒論発表会の練習	土居
第１５回	15. 卒論抄録提出	土居
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	図書館やインターネットで調べてきたり，プリント配布を行ったりする。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	心理学演習で学んだ内容や自身で選択したテーマを、卒業論文として完成し、提出できることがこの授業のテーマであり、到達目標である。
授業概要	１．卒論計画を立て、関連文献の輪読と発表を行ってもらう。 ２．卒論の書き方や調査法について学習する。 ３．質問紙を作成し、実行する。または面接調査などを行い、まとめる。 ４．調査結果の分析と卒論の仕上げ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	発表やディスカッションへの参加（20%）、卒論作成（80%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	出席は必須。発表やディスカッションへの積極的な参加を望む。卒論作成に向け、真摯に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した内容について復習してくること。次回行う内容について、予習しレポートにまとめてくること。 自己学習には最低でも1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	秋期：木曜日5時限（研究室）

	授業計画	担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	心理学論文の書き方	宇都宮
第３回	データの分析方法について	宇都宮
第４回	卒論調査結果の発表(1グループ目)	宇都宮
第５回	卒論調査結果の発表(2グループ目)	宇都宮
第６回	卒論調査結果の発表(3グループ目)	宇都宮
第７回	卒論調査結果についての検討と修正(1グループ目)	宇都宮
第８回	卒論調査結果についての検討と修正(2グループ目)	宇都宮
第９回	卒論調査結果についての検討と修正(3グループ目)	宇都宮
第１０回	卒論考察についての発表と検討(1グループ目)	宇都宮
第１１回	卒論考察についての発表と検討(2グループ目)	宇都宮
第１２回	卒論考察についての発表と検討(3グループ目)	宇都宮
第１３回	ポスター発表の方法について	宇都宮
第１４回	ポスター発表リハーサル（1）	宇都宮
第１５回	ポスター発表リハーサル（2）	宇都宮
第１６回		宇都宮

教科書			
教・書籍名１	改定新版　心理学論文の書き方	教・出版社名１	河出書房新社
教・著者名１	松井豊	教・ＩＳＢＮ１	978-4-3-0-24522-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ:ヒトの認知活動を心理生理学(Psychophysiology)の立場から理解する。 到達目標:ヒトの心的活動,特に認知情報処理活動について実験心理学的手法を用いて客観的に捉え,論文としてま とめることができる。
授業概要	ヒトの心的活動,特に認知情報処理活動についての実験心理学的手法を身に付け,それらを用いて卒業論文へと収 束させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	実験態度,作成過程とともに,論文について,研究の背景,実験方法,結果のまとめ方,考察のしかた,オリジナリティー があるかどうかなど,総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題等のフィードバックについては講義内で実施する。
履修条件・注意事項	時間に余裕をもって,計画的に研究を進めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	先行研究を精査し，自身の研究計画と比較しながら，丁寧に研究を行う。また，自身の行った実験結果を確認し,間違いがないかチェックする。自己学習には最低2時間はあてること。
オフィスアワー	月曜5限：研究室

	授業計画	担当者
第１回	1.各自の研究(実験)(1)	橋本翠
第２回	2.各自の研究(実験)(2)	橋本翠
第３回	3.各自の研究(実験)(3)	橋本翠
第４回	4.各自の研究(実験)(4)	橋本翠
第５回	5.各自の研究(実験)(5)	橋本翠
第６回	6.各自の研究(分析)(1)	橋本翠
第７回	7.各自の研究(分析)(2)	橋本翠
第８回	8.各自の研究(分析)(3)	橋本翠
第９回	9.各自の研究(分析)(4)	橋本翠
第１０回	10.各自の研究(分析)(5)	橋本翠
第１１回	11.各自の研究(ディスカッション)(1)	橋本翠
第１２回	12.各自の研究(ディスカッション)(2)	橋本翠

第１３回	13.各自の研究(ディスカッション)(3)	橋本翠
第１４回	14.各自の研究(ディスカッション)(4)	橋本翠
第１５回	15.各自の研究(ディスカッション)(5)	橋本翠
第１６回	16.単位認定レポート	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （春学期用）	担当者	村上　勝典
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年	ナンバリング	PS-PS-4-415

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文を作成することがテーマである。 到達目標は、研究方法、統計的処理の方法、論文のまとめ方を身に付けることである。
授業概要	1.　先行研究の輪読と発表をおこなう。 2.　研究方法や統計的処理の方法を学習する。 3.　研究計画に沿って調査を実施する。 4.　卒業論文のまとめ方を学習し、作成をおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および卒業論文（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の購読をおこない、論文の執筆を進めること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	村上
第２回	進捗状況の発表	村上
第３回	データのまとめ方	村上
第４回	統計的処理の方法	村上
第５回	統計的処理の実施	村上
第６回	調査結果の報告・検討（学生1）	村上
第７回	調査結果の報告・検討（学生2）	村上
第８回	結果のまとめ方	村上
第９回	図表の書き方	村上
第１０回	先行研究との比較	村上
第１１回	考察のまとめ方	村上
第１２回	考察の検討	村上
第１３回	論文の仕上げ	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは「心理学研究の実施と論文の作成」であり、到達目標は、科学的な研究法に基づいた実験的研究の実施と、卒業論文の作成である。
授業概要	心理学科４ 年間の集大成を目指して、文献研究、実験・調査、データの分析などを通して論文の作成を行えるように、個別に指導・アドバイスする。受講者は、他の学生への指導に参加することで、自分自身の研究を進める上で、あるいは論文をまとめる上でのヒントをつかむようにすることが大切となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論文作成への取り組み５０％、出来上がり（発表会も含む）５０％により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	論文作成状況に応じて，適宜フィードバックしながら論文完成を目指す。
履修条件・注意事項	提出等の期限を守ること。 正規の時間帯以外の個別指導も多いので注意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自分で、計画的に学習を進めること。 実験計画案を考案した時点などの，節目では教員に相談しながら進めること。
オフィスアワー	月曜４限、研究室が基本ですが、在室時、随時実施。

	授業計画	担当者
第１回	進行状況の確認	森井
第２回	中間データの概要報告	森井
第３回	手続き等の改善点の検討	森井
第４回	テーマ・タイトルの再確認	森井
第５回	問題・目的の書き方	森井
第６回	方法の重要性	森井
第７回	データの整理・集計	森井
第８回	統計的検定	森井
第９回	図表による整理	森井
第１０回	結果の要約	森井
第１１回	考察の観点について	森井
第１２回	引用文献・参考文献について	森井
第１３回	卒論の全体的点検	森井
第１４回	卒論抄録原稿について	森井
第１５回	発表会用資料の作成について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理4年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他4年			ナンバリング	PS-PS-4-415		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	卒業論文を作成することがテーマである。 到達目標は、研究方法、統計的処理の方法、論文のまとめ方を身に付けることである。
授業概要	1.　先行研究の輪読と発表をおこなう。 2.　研究方法や統計的処理の方法を学習する。 3.　研究計画に沿って調査を実施する。 4.　卒業論文のまとめ方を学習し、作成をおこなう。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（30%）および卒業論文（70%）を総合評価する。
ルーブリック評価	/uprx/sinri.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については、適宜フィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	ゼミへの出席は必須とする。 発表や討議、演習などに積極的に参加すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、先行研究の購読をおこない、論文の執筆を進めること（2時間程度）。 復習として、授業内容の振り返りをおこなうこと（2時間程度）。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

	授業計画	担当者
第１回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	村上
第２回	進捗状況の発表	村上
第３回	データのまとめ方	村上
第４回	統計的処理の方法	村上
第５回	統計的処理の実施	村上
第６回	調査結果の報告・検討（学生1）	村上
第７回	調査結果の報告・検討（学生2）	村上
第８回	結果のまとめ方	村上
第９回	図表の書き方	村上
第１０回	先行研究との比較	村上
第１１回	考察のまとめ方	村上
第１２回	考察の検討	村上
第１３回	論文の仕上げ	村上
第１４回	抄録の作成	村上
第１５回	発表会の準備	村上
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	質問紙調査の手順	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	小塩真司・西口利文	参・ＩＳＢＮ１	978-4779502002
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	